

京都帝國大學
文科大學助教授

榊

亮三郎著

說解梵語學附卷

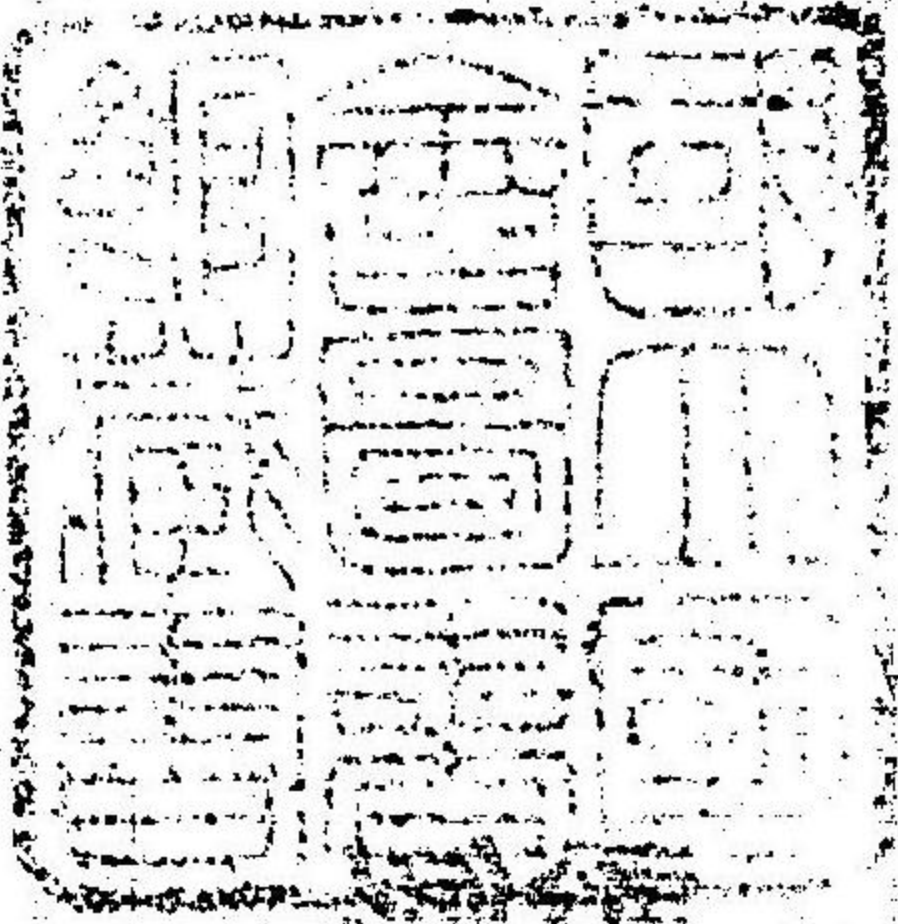
全

京都上京區河原町荒神口上ル

東櫻町三十三寄留

榊 亮三郎藏版

829.89 Sa419e



梵語學綱

卷

全

輔 景二編 藏 類

東瀛四三十三卷留

京滬上海圖書館藏

29. 2. 15

圖書

319496

文華大學圖書館
京滬上海圖書館

輔 景二編 藏 類

語彙

凡例

1. 語彙の中に存在する語の順序は、一に § 310 の字母表によりて、これを定めたり。故に *m* と *h* とは、母音に踵ぎ、父音に先つものとす。 *Samhāra* は、 *sa-karmaka* の前に來り、 *nihsneha* は、 *nikata* の前に來るがごとし。
2. 接頭辭の終に存在する *m* にして、父音の前に來るものは、悉くこれを *m̄* と記す。 *sam+hāra* は *saṁhāra* と記し、 *sam+gha* は、 *saṁgha* と記し、 *sam+jñā* は、 *saṁjñā* と記するがごとし。(§ 311 を見よ)。然れども *m* が眞に *m̄* の音となるは、半母音及び吹氣音の前に來るときに限る (§ 311 備考を見よ) を以て、其の他の父音と會するときは、假令 *m̄* と記することあるも、實際の發音は、其の父音と同種類の鼻音なるが故に、 *saṁgha* は *saṁ-gha* と視做し、 *saṁkata* は *saṁ-kata* と視做し、此等を *sakhya* の後に列せり。又 *saṁjñā* は *saṁ-jñā* と視做し、 *saṁ-caya* は、 *saṁ-caya* と視做し、此等を *sajjī-kṛitya* の後に列せり。
3. 故に又、半母音及び吹氣音の前にある接頭辭の *m* は、其の實際の發音 *m̄* なるを以て、凡例第一則により、母音の後、父音の前にあるものとす。 *saṁhāra* を *sakarmaka* の前に配せり。
4. *b* と *v* とは、往々同一視せらる。 *vanij* の *banij* に於けるがごとく、 *vadhya* の *badhya* に於けるがごとし。故に學者倘し一方を検索して、所要の語を發見せざるときは、更に他方につきて、検索するを要す。
5. √ の記號は、語根語基の標章なり。特に注意すべし。語彙に於て、單純なる動詞の語根を擧ぐる毎に、必ず其の現實法現在の單數第三人稱を擧げたり。例せば √ *kṛi*。(働・爲他・爲己、 *karoti*, *kurute*) のごとし。此等第三人稱の變化より *ti* 又は *te* を除かば、即ち現在語基を得べし。 *karoti-ti*=*karo*, *kurute-te*=*kuru* のごとし。
6. また、現實法の現在以外の變化をも擧ぐるときは、現實法の第二過去單數第三人稱先來り、次に第三過去、次に第一未來の單數第三人稱來る。即ち
 1. 現實法現在; 2. 同第二過去; 3. 同第三過去; 4. 第一未來なり。若し夫れ不定體、連續體、分詞體等に至りては、相互の差別、甚だ格著なるものあるを以て、此等を擧ぐるに、必ずしも、一定の順序に依らざるなり。

1. √A. この (指示代名詞の語根にして、idam の變化中. asmāi, asmāt, asya, asmin; asyāi, asyās, asyām 等。即ち a の語根に. smāi, smāt, 又は syāi, syās 等の代名詞的變化の語尾を附加せるなり。又、此の語根より來れる副詞を擧ぐれば. a-tas, a-tra, a-tha, 等即ち是れなり。) (§ 91. § 92. 参照)
2. √A. [接頭]. 父音を以て始むる語の前に來り. [不], [非], [邪], [惡] 等の意義を有す。(§ 42 参照).
[希. a; 拉. in; 獨. un; 英. un].
- A-karmaka. [形]. 目的格を有せざる。(2. a + karma + ka).
-kriyā. [女]. 目的格を有せざる動作; 對象となるべきものを有せざる動作; 動詞の自動調。(§ 169. b 参照).
- A-kasmāt. [副]. 不意に; いづこよりもなく; 偶然; 突然。(2. a + kasmāt).
- A-kāra. [男]. a 聲; a の字母.
- A-kārya. [形]. なさるべからざる。— [中] 非なること; なすべからざること.
-karaṇa. [中]. 非を遂ぐること.
- A-kim-cana. [形]. 何物もなき; 無一物の。(2. a + kim + cana).
- A-kīrti. [女]. 惡名; 惡稱; 不名譽; 恥辱.
-kāra. [形]. 不名譽を來す; 恥辱を蒙らす.
- Akṣa. [中]. 目; 眼. (akṣi 又は akṣan 有財又は隣近の複合詞の後節に來る形).
- A-kṣata. [形]. 毀傷せられざる。(a + √kṣan + ta).
-keçara. [形]. 鬣毛の毀傷されざる.

- Akṣan. [中]. akṣa に同じ. [希. op-s. 英. optics; 拉. oc-ulus; 獨. auge].
- A-kṣama. [形]. ...に耐へざる; ...する能はざる; ...の能力なき. (常に不定體を伴ふ). (2. a + kṣamā).
- A-kṣaya. [形]. 滅盡せざる.
- A-kṣaya-tva. [中]. 滅盡せざる性質.
- A-kṣara. [形]. 滅盡せざる. — [中]. 文字; 綴音; 語.
- A-kṣi. [中]. 目; 眼. (akṣa, akṣan を見よ).
- A-kṣobhya. [形]. 動かされざる; 震動せしめられざる. — [男]. 阿閼鞞佛; 無動如來. (2. a + √kṣubh 催 + ya).
- A-gada. [形]. 病なき; 無病の; 健全なる. — [男]. 醫藥; 良劑.
- Agni. [男]. 火; 火の神; 阿耆尼. (拉. ignis; 英. igni-te, ignition).
-hotra. 火神に供する供物 (乳, 油等); 火神を祭ること; 火に事ふること.
-hotrin. [男]. 神火を燃して常にこれに事ふるもの.
- Agra. [中]. 頂端; 尖端; 前面; 面前. [希. akro-s; akro-polis 雅典の牙城の存在する丘陵; 拉. acutus; 英. acute]. — agre. 面前に於て; 目前にて. (常に屬格を伴ふ).
- Agra. [形]. 尖端にある; 頂端に位する; 第一の; 最勝の.
- Agra-tas. [副]. 面前に; 前面に.
- A-ghoṣa. [形]. 聲なき; — [男]. 聲帯の顫動を要せずして發生する音; 硬音. (§ 11).
- A-ghoṣa-vat. [形 — vant]. 同上.
- √añk. [動. 1. 爲己. 10. 爲他. 爲己. añke, añkayati, -te; añkita]. 記號を附す; 烙印を施す; 汚名を附す.

añka. (男) 記號; 表記; 標記.
 √aṅg. (動. 1. 爲他. 10. 爲他. aṅgati, aṅga-yati; ānaṅga; aṅgitum). 動く; 歩行す; 記號を附す.
 Aṅga. (中). 肢體; 身體; 四肢; 支分; 語基. (√aṅg + a).
 Aṅgana. (中). 庭. (√aṅg + ana. 家より出て、歩行する場所).
 Aṅgāra. (男. 中). 炭; 炭火.
 A-cakṣus. (形). 目なき; 盲目の. —(男). 盲人.
 Ac (形-añc). 向く; 傾く. (√añc 及び añc を見よ).
 A-cala. (形). 動かざる. —(男). 不動明王; 山.
 A-cittāvaraṇa. (形). 心に障礙なき.
 A-cintya. (形). 思量すべからざる; 思議すべからざる; 不可思議の.
 -guṇa. (男). 不可思議の功徳ある.
 Aja. (男). 山羊.
 -dvaya. (中). 山羊の一對.
 -yūtha. (男. 中). 山羊の群.
 -gara. (男). 山羊を呑むもの; 蟒. 龍.
 Ajara. (形). 老ふるこゝなき; 不老の. (2. a + jarā).
 Ajarāmara-vat. (副). 不老不死のもの、ごとく. (ajara + amara + vat).
 A-jarā. (女). 不老の状態.
 Ajā. (女). 山羊の牝.
 A-jānat. (形). 知らざる. 解せざる. (a + √jñā の現在分詞).
 A-jita. (形). 勝たれざる; 敗られしこゝなき. —(男). (他人の爲に) 敗られしこゝなき人; 無能勝; 阿逸多.
 A-jña. (形). 愚なる; 無知の; —(男). 愚

者; 無知の人. (a + √jñā).
 A-jñāta. (形). 知られざる.
 -kula-çīla. (形). 門地も操行も知られざる.
 A-jñāna. (中). 無知.
 A-jñāna-tas. (副). 無知なるより.
 A-jñānāt. (副). 同上.
 √añc. (動. 1. 爲他. 爲己. añcati, -te; ānañca, -e; añcitur; akta). 屈折す; 向く (上方下方などに). (受動). acyate, añcyate.
 Añc. (形). 向く. [常に複合詞の末尾に来る. ud-añc (-ac) 上方の; avañc (-ac) 下方の等のごとし]. (ac 及び § 129. 参照).
 √añj. (動. 7. 爲他. 爲己. anakti, añkte; ānañja; añjisyati, añjisyati; añjivā, añktvā; akta). 塗る; しるす.
 Añjali. (男). 合掌; 合掌して水を掬ふときの両手の形; 合掌して前額の邊に両手を上げ禮拜するときの姿勢; 合掌して掬ひ上げ得る量 (水などの). Jalāñjali. 水を掬ひて手向くること.
 √at. (動. 1. 爲他. 爲己. aṭati, -te; āṭa; aṭitum; aṭita; aṭitvā). 遊行す.
 Aṭavi. (女). 林; 曠野. (√aṭ + avi).
 -rājya. (中). 林王の位.
 Aṭavi. (女). aṭavi に同じ.
 Aṇḍa. (中). 卵子; 罌丸; 陰囊.
 -dvaya. (中). 二個の罌丸.
 A-tas. (副). これより; 此處より; 此のこゝより; 此の故に. (1. √a + tas).
 atah param. これよりのち.
 ato mohāt. かゝる愚癡よりして.
 yatas...atas...の故に. その故に.
 Ati. (接頭). —1. (形容詞. 副詞の前に附加せらるゝとき) 太だ; 痛く; すぐれて; 余

に. (ati-duṣkara いと行ひがたき; ati-dūra いと遠き).
 -2. (動詞の前に附加せらるゝとき) 過ぐ; 越ゆ. (ati-kram. 超歩す).
 -3. (名詞. 代名詞等の前に附加せらるゝとき). すぐれたる; 尊き; 勝れる; すぎたる. (ati-guṇa 勝徳; ati-bhāra 過重の荷物).
 √ati-kram. (動. 1. 爲他. 爲己. 4. 爲他). 超歩す; 越ゆ; 渡る; 勝る; 法規の外に脱す; 違背す.
 Ati-krama. (男). 越ゆること; 違背すること.
 Ati-kramta. (形). 超越せる; すぎゆける; 已往の.
 √ati-gam. (動. 1. 爲他). すぎゆく (時などの).
 Atithi. (男). 客人.
 Ati-durvritta. (形). 操行のすぐれてあしき.
 Ati-duṣkara. (形). いと行ひ難き.
 Ati-dūra. (形). いと遠き.
 Ati-bhāra. (男). 過重の負擔; 過大の荷物.
 √atiric. (動. 4. 爲己. atiricyate). 勝る; 力勝る.
 Ati-lāulya. (中). 過度の慾; 貪慾.
 √ati-vrit. (動. 1. 爲己. ati vartate). すぎゆく; 移りゆく (時などの); 超絶す;
 √atī. (動. 2. 爲他. aty-eti). 越ね行く; すぎゆく; 優る. (ati + √i)
 Atitya. (連). 越ねて; 凌駕して; 超絶して.
 Ativa. (副). 比倫なく; 匹儔なく; 譬へむかたなく. (ati + iva).
 Aty-ugra. (形). いと恐るべき; いと甚しき.

-pāpa-puṇya. (中). いと甚しき善惡の; 善惡の格著なるもの.
 A-tra. (副). 此處に; 此に於て; 此のものに; 此の點に於て; (於格の名詞と共に來るとき) この (1. √a + tra).
 atra + antare. 此の際.
 atra + avasthita. 此處に住せる.
 atra + vane. 此の林中に於て.
 atra + samaye. 此の時; 此の際.
 atra + sarasi. 此の池中に於て.
 atrāiva. こゝにてこそ; この同じ處に於て.
 A-trasta. (形). 驚怖せざる.
 A-tha. (副). かくして; かくて; 爾時; これより. (1. √a + tha).
 Atharvan. (中). 阿闍婆吠陀, (vedaを見よ).
 Atha...vā. 或は; 寧ろ.
 √ad. (動. 2. 爲他. atti; āda; atsyati, attum; anna). 食す; 噉る.
 (希. edo; 拉. ed-o; 英. edible; eat; 獨. ess-en).
 Adas. (指. 代). かの; かしこにある; (§ 92).
 [此の代名詞は. amu を以て. 其の變化の大部分を作る].
 A-driṣṭa. (形). 見られざりし; 見ねざりし; 未見の.
 Ad-bhūta. (形). 未曾有の; 空前の; 從來ありしものに越ねたる. (at (i) + bhūta).
 A-dya. (副). この日; 今日; 現時. (1. √a + dyu 日?). (拉. ho-die).
 Adya-taniya. (形). 今日の.
 A-dravya. (中). 賤物; 賤少なるもの.
 Adhama. (形). 最劣等なる; 最下等なる; 賤しき. (adhās の最上級).
 A-dharma. (男). 不法; 惡法; 邪法.

Adhas. 〔副〕. 下方に.
Adhastā. 〔形〕. 下方の.
Adhāstāt. 〔副〕. 下方に. (常に屬格を伴ふ).
Adhi. 〔接頭〕. -1. (動詞に附加せらるゝとき)上に; 加ふるに; (adhi-sthā 上に立つ).
 -2. (名詞に附加せらるゝとき). 増上; 主宰; 過多. (adhi-rāja).
Adhika. 〔形〕. 過多の; 異常の.
Adhikānurāga. 〔男〕. 過度の寵愛; 過多の愛着. (adhika + anurāga).
Adhi-kāra. 〔男〕. 職權; 職掌; 職務.
Adhi-gata. 〔形〕. 書を読みたる; 群籍を涉獵せる; 學びたる.
√adhi-gam. 〔動. 1. 爲他〕. 得; 達す; 到る; 成就す; 讀書す; 通讀す; 誦念す.
Adhi-pa. 〔男〕. 君王. (adhi + 2. √pa).
Adhi-pati. 〔男〕. 君王.
Adhi-rāja. 〔男〕. 諸王の王; 帝王.
Adhi-rūḍha. 〔形〕. 上れる; 騎乗せる (車馬などに). (adhi + √ruh + ta).
√adhi-ṣi. 〔動. 2. 爲己〕. 上に臥す; 領有す; 留る; 棲む. (271).
√adhi-ṣthā. 〔動. 1. 爲他. 爲己〕. 上に立つ; 領有す; 留る; 棲む.
Adhi-ṣthāna. 〔中〕. 棲息の場所; 都城.
√adhī. 〔動. 2. 爲他. adhyeti〕. 通讀す; 學ぶ; 暗誦す; 誦念す. (adhi + √i).
Adhitya. 〔連〕. 書を誦じて.
Adhiṣṭa. 〔形〕. 希求せられたる; 希望せられたる; 悃請せられたる. -(男). 悃請せられたる職務; 無償にてなすべき職務; (可能法の現在は. かゝる職務を他に悃請するとき用ひらる). (adhi + 1. √iṣ + ta).
Adhuna. 〔副〕. 今.
Adho-mukha. 〔形〕. 顔を下向けたる; 首

を垂れたる; うなだるゝ. (adhas + mukha).
Adhyayana. 〔中〕. 學ぶこと; 暗誦すること; 誦念すること. (吠陀などを). (adhi + √i + ana).
Adhyavasita. 〔形〕. 決心せられたる; 企圖せられたる; 決定せられたる. (adhi + ava + √so + ta).
√adhyava-so. 〔動. 4. 爲他〕. 決定す; 企圖す.
Adhvan. 〔男〕. 途; 時; 世.
 1. √an. 〔動. 2. 爲他. aniti; āna; anitum〕. 呼吸す; 活動す; 生活す.
 2. √an. 〔接頭〕. 母音を以て始むる語の前に附加せられ. 邪. 惡; 非; 不の義を示す.
√ana. 〔代〕. 指示代名詞 idam の變化中. anena, anayā-anayoḥ は即ち此の語基に ena, ayā-yoḥ 等の代名詞的變化の語尾を添へたるなり.
An-ati-krama. 〔男〕. 違背せざること; 依違. (2√an + atikrama).
An-ati-dūra. 〔形〕. あまり程遠からぬ.
An-adhi-gata. 〔形〕. 書を読まざりし; 無學の; 學ばざりし.
 -cāstra. 〔形〕. 書を學ばざりし.
An-adhitya. 〔連〕. 書を讀まずして.
An-anta. 〔男〕. 無量; 無限; 無際限. -(形). 無限の.
 -virya. 〔形〕. 無量の精力ある. -(男). 無量精進如來.
An-aparādha. 〔形〕. 咎なき; 罪過なき; 無率の.
An-arghya. 〔形〕.
An-ārtha. 〔男〕. 不幸.
An-āgata. 〔形〕. 未來の; 未然の.

-vidhātṛi. 〔男〕. 未然に備ふるもの; 魚の名.
An-āgamana. 〔中〕. 來らざること.
A-nātha. 〔形〕. 情恃なき; 保護者なき; 主なき. -(男). 孤獨.
 -piṇḍa-da. 〔形〕. 情恃なきものに; 樽飯を給する. -(男). 須達長者. -(piṇḍa + √dā).
A-nānārtha. 〔形〕. 各々異なる意義を有せざる. (a + nārā + artha).
Anānārtha-tā. 〔女〕. 同上の状態; 不異.
An-ārata. 〔形〕. 止息せる; 停止せる. (ā + √ram + ta).
An-āratam. 〔副〕. 止息することなく; 間斷なく.
An-āruhya. 〔連〕. 上らずして; 冒さずして. (危險などを).
 sañcayam anāruhya. 危險を冒さずして.
A-ni-kṣipta. 〔形〕. 下に卸されざる; うちすてられざる.
 -dhura. 〔形〕. 重き負擔を卸さざる; 精進を已めざる. -(男). 不休息菩薩. 不棄精進菩薩.
A-nitya. 〔形〕. 無常の.
A-ni-ruddha. 〔形〕. 遮障せられざる; 障礙せられざる. -(男). 阿尼律陀; 阿菟樓駄; 佛弟子の名. (anu-ruddha と混すべからず). (a + ni + √rudh + ta). (漢譯にては無滅を以て此の語の譯に充てたり. a-nirodha ならば. 適譯なるべけれど. a-niruddha の譯としては. 強めて附會するにあられざれば. 直接には. かゝる譯を施すこと果して如何にや然れども. aniruddha は a + ni + √rudh に ta を附加せしもの. anirodha

も a + ai + √rudh + a を添加せしもの故. 必ずしも無滅の義なしと云ふを得ざるなり).
A-ni-rodh. 〔男〕. 不滅; 消滅せざること. (a + ni + √rudh + a).
A-nir-gama. 〔男〕. 出で往かざること; 不去.
An-iṣṭa. 〔形〕. 希求せられざる; 好まれざる; 不吉なる; 嫌忌せられたる. (an + iṣṭa).
A-nīti-jñā. 〔形〕. 處世の法を解せざる; 禮を知らざる.
Anu. 〔接頭〕. -1. 隨順して; 2. 模倣して; 3. 毎に; 4. 追ふて.
 1. anu-gam. 隨行す. 2. anu-kṛi. 模倣して作る. 3. anu-kṣaṇam. 刹那毎に. 4. anu-krama. 次第を追ふこと.
Anu-kṣaṇam. 〔副〕. 刹那毎に; 絶えず.
Anu-gatika. 〔形〕. 隨ひ往く; 墨守する.
Anu-gam. 〔動. 1. 爲他〕. 隨ひ往く.
Anu-cara. 〔形〕. 隨行する; -(男). 從者; 扈從.
An-uccheda. 〔男〕. 不斷; 切斷せざること.
Anu-jivin. 〔形〕. 他に隨伴して生活する. -(男). 從者; 僕隸.
√am-jñā. 〔動. 9. 爲他. 爲己〕. 許す; 聽許す.
Anu-jñā. 〔女〕. 許可.
An-uttama. 〔形〕. 無上の.
An-uttara. 〔形〕. こよなき; 此の上なき; 無上の.
 -mantra. 〔男〕. 無上の咒文; この上なき咒文.
An-utparna. 〔形〕. 生れざる.
An-utpāda. 〔男〕. 生ぜざること.
An-udyoga. 〔男〕. 努力せざること.

√anu-dhāv. (動. 1. 爲他) 隨ふて走る; 追ふ.
 Anu-naya. (男) 他の意を迎ふること; 他の意に忤はぬこと; 柔和; 和順; 恭謙. (anu+√nī+a).
 √anu-nī. (動. 1. 爲他) 他の意を迎ふ; 他の心を得; 他の怒を宥む.
 An-upakārin. (形) 利益せざる; 恩を布かざる; 幫助せざる.
 Anu-parikṣipta. (形) 圍繞せられたる. (anu+pari+√kṣip+ta).
 An-ubhaya. (形) 二者孰にてもなき.
 Anu-bhāva. (男) 威神; 威力. (anu+√bhū+a).
 √anu-bhū. (動. 1. 爲他) 享く(苦樂なごを); 嘗む(苦樂なごを).
 √anu-mā. (動. 2. 爲他; 3. 爲己) 或る前提に依違して推論す; 付度す; 推量す; 類推す.
 Anu-māna. (中) 隨量; 類推. (anu+√mā+na).
 Anu-rāga. (男) 愛着; 寵愛; 戀慕. (anu+√rañj+a).
 Anu-viddha. (形) 貫穿せられたる; 交錯せられたる; 交へたる. (anu+√vyadh+ta).
 √anu-vyadh. (動. 4. 爲他) 貫く; 穿つ; 參差相交錯す.
 √anu-śī. (動. 2. 爲己) 隨ふて眠る; 他の後に眠る.
 √anu-ṣṭhā. (動. 1. 爲他; 爲己) 隨ふて立つ; 實行す; 履行す; 完成す. (企圖なごを).
 Anuṣṭhita. (形) 實行せられたる.
 Anu-ṣṭheya. (形) 實行せらるべき.

Anu-sarāna. (中) 隨行すること; 追隨すること; 搜索すること. (anu+√sri+ana).
 √anu-sri. (動. 1. 爲他) 隨ふ; 追ふ; 搜索す.
 Anu-svāra. (男) 母音に隨ふて生ずる音; 空點. (§17 參照).
 An-ṛica. (形) 梨俱の聖詩を暗せざる; 吠陀を誦せざる.
 An-ṛita. (中) 不實; 虛偽.
 An-eka. (形) 數多の; 許多の.
 An-eka-dhā. (副) 種々の方法にて; 多様に.
 An-eka-śas. (副) 數度; 屢々.
 An-ekārtha. (形) 同一の意義を有せざる; 數多の目的を有する.
 An-ekārtha-tā. (女) 同上の状態.
 Anta. (男) 限界; 邊; 端. (英 end; 獨 ende).
 Antaḥ-pura. (中) 後宮; 內宮; 禁中. (anta 2 + pura).
 Antaḥ-stha. (形) 中間に存在する.—(男) 母音と父音との間に介在する音; 半母音.
 Antar. (副) 中に; 中間に; (拉. inter; 希. entos; 英. under; 獨. unter).
 Antara. (形) 内部の; 中部の; 他の. (中) 内部; 中間; 間隙. (希. entera. 臟腑). atra untare. 此の間に; かゝる中に.
 -sthita. (形) 中に立てる.
 Antar-gata. (形) 中に存在する.
 √antar-dhā. (動. 3. 爲他; 爲己) 内部に置く; 隱す; 隱る.
 Antar-hita. (形) 隠れたる.
 Antika. (中) 近傍; 面前 (通例. 屬格を伴ふ).

Antima. (形) 最後の. (anta+ima).
 Antya. (形) 最後の. (anta+ya).
 -samskāra. (男) 人の最後の式典; 葬式.
 Andha. (形) 盲目の; —(男) 盲人.
 Anna. (中) 食物. (√ad+na).
 Anya. (形) 他の. (§97. 參照). (希. allos; 拉. alius).
 Anyacca. なほまた; また. (anyat+ca).
 Anya-tama. (形) 多數の中の一.
 Anya-tara. (形) 二者の中の一.
 Anya-tra. (副) 他の處にては; 余處にては; 他の場合にては; 然らざれば; これを外にしては. (從格の名詞を伴ふ).
 Anya-thā. (副) 他の方法にては; 他の様にては; 異なる様に.—(接) 然らざれば.
 √-kri. (動. 8. 爲他; 爲己) 他の様になす; 變易す.
 √-bhū. (動. 1. 爲他; 爲己) 異なる様になる; 變ず.
 √-man. (動. 4. 爲己) 異存あり; 異なる様に思惟す.
 Anyenyuḥ. (副) 翌日; 異時.
 Anyonya. (形) 相互の. (anyas+anya= anyo'nya= anyonya).
 Anyonyam. (副) 相互に.
 Anvaya. (男) 後繼者; 子孫. (anu+√i+a).
 √anvi. (動. 2. 爲他. anveti). 隨ふ; 繼ぐ; 伴ふ. (anu+√i).
 Anviḥ. (動. 6. 爲他) 尋ね; 求む; 搜索す. (anu+1. √iḥ).
 Ap. (女) 水. (此の語は. 複合詞を作る場合の外は. 常に複數に於て用ひらる; āpas 複. 主). (希. aphros 水泡. apnas; 拉.

aqua 水. am (p)-nis 川).
 Apa. (接頭) 去る; 分離す. (upa の反對). (希. apo; 拉. ab; 英. off).
 Apa-kāra. (男) 害. (apa+√kri). (upa+kāra の反對).
 Apa-kārin. (形) 害をなす.
 √apa-kri. (動. 8. 爲他; 爲己) 害す. (人の屬格を伴ふ).
 Apa-gata. (形) 去りたる. (apa+√gam+ta).
 √apa-gam. (動. 1. 爲他) 去る.
 Apatya. (中) 子; 孫; 兒孫; 雛.
 [此の語の本來の意義に關しては. 古來敘説あり. 或は. apa に tya を附したるものとし. これを解して. (親より) 分離したるものとすあり. 或は. a+√pat+ya なりとし. 兒孫生るゝときは. 其の父母地獄に墮つることなきが故なりとせり].
 √apa-nī. (動. 1. 爲他) 去り去る; もち去る; つれ去る.
 Apra. (形) 他の; 後方の. (pūrva に反對す); 西方の (prāñc に反對す). (apa+ra). (獨. aber).
 A-para. (形) 此の上なき; 無上の. (nāsti paro yasmāt sah).
 Aparāṁca. (接) なほまた.
 √apa-rādh. (動. 4. 5. 爲他) 罪を犯す; 害をなす. (人及び物の屬格又は於格を伴ふ).
 Apa-rādha. (男) 罪過; 過失. (apa+√rādh+a).
 A-parimita. (形) 限量なき.
 A-pavitra. (形) 不淨なる.
 Apa-sārita. (形) 去らしめられたる; 捨てられたる; (apa+√sri の 催+i+ta).

√apa-sri. (動. 1. 爲他). 去る; 退く.
 √apa-hri. (動. 1. 爲他). 去り去る; 奪ふ; 除く.
 Apahṛitya. (連). 去り去りて; 奪ひて.
 √apādā. (動. 3. 爲己). 奪ふ; 去り去る. (apa + ā + √dā).
 Apādāna. [中]. 奪ふこと; 去り去ること; (apa + √ā + dā + na).
 Apāya. (男). 去ること; 損失; 減少; 不利益; 危険; 災厄. (apa + √i + a).
 Api. [副]. 1. ...もまた; —2. ...の方にてもまた; —3. ...と雖も; —4. ...なりとも (eṣa karkato'pi. この蟹なりとも); —5. 残らず, 都て. (數詞等の後に來るとき sarve'pi. 都てのもの残らず; dvān + api 二人とも).
 1. ko'pi, kim api. 或る人; 或る物.
 2. katham api. 如何にかしてなりとも; 或る方法にても.
 3. tathāpi. かくするもなほ; ...にも拘らず.
 4. yathāpi nāma. 譬ふに. ...のごとし.
 5. api cāpi. また.
 6. api ca. また.
 7. api nāma. 思ふに. (通例. 可能法の現在來るも. 現實法の現在の來るを妨げず).
 A-pūrva. (形). 空前の; 未曾有の.
 √apekṣ. (動. 1. 爲己). 期待す; 待つ; 意に留む. (apa + √iḥ).
 Apekṣā. (女). 期待すること; 待つこと; 留意すること.
 A-pratihata. (形). 遮障せられざる; 障礙なき. (a + prati + √han + ta).
 A-pramāna. (形). 無量の; 無限の.

A-prameya. (形). 量られざる; 無限の. (a + pra + √mā + ya).
 A-prājña. (形). 賢ならざる; 無學の; —[男]. 愚者; 無學の人.
 A-prāpti. (女). 無所得の状態.
 Aprāptitva. [中]. 同上.
 A-priya. (形). 好まざる; 嫌忌せられたる.
 A-phala. (形). 効果なき.
 A-buddhimat. (形-mant). 智慧なき.
 Ab-bharaṇa. [中]. 水を偷むこと. (ap + haraṇa).
 A-bhāva. (男). 闕如; 存在せざる状態.
 A-bhāvin. (形). 生ぜざる.
 Abhi. [接頭]. 1. 對す; 向く. (abhi-vad. 對面す; abhi-mukha 面を對する). 2. 上に (abhi-ṣeka. 上に灌ぐこと, 灌頂; abhi-bhū. 上に位す, 勝つ). 3. 太だ (abhi-nand. 痛く喜ぶ; abhi-nava. いと新き). 4. 殊勝の. (abhi-dharma. 勝法).
 Abhi-gata. (形). 近づける.
 √abhi-gam. (動. 1. 爲他). 近く.
 Abhi-jña. (形). 解する; 通曉する. (abhi + √jñā).
 √abhi-jñā. (動. 9. 爲他. 爲己). 認識す; 識別す; 通曉す; 了解す.
 Abhi-jñā. (女). 神通力; 佛教には. 通例六種の神通力を掲ぐ.
 1. divya-cakṣus. 天眼通.
 2. divya-śrotra. 天耳通.
 3. para-citta-jñāna. 他心通. (他人の思想の次第を曉知する力). (para-cetaḥ-paryāya-jñāna.)
 4. pūrva-nivās ānasmṛiti-jñāna. 宿命通 (自他の前世の境遇を知る力).

5. ṛiddhi-vidhi-jñāna. (身の形を變じ山河草木の形をも變ずる力).
 6. ācraṇa-kṣaya-jñāna. (漏盡を知る力)
 Abhi-jñāta. (形). 認知せられたる; 了知せられたる; 有名なる.
 Abhijñātābhijñāta. (形). 有名なるものによりて知られたる; 衆所知識.
 Abhijñāna. [中]. 認識すること; 神通力.
 Abhijñānābhijñāta = abhijñātābhijñāna. (形). 神通に通達せる; 神通を得たる.
 √abhi-dhā. (動. 3. 爲他. 爲己). 上に置く; 積む; 語る; 云ふ; 稱す; 呼ぶ (名などな).
 Abhi-dhāna. (男). 名稱.
 √abhi-nand. (動. 1. 爲他). 痛く喜ぶ; 頌嘆す.
 √abhi-bhū. (動. 1. 爲他). 勝つ; 征服す.
 Abhi-bhūta. (形). 勝たれたる; 敗られたる; 打倒せられたる.
 Abhi-mata. (形). 希望せられたる; 同意せられたる; —[中]. 希望.
 √abhi-man. (動. 4. 爲己). 希望す; 賛同す.
 Abhi-mukha. (形). 面を向けたる.
 Abhi-mukham. [副]. 相對して; 面を對して; 相向ひて.
 √abhi-las. (動. 1. 4. 爲他). 希望す; 切望す.
 √abhi-vad. (動. 1. 爲他. 爲己). 對談す; 話しかく; 語る.
 √abhi-vand. (動. 1. 爲己). 禮拜す.
 Abhi-ṣikta. (形). 上に灌がれたる; 頂に灌がれたる; 灌頂の禮を施されたる; 王位に上されたる. (abhi + √ṣic + ta).
 √abhi-ṣic. (動. 6. 爲他. 爲己). 灌ぐ (水などを); 灌頂す; 王位に上す. (abhi + √ṣic).

Abhi-ṣektum. (不定). 灌頂すべく.
 Abhi-sambuddha. (形). 證得せられたる; 了知せられたる.
 √abhi-sam-budh. (動. 1. 爲他. 爲己. 4. 爲己). 證得す; 了知す.
 Abhi-sam-budhya. (連). 證得して; 了知して.
 Abhi-sam-mukha. (形). = abhi-mukha.
 Abhi-hita. (形). 語られたる; 呼稱せられたる.
 A-bhīta. (形). 恐怖せざる.
 Abhīta-vat. [副]. 恐怖せざりしものごとく.
 √abhiṣ. (動. 6. 爲他). 希望す; 好む; 愛好す. (abhi + l. √iṣ).
 Abhiṣṭa. (形). 愛好せられたる.
 Abhyantara. (形). 内部の; 親しき; 内輪の.
 -gata. (形). 内部にある.
 Abhyantari-kṛita. (形). 親しきものにせられたる; 親信せられたる.
 Abhyāgata. (形). 近づきたる; 來れる; —[男]. 來客. (abhi + ā + √gam + ta).
 √abhyāgam. (動. 1. 爲他). 近づく; 來る; 到る. (abhi + ā + √gam).
 √abhyupe. (動. 2. 爲他). ちかづく. (abhi + upa + √i).
 Abhyupetya. (連). ちかづきて.
 A-mara. (形). 不死の; 死せざる. —[男]. 不死のもの; 神.
 A-mala. (形). 汚れざる; 清淨の.
 Amāvasyā. (女). 新月の日にして, 日月相會する日なり; 黒分の第十五日.
 A-mita. (形). 無量の; 無限の.
 -dhvaja. (男). 無量幢如來.

-skandha. (男). 無量蘊如來.
Amitābha. (形). 無量の光ある. —(男).
 無量光佛. (amita + ābhā).
Amitāyus. (形). 無量の壽ある. (男). 無
 量壽佛.
A-mithya. (形). 虚偽ならざる. (a + mi-
 thya).
A-mithya-tva. (中). 虚偽ならざる性質.
 (amithyā-tva と云ふを可なりとす).
Amithyā-tva. (中). 同上.
√amu. (代). (かの指示代名詞の語根語基
 にして. adas の變化の大部分は. この語
 根に代名詞的變化の語尾を附加して作れ
 るなり. amu-m; amu-nā; amu-ṣmāi; amu-
 ṣmāt; amu-ṣya; amu-ṣmin, 等皆然り又
 副詞にして此の語根より來れるものは.
 amu-tra のごとき. 即ち是れなり). (1.
 √a に對す).
A-mukta. (形). 分離せざる; 失はざる;
 解かれざる.
 -jivita. (形). 生命を失はざる; 殊せ
 ざる.
Amu-tra. (副). そこに (a-tra の反對); か
 の世に於て. (iha の反對).
A-mṛita. (形). 不死の; 死せざりし.
 —(男). 不死のもの; 神. —(中). 甘露味;
 不死の靈藥. (希. a-m(b)rotos; am(b)ros
 (t)ia).
Ambara. (中). 衣服.
Ambu. (中). 水. (ap + u).
 -ja. (中). 水中に生ずるもの; 蓮.
Ambhas. (中). 水. (ap + as).
Ayana. (中). 往くこと; 來ること; 途;
 夏至と冬至との間を太陽の往き又は來る
 時間; 半歳; 居處; 乗物.

Ayana. (形). ...を居處とする; (nārāyana
 = nārā + ayana, 水を居處とするもの; 韋
 紐天).
A-yukta. (形). ふさはしからざる; 不相
 應の; 不適當の; 不可なる.
Ayuta. (中). 萬.
A-yuddha. (形). 戦はざりし. (a + √yudh
 + ta).
A-yodhya. (形). 戦ふべからざる; 戦はれ
 ざる; 攻略すべからざる.
Ayodhyā. (女). 阿逾底; 難勝城.
Aranya. (中). 林.
 -rājya. (中). 林王の位.
 -vāsin. (形). 林中に住する.
 -samīpa. (中). 林の近傍.
Aranyāni. (女). 林.
Aranyāni. (女). 林.
Ari. (男). 仇敵; 寇讐.
Ariano-pāli. ariana 地方に用ひたる文字
Arian-pāli. の義にして. ariana は今の
 波斯の東方身毒の河に至る
 までの土地を云ふ.
Arundhatī. (女). Pleiades 星宿の一にし
 て. 曉天に現はるゝ星なり. 命數已に盡き
 たるものは此の星を見ること能はずと稱
 せらる. 印度の古代の醫書 sucruta に此
 の事を載せたり.
√argh. (動. 1. 爲他. arghati; arghita, ar-
 ghitum). 價あり; 値す. (√arh を見よ).
Argha. (男). 價.
Arghya. (形). 評價せらるべき; 價値を附
 すべき.
√arc. (動. 1. 爲他. 爲己. arcati, -te; ānarca,
 ānṛice; ārcīt; arcisyati, -te; arcitum; ar-
 cita). 耀く; 咏歎す; 諷頌す; 禮拜す.

(√ric を見よ).
Arci. (女). 火光; 焰.
√arj. (動. 1. 爲他. arjati; ānarja; ārjivati;
 ārjit; arjatum; arjita). 得; 收得す.
 (√ri を見よ).
Arjana. (中). 得ること; 收得すること;
 利得. (√arj + ana).
Arjita. (形). 得られたる.
Arṇava. (男). 洋海.
√arth. (動. 10. 爲己. arthayate; arthayān
 cakre; arthayisyate; arthayitum; arthita)
 願ふ; 乞ふ; 希求す.
Artha. (男). 希望; 目的; 意義; 利益; 財
 貨; 富.
 ko'rthah putreṇa jātena yo na vidvān.
 不肖の子は生るゝも何の益かある.
Artha-bhut. (形). 意義を解する. (artha
 + √budh).
Artham. (關). ...の爲に; 故に. kim-artham
 何の爲に; 何故に.
Artha-vat. (形-vant). 財ある; 富める.
Artha-vaça. (中). 義理.
Arthārjana. (中). 財を得ること.
Arthin. (形). 希求する. (√arth + in).
Arthe. (關). ...の爲に. (常に屬格を伴ふ).
Arthopārjana. (中). 財を得ること. (artha
 + upārjana).
Ardha. (形). 半の. (男. 中). 半.
 -trayo-daçaṇ. 半十三; 12½ = 十二半.
Arpana. (中). 交付すること; 遞傳する
 こと. (√ri の儘 + ana).
Arpaya. (動). (√ri の儘. 命令. 單. 他爲.
 第二人称). 引渡すべし.
√arh. (動. 1. 爲他. 爲己. arhat, -te; ānar-
 ha; arhita; arhitum). 相應す; 値す; ...

するに足る; ...を能す; ...すべし. (常に
 不定體を伴ふ). (希望又は命令を婉曲に
 述べむとするとき. この動詞に不定體を
 添加して用ふ. etat kṣāntum arhasi. 御身
 は. これを忍ぶべし).
Arhat. (形-ant). 相應する; 尊むべき.
 —(男). 阿羅漢.
Arhat-tva. (中). 阿羅漢果; 阿羅漢の位.
A-labhamāna. (形). 得ざる.
Alam. (副). 1. 充分; 適當に. 2. (具格名
 詞を伴ふとき) ...するをやめよ. § 297.
 alam caṅkayā. 疑懼することをやめよ.
 -kāra. (男). 裝飾すること; 莊嚴する
 こと; 莊嚴; 璽珞. (alam + √kri + a).
√-kri. (動. 8. 爲他. 爲己). 適當に
 す; 備準す; 裝飾す.
Alaṅkṛita. (形). 裝飾せられたる; 莊嚴
 せられたる.
Alaṅ-kṛitya. (連). 莊嚴して; 裝飾して.
A-lasa. (形). 活氣なき; 懶惰なる. (a +
 √las + a).
A-lobha. (男). 無慾; 寡欲.
Alpa. (形). 少き; 小き; 賤しき.
 -dhī. (形). 小智の; 淺慮の.
 -prāṇa. (形). 少しく; 呼氣を帶ぶる;
 無氣の. § 9.
 -vidya. (形). 淺學の; 無學の. (alpa
 + vidyā).
Ava. (接頭). —1. 下に. ava-lok. 俯瞰す;
 —2. 離す; ava-kṛiṣ 引きはなす. —3. 輕
 蔑す. ava-man. 蔑視す.
Ava-kīrya. (連). 撒布して; (ava + √kri
 + ya).
√ava-kri. (動. 6. 爲他). 撒布す.
√ava-gam. (動. 1. 爲他). 下に往く; 降

下す; 真相を知る; 了解す。(英. understand と比較すべし).
Ava-graha. (男). 分離. e又はaの後に
 来るaの消滅を表せむ爲め, 附する記號
 (ava + √grah + a).
Ava-jñā. (女). 輕侮すること.
 √ava-jñā. (動. 9. 爲他). 輕侮す.
Ava-jñāya. (連). 輕侮して.
Ava-tārita. (形). 卸されたる; 下に降ら
 しめられたる. (ava + √trī の催 + i + ta).
Ava-tīrya. (連). 降りて; 下につきて.
Ava-trī. (動. 1. 爲他). 下る; 入る. (催)
 ava-tārayati, -te. 降下せしむ; 卸す.
Ava-dāta. (形). 淨白の; 白色の; 光澤
 ある. (ava + √dāi + ta).
 -nidarçana. (形). 白影ある
 -nirbhāsa. (形). 白光ある.
 -varṇa. (形). 白色の.
Ava-dāi. (動. 1. 爲他). 拭掃す; 清淨に
 す; 滑澤ならしむ.
Ava-dhā. (動. 3. 爲己). 下に置く; 卸す;
 意を注ぐ.
Ava-dhīr. (動. 10. 爲他). 輕す; 蔑視す;
 排斥す.
Ava-dhīrita. (形). 蔑視せられたる.
 -subrid-vākya. (形). 親友の言を蔑
 視せる.
 √ava-dhri. (動. 10. 爲他. 爲己). 決定す;
 知る; 會得す; 思考す; 聽く.
A-vadhya. (形). 殺されざる; 害せられ
 ざる; 殺害すべからざる.
A-vadhya-bhāva. (男). 殺害すべからざ
 る状態; 不可侵の状態.
Ava-nata. (形). 屈下せる. (ava + √nam
 + ta).

-kāya. (形). 體を下に屈せる.
 √ava-nam. (動. 1. 爲他). 屈す; 屈下す.
 √ava-man. (動. 4. 爲己). 輕視す; 藐視
 す; 輕蔑す.
Ava-māna. (男). 輕蔑.
Avara. (形). 一層下位にある; 一層後位
 にある; 些少の; 現世の. (ava + ra).
 -mātraka. (形). 現在ばかりの; 些
 少の.
 √ava-lamb. (動. 1. 爲己). かゝる; ぶら
 さがる; 上りかゝる.
Ava-lambamāna. (形). 垂下する.
Ava-lambita. (形). 垂下せる.
Ava-lambya. (連). 垂下して.
 √ava-lok. (動. 1. 爲己. 10. 爲他). 俯瞰す;
 見下す; 觀る; 冥想す.
Ava-lokita. (形). 觀られたる. -(男). 觀
 自在菩薩; -(中). 觀ること; 瞥見.
Avalokiteçvara. (男). 觀自在菩薩; 觀
 世音菩薩.
Avalokya. (連). 觀て.
Avasambodhi. (男). さますこと; 覺らし
 むること; 禪定の名.
 (ava + sam + √budh の催 + i).
Ava-sāna. (中). 結了; 終結; 限界; 滅
 亡. (ava + √so + na).
 √ava-so. (動. 4. 爲他). 決定す; 終る.
 (ava + √so).
 √ava-sthā. (動. 1. 爲己). 佇立す; 棲む;
 定住す; 留る. (催). ava-sthāpayati, -te.
 留まらしむ; 置く; 留む.
Ava-sthā. (女). 起居; 状態.
Ava-sthāpya. (連). 留まらしめて; 留
 めて.
Ava-sthita. (形). 留まれる; 居住せる.

Avāc. (形-ānc). 下方の. (ava + ānc).
 √avāp. (動. 5. 爲他. 爲己). 得; 達す; 到
 る; 享く. (苦樂などを). (ava + √āp).
A-vikṣipta. (形). 散亂せざる. (a + vi +
 √kṣip + ta).
 -citta. (形). 心散亂せざる; 一心不
 亂の.
A-vicārya. (連). 熟慮せずして. (a + vi +
 car の催 + ya).
A-vijñāya. (連). 知らずして.
A-vidyā. (女). 無明.
A-vinaya. (男). 無作法; 無禮.
A-vinivartaniya. (形). 退轉せざる. (a +
 vi + ni + √vrit + aniya).
A-viparyasta. (形). 顛倒せざる.
A-vimriçya. (連). 熟慮せずして.
A-vivekita. (形). 辨別せざる; 識別なき.
 -(男). 愚昧の人.
Avocat. (動). √vac の第三過去, 單數, 第
 三人稱. (a + va + ūc + at = avocat).
Avyaya. (形). 變化せざる; 滅盡せざる.
 -(中). 不變化詞. (a + vi + √i + a).
Avyayī-bhāva. (男). 不變化詞の状態に
 あるもの; 副詞的複合詞; 隣近の複合詞.
A-vyāpāra. (男). 職掌外のこと; たづさ
 はるべからざること. (a + vi + ā + √pri
 + a).
 √aç. (動. 9. 爲他. 爲己. açnāti; açnite; açā;
 açit; açisyati; açita). 食す; 享く.
A-çakya. (形). 能はざる; ...の能力なき.
 (a + √çak + ya).
A-çāṅka. (形). 疑懼せざる.
A-çaraṇa. (形). 難を避くるに由なき; 逃
 るべからざる; 救ふべからざる.
A-çāçvata. (形). 無常の; 恒なき.

Acīti. (數. 女). 八十.
A-çoka. (男). 無憂樹; 阿育王.
Açma-garbha. (男). 瑪瑙; 琥珀.
Açman. (男). 石.
Açru. (中). 涙. (daçruの新體; 希. dakry;
 拉. lacryma; 英. lacrymal gland).
Açva. (男). 馬.
 -khura. (男). 馬蹄.
 -çālā. (女). 馬房.
Açvā. (女). 牝馬.
Aṣṭa. (n). 八.
Aṣṭama. (數. 形). 第八の.
Aṣṭa-vidha. (形). 八種の.
Aṣṭa-ṅga. (中). 八支; 八體; 八種.
 -pāta. (男). 八體投地; 地に平伏する
 こと. (八支とは. 兩手, 兩足, 胸; 兩
 膝, 顔を云ふ).
Aṣṭāṅgopeta. (形). 八功德を具せる. (aṣṭa
 + aṅga + upeta).
 -vāri. (中). 八功德を具せる水. (水の
 八功德とは. 1. 澄淨; 2. 清冷; 3. 甘
 美; 4. 輕軟; 5. 潤澤; 6. 安和; 7. 飲
 時除飢渴等無量過患; 8. 飲已定能長
 養諸根四大, 增益種々殊勝, 多福衆
 生常樂受用).
Aṣṭā-daça. (數). 第十八.
Aṣṭādaçaṇ. (數). 十八.
 1. √as. (動. 2. 爲他. asti; āsa; āsit). あり;
 在存す; なり. (繫辭として用ひらる
 ること); yasyārtho'sti tasya balam asti.
 凡そ富あるものには. 力あり.
 [希. esti; 拉. est; 獨. is-t; 英. is].
 2. √as. (動. 4. 爲他. 爲己. asyati, -te; āsa;
 asiçyati; asta; asitum; asitvā). 投ず;
 射る; 棄つ.

A-samyukta. (形) 重複せざる; 連接せられざる; 單純なる.

-svara. (男) 單母音. (§20).

A-samāyaya. (形) 疑なき.

A-samāyaya. (副) 疑もなく; 必定.

A-samkhyeya. (形) 計量せられざる.

A-sat. (形-nt). なき; 存在せざる. (asti とは異なり). (1. √as の現在分詞).

A-satya. (中) 不實; 虛妄.

-sāndha. (形) 約束に背く; 背信の (-sāndhā).

A-santoṣa. (男) 不満足; 不平.

A-sama. (形) 無比の; 比倫なき; 無等の.

-sama. (形) 比なきものに等しき; (男) 佛の異名.

-sāhasika. (形) 剛勇無比の.

A-samartha. (形) ...能はざる. (不定體と共に來る).

A-sahiṣṇu. (形) 堪はざる; 忍容するを得ざる.

A-sāmarthya. (形) 能力なき.

Asu. (中) 精氣; 生命

A-sura. (男) 阿修羅. (此の語の漢譯に古來種々あり. 1. 非天と譯せるは. 是れ a + sura と見たるが故ならむも. 元來 asura は. 梨俱吠阿の初て製作せられし當時若しくは. 印度アーリヤと古代波斯人は. 未だ分離せざりし時代にありては. 善神にして惡神にはあらず. 其の惡神となりしは. 遙に後代の思想のみ. 古代波斯の宗教の經典たる zend に. ahura, ahura-mazda が善神なりしを以て明なり. 故に. 其の字義も. 決して a + sura にあらずして. asu + ra なり即ち生命を與へ又は生命を有するものと云ふの義なり. 實に asura は

a + sura たらざるのみならず. sura (神) の語こそ. 却つて. asura の惡神なるに對し. これより 「a」 を除きて作りしものなれ. 2. 又無酒と譯せるは. a + surā の有財的複合詞と見しものならむ. 是れ古代印度の荒唐なる傳説に基づける字義にして. 決して支那譯家の私言にあらずと雖も. 其の字義の不當なるは. 前説に徴して. 知るを得べし. (asu + ra). (古代波斯. ahura; 希. oromasdes; 英. ormazd).

Asrij. (中) 血

A-sāumya. (形) 醜き; あしき; 不快なる.

-vāta. (男) 不快なる風; 烈風.

Asta. (中) 西方. (拉. occidens が西方と. 日没との二義あるに同じ).

Astaṅgata. (形) 西に往ける; 西に没せる. (日などの); 没落せる.

Asti. (不變化) なき状態; 無の状態. (1. √as + ti とはあり).

Astra. (中) 投槍; 兵器.

Asthi. (中) 骨. (希. osteon; 拉. ossis).

-samāyaya. (男).

A-sprīṣṭa. (形) 接觸せられざる; (男) 聲音中其の發生に聲音機關の相接觸するを要せざるもの; 閉音.

Asmat. (代) 吾等. = asmad.

-pitri. (男) 吾等の父.

-sakhya. (中) 吾等の友誼.

Asmad-upārjita. (形) 吾等によりて得られたる.

-vitta. (中) 吾等の得たる財.

Asman-marāṇa. (中) 吾等の死. (asmat + marāṇa).

√ah. (動. 4 爲他. 唯現實法の第二過去. 單双兩數の第二人称. 單複兩數の第三人

稱にのみ用ひらる). 云ふ; 語る. (āttha; āhatus; āha; āhatus, āhus).

Ahan. (中) 日. (rātra に對す).

Aham. (代) 余は. (ah + am なり. am は語尾にして. 語根語基は. ah のみ. tvam のごとき; ayam のごときも. 即ち tu + am, e + am にして. iyam 等又然り).

(希. eg-o; 拉. eg-o; 獨. ich; 英. i).

Ahas = ahan.

Ahaha. (間) 喜憂を示す間投詞.

A-hārya. (形) 奪はれざる; 奪ふべからざる; 偷まれざる.

A-hārya-tva. (中) 偷まれざる性質.

A-himsā. (女) 不殺生.

Aho. (間) 驚愕を示す間投詞.

Aho-rātram. (副) 日夜. (ahas + rātram).

आ. ā.

ā -1. (關) ...まで; ...より. (從格. 業格と共に來る).

-2. (接頭) こなたへ; かへりて. (行爲の方向を變ずる力あり). √gam. 往く; ā-gam. 來る; √dā. 與ふ. ā-dā. 奪ふ; √ni. つれゆく. ā-ni. つれ來る.

āḥ = ās. (間投).

ā-kāra. (男) 貯藏所; 礦床. (ā + √kṛi + a). √ā-karṇ. (動. 10. 爲他. ā-karṇayati; ākarṇitum; ākarṇya). 耳にす; きく. (ā-karṇa の擬名詞相).

ā-karṇa. (男) 耳.

ā-karṇita. (形) 耳にせられたる; きかれたる.

ā-karṇya. (連) 耳にして; きいて.

ā-kāra. (男) 形狀; 相貌; 形相. (ā + √kṛi + a).

ā-kārīta. (形) 招かれたる. (ā + √kṛi の催 + a).

ā-kāca. (男. 中) 虚空; 空明.

-vartman. (中) 空中の途.

ā-kim-canya. (中) 無一物の状態. (a + kim + cana + ya).

ā-kirṇa. (形) 撒布せられたる. (ā + √kṛi + na).

ā-kula. (形) 亂れたる; 惱める.

ā-kulita. (形) 亂だされたる; 惱まされたる. (ā-kula の擬名詞相).

√ākṛi. (動. 8. 爲他) こなたになす; もたらす.

(催) ākṛayati, -te. 招く; 召す.

ā-kṛiti. (女) 相; 形; 容貌.

√ā-kṛiṣ. (動. 1. 爲他. 6. 爲他. 爲己) 曳く; 拖く. (弓などを).

ā-kṛiṣṭa. (形) ひかれたる. (ā + √kṛiṣ + ta).

ā-kṛiṣya. (連) ひきて.

√ā-kṛi. (動. 6. 爲他) 撒布す.

√ā-kram. (動. 1. 爲他. 爲己) 近づく; 攻む; 迫る.

ā-krānta. (形) 迫まれたる; 攻められたる. (ā + √kram + ta).

ā-khya. (形) 名くる。(複合詞の末尾に来る)。(ākhyā).
 √ā-khyā. (動. 2. 爲他) 語る; 告ぐ; 名く; 呼ぶ.
 ā-khyā. (女) 名稱.
 ākhyātum. (不定) 名くべく; 語るべく.
 ā-gata. (形) 來れる.
 āgatya. (連) 來りて.
 ā-gāntavya. (形) 來らるべき.
 ā-gāntu. (男) 外より來る人; 客。(ā+√gam+tu).
 ā-gāntuka. (男) 客.
 √ā-gam. (動. 1. 爲他) 來る; 到る.
 ā-gamana. (中) 來ること; 到ること。(ā+√gam+ana).
 ā-gāmin. (形) 來るべき; 來る。(ā+√gam+in). (形-女) āgāmini. āgāminyām. 來る新月の夜に於て.
 āṅgika. (形) 種類の; ...より成る。(aṅga+ika).
 koṭi-çata-sahasra-āṅgika. (形) 百千億種の.
 √ā-car. (動. 1. 爲他) 行ふ; 修す.
 ā-carat. (形-nt) 行ひつゝ.
 ācarams tiṣṭhati 行ひつゝ居る.
 ā-cāra. (男) 行; 操行; 慣習; 行規; 軌範。(ā+√car+a).
 ācārya. (男) 阿闍梨; 師範; 軌範師。(ā+√car+ya).
 √ā-ccad. (動. 10. 爲他) 包む; 掩ふ.
 ā-ccādyā. (連) 包みて; 掩ひて.
 ā-jñā. (女) 命令; 勅命.
 √ā-jñā. (動. 9. 爲他) 知る; 普く知る。(催) ājñāpayati,-te. 普く知らしむ;

命令す.
 ādhya. (形) 富める; 多き.
 √ā-tap. (動. 1. 爲他) 熱す; 焼く.
 ā-tapa. (男) 陽光; 熱。(ā+√tap+a).
 ā-tithya. (中) 客を款待すること; 接待(atithi+ya).
 ā-tura. (形) 苦む; ...を患ふ; ...の爲に痛心する.
 ātta. (形) さられたる; 奪はれたる;(ā+√dā+ta).
 -manas. (形) 心を奪はれたる; 心悅豫する; 歡喜する.
 ātma = ātman.
 ātmaka. (形) ...より成る; ...の性質を具する; ...の特質ある.
 ātman. (男) 自我; 自己; 靈魂.
 ātmane-pada. (中) 自己の爲の語; 爲己語尾を附すべき語.
 ātma-vat. (副) 自己のごとく.
 ātma-sāntuṣṭa. (形) 自から喜べる; 自適せる; 己惚の.
 ātma-sāndeha. (男) 自己の危險.
 ātmiya. (形) 自己の.
 ātmāupamya. (中) 自己の心より他の心を推すること; 己を以て他を付度すること。(ātman+āupamya).
 ādara. (男) 尊敬; 敬意; 注意; 留意。(ā+√dri).
 √ā-dā. (動. 3. 爲他) さら; 奪ふ.
 ā-dāna. (中) さらること; 奪ふこと。(ā+√dā+na).
 ādi. (男) 始. (形) ...を始とする; ...等の.
 ādi-tas. (副) 始より.
 āditya. (形) aditi より生れたる; 太陽の; 日種の. (男) 太陽; 日

-sambhava. (男) 日より生るゝ如來; 日生如來.
 √ā-diç. (動. 6. 爲己) 指示す; 説く; 教ふ; 命ず.
 ā-diçta. (形) 命ぜられたる。(ā+√diç+ta).
 √ā-dri. (動. 6. 爲己 adriyate; adrita). 敬す; 注意す; 意をこむ.
 ā-deça. (男) 命令。(ā+√diç+a).
 ā-deça-tas. (副) 命令より; 命令に従ひて.
 mātur ādeçatas. 母の命令なるより.
 ādya. (形) 最初の; ...等の。(ādi+ya).
 ādriyate. (動) かれは尊ばる。(√ā-driの受. 現. 單. 第三人稱).
 ā-dhā. (動. 3. 爲他. 爲己) 置く; 定置す.
 ādhipatya. (中) 主權; 君位。(adhi+pati+ya).
 √ā-dhmā. (動. 1. 爲他) 吹きふくらす; 煽揚す.
 ā-dhmāta. (形) 煽られたる; ふくれたる.
 ānana. (中) 顔面; 口.
 √ā-nand. (動. 1. 爲他) 歡喜す.
 ā-nanda. (男) 歡喜; 阿羅陀.
 ānandāçru. (中) 嬉し涙。(ānanda+açru).
 -pūrna-nayana. (形) 嬉し涙に満てる目の.
 √ā-nī. (動. 1. 爲他) つれ來る; 携へ來る; もちきたる.
 ānīta. (形) もちきたられたる; つれきたられたる.
 ānīya. (連) もちきたりて; つれきたりて.
 √āp. (動. 5. 爲他. āpnoti; āpa; āpat; āpsyati; āpta; āptum; āptvā). 得; 到達す.
 √ā-pad. (動. 4. 爲己. āpadyate). 近づく; 歩

みよる; 入る; 到る; 或る状態に陥る.
 ā-pad. (女) 不幸; 災厄.
 -arthe. (副) 不幸の爲に.
 āpanna. (形) 近ける; 到れる; 陥れる。(ā+√pad+na).
 paçcāt-tāpam āpannaḥ 後悔するに至れり; 痛恨の状態に陥れり.
 ā-bharaṇa. (中) 粧飾; 莊嚴。(ā+√bhri+ana).
 ā-bhā. (女) 光明.
 √ā-ḥri. (動. 1. 爲他) もたらす; もち來る; 運び來る.
 √ā-mantr. (動. 10. 爲己. āmantrayate). 召す; 呼ぶ; 招く; 別を告ぐ; 別を叙す.
 ā-mantrana. (中) 招請; 呼格の用法; 別を叙すること.
 ā-mātya. (男) 重臣; 大臣.
 -padavi. (女) 大臣の位.
 āyana. (語基構成音) ...より來れる; ...の苗裔の。(ā+√i+ana).
 √āyā. (動. 2. 爲他) 來る.
 āyāt. (形-nt) 來る.
 āyāta. (形) 來れる.
 āyudha. (男) 兵仗; 兵刃.
 āyus-ksaya. (男) 命濁.
 āyus-pramāṇa. (中) 壽命の限量.
 āyusmat. (形-nt) 壽命ある; 具壽命の. (男) 長老.
 āyus. (中) 壽命.
 ā-rabdha. (形) 始められたる; 着手せられたる; 企圖せられたる;(ā+√rabh+ta).
 √ā-rabh. (動. 1. 爲己 ārambhate; ārabdha). 始む; 着手す; 企圖す.
 ā-rabhya. (連) ...より始めて; ...より己

來 (名詞ならば從格を伴ふを常とする).
 adyārabhya. 今日より始めて; 今後.
 √ā-ram. (動. 1. 爲他). 樂む; 止息す; 憩ふ.
 ārāt. (副). 近くより.
 √ā-rādh. (動. 5. 10. 爲他). 悦ばす; 宥む (怒などを); 他の歡心を得.
 ā-rādhitā. (形). 悦ばされたる.
 ā-rāma. (男). 遊園. (a+√ram+a).
 √ā-ruh. (動. 1. 爲他). 上る; 到る; 達す. (備). āropayati, -te 上らしむ.
 āruhya. (連). 上りて.
 ārūḍha. (形). 上れる; のれる. (ā+√ruh+ta).
 ā-ropayitum. (不定). 上すべく; のらすべく.
 ā-ropya. (連). 上らせて; のせて.
 ārta. (形). 苦める; 惱める.
 ārya. (形). 尊き; 聖なる; 高貴の. —(男). 正教を奉ずる人; 正信の人; 四族中首陀を除きたる他の三族.
 ārṣa. (形). 仙人又は吠陀の詩人によりて云はれたる; 神仙の; 悠古の; 尊き; 吠陀の; 神聖なる. (riṣi+a=riṣiṇā proktam).
 √ā-lap. (動. 1. 爲他). はなしかく; 語る; 共に語る.
 ālasya. (中). 活氣なき状態; 懶惰.
 ālāpa. (男). 談話. (ā+√lap+a).
 √ā-liṅg. (動. 1. 爲他. 爲己. 10. 爲他). 抱く; 擁す; 圍繞す.
 √ā-lok. (動. 1. 爲己; 10. 爲他). 見る; 諦視す; 思惟す; 熟慮す.
 √ā-loc. (動. 1. 爲己; 10. 爲他. 爲己). 見る; 諦視す; 思惟す; 熟慮す.
 ā-locita. (形). 思惟せられたる; 熟慮せら

れたる.
 ā-locya. (連). 思惟して; 熟慮して.
 ā-varaṇa. (中). 障壁. (ā+vri+ana).
 ā-vic. (動. 6. 爲他. 爲己). 入る; 或る状態に陥る.
 ā-viṣṭa. (形). 入りたる; 陥りたる. (ā+√viṣ+ta).
 √āvīkṛi. (動. 8. 爲他. 爲己). 分明にす; 明白にす.
 āvis. (副). 分明に; 明白に.
 √āvri. (動. 5. 10. 爲他. 爲己). 包む; 隠す; 遮障す.
 āça. (男). 食物. (√aç+a).
 āçaya. (男). 臥床; 住處. (ā+√çi+a).
 āçā. (女). 希望.
 āçavat. (形-nt). 希望を抱く; 望を囑する; 期待する.
 āçis. (女). 祝福; 祈誓.
 āçin-liṅ. (不變化). 祝福祈誓に用ふる可能法; 可能法の第三過去.
 āçu. (副). 早く; 速に.
 āçcarya. (中). 異常のこゝ; 奇異のこゝ.
 ā-çrama. (男. 中). 精舍; 苦行の地; 隱栖の地; 婆羅門修行の階段. (ā+√çram+a). (婆羅門の修行に四階級あり. 第一期は. brahma-çārin 楚志と稱し. 師長の家に寓して hrahma-caryā 即ち淨行を修する時代にして. 吠陀を修習し. 諸種の學術儀禮を學ぶ. 第二期は. 即ち家長時代にして gārhaṣṭhya と稱し. 己の家に歸り. 一家の長者 (griha-pati) となり. 妻を娶り. 兒孫を養ひ. 産を修めて. 家居する時代なり. 第三期は. vāna-prastha と稱し. 再び家を出で. 山林に遁れ. 隱栖の時代なり. 第四期は. saṁ-nyāsa の時代

にして. 即ち世欲を絶ち; 俗事を抛擲して. 所々に遊歴し. 食を乞ふ).
 -saṁ-nidhāna. (中). 精舍の近傍.
 ā-çraya. (男). 歸依する處; 適歸する處; 難を逃れ救を求むる處; 家.
 -karaṇa. (中). 家を作るこゝ.
 -bhūta. (形). 歸依する所となれる; —(男). 保護者.
 -sthāna-bhāgin. (形). 所依の母音と同一なる調節點. (articulation-point) を有する. —(男). 空點及び湮聲點.
 √ā-çri. (動. 1. 爲他. 爲己). 適歸す; 歸依す; 難を逃れて救を求む.
 āçritya. (連). 歸依して; 依りて.
 √ās. (動. 2. 爲己. āsate; āsām cakre; āsiṣṭa; āsitum; āsita). 座す.
 ās.=āh. 憤怒, 苦痛, 哀悼の情を示す間投詞.
 āsa. (動). かれはありき. (1. √as, の現實法. 第二過去, 單. 第三人稱. 爲他).
 ā-sakta. (形). 執着したる. (ā+√saij+ta).
 √ā-saṅj. (動. 1. 爲他). 執着す; 附着す. (ā+√saj). に同じ.
 1. √ā-sad. (動. 1. 爲他. 10. 爲他). 座す; 近づく; 到達す; 會す; 遭遇す; 得

āsana. (中). 座するもの; 座席. (√ās+ana).
 ā-sanna. (形). 座せる; 傍近の. (ā+√sad+na).
 ā-sādya. (連). 得て; 到達して. (ā+√sad+ya).
 āhati. (女). 擲撃; 殺害. (ā+√han+ti).
 √ā-han. (動. 2. 爲他). 打つ; 殺す.
 ā-hāra. (男). 攝取するこゝ; 入りこむこゝ; 體內にこもり入るもの; 食物. (nir-hāra 排泄の反對).
 -parityāga. (男). 一切食を絶つこゝ.
 ā-hita. (形). 置かれたる; 定置せられたる. (ā+√dhā+ta).
 ā-hitāgni. (形). 火を祭壇に定置せる. 火に事ふる. —(男). 火を拜する婆羅門.
 āhus. (動). 彼等は云へり; 人々は云へり. (√ah の第二過去, 複, 第三人稱. 爲他).
 ā-hūya. (連). 呼びて; 召して. (ā+√hve+ya).
 √āhri. (動. 1. 爲他). さる; 奪ふ; もちかへる.
 ā-hvāna. (中). 召喚; 招請. (ā+√hve+ana).
 ā-hve. (動. 1. 爲他). 召す; 呼ぶ



1. \sqrt{i} . 〔代〕. 指示代名詞 idam の語根にし
て; idam は. 此の語根に. d (t) の語尾を
添へ. 更に am の語尾を添へたるもの.
み 即ち i+d+am なり. なほ. ta の語根
に d (t) を添へて tad (t) となし; ya の
語根に d (t) を添へて ya-d (t) となす
がごさく. 又 tu なる語根に am を添へ
tvam となし. ah なる語根に am を添へ
aham となすがごさし. 此の語根より來
れる形容詞副詞を擧ぐれば. i-tara; i-tas;
it-tham; i-ha のごさし. 〔id. を見よ〕.
2. \sqrt{i} . 〔動. 2. 爲他. eti; iyāya; eṣyati; ita;
etum; itvā〕. 往く.
- Icchat. 〔形-nt〕. 希求する. 〔1. $\sqrt{iṣ}$ の現
在分詞〕.
- Icchā. 〔女〕. 希望; 慾望.
- Ijyā. 〔女〕. 供養; 祭祀. 〔 $\sqrt{yaj+yā}$ 〕.
- I-tara. 〔形〕. 他の; 異なる. 〔拉. i-terum〕.
- I-tas. 〔副〕. こゝより; これより. itas tatas
こゝかしこに.
- I-ti. 〔接〕. —1. ...と云ひて; —2. ...と思
惟して; —3. かく云ひて; かく思惟し
て. (常に一文又は語の後に來る. もし語
の後に來らば. 其の語は. 必ず. 主格なら
ざるべからず. soma-çarmā+iti のごさ
し). 〔1. $\sqrt{i+ti}$ 〕.
- dā-tavyam iti 與へられざるべからず
と云ひて; 與ふるは余の義務なり
と思惟して.
- kimiti. 何と思ふてか; 如何なれば;
何故に.
- ity-evam. ...とかく.
- ity-ādi. ...と云々.

- Ittham. 〔副〕. この方法にて; かく; かく
のごさく. 〔1. $\sqrt{i+d(t)+tham}$ 〕. 〔拉. it-
em〕.
- Id. 〔代〕. 指示代名詞 idam の id にして.
即ち 1. \sqrt{i} に d (t) なる中性單數主格
の代名詞變化の語尾を附加せるものにし
て. ta-d, ya-d の d に同じ. 〔拉. id-em; 英.
it; 獨. es〕.
- I-d-am. 〔代〕. この; かの; 此處なる. (此
の指示代名詞の變化は. a, ana, i, ima の
四種の語根より來る. 1. \sqrt{a} , \sqrt{ana} ; \sqrt{i} ,
 \sqrt{ima} を見よ). id-am の am 〔t. tu+am,
ah-am の am に同じ. 〔拉. i-dem〕.
- Idānim. 〔副〕. 今. 〔1. $\sqrt{i+dānim}$ 〕.
- $\sqrt{idh}=\sqrt{indh}$.
- Idhma. 〔男〕. 薪材. 〔 $\sqrt{indh+ma}$ 〕.
- \sqrt{ind} . 〔動. 1. 爲他. indati; indām cakāra;
indita; inditum〕. 力あり.
- Indo-pāli. 印度に於て用ひたる字母の義
にして. Bactrian pāli に對してかく云へ
るなり.
- Indra. 〔男〕. 因陀羅, 帝; 主; 王; 帝釋;
釋提桓因 (çakro devānām indrah); 〔 \sqrt{ind}
+ra〕.
- ketu-dhvaja. 〔男〕. 帝幡幢如來.
- Indriya. 〔中〕. 官能; 五官; 根.
(阿彌陀經に所謂五根とは. 三十七菩
提分法の一科にして. pañca-indri-
yāni と稱す. 1. 信根. çraddhā-in-
driyam; 2. 精進根. vīrya-indriyam;
3. 念根. smṛiti-indriyam; 4. 定根.
samādhi-indriyam; 5. 慧根. prajñā-
indriyam. 是れなり. 皆な善を長じ

- 道に向はしむる能力を云ふに
あり).
- \sqrt{indh} . 〔動. 7. 爲己. indhe (indh+te),
iddhe; idhe, indhām cakre; āindhīṣṭa;
indhīṣyati; iddhum; iddha〕. 焼く; もや
す.
- \sqrt{ima} . 〔代〕. 指示代名詞 idam の變化中
imam, imām; imāu; ime; imāḥ; imān.
等は即ち此の語根より來れるなり.
- Iyat. 〔形-nt〕. かく多き; かく久しき.
〔1. $\sqrt{i+yāt}$ 〕.
- kālam. 〔副〕. かく長時の間; かく
久しく.
- Iyeṣa. 〔動〕. 1. $\sqrt{iṣ}$ の第二過去. 單數第
三人稱. 爲他.

- Iva. 〔接〕. ...のごさく; 恰も...に似たる;
宛然...のごさし.
1. $\sqrt{iṣ}$. 〔動. 6. 爲他. icchati; iyeṣa; āiṣit;
eṣīṣyati; iṣṭum; iṣṭa〕. 希求す; 愛好す.
2. $\sqrt{iṣ}$. 〔動. 10. 爲他. iṣayati〕. 送る; 催進
す; 飛ばす.
- Iṣṭa. 〔形〕. 希求せられたる; 愛好せられ
たる. 〔1. $\sqrt{iṣ+ta}$ 〕.
- lābha. 〔男〕. 愛好するものを得る
こと.
- Iṣṭa. 〔形〕. 祭られたる; 供養せられたる;
〔 $\sqrt{yaj+ta}$ 〕.
- Iha. 〔副〕. こゝに; 此の世界に於て. (amutra
に對す).
- iha samaye. この際.

- $\sqrt{iḥ}$. 〔動. 1. 爲己. iḥate; iḥām cakre;
āiḥīṣṭa; iḥīṣyate; iḥīṣitum; iḥīṣita〕. 見
る; 諦視す; 觀察す.
- iḍiç. 〔形-çī. 女〕. かくるさませる; かく
のごさき. 〔i, i+driç〕.
- 〔希. he-likos, te-likos; 拉. ta-lis〕.
- iḍiçā. 〔形〕. 同上.
- iṣita. 〔形〕. 得まほしく思はれたる; 得ば
やと思はれたる. 〔 \sqrt{ap} の希求. i+ta〕.
- \sqrt{ir} . 〔動. 2. 爲己. irte; irām cakre; āiriṣṭa;
iritum; irṇa〕. 動く; 發動す.
- 〔催〕. irayati; -te 動かす; 推進す.
- irita. 〔形〕. 動かされたる. 〔 \sqrt{ir} の催+i

- +ta〕.
- $\sqrt{iç}$. 〔動. 2. 爲己. iṣṭe; iṣām cakre; āiçīṣ-
ṭa; içita; içitum〕. 主宰す.
- içā. 〔男〕. 主; 神; 自在; 主宰. 〔 $\sqrt{iç+a}$ 〕
- içvara. 〔男〕. 自在天 富人.
- iṣat. 〔形-nt〕. 些少の.
- sṛiṣṭa. 〔形〕. 少く接觸せられたる;
聲音機關の少く相觸れたる. —〔男〕.
開音.
- iṣad-vivṛita. 〔形〕. 少く開きたる; 聲音
機關の少く開きたる. —〔男〕. 開音.
- $\sqrt{iḥ}$. 〔動. 1. 爲己. iḥate; iḥām cakre; āi-
hiṣṭa; iḥīṣyati; iḥitum〕. 希求す; 希望す.

3. U.

U. [接]. 而して; 又. (no の接續詞は. na + u なり).

Ukta. [形]. 云はれたる; 語られたる. (√vac+ta).

Ukta-vān. [動. 第二過去]. かれは云へり. (ukta+vat の單數主格なり).

Ukti. [女]. 言語; 言説. (√vac+ti).

Ugra. [形]. 猛き; 恐ろしき; ねごそかなる. (√vaj+ra).

√uc. [動. 4. 爲他. ucyati; uvoca; āucit; uciṣyati; ucita; ucitum]. 喜ぶ; 適す.

Ucita. [形]. 適せる; 宜しき; 適當なる. (√uc+i+ta).

Ucitenā. [副]. 宜しきに従ふて; よしなに.

Ucca. [形]. 高く.

Uc-caya. [男]. 集積; 堆積. (ut+√ci+a).

Uc-ci. [動. 5. 爲他. 爲己]. 集む; 積む. (ud+√ci).

Uccāis. [副]. 高く; 聲高く.

√uc-chid. [動. 7. 爲他. 爲己]. 切斷す; 絶つ; (ud+√chid).

Ujjayini. [女]. 勝利あるもの; 烏闍衍那; 都の名. (ud+√ji+a+in+i).

√uñch. [動. 6. 爲他. uñchati; uñchitum]. ひきあつむ; 拾集す.

Uṅ-ādi. [男]. uṅ 即ち u 等の語基構成音.

Ut. [接頭]. ud に同じ.

Uta. [接]. 而して; 次に; 又.

Uta vā. [接]. 或は.

Ut-karṣa. [男]. 引き上ぐること; 引出すこと; 拔擢; 顯達. (ut+√kṛiṣ+a).

√ut-kṛit. [動. 6. 爲他]. 剖開す; 割く; 裁斷す.

Ut-kṛityamāna. [形]. 裁斷せらるゝ.

√ut-kṛiṣ. [動. 1. 爲他]. 引き上ぐ; 引き出す.

Ut-kṛiṣya. [連]. 引き上げて; 引き出して.

√ut-kṣip. [動. 6. 爲他]. 上に投ず; 揚ぐ; 建つ.

Ut-kṣipyā. [連]. 上に投じて; 揚げて.

Ut-tama. [形]. 至高の; 至上の; 最後の. (ud+tama).

-parijana. [男]. 至高の扈從.

-puruṣa. [男]. 動詞の變化の表中, 最後に来る人稱; 第一人稱. §172. (印度の語典にては. 動詞の第三人稱は. 最初に来り. 第一人稱は. 最後に来る).

-varṇa. [形]. いみじき色せる.

Uttamādhama-madhya. [形]. 上等; 下等. 及び中等の.

Ut-tara. [形]. 一層上なる; 一層高き; 一層後の; 北方の. [中]. 答; 口返答.

-dāyaka. [形]. 口返答する.

-sādhaka. [男]. 咒法を修するときの助手; 補助者.

Uttarā. [副]. 北方に; 北方.

-patha. [中]. 北路; 北國.

Uttarottaram. [副]. いやましに; いやいよ.

√ut-thā. [動. 1. 爲他]. 起ち上がる. (ud+√sthā §280).

Utthātum. [不定]. 起ち上がるべく.

Utthāpya. [連]. 起ち上がらせて; 起して. (ud+√sthā の催+ya).

Utthāya. [連]. 起ち上がりて.

√ut-paṭ. [動. 10. 爲他]. むく; ひきぬく.

√ut-pat. [動. 1. 爲他]. 躍り上がる; 飛び立つ.

√ut-pad. [動. 4. 爲己]. 生る; 生起す. [催]. utpādayati, -te 生む; 起す.

Ut-panna. [形]. 生れたる; 生起したる; 成就せる.

Ut-pala. [中]. 青蓮; 蓮華.

Ut-pāṣin. [形]. いきぬく. (ud+√paṣ+in).

Ut-pādyā. [連]. 生みて; 生起せしめて. (ut+√pad の催+ya).

√ut-plu. [動. 1. 爲己]. 躍りあがる.

Ut-plutya. [連]. 躍りあがりて.

√ut-phal. [動. 1. 爲他]. 開敷す; 開く.

Ut-phulla. [形]. 開敷せる; 開きたる. (ut+√phal+la).

-locana. [形]. 目を開ける.

Ut-saṅga. [男]. 膝.

Ut-suka. [形]. 熱望する; 得むとして痛心する.

√Ut-srij. [動. 6. 爲他]. 外に放つ; 捨つ; 送る.

√ud. = √und. [動. 7. 爲他. unatti; undān cakāra; āundit; unditum; unna, utta]. 湧出す; 泡だつ. [拉. und-a].

Ud. [接頭]. —1. 上に. (ut-thāのごとし); —2. 外に. (ut-srijのごとし); —3. 開く. (ut-phullaのごとし); —4. 離す. (ut-kṛitのごとし). [英. out].

Udaka. [中]. 水. (√und+aka).

Udac. [形-añc]. 上に向へる; 北に向へる. §129. (ud+√ac).

Udaya. [男]. 上ること; 繁榮すること; 旭日の天に上ること; 東嶠 (太陽此の山より出づと稱せらる). (ud+√i+a).

Udara. [中]. 腹.

Udāra. [形]. 高き; 貴き; 宏敞なる. -carita. [形]. 高行の; 宏量の.

√ud-i. [動. 2. 爲他]. 上る (太陽などの); 現はる.

√ud-gam. [動. 1. 爲他]. 上る; 發生す. (ud+√gam).

√ud-gḥat. [動. 1. 爲己]. 開く; [催]. ud-gḥāyati, -te. ひらかしむ; 殻を去る.

Ud-ghāṭya. [連]. ひらきて.

√ud-diṣ. [動. 6. 爲他. 爲己]. 指示す; 開示す; 指陳す; 目ざす.

Ud-diṣya. [連]. 目ざして; 指示して; [關]. 關して; 目ざして; ...の方へ.

Ud-deṣa. [男]. 地方; 場所. (ud+√diṣ+a).

√ud-dyat. [動. 1. 爲己]. 光を放つ; 耀く.

Uddyota. [男]. 光輝. (ud+√dyut+a).

√ud-dhṛi. [動. 1. 10. 爲他]. ひきだす; ひきあぐ; 救助す. (ud+√dhṛi 又は ud+dhṛi).

Ud-dhṛitya. [連]. ひきあげて.

Ud-yata. [形]. 舉げられたる; 備へられたる; 企圖せられたる; 決心せられたる; ...せむとせる. (爲格, 於格又は不定體を伴ふ). (ud+√yam+ta).

√ud-yam. [動. 1. 爲己]. 舉ぐ; 企圖す; 決心す; ...せむとす.

udyama. [男]. 舉ぐること; 企圖; 準備; 決心; 努力; 精進.

√Ud-yuj. [動. 7. 爲他. 爲己]. 努力す; 力を效す.

Ud-yoga. [男]. 努力; 精進; 精勤. (ud+√yuj+a).

Ud-yogin. [形]. 努力する.

Ud-vigna. (形) 悲痛せる; いぶせき. (ud + √vij + na).
√ud-vij. (動. 6. 爲己) 悲痛す; 打惰る; 憂慮す.
Un-matta. (形) 亂心せる; 狂せる. (ud + √mad + ta).
√un-mad. (動. 4. 爲他) 狂す; 酔ふ. (ud + √mad).
Un-mārga. (男) 正路より外れたる道; 邪道; 悪趣. (ud + mārga).
 -gāmin. (形) 邪道を踏む.
Upa. (接頭) -1. (動詞に附加せらるゝとき) 親く; 近く等の義あり. (upa-gam 近づく; upa-diç 親く教示すのごとし); -2. (名詞に附加せらるゝとき) 接近; 隸屬; 隨從; 不足等の義あり. (upa-kūla 岸近き; upa-rāja 副王; upa-çata 百に足らぬ; 殆むご百に達する; のごとし).
Upa-karaṇa. (中) 幫助すること; 幫助するもの; 器具. (upa + √kri + ana).
Upa-kartri. (男) 幫助者; 恩人. (upa + √kri + tri).
Upa-kalpita. (形) もたらされたる; 呈せられたる (up + √klip の催 + i + ta).
Upa-kara. (男) 幫助; 利益; 恩. (upa + √kri + a).
Upa-kāraka. (男) 幫助者; 利益を與ふる人; 恩を施す人.
Upa-kārin. (形) 幫助する; 利益する; 恩を施す. (upa + √kri + in).
√upa-kri. (動. 8. 爲他. 爲己) 近くなす; 幫助す; 利益す; 恩を施す.
√upa-klip. (動. 1. 爲己) 適す; 整ふ; 備はる.
 (催) upa-kalpayati, -te. 具備せしむ;

齎らす; 供す; 獻す.
√upa-kram. (動. 1. 爲己. 4. 爲他) 歩みよる; 近く; 着手す; 始む. (不定體と共に來る).
√upa-kri. (動. 9. 爲他. 爲己) 買ふ.
Upa-kriya. (連) 買ふて.
Upa-kṣaya. (男) 消費; 出費; 支出. (upa + √kṣi + a).
√upa + kṣi. (動. 1. 爲他. 4. 爲己) 消費す; 滅盡す.
√upa-gam. (動. 1. 爲他) 近づく.
√upa-ja u. (動. 4. 爲己) 生る; 發生す.
√upa-dhāuk. (動. 1. 爲己) 近づく.
 (催) upa-dhāukayati, -te. 近づかす; 獻す; 呈す.
√upa-diç. (動. 6. 爲他. 爲己) 親く示す; 親く教ふ; 指示す.
Upa-deçā. (男) 講説; 教訓; 訓誡.
Upa-deçin. (形) 講説する.
Upa-patsyate. (動) 發生せむ; てくるならむ; なし得べし. (upa + √pad + sya - te).
√upa-pad. (動. 4. 爲己) 近づく; 到達す; 生る; 發生す; (俗語の) てくる.
Upa-panna. (形) 具足せる. (upa + √pad + na).
√upa-bhuj. (動. 7. 爲他. 爲己) 食す; 享く; 受用す.
Upa-ma. (形) 侔しき; 似たる; ...のごとき. (upa + mā).
√upa-mā. (動. 2. 爲他; 3. 4. 爲己) 比較す; 類推す.
Upa-mā. (女) 比較; 類推; 比量.
√upa-yuj. (動. 7. 爲己) 使用す; 享く; 受用す.
Upa-yoga. (男) 使用すること; 要用.

Upayogābhāva. (男) 要用のなきこと; 不必要なること.
Upari. (關) 上に. (希. hyper; 拉. super; 獨. ueber; 英. over).
 -ṣṭha. (形) 上方にある; 上に位する. (upari + √sthā).
Upala. (男) 石; 磨.
√upa-lakṣ. (動. 10. 爲他) 見る; 見定む; 認む.
Upa-lakṣita. (形) 見定められたる; 認められたる.
Upa-viç. (動. 6. 爲他) 座す. (催) upa-veçayati, -te. 座せしむ.
Upa-viṣṭa. (形) 座せる.
Upa-veçita. (形) 座せしめられたる. (upa + √viç の催 + i + ta).
Upa-sam-hri. (動. 1. 爲他) 收む; 奪ふ; 抑止す. (upa + √srij + a).
Upa-sarga. (男) 附着すること; 附加すること; 動詞に附加せらるゝ語; 接頭辭. (此の語は. gati に對す. gati も接頭辭なれど, 副詞にして接頭辭となるものを云ふ, alam, āvis, tiras 等のごとし, upa-sarga は, 大抵關係詞にして接頭辭となるものを云ひ. 其の數二十あり).
 pra, parā, apa, sam, anu, ava, nis; dus; vi, ā, ni, adhi, api, ati, su, ut, abhi, prati, pari, upa. 是れなり.
√upa-sri. (動. 1. 爲他) ちかづく.
√upa-srij. (動. 6. 爲他) 附加す; 添加す.
Upa-sriya. (連) 近づきて.
√upa-sthā. (動. 1. 爲他. 爲己) 近く立つ; 近づく.
Upa-sthita. (形) 近づける.

√upā-dā. (動. 3. 爲己) 奪る; 奪ふ; 奪ひ奪る; せり來る; 携へ來る.
Upā-dāna. (中) 奪ること; 取. (十二因縁の一).
Upādāya. (連) せり來りて; 携へ來りて.
Upādhyāya. (男) 師; 教師; 和尚. (漢譯には. 親教師とあり. 是れ惟ふに. 此の語を解して. upetya 近づきて. adhiyate 學ばる. せなせしによるならむ). (upa + adhi + √i + a).
Upānah. (女) 鞋; 靴.
Upānta. (中) 端に近きところ; 邊に近き所; 邊際.
Upāya. (男) 近づくこと; 己が目的に近づく方法; 方便; 利益.
√upārj. (動. 1. 10. 爲他) 近くもたらす; 得. (upa + √arj).
Upārjana. (中) 得ること. (upa + ā + √rij + ana).
Upārjita. (形) 得られたる.
√upe. (動. 2. 爲他) ちかづく. (upa + √i).
√upekṣ. (動. 1. 爲己) 看過す; 捨つ; 等閑に附す. (upa + iḥ).
Upekṣā. (女) 捨つこと; 等閑視すること; 忽諾に附すること.
Upeta. (形) ちかづける; 賦與せられたる.
Ubha. (形) 二者の; 両方の. (希. ampho; 拉. ambo).
Ubhaya. (形) 二者の; 両方の.
Uraga. (男) 龍; 蛇. (uras 胸 + √gam 行く; 胸にて往くもの).
 -sāra-candana. (男. 中) 蛇心香; 檜檀の一種.
Uras. (中) 胸.

Urvarita. [形]. 残れる; 残余の; 過剰の.
√uṣ. [動. 1. 爲他. oṣati; uvoṣa; āuṣit; uṣta].
焼く; 燃焼す; 光を放つ.
[拉. us-tus, ūro, ustor 等同一語根なり; 英.

com (b) us-tion = con-ustio 燃焼す).
Uṣitvā. [連]. 住して.
Uṣna. [形]. 熱き.
-kālāvasāna. [中]. 暑時の終了.

五. ū.

ūna. [形]. 不足する; 缺乏する.
ūru. [男]. 腿.
ūrdhva. [形]. 方上の; 上向する.
ūrdhvam. [副]. 上方に.
ūṣara. [男. 中]. 鹹地; 鹹味を帯ぶる土地;
沮洳斥鹵の地.

ūṣman. [男]. 吹氣音の悠解にして, 通例
ç. ṣ. s. h を云ふも, 時ありて. m ḥ をも含
むことあり.
√ūh. [動. 1. 爲他. 爲己. ūhati, -te; ūhām
cakāra, cakre; ūhitum; ūhita]. 集む.

六. ri.

√ri. [動. 1. 爲他. ricchati; āra; ārsit;
ariṣyati; rita]. 往く; 去る. [催]. arpa-
yati; -te. 往かしむ; 去らしむ; 送る; 遣
はす.
rig-veda. [男]. 梨俱吠陀. [ric + veda].
√ric. [動. 1. 爲他. 爲己] = √arc.
ric. [女]. 讚誦, 四吠陀中最古の時代に成
りし吠陀にして, 主として神祇を讚嘆せ
る詩を輯録せるものなり. 後馬吠陀歌頌
の大部分は, これより採りしものなるが.
元來梨俱は誦すべきものにして, 歌ふべ
きものにあらず, 故に後馬吠陀の歌頌の
ごとく歌ふを目的とするものありては
梨俱の讚誦は, 多少其の形を變易するに
あざれば, 到底歌ふに耐へず, 故に, 梨
俱の讚誦中, 後馬の中に收められしもの

は, 多少其の原形を變ぜるなり.
√rij. [動. 1. 爲己] = √arj.
riṇa. [形]. 罪を負へる. -[中]. 罪; 債.
rita. [形]. 往ける; 去れる; 眞實なる; 適
當なる.
riti. [女]. 方法; 手續. [√ri + ti].
ritu. [男]. 季候; 季節.
rite. [關]. なくしては; 除けば. (通例從
格を伴ふも, 又業格を伴ふことあり).
ṛiddhi. [女]. 神通力. [√ṛidh + ti].
√ṛidh. [動. 4. 5. 爲他. ṛidhyati, ṛidhnoti;
ānardha; ārdhit; ardhitum; ardhita].
榮ふ; 増す.
ṛiṣi. [男]. 吠陀の詩を, 神の啓示によりて
作れりし稱せらるる人; 吠陀の詩人; 仙
人. [veda を見よ].

七. ṛi.

ṛi. [不變]. 可能法; (此の中に vidhi-ṛi
と, ācir-ṛi との二種あり, 即ち可能法の

現在と, 其の第三過去是れなり).
ṛi. [不變]. 現實法の第一未來.

八. E.

√e. [代]. この. (指示代名詞 etat, enam 等
の語根にして, これより來れる副詞を擧
ぐれば, eva; evam 等なり).

Eka. [形. 數]. 一の; 或るもの (此の場合
には複數に變化す); 同一の.

-jāti-prati baddha. [形]. 一生補處の.

-tama. [形]. 多數の中の一.

-tara. [形]. 二者の中の一.

Eka-tra. [副]. 一處に; 同一の處に.

Eka-trimṣa. [數]. 第三十一.

Eka-trimṣat. [數. 女]. 三十一.

Eka-dā. [副]. あるとき; 同時に.

Eka-dṛiṣṭi. [女]. 專一に見つむること; 凝
視すること.

Eka-dṛiṣṭyā. [副]. 一意に, 凝視して.

Eka-deça. [男]. 一處; 一局部.

Eka-mati. [女]. 同一の意見.

Eka-manas. [形]. 同意見の.

Eka-rātram. [副]. 一夜の間.

Eka-vacana. [中]. 單數; 一言聲.

Eka-vāram. [副]. 一度に.

Eka-vimṣa. [數]. 第二十一.

Eka-vimṣati. [數. 女]. 二十一.

-tama. [形. 數]. 第二十一.

Ekākin. [形]. 單獨の.

Ekādaça. [數]. 第十一.

Ekādaça. (n) [數]. 十一.

Ekānta. [男]. 一邊; かたよりたる所. 人な
きところ. [eka + anta].

Ekārtha. [形]. 同一の意義を有する; 同一
の目的を有する; 同一の状態を具する.

Ekārtha-tā. [女]. 同上の状態又は性質.

Ekāika. [形]. 單獨の; 一個づゝの. [eka
+ eka].

Ekāika-çaṣ. [副]. 一個づゝ.

Ekona-vimṣa. [數]. 第十九. [eka + ūna +
vimṣa].

Ekona-vimṣati. [女]. 十九. (20-1). [eka
+ ūna + vimṣati].

√eta. [代]. etat の語基にして, etat は即
ちこれに. d (t) を添加したるものなり.

Etat = etad. [代]. この; こゝなる. (此の
語の用法は, 語るものより見て, 比較的
近く存在するものを指示するにあり. 故
に上文に於て説き終はりし事實を指示し
又將さに, 云はむとする事實を指示する
ことあり. 第二百四十五頁の第九行目,
etat avocat は即ち後者の用法に屬す).

Etad = etat.

Etarhi. [副]. 今現に; 今正に. [eta + rhi].

Etā-dṛiç. [形]. かゝるさませる; かくの
ごとき. [eta + √dṛiç].

Etā-dṛiça. [形]. 同上. etādriçaṣ...yat...せ
むとするかごとき; しかく...なり.

Etā-vat. [形-nt]. かく多き; かく大なる.
(§31) [eta + vat].

etāvān...yena...せむとするかごとき;
しかく多く; しかく甚しく.

etāvantaṁ kalam. かく長時の間.

√edh. [動. 1. 爲己 edhate; edhām cakre]
榮ふ; 福を享く.

√ena. [代]. enat の語基.

Enat = enad. [代]. われ. [ena + t]. 此の指
示代名詞の變化を擧げむに.

男. 中. 女.
單. 業. enam, enat, enām.
具. enena, enayā.

	男.	中.	女.
雙業	enāu,	ene,	ene.
雙屬於	enayos.		

	男.	中.	女.
複業	enān,	enāni,	enās.

Eranda. [男]. 伊蘭樹.

Eva. [副]. -1. こそ...あ(な)れ. (evam eva かくにてこそあれ; 正にかくのごとし; rūpam eva cūnyatā. 色こそ空なれ; 色即是空).

2. (現在分詞に附加せらるゝときは) ... しつゝある中に. しなから. (cintayann eva. 思惟しながら).

3. (指示代名詞又はこれより來れる副詞に附加せらるゝときは) 同じき; こそ. (tad eva その同じき; asminn eva sarasi. 此の同じき池中に於て; tathāiva. 同じ方法にて; atrāiva. この同じき處にて; こゝにてこそ).

4. 實に, 決して. (cāiva=ca+eva 而して實に; nāiva=na+eva 實に...にあらず; 決して...にあらず).

Evam. [副]. かくのごとく; 同じく. [√e+am]. mā evam. かくなせぞ.

-pramukha. [形]. 此等を始めとしたる.

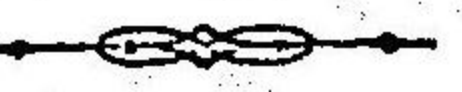
-bhūta. [形]. かくなれる; かくのごとき.

-vidha. [形]. かゝる種類の; かゝるさませる.

ऐ āi.

āika-matya. [形]. 同じき意見の. (eka+mati).

āicvarya. [中]. 自在; 主權; 富. (icvara+ya).



औ o.

ogha. [男]. 洪水; 流水, 積水; 堆積.

oṣadhi. [女]. 藥草.

oṣadhī. [女]. 同上.

oṣṭha. [男]. 唇. (拉. ostium).

oṣṭhī. [女]. 同上.

oṣṭhya. [形]. 唇より生ずる; 唇に関する. -[男]. 唇音.



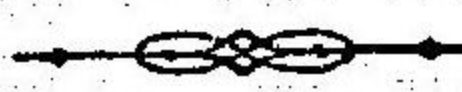
औ āu.

āutsukya. [中]. 熱望; 切望. (ut+suka+ya).

āupamya. [中]. 類推; 比較; 比量. (upamā+ya).

āuraga. [形]. 龍. (uraga).

āuṣadha. [中]. 藥草; 醫藥. (oṣadhi).



क. K.

√ka. [代]. なに. (疑問代名詞の語根語基にして. kim の變化中. kas, kam, kena, kasmai, kasmāt, kasya, kasmin; kā; kām, kayā, kasyāi, kasyās, kasyām 等は, 即ち此の語基より來れるなり, 又疑問の義を有する副詞にして, 此の語基より來れるものは, ka-dā, ka-tham 等なり, 又形容詞中疑問の義を有するもの, 此の語基より出でたること鮮からず, ka-tama, ka-tara 等即ち是れなり).

(此の語基は, 種々に其の形を變ず.-1. ki, -2. ku; -3. kā, -4. ko. 是れなり).

Kakud. [女]. 山頂; 峰.

-druma. [男]. 山頂にある樹; 野干の名.

Kaṅkana. [中]. 腕環.

Kaṅkāla. [男. 中]. 骸骨; 屍骸. (希. ko-kalon).

Kaṅkālākīrṇa. [形]. 骸骨の散布せる. (kaṅkāla+ākīrṇa).

Kaṅṭha. [男. 中]. 喉.

Kaṅṭhya. [形]. 喉より生ずる. -[男]. 喉音.

Kaṅcit. [形]. いくらかの; 少許の; kaṅcit+mārgam. 少許の道な; 少距離の途の間.

Ka-tama. [形]. 多数の中のなにか. [√ka+ama].

Katara. [形]. 二者の中の孰か. (希. ko-tero-s).

√kath. [動. 10. 爲他. 爲己. kathayati,-te; kathita; kathayitvā]. 語る; 話す. (ka-tham の擬名詞相). (希. kotillo; 英. quoth)

Katham. [副]. 如何なる方法にて; 如

何にして; 如何なれば; 何故に. katham+(cana)(api) 如何にしても; 或る方法にて. [√ka+tham].

Kathayitvā. [連]. 語りて.

Kathā. [女]. 談話; 物語. [√kath+a].

-(e)chala. [中]. 物語の仕組; 物語の體に擬すること.

Kathānaka. [中]. 短篇の物語; 小話.

Kathita. [形]. 語られたる.

Ka-dā. [副]. 何時; いつ.

kadā cana. いつかは; 或る時には. na kadā cana. 決して...せず. kadā cit. あるとき;

na kadā cid api. 決して...せず.

Kana. [形]. 小なる. (此の語は用ひず. たゞ其の比較級, 最上級のみ用ふ).

Kanaka. [中]. 黄金.

-sūtra. [中]. 金條; 金索; 金鎖.

Kaṅiṣṭha. [形]. 最も小なる; 最も幼なる; 最も賤しき. (kana+iṣṭha. alpaの最上級).

Kaṅiṣṭha-tā. [女]. 同上の狀態.

Kaṅiṣṭha-tva. [中]. 同上.

Kaṅiyas. [形-yāms]. より小なる; より賤しき; 一層小なる; 一層賤しき. (kana+iyas. alpaの比較級).

Kandara. [男. 中]. 洞穴; 窟窟.

Kanyā. [女]. 少女; 女子. (kana+yā).

Kapaṭa. [男. 中]. 詐欺; 偽計.

-prabandha. [男]. 偽計の連續; 計略.

Kapardaka. [男]. 貝鏡. (小なる貝殼にして, 通貨として使用せらる).

Kapī. [男]. 猿; 獼猴.

Kapila. [男]. 迦毘羅仙人; 黃白仙人.

-vāstu. [男. 中]. 迦毘羅仙人の住處;

迦毘羅城. (通例此の語を kapila-

vastu と記すれども、吾人は vastu の a を ā と變するを至當なりと信ず、蓋し佛の生れし處は、黃白仙人の居處なりしこと、諸經の中に散見するのみならず、vastu には居處の義なければなり。

- Kapru-di-giri.** peshawar の近傍にある山。
- Kapota.** (男) 鳩; 山鳩。
- Kamala.** (中) 蓮。
- √kamp.** (動) 1. 爲己. kampate; cakampe; kampita). 震動す; 戦慄す; 震ふ。
- Kampamāna.** (形) 震動する; 戦慄する。(√kamp + a + māna).
- Kampita.** (形) 震動せる; 震へる; 戦慄せる。
- tanu.** (形) 身震せる; 身の戦慄せる。
- Kambala.** (男) 氈; 毛布; 絨氈。
- Kambu.** (男) 貝殻。
- griva.** (形) 貝殻のごとき首を具する。(男) 龜の名。
- Kara.** (男) 作者者; 手; 象鼻 (√kri + a).
- tala-gata.** (形) 手裡に存する; 掌裡にある。
- pattra.** (中) 鏝。
- Kara.** (男) 光明; 光 (蓋し、日月星辰の光を其の手と視做せしより、此の意義を生ぜしものなるべし)。
- Karaṇa.** (中) 作爲するこゝ; 作爲するに要する器具; 器具 (√kri + ana).
- Karaṇiya.** (形) 作爲せらるべき (√kri + aniya).
- Karin.** (形) 手を有する; 象鼻を有する。(男) 象 (√kri + a = kara. kara + in = karin).
- Karkaṭa.** (男) 蟹。

- graha.** (男) 蟹に捕へらるゝこと。
- Karna.** (男) 耳。
- Kartavya.** (形) 作爲せらるべき (√kri + tavya).
- Kartri.** (男) 作者者; 行爲の主體; 主格の用法の一 (√kri + tri).
- Kartri-karaṇa.** (中) 能作 (kartri) + 具 (karaṇa). を併稱せるものにて、即ち具格の用法を擧げたるなり、元來具格は、動作の主體となるべきもの、動作に要する器具との占むべき格にして、例せば Rāvaṇaḥ çareṇa rāmeṇa hataḥ. (羅婆那王は、羅摩王の爲に、矢にて殺されたり) の文中、「殺害」なる動作の主體は「羅摩」王にして、此の行爲をなすに必要な器具は、即ち「矢」なり、而して Rāma なる語も、çara なる語も、皆均しく、具格の格を占む、故に、kartri-karaṇa の語は、具格の用法を擧ぐるに用ふる語典上の術語なり、唯識樞要には轉聲を論ずる節に、これを譯して、能作具聲とせり、其の意、實に、能作と器具との語が占むべき格は、具格なるべきを云へるなり。
- Kartri-vācya.** (中) 動詞の能動調; 動作の主體を主格とせる動詞の調。
- Karpūra.** (男) 中) 樟腦; 樟。
- paṭa.** (男) 染絲者の名。
- putikā.** (女) 樟の葉にて作れる包。
- vilāsa.** (男) 染絲者の名。
- sugandha.** (男) 樟の妙香。
- Karma = karman.**
- dhāraya.** (男) 持業の複合詞。
- pravacaniya.** (男) 關係詞。
- vācya.** (中) 動作の對象となるべきものを主格とせる動詞の調; 動詞の

受動調。

- Karman.** (中) 業; 行爲; 祭祀; 儀禮; 動作の容體 (√kri + man).
- Kala.** (形) 靜なる; 聲低き。
- Kalatra.** (中) 妻。
- Kalam.** (副) 低聲に; 微吟して。
- Kalaça.** (男) 瓶 (希. kalyx; 拉. calyx).
- Kalaha.** (男) 鬭爭。
- Kalā.** (女) 小區分; 十六分の一 (月など)。
- Kaluṣa.** (形) 濁れる。
- Kalpa.** (男) 却波; 却 (形) 如き (複合詞の終に来るとき) sumeru-kalpa. [如須彌山如來]のごとし (√kṣip + a).
- Kalpita.** (形) (√kṣip の催 + ita). 整ひたる。
- Kalmaṣa.** (中) 汚點; 罪障。
- dhvaṃsa-kārin.** (形) 罪障を滅盡せしむる。
- Ka-varga.** (男) k, kh, g, gh, ṅ の總稱。
- Kavi.** (男) 詩人。
- Kaṣāya.** (形) 澁き; (男) 中) 汚濁; 袈裟。
- Kaṣṭam.** (間投) 嗟呼。
- Kasmāt.** (副) 何より; 如何なる故に (kim の中) 單) 從)。
- √kā.** (接頭) 劣惡缺乏等の義を有し、常に名詞の前に附加せられ、似て非なるものを示す。kā-puruṣa のごとし。
- Kāka.** (男) 烏。
- kūrmādi.** (男) 烏; 龜等。
- peya.** (形) 烏すら飲むとを得べき。
- mukha.** (中) 烏の口。
- çabda.** (男) 烏の聲。
- saṅga.** (男) 烏と交ること。

- √kāṅkṣ.** (動) 1. 爲他・爲己 kāṅkṣati, -te; kāṅkṣita). 切望す; 疑ふ (佛敎語)。
- Kāṅkṣayatha.** (動) 汝等疑ふ; 汝等は須く疑ふべし。
- (√kāṅkṣ の現實法、現在、第二人稱、複數、爲他の語なり、現實法の現在を以て、命令法に充用することは、梵語よりも、パーリー語又は、其の他の俗語に多し、思ふに、此の語は、pratiyatha, çradadhādhvam と同じく、俗語より、梵語の形に改むる際、かく、奇異なる構造となりしならむ、又此の構造を以て、√kāṅkṣ より直接に来れるものにあらずと、kāṅkṣā の擬名詞相とせば、kāṅkṣayatha の ya の存在は説明し得ざるにあらず、pratiyatha, çvad-dadhādhvam. を見よ)。
- Kāṅkṣā.** (女) 疑惑 (√kāṅkṣ + ā), (佛敎語)。
- Kāca.** (男) 鎗石; 水晶; 石英。
- maṇi.** (男) 石英; 水晶。
- Kāncana.** (中) 黄金。
- sarga.** (男) 黄金と接觸すること。
- Kāṇa.** (男) 眇目の人。
- Kāṇḍa.** (男) 中) 矢; 區分 (書物の中にある)。
- Kānana.** (中) 林。
- abhimukham.** (副) 林にむかひて。
- Kānti.** (女) 光輝; 光彩。
- Kā-puruṣa.** (男) 賤むべき人; 懦夫 (√kā + puruṣa).
- Kāma.** (男) 1. 慾望; 色慾 2. (複合詞の末に来りて)...を望む。
- Kāmin.** (形) 切望する (kāma + in).
- Kāya.** (男) 中) 肉體; 身體; 家; 住居。
- kleca.** (男) 身體の苦惱 -kleçena. 身

を苦めて。

-duḥkha. (中) 身體の苦痛。

Kāya-stha. (男) 家居するもの; カーヤストハ族のもの。〔此の種族は、印度に於て現今最も有力なるものにして、狀師となり、記者となり、主簿となり、最も盛に活動す、これに屬するものは、姓の末尾に ghoṣa, vasu, mitra, datta, dāsa, sinha, sena 等の語を附するを以て、知るを得べし、çubha-datta. のごとし。

Kāraka. (男) 動詞と名詞との間に存する格の関係。

Kāraṇa. (中) 作爲せしむるもの; 原因; 理由; 判定 (善惡などを) の理由。〔√kṛi の催+ana〕。Tena kāraṇena, 此の理由により; kena kāraṇena. 何故に。

Kārayitum. (不定) なさしむべく; 〔√kṛi の催+i+tum〕。

Kārayitvā. (連) 作らせて; なさしめて。〔√kṛi の催+i+tvā〕。

Kārita. (形) なさしめられたる; 作られたる。〔√kṛi の催+i+ta〕。

Kārita-vat. (形-vān) なさしめたり; 作爲せしめたり。

Kārin. (形) 作爲する。—〔男〕 作爲者。〔√kṛi+a+in〕。

Kārya. (形) なさるべき; 作爲せらるべき。—〔中〕 なさるべきもの; 職務; 義務; 事。

-hantri. (男) 事を敗ぶるもの; 事を破壊するもの。

Kāla. (男) 時; 時機; 好時; 死; 死神。〔希. kairos; 拉. kalendae. = 梵. kālānta〕。evam gacchati kāle. かく時の推移する中に。

kālaṁ kṛi. 死す; kālaṁ kurvatas. 死するもの; 死するとき。

kālaṁ kṛitvā. 死して。

-daṇḍa. (男) 死神の杖。

-daṇḍa-prerita. (形) 死神の杖によりて推されたる; 死神に壓かれたる。

-pāca. (男) 死神の持てる罽索; 死の民。

-vṛiṣṭi. (女) 時雨。

Kāla. (形) 黒き。〔希. kelainos; 拉. caliginos〕。

-daṣṭa. (形) 黒き毒蛇に噛まれたる = kāla-sarpaṇa daṣṭa.

-sarpa. (男) 黒色にして最も毒ある蛇。

Kāvya. (中) 詩歌。〔kavi+a〕。

-çāstra. (中) 詩書。

-çāstra-vinoda. (男) 詩書の娛樂。

√kāç. (動) 1. 爲己. kāçate; cakāçe; kāçita. 光を發す; 輝く; 現出す; 見ゆ。

Kāṣṭha. (中) 木片。

-khaṇḍa. (男・中) 木片; 木の切片。

-khaṇḍa-dvayābhyantara. (中) 木の兩片の間隙。

-stambha. (男) 木柱。

√ki = √ka.

Kimkini. (女) 鈴。

-jāla. (中) 鈴網。

Kim. (疑代) 何人; 何者; —2. (副) 如何にして; 何故に。—3. (副) 疑問を示す爲に一文の中に存在することあり。kim aham aprājñah 余は愚者なりや。—4. (具格と共に來るとき) 何かあらむ、...するを要せず、...の必要なし kim bahunā, 奚

ぞ暇々するを須ひむ。—5. √kā, √kuに同じ。kim+nara. 人非人のごとし。

-ca. 猶ほ又。—cid あるもの; 少許の。kamicid+mārgam. 少許の途程。

-tu. 然れど; それにも拘はらず。

-punar. 況むや。...に於てなや。

Kim-artham. (副) 何故に; 何の故に; 何の爲に。

Kim-u. (副) 況むや。

Kiyat. (形-nt) 幾何の; いくらかの; 若干の。〔√ki+at. § 115, § 116, § 117, § 118〕。

Kiyad-dūra. (形) 若干の距離まで; いくらかの距離まで。

-dhana. (中) 少許の財物。

-dhanopakṣaya. (男) 少許の財物を費すこと。

Kiṭa. (男) 小蟲; 螟蛉。

Kidriç. (形-g (k)) 如何なる; 如何なるさませる。〔√ki+√driç〕。

Kirti. (女) 名聲; 名聞; 聞譽。〔√kṛit+ti〕。

√kil. (動) 1. 爲他. kilati. せめ針を刺す; 梳を立つ。

Kila. (男) 楔子。〔√kil+a〕。

Kilaka. (男) 同上。〔√kila+ka〕。

Kilotpāṭin. (形) 楔子を引きわく。〔kila+utpāṭin〕。

√ku. = 1. √ka. に同じ。これより來れる副詞は、即ち kutra, kutas なり。2. √kāを見よ。

Kukkura. (男) 狗。

Kuṭiraka. (男) 草庵; 小舎。

Kuṭumbaka. (中) 家。

Kuṭṭāni. — (女) 娼婦; 賣女。

Kutas. (副) いくこより; 何故に; 如何ぞ。〔√ku+tas〕。—api. いくこよりか; 或る處より。

Kutuka. (中) 熱望; 切望; 奇異の念。

Kutra. (副) いくこに; 如何なる處に。—cid. 或る處に。〔√ku+tra〕。

Kuntī. (女) 「クンタイー」; パーンヅ王の妃にして、yudhi-çthira, bhīma arjuna の母なり。

√kup. (動) 4. 爲他. kupyati; cukopa; kupita. 怒る。

Kupita. (形) 怒れる。

Kumāra. (男) 童孺; 若王子; 家嗣。

-bhūta. (形) 若王子となれる; 家嗣となれる。

Kumbha. (男) 瓶; 壺; 陶器。〔希. kymbe〕。

-kāra. (男) 陶工。

Kurvatas. √kṛi. の現分・男・中・單の屬格。

Kula. (中) 家門; 門地; 族。

-duhitri. (女) 門地ある家の女子; 善女子。

-putra. (男) 門地ある家の男子; 善男子。

Kulāya. (男・中) 鳥の巢。

Kulina. (形) 門地ある; 貴き。

Kulira. (男) 蟹。

Kuça. (男) 吉祥草; 茅草。〔神聖視せられ、祭祀用の草たり〕。

-hasta. (形) 吉祥草を手にする。

Kuçala. (形) 吉兆ある; 祥瑞ある; 巧なる; 平安なる。—〔中〕 平安; 幸福; 善; 功徳. kuçalaṁ te (astu). 御身に平安あれ; 汝の幸福を祝す。

-mūla. (中) 善根。

kūṭa. (男・中) 峯; —〔中〕 角。

kūpa. (男) 井. (希. kype; 拉. cūpa).
 -jala. (中) 井水.
 Kūrma. (男) 龜.
 Kūrmādi. (形) 龜等の.
 Kūla. (中) 岸.
 √kṛi. (動. 5. 爲他. 爲己. karoti, kurute; cakāra, cakre; kartum; kṛitā; kṛitvā; kriyate) 作爲す; なす; 作る. (備) kārayati, -te, 作爲せしむ; 作らしむ. (希求) cikṛṣati, -te, なさばよと思ふ; 作爲せむと欲す. kālam kṛi 死す. kṛiṣṇā kṛi 耕作す; 農業を營む. vacaḥ kṛi 言に従ふ; 命に従ふ.
 √kṛit. (動. 6. 爲他. 爲己. kṛintati, -te; cakarta; akṛitat; kartiṣyati, kartsyati; kṛitta) 切斷す; 宰割す; 裁る.
 Kṛita. (形) なされたる; 作爲せられたる; 完成せられたる. (中) 業; 行爲; 恩-ghna. (形) 恩に背ける; 忘恩の.
 Kṛitārtha. (形) 目的を達せる; 業務を完成せる.
 Kṛite. (關) ...の爲に(常に屬格を伴ふ).
 Kṛit-pratyaya. (男) √kṛi のごとき動詞の語根語基に附加せらるる語基構成音(§265, §266, §267, §268).
 Kṛitya. (中) 義務.
 Kṛipā. (女) 憐憫; 慈悲. kṛipayā 憐憫を以て; 憐みて.
 1. √kṛiṣ. (動. 1. 爲他. karṣati; kṛiṣṭā) 曳く; 引く.
 2. √kṛiṣ. (動. 6. 爲他. 爲己. kṛiṣati, -te; kṛiṣṭā) 耕す; 鋤く.
 Kṛiṣi. (女) 耕作; 耕耘.
 -karman. (中) 農業.
 Kṛiṣṇa. (形) 黒き.

-pakṣa. (男) 満月より新月に至る間の半月分; 黒半月; 黒分.
 -vāsas. (中) 黒衣.
 -sarpa. (男) 黒蛇.
 √kṛi. (動. 6. 爲他. kirati; cakāra; akārit; akariṣṭa, akariṣṭa; kariṣyati; karitum, kīrṇa) 撒く; 撒布す.
 √kṛit. (動. 10. 爲他. 爲己. kartayati; -te; kirtita) 語る; 稱揚す.
 √kṛip. (動. 1. 爲己. kalpate; cakṛipe; kalpsyate; kṛipta) しつらふ; さゝなふ; 適す(爲格を伴ふ); ...するに足る; ...に益あり. (備) kalpayati, さゝなはしむ; 準備す.
 Ketu. (男) 幡.
 Kevala. (形) たゞ獨り; 單獨の.
 Kevalam. (副) 唯だ.
 Keṣa. (男) 髪; 鬚毛.
 Keṣara. (男) 同上.
 Keṣāgra. (中) 鬚毛の端.
 Keṣava. (男) 婆羅門の名.
 Kāivarta. (男) 漁夫.
 Koṭara. (中) 樹の朽洞.
 Koṭi. (女) 千萬; 俱胝; 頂端; 盡際; 邊際.
 Koṭī. (女) 同上.
 Koṭṭa. (男) 堡塞; 都城.
 Kopa. (男) 嗔恚; 憤怒. (√kup + a).
 Kopākula. (形) 怒に迫りて.
 Kopāviṣṭa. (形) 怒に耐ゐざる.
 Kolāhala. (男. 中) 喧騒の聲.
 Kāutuka. (中) 熱望; 奇異の念.
 Kāunteya. (男) kuntī の子.
 Kāuṣalyā. (女) koçalā 王の女; 羅摩王の母.
 √krand. (動. 1. 爲他. krantati; cakran-

da; akrandit; krandita) 號泣す; 慟哭す; 悲鳴す.
 Krandana. (中) 號泣すること. (√krand + ana).
 √kram. (動. 1. 爲他. 爲己. 4. 爲他. 爲己. krāmati, kramate; krāmyati, kramyate; cakrāma, cakrāme; akramit, akramiṣṭa; krānta) 歩む; 歩行す.
 Krama. (男) 歩行; 次第; 順序; 方法. (√kram + a). krameṇa 次第を逐ふて.
 Kriyā. (女) 動作; 事; 實行; 力行; 勤苦. (√kṛi + yā).
 -pada. (中) 動作を示す語; 動詞(§22).
 √kṛi. (動. 9. 爲他. 爲己. kriṣati, kriṣite; kṛeṣyati; kṛiṣṭa; kṛeṣṭum; kṛiṣvā) 買ふ.
 √kṛiḍ. (動. 1. 爲他. 爲己. kriḍati, -te; cikṛiḍa, cikṛiḍe; kriḍiṣyati; kriḍita; kriḍitum) 遊戲す; 戯る.
 Kriḍana. (中) 遊戲. (√kṛiḍ + ana).
 Kriḍanārtham. (副) 遊戲の爲に.
 Kriḍā. (女) 遊戲.
 Kriḍita. (形) 遊戲せる.
 Kṛita. (形) 買はれたる.
 √krudh. (動. 4. 爲他. krudhyati; cukrodha; akrudhat; krudha; krodhum-krudhvā) 怒る(爲格の形を有する人の名詞を伴ふ). tasmāi krudhyati かれを怒る.
 √kruç. (動. 1. 爲他. kroçati; cukroça; akruçat; kruçṭa; kroçṭum) 叫喚す; 咆哮す.
 Krodha. (男) 嗔恚; 憤怒. (√krudh + a).
 Kroça. (男) 叫喚; 一牛の吼ゆる聲の達する距離; 俱盧舍. (√kruç + a).
 -mātra. (形) 一俱盧舍程の.
 -mātrāvasthita. (形) 一俱盧舍を距て、立てる.

Kroçāntarena. (副) 一俱盧舍を距て、; 一俱盧舍の間隔を以て.
 Krāuñca. (男) 鴻鵠.
 √klam. (動. 1. 4. 爲他. klāmati, klāmyati, klānta) 困憊す.
 Klānta. (形) 困憊せる.
 √kliç. (動. 4. 爲他. kliçyati) 苦む; 惱む.
 Kliba. (形) 陽痿の; 陽物に力なき; (男. 中) 陽痿の人; 閹人; 非男非女の人.
 -liṅga. (中) 中性.
 Kleça. (男) 苦痛; 苦惱; 煩惱. (√kliç + a).
 -kaṣāya. (男) 煩惱濁.
 Kva. (副) いづこに; 如何なる處に. kva cid(t) 如何なる處にも; 如何なる場合にても. na kva cid 決して...せず.
 √kṣaṇ. (動. 8. 爲他. 爲己. kṣaṇoti, kṣaṇute; kṣata) 殘害す. 毀傷す. (√kṣaṇ に同じ).
 Kṣaṇa. (男. 中) 刹那; 轉瞬の間. (√kṣaṇ + a).
 Kṣaṇāntaram. (副) 一刹那を距て、; 一刹那の後に.
 Kṣaṇika. (形) 一刹那の; 一轉瞬の; 暫時の. (√kṣaṇ + a + ika).
 Kṣaṇena. (副) 一刹那の間に.
 Kṣata. (形) 殘害せられたる; 毀傷せられたる. (√kṣaṇ + ta).
 Kṣatra. (中) 統治; 政權; 王權; 王族; 王位. (3. √kṣi + tra).
 Kṣatriya. (男) 王族; 刹帝利種. (kṣatra + iya).
 √kṣan = √kṣaṇ.
 Kṣaṇtavya. (形) 堪忍せらるべき; 容赦せらるべき. (√kṣam + tavya).
 √kṣap. (動. 1. 爲他. 爲己. kṣapati, -te; kṣāpita) 苦行す; 斷食す.

Kṣapaṇa. [中]. 苦行すること。
Kṣapanaka. [男]. 苦行者; 佛教又は耆那教の乞士。
√kṣam. [動. 1. 爲己. 4. 爲他. kṣamate, kṣāmyati; cakṣame, cakṣāma; kṣānta, kṣamita]. 堪ふ; 忍ぶ; 容忍す; 容赦す。
Kṣama. [形]. [複合詞の末尾に来るとき]...に堪ふる; ...し得べき。[√kṣam + a].
Kṣamā. [女]. 堪忍; 忍辱。
Kṣaya. [男]. 滅盡。[1. √kṣi + a].
Kṣaya. [男]. 住家; 住處。[2. √kṣi + a].
√kṣal. [動. 10. 爲他. 爲己. kṣālayati, -te; kṣālita]. 浼ふ; 濯ぐ。
Kṣānti = kṣānti. [女]. 忍辱。[√kṣam + ti].
Kṣāma. [形]. 焦げたる; 憔悴せる; 瘠枯せる。[√kṣāi + ma].
1. √kṣi. [動. 1. 5. 9. 爲他. kṣayati; kṣiṇoti; kṣiṇāti; akṣeṣṭa; kṣita, kṣīna]. 滅却す; 消滅す; 瘠枯す; 老衰す; [催]. kṣayayati, kṣapayati. 消滅せしむ; 滅ぼす。
2. √kṣi. [動. 6. 爲他. kṣiyati]. 留る; 住む。
3. √kṣi. [動. 1. 爲他. kṣayati]. 統治す; 領有す。
Kṣiti. [女]. 住處; 土地; 國土。[2. √kṣi + ti].
√kṣip. [動. 6. 爲他. 爲己. kṣipati, -te; cikṣepa, cikṣipe; kṣepsyati, -te; kṣipta, kṣeptum; kṣiptvā]. 投ず; 抛ぐ; 抛擲す。
Kṣipta. [形]. 抛擲せられたる。
-laguḍa. [形]. 杖を投げつけたる。
Kṣipra. [形]. 投ぐるがごとく; 速に; 疾く; [√kṣip + ra].
Kṣipram. [副]. 疾く; 速に。
Kṣīna. [形]. 滅盡せる。[1. √kṣi + na].
-pāpa. [形]. 罪障已に滅盡せる。

Kṣīra. [中]. 生乳。
Kṣut—Kṣāma. [形]. 飢餓の爲に瘠せたる。[√kṣudh + kṣāma].
√kṣud. [動. 1. 爲他. 爲己. kṣodati, -te; cukṣoda; kṣuṇṇa]. 粉碎す; 摧破す; 踏破す。
Kṣud. [女]. 飢餓。[√kṣudh を見よ]。
Kṣudra. [形]. 小なる; 賤き [√kṣud + ra].
-jantu. [男]. 賤少なる動物。
-ṛigāla. [男]. 賤しき野干。
√kṣudh. [動. 4. 爲他. kṣudhyati; kṣudhita]. 飢餓。
Kṣudh. [女]. 飢餓。
Kṣudhārta. [形]. 飢餓に苦める。
Kṣudhāviṣṭa. [形]. 飢餓に苦められたる。
√kṣubh. [動. 1. 爲己. 4. 9. 爲他. kṣobhate, kṣobhyati, kṣubhnāti]. 震ふ; 震動す; 動く。[催]. kṣobhayati, -te. 動かす; 震動せしむ。
Kṣetra. [中]. 住處; 土田; 田野。[2. √kṣi + tra].
-pati. [男]. 土田主; 田主; 農夫。
Kṣepiṣṭha. [形]. 最も迅速なる。[kṣipraの最上級]。
Kṣepiyas. [形—yāms]. 一層迅速なる。[kṣipraの比較級]。
Kṣema. [男]. 住處; 安住の場所; 安住; 安堵; 幸福。[2. √kṣi + ma]. [形]. 幸福なる。
√kṣāi. [動. 1. 爲他. kṣāyati, cakṣe; kṣāma]. 衰ふ; 缺損す; 消盡す; 憔悴す。
Kṣāura. [中]. 剃髮。
-karana. [中]. 剃髮をなすこと。

ख. kh.

Kha. [中]. 碧空; 蒼天; 孔隙; 幸福; 運命。
Khaga. [男]. 空行くもの; 鳥; [kha + ga].
Khatvā. [女]. 臥床; 床。
√khaṇ. [動. 10. 爲他. khaṇdayati; khaṇḍita]. 切斷す; 宰割す; 砕く。
Khaṇḍa. [男]. 切片; 斷片。[√khaṇ + a].
-dvaya. [中]. 兩片。
Khaṇḍa. -cas. [副]. 切々に。—kṛita. 切々にせられたる; 割かれたる。
Khaṇḍita. [形]. 摧破せられたる。
√khan. [動. 1. 爲他. khanati, -te; cakhāna; khaniṣyati; khāta; khanitum; khānitvā, khatvā; khanyate, khāyate]. 穿つ; 掘る; [催]. khārayati. [拉. can-alis 英. can-al].
Khara. [男]. 驢。
Kharoṣṭhi. [女]. 隨唇文字。[khara + oṣṭhi]. [kharoṣṭri. を書すを正とす]。

Khala. [男]. 惡漢。
Khalu. [副]. 實に。
√khād. [動. 1. 爲他. khādati; cakhāda; khādiṣyati; khādita; khādītum; khāditvā, khādyate]. 嚙む. 啖ふ。[催]. khādayati.
Khādita. [形]. 啖はれたる。
Khāditvā. [連]. 啖ふて。
√khit. [動. 1. 爲他. khetati; khetiṭa]. 驚く; 驚かす。
√khid. [動. 4. 7. 爲己. khidyate; khintate]. 哀む; 憂慮す。
Khinna. [形]. 憂慮せる; 意氣沮喪せる。[√khid + na].
Khura. [男]. 蹄。
Khetiṭa. [形]. 驚かされたる; 嚇されたる。
√khyā. [動. 2. 爲他. khyāti; khyāta]. 語る; 告ぐ。[爲格に位する人の名詞を伴ふ]。

ग. G.

√ga. [形]. √gam なる動詞の; 複合詞の末尾に来るときにの形にして. kha-ga の ga のごときは. 即ち是れなり。
Gagaṇa. [中]. 天空。
-vihārin. [形]. 天空を遊行する。
Gaṅgā. [女]. 恒河。
-kūla. [中]. 恒河の岸。
-tira. -vartin. [形]. 恒河の岸に存在する。
Gaja. [男]. 象。
-yūtha. [男]. 象群。

Gajendra. [男]. 象王。
√gaṇ. [動. 10. 爲他. gaṇayati]. 量る; 數ふ; 計量す。
Gaṇa. [男]. 衆; 群; 軍 [√gaṇ + a].
Gaṇanā. [女]. 計量; 計度; 量見。[√gaṇ + anā].
Gaṇeṣa. [男]. 歡喜天 [成功を司る神]。[gaṇa + iṣa].
Gaṇeṣādi. [男]. 歡喜天等。
Gata. [形]. —1. 行ける; 去れる; 過去の; —2. [複合詞の末尾に存在するとき]. 存

在する; ある。〔中〕。過去; 過去のこと。
Ga'anugatika. 〔形〕。過去のことに随ふて行く; 過去のことを信ずる。〔過去のことを證據として、他人の善惡を判断し、現在のことを顧みざる〕。
Gatāyus. 〔形〕。壽命已に去れる; 命數已に盡きたる; (gata + āyus)。
Gati. 〔女〕。去ること; 行くこと; 行歩; 歩調; 歩行ぶり; 馳驅の狀; 進行; 途; 趣; 結果。適歸すべき處; 難を避くる處; alam āvis, tiras 等の接頭辭にして、即ち副詞の接頭辭となれるもの。me kidriçi gatir bhaviṣyati. 余には、如何なる避難の處あるか; 余は、いつくにか適歸せむ; 余の進退谷れり。
 -vijñāna. 〔中〕。(馬などの) 馳驅の狀を試驗すること。
Gatvā. 〔連〕。往きて。
Gamtavya. 〔形〕。往かるべき。
Gamtum. 〔不定〕。往くべく。
Gandha. 〔男〕。香。
 -prabhāsa. 〔男〕。光香如來。
Gandharian. 乾闥羅 (gāndhāra) の國の。
Gandharva. 〔男〕。乾闥婆; 天上舞樂の神。〔希. kentau(y)ros)〕。
Gandha-hastin. 〔男〕。香象如來。
Gandhottama. 〔男〕。香上如來。
√gam. 〔動〕。1. 爲他。爲己。gacchati, -te; jagāma, jagme; agamat; gamiṣyati, -te; gate; gamtum; gatvā. 行く; 去る; 適歸す。〔催〕。gamayati. pañcatvaṃ gata. 五大に歸せる; 死せる。
Gama. 〔形〕。往く。〔√gam + a〕。
Gambhira. 〔形〕。甚だ深き; 深妙なる。
Gara. 〔形〕。嚙下する。〔√gri + a〕。例せば

aja-gara のごとし。
Garala. 〔中〕。毒; 蛇の口より涎となりて流る、毒。
Gariṣṭha. 〔形〕。最も重き; (guru の最上級)。
 -tama. 〔形〕。同上。
Gariyas. 〔形〕。-yāms). 一層重き。〔guru の比較級〕。
 -tara. 〔形〕。同上。
Garudā. 〔形〕。迦樓羅; 金翅鳥。
Gardabha. 〔男〕。驢馬。
Gardabhī. 〔女〕。牝驢。
Garbha. 〔男〕。胎; 胎兒; -〔形〕。〔複合詞の末尾に来るさき〕。孕める; 具する; 帶べる; 富める; 藏する; 含有する。
Garbha-vat. 〔形〕。懷妊する; 妊娠する。
√garv. 〔動〕。1. 爲他。garvati; garvita. 自から慢ぶる。
Garva. 〔男〕。傲慢。〔√garv + a〕。
√garh. 〔動〕。1. 10. 爲己。garhate; garhayate. 誹る; 彈劾す; 非難す。
Garhita. 〔形〕。非難せられたる; 輕蔑せられたる; 忌まれたる; 不吉なる。〔√garh + ita〕。
√gal. 〔動〕。1. 爲他。galati; jagāla; agālit; galitum; galita) 脱落す。
Gala. 〔男〕。喉。〔√gri + ā〕。
Galita. 〔形〕。脱落せる。
Gavāmpati. 〔男〕。憍梵波提。
Gavya. 〔形〕。牛の。〔go + a + ya〕。
Gātra. 〔中〕。身體。
Gāndhāra. 〔男〕。乾陀羅; 健駄羅。〔印度と波斯との間に存在せし國にして、今の kandahar. (candāhāra) と稱する都城はもと身毒河邊に棲息せし健駄羅國の民族が

紀元後四世紀の頃阿富汗斯坦に移住して、創建せしものなりと云ふ。北方阿育文字の碑文の始めて發見せられし kapur-di-giri の地方は、古代の健駄羅國の中にあるを以て、北方阿育文字を gandharian と稱するなり)。
Gir. 〔女〕。聲; 語。〔1. √gri〕。
Giri. 〔男〕。山。
 -nagara. 〔中〕。都の名; gir-nar に同じ。
Gir-nar. giri-nagara の俗語にして、kathiawār 又は kattyawar 州 junagarh 附近に存在する都の名なり。
Gita. 〔形〕。歌はれたる。〔中〕。歌曲。〔√gāi + ta〕。
Guṇa. 〔男〕。性質; 効能; 功德; 材能; 令徳。
 -jña. 〔形〕。他の能を知る。
Guṇa-vat. 〔形〕。材能ある; 令徳ある。
Guṇa-vācaka. 〔男〕。性質を示す語; 形容詞。〔獨. Eigen-schaftswort)〕。
Guṇādhipa. 〔男〕。令徳ある人; 有徳の君。〔男〕。國王の名。〔guṇa + adhipa)〕。
Guṇin. 〔形〕。能ある; 徳ある。
Guru. 〔形〕。重き; 敬重すべき。〔男〕。長上; 師父; 師傅。
√guh. 〔動〕。1. 爲他。爲己。gūhati, -te jugūha, juguhe; agūhit, agūhiṣṭa, agūḍha; aghukṣat, -ta; gūhiṣyati, -te; ghokṣyati, -te; gūhitum, godhūm; gūḍha) 掩ふ; 隱す。
Guhā. 〔女〕。隱處; 巖穴。
√gri. = √jāgri.
√gridh. 〔動〕。4. 爲他。gridhyati; jagardha; agridhat; gardhiṣyati; gridha; gridhvā) 食る; 貪り求む。〔英. greed-y)〕。
Gridhra. 〔形〕。貪慾なる; 饕餮なる。〔男〕。

鷲の一種にして喜びて屍肉を食するもの。〔√gridh + ra)〕。
 -kūṭa. 〔男〕。鷲峰; 靈鷲山。
Griha. 〔中〕。家; 舍。
 -karman. 〔中〕。家業; 家事。
Grihatas. 〔副〕。家より。
Griha-pati. 〔男〕。家主; 家長; 長者。
Griha-madhya. 〔男, 中〕。家の中。
Griha-rakṣā. 〔女〕。家を護ること。
Griha-stha. 〔形〕。家居する; 在家の。〔男〕。家主。
 -dharma. 〔男〕。家主の法; 在家のもの、の、途。
Grihāṇa. 〔動〕。され。√grah の命令法、單數、第二人稱、爲他。
Grihita. 〔形〕。捉へられたる。
Grihitvā. 〔連〕。捉へて。
 1. √gri. 〔動〕。9. 爲他。爲己。griṇati, griṇite; jagāra; gariṣyati; girṇa) 音を發す; 呼ぶ; 賞讃す; 語る。
 2. √gri. 〔動〕。6. 爲他。girati; jagāra; agārit; girṇa) 嚙下す。
Geha. 〔中〕。家; 舍。〔griha の俗語と化せるなり)〕。
√gāi. 〔動〕。1. 爲他。gāyati; jagāu; agāsit; gāsyati; gātum; gita) 歌ふ。
Go. 〔男, 女〕。牛。〔英. cow; 獨. kuh; 拉. bo-s)〕。
 -ghna. 〔形〕。牛を殺せる。〔古代印度にては、牛を殺すを以て、極惡とせり)〕。
Gotra. 〔中〕。牛舍; 種族。
Godā-nadī. 〔女〕。河の名。〔今の godā-vāri の河なり; 南方印度に於ける一大河にして、Deccan を横断して、孟加拉灣に注ぐ)〕。

Go-pāla. (男) 牧牛者; 牧人.
 Go-rakṣaka. (男) 同上.
 Gāutama. (男) 喬答摩種族の人; 仙人.
 Gāutamāraṇya. (中) 喬答摩林. (gāutama + araṇya).
 Gāurava. (中) 崇敬; 供養; 敬重. (gu-
 ra + a).
 √granth. (動) 1. 爲他. 10. 爲他. 爲己. granthati, grathnāti; granthayati, -te). 連綴す; 結集す; 編纂す; 作る.
 Grantha. (男) 書.
 √gras. (動) 1. 爲己. grasate; jagrase; agrasit; grasiṣyate). 嚙下す; 食す.
 (受動). grasyate. grasyate Rāhuṇā. 羅喉の爲に食せらる. (日月の蝕することを云ふ).
 √grah. (動) 9. 爲他. 爲己. grihṇāti, grihṇite; jagrāha, jagrihe; agrahit; agra-

hiṣṭa; grahiṣyati, -te; grihita; grahitum). 捉ふ; 執ふ; 魅す(鬼神妖怪などの)崇る.
 Graha. (男) 捉ふること; 執ること. (√grah + a).
 Grahaṇīya. (形) 捉へらるべき; 執らるべき. (√grah + aniya).
 Grāma. (男) 村落; 邑落. 聚落.
 -gata. (形) 聚落に越ける.
 Grāmāntarā. (中) 他村.
 Grāhayitum. (不定) 捉らへさすべく. (√grah の催 + aya + i + tum).
 Grāhya. (形) 捕捉せらるべき.
 Grīvā. (女) 咽; 頸; 頸背; 項; うなじ.
 Grīṣma. (男) 夏; 熱暑.
 -samaya. (男) 夏時.
 Glāi. (動) 1. 爲他. glāyati, glāna). 倦む; 厭忌す; 困疲す; 病む.

घ. Gh.

√ghaṭ. (動) 1. 爲己. ghaṭate; jaghaṭe; aghaṭiṣṭa; ghaṭitum; ghaṭita). 従事す; 勤む(不定體, 於格, 爲格を伴ふ); 合ふ; 來る; 歸す; 達す.
 Ghaṭa. (男) 瓶. (√ghaṭ + a).
 Ghaṇṭā. (女) 鈴.
 -karṇa. (男) 鈴を耳にするもの; 猫の名.
 -rāva. (男) 鈴の音.
 Ghana. (形) 濃厚なる; 濃密なる.
 Gharma. (男) 熱; 熱暑. (希. thermos; 拉. form-us).
 Gharmārta. (形) 暑に苦みたる. (gharma

+ ārta).
 √ghuṣ. (動) 1. 爲他. 10. 爲他. 爲己. ghoṣati, ghoṣayati, -te; jughoṣa; ghuṣṭa, ghoṣita). 鳴る.
 Ghrīṭa. (中) 酥油.
 Ghoṭaka. (男) 馬.
 Ghoṣa. (男) 音; 聲. (√ghuṣ + a).
 Ghoṣa-vat. (男) 軟音; 聲帶顫動して生ずる音. § 11.
 Ghna. (形) 殺す. (√han).
 √ghrā. (動) 1. 爲他. jighrati; jaghrāu; ghrāta). 嗅ぐ.
 Ghrāṇa. (中) 鼻. (√ghrā + na).

च. C.

Ca. (接) ...と; 而して; 又は; 且つ又; 然れど. (希. te; 拉. que; 獨. no-*ch*).
 ca...ca...と...と; cāiva. 而して實に; ca...tathā...と...並びに. anyac(t)ca. なほまた; api ca またまた; cāpi 而して又.
 Cakra. (中) 輪. (希. kyklos, kyclōpes; 拉. cycle; 英. wheel).
 √cakṣ. (動) 1. caṣṭe; cacakṣe; caṣṭum). 見ゆ; 見る; 示す; 語る. (√kāṣ の重複語根).
 Cakṣuḥ-pidā. (女) 目を痛ましむるもの.
 Cakṣus. (中) 目; 眼. (√cakṣ + us).
 Cañcala. (形) 搖々たる; 浮動する. (√cal の重複相).
 Cañcu. (女) 嘴.
 -dhṛita. (形) 嘴にて啣へられたる.
 Cataka. (男) 雀.
 Catakā. (女) 牝雀.
 Caṇḍa. (形) 烈しき; 暴悪なる.
 -rāva. (形) 烈しく咆哮する; -(男) 野干の名.
 Catuḥ-ṣāla. (中) 四個の家を建てめぐらせる邸宅.
 Catur. (數) 四. (拉. quattuor).
 Caturtha. (形) 第四の.
 Catur-daṣa. (數) 第十四の.
 Catur-daṣan. (數) 十四.
 Catur-diṣ. (女) 四方.
 Catur-varga. (男) 四種.
 Catur-vidha. (形) 四種の.
 Catur-veda. (中) 四吠陀; 梨俱; 偃馬; 夜珠; 阿達婆の四吠陀.
 Catuṣ-koṭī. (女) 四際; 四邊際.
 Catuṣṭaya. (形) 四の. (catur + taya).

Catū-rātram. (副) 四夜の間. (catur + rātra).
 Catvāriṃcat. (數) 四十.
 Cana. (副) ...すらも...せず. na kiñ cana. 何物も決して...せず.
 Candana. (男) 檀. 檀檀.
 -kāṣṭha. (中) 檀檀の材.
 Candra. (男) 月; 大陰.
 -māsa. (男) 同上.
 -sūrya. -pradīpa. (男) 日月燈如來.
 Candrārḍha-maṇi. (形) 半月の曇珠を載ける. -(男) 濕婆の神. (candra + arḍha + -).
 Capala. (形) 動搖する; 浮動する.
 Capalatā. 浮躁なる性質; 輕躁なる性質.
 Campaka. (男) 占波迦樹.
 Campakavat. (形-vant). 占波迦樹多き.
 Campakavati. (女) 林の名.
 Campaka-vṛikṣa. (男) 占波迦樹.
 -cākhā. (女) 占波迦樹の梢.
 √car. (動) 1. 爲他. 爲己. carati, -te; cacāra, cere; acārīt, acarīṣṭa; carīṣyati; carita; caritum; caritvā). 行く; 行ふ; 修む; なす; 勤む; sasyam carati. 穀物を食す. (催). cārayati.
 Cara. (形) 行く; 歩行する; 遊行する. (√car + a).
 Carāṇa. (中) 歩行すること; 足. (√car + ana).
 Caramāna. (形) 行ふ; 修行する.
 Carita. (形) 行はれたる; なされたる. -(中) 行爲; 所行.
 √carc. (動) 10. 爲他. 爲己; 6. 爲他. carcayati, -te, carcati; cacita). 誦讀す. 修

習す。(吠陀などを); 穿鑿す; 論議す;
 誹毀す。〔√car の重複相なるがごとし〕。
Carā.〔女〕。誦讀すること; 穿鑿するこ
 と; 論議すること; 誹毀すること。
 〔√carc + ā〕。
Cartavya.〔形〕。なさるべき。
Cartu.〔不定體〕。修行すべく〔√car + tu(m)〕。
 -kāma.〔形〕。修行せむと欲する。
Carman.〔中〕。皮。
Carya.〔形〕。なさるべき; 修行せらるべき。
Caryā.〔女〕。修行; 行爲。〔caryām cara-
 māna. 修行する。〕
 √cal.〔動. 1. 爲他. calati; cacāla; calīṣya-
 ti; calita; calitum〕。動く; 行く; 去る。
Calana.〔中〕。動搖すること; 行くこと;
 去ること。
Calita.〔形〕。行ける; 去れる。
Calitum.〔不定〕。去るべく; 行くべく。
Ca-varga.〔男〕。ca 等の音; ca, cha, ja,
 jha, ṅa. の總稱。
Cāṇḍāla.〔男〕。旃陀羅。
 -veṣman.〔中〕。旃陀羅の家。
Cāndra.〔形〕。月の。〔candra〕。
Cāndrāyaṇa.〔中〕。月の盈虚に應じて食を
 増減する行。〔一口の食を一個とすれば満
 月の日に十五個の食を食し、一日毎に一
 個を減じ、遞次減食して、新月の日には
 全く食を絶つに至り、それより、又一日
 毎に一個を増し; 増食して、満月の日に
 至りて、又十五個の食を食するにあり〕。
 〔cāndra + ayana〕。
 -vrata.〔中〕。cāndrāyaṇa. の誓。
Cāra.〔男〕。間諜。
Cālayām āsa.〔動〕〔√cal の催. 第二過
 去, 第三人稱, 單數, 爲他〕。

1. √ci.〔動. 5. 爲他. 爲己. cinoti, cinute;
 cikye; acet; ceṣyati; -te; cita; cetum;
 citvā〕。積む; 集む; 貯ふ。
 2. √ci.〔動. 3. 爲他. ciketi; cikāya; acet;
 ceṣyati; cetum〕。認む; 注目す; 探究す。
Cikīrṣita.〔形〕。なさばやと思はれたる。
 〔√kṛi の希求相第二過去受動分詞〕。
 √cit.〔動. 1. 爲他. 爲己. 10. 爲己. cetate;
 cetayate〕。認む; 知る; 思惟す。
Cit = cid.
Citā.〔女〕。柴堆。〔屍を焼く爲の〕。
Citta.〔中〕。思; 心。
 -duḥkha.〔中〕。心の苦。
 -pranidhāna.〔中〕。心願。
Cittāvaraṇa.〔中〕。心の遮障。〔citta +
 āvaraṇa〕。
Citra.〔形〕。雑色の; 美麗なる; 光輝あ
 る; 璀璨たる。
 -nidarṣana.〔形〕。雑影ある。
 -nirbhāsa.〔形〕。雑光ある。
 -varṇa.〔形〕。雑色の。
Cid.〔副〕。...も; ある; kimcid. 或るもの;
 なにももの; 些少の. na kim cid 何物も
 なし。
 √cint.〔動. 10. 爲他. 爲己. cintayati; -te;
 cintayāmāsa; cintayīṣyati; cintita; cin-
 tayitvā〕。思惟す; 思慮す。
Cintayitvā.〔連〕。思惟して。
Cintā.〔女〕。憂慮. cintāṃ prapanna 憂慮に
 陥れる。
 -viṣa-ghna.〔形〕。憂慮の毒を除く。
Cintita.〔形〕。思惟せられたる。
Cira.〔形〕。久しき; 長時の。
 -kāla.〔形〕。長時の。
 -kāla-pālita.〔形〕。久しく飼養せら

れたる。
Ciram.〔副〕。長時の間; 久しく。
Cira-mitra.〔中〕。多年の友。
Cirāt.〔副〕。久しく; 久しき以前より。
Cit-kāra.〔男〕。citと云ふ聲。
 √cur.〔動. 10. 爲他. 爲己. corayati, -te;
 corita〕。偷む。
Cūdā.〔女〕。髻; 冠; 生れて第三年に至れ
 ば、頂上の髪を剃り落す式あり、此の際
 こゝさらに残す一條の頭髮。
 -maṇi.〔男〕。髻珠; 冠玉; 一〔男〕。人名。

√cūrṇ.〔動. 10. 爲他. 爲己. cūrṇayati, -te;
 cūrṇita〕。粉碎す。
Cūrṇa.〔男. 中〕。粉末; 碎粉。〔√cūrṇ + a〕。
Cūrṇita.〔形〕。粉末にせられたる。
Cet = ced.
Ced.〔接〕。もし. na ced, もし然らざれば;
 no ced, もし又然らざれば。
Corayitvā.〔連〕。偷みて。
Cāura.〔男〕。偷盜; 盜人。〔√cor + a〕。
Cāurya.〔中〕。竊盜の罪。
 -bhaya.〔中〕。竊盜の罪の恐怖。

—❦—
 𑂔. Ch.

Chaga.〔男〕。山羊。
Chattra.〔中〕。掩蔽するもの; 傘; 王者の
 標章たる傘。〔√chad + tra〕。
 -cchāyā.〔女〕。王者の庇蔭; 王者の
 保護。
 √chad.〔動. 10. 爲他. 爲己. chādayati, -
 te; chādayām cakre; chādita, channa chā-
 dayitvā〕。掩ふ; 掩蔽す; 包む。
Chala.〔男. 中〕。假裝; 扮裝; 仕組; 計策;
 虚偽。
Chāga.〔形〕。山羊の。一〔男〕。山羊〔chaga〕。
Chāgi.〔女〕。山羊の牝。
Chāyā.〔女〕。蔭; 影。
Chittvā.〔連〕。断ちて; 切斷して。〔√chid

+ tvā〕。
 √chid.〔動. 7. 爲他. 爲己. chinatti, chintte;
 cicheda; achāitsit, acchidat; chetsyati;
 chinna; chettum; chittvā〕。切斷す; 噛み
 切る。
Chidra.〔中〕。孔隙。〔√chid + ra〕。
Chindhi.〔動〕。〔√chid の命令法, 單數,
 第二人稱, 爲他〕。
Churikā.〔女〕。小刀; 短劍。
Chettri.〔男〕。切るもの; 木を伐るもの; 樵
 夫。〔√chid + tri〕。
Cheda.〔形〕。切る; 切斷する。一〔男〕。切
 斷。〔√chid + a〕。



Ja. (形) 生れたる。〔複合詞の末尾に来る
とき〕。〔√jan〕。
Jakṣ. (動. 2. 爲他. jakṣiti; jakṣita; jagdha).
食す。
Jagat. (形) 動搖する; 流轉する。—〔中〕。
世界。〔√gam の重複相〕。
Jatā. (女) 結髮; 編髮。
Jan. (動. 4. 爲己. jāyate; jājana, jājñe; aja-
niṣṭa; janiṣyati, —te; jāta). 生る。〔催〕ja-
nayati, te, 生む; 生る。
Jana. (男) 人民; 蒼生; 民衆。〔√jan+a〕。
〔希. genos; 拉. genus; 英. kin〕。
Janaka. (男) 羅摩王の舅, シーター妃の
父。
Janani. (女) 母。〔√jan+ani〕。
Janany-utsaṅga. (男) 母の膝。
Jana-pada. (男) 地方; 田舎。〔都城に對
する〕。
Jana-pravāda. (男) 世評。
Jana-viruddha. (形) 諸人の忌める。
Jantu. (男) 生ける物; 畜生。〔√jan+tu〕。
Janma. (中) =janman.
Janman. (中) 出生。〔√jan+man〕。
√jap. (動. 1. 爲他. japati; japita, japta).
低聲にて誦す; 誦念す; 念す。
Japitvā. (連) 誦念して。
Jambuka. (男) 野狐; 野干。
Jaya. (男) 勝利; 征服。〔√ji+a〕。
Jara. (形) 老いたる。〔√jri+a〕。
Jarat. (形. —nt). 老ひたる。〔√jriの現在
分詞〕。
Jaraḍ-gava. (男) 老牛; 鷲の名。
Jarā. (女) 老。〔√jri+ā〕。
—marāṇa. (中) 老死。

Jala. (中) 水。
—pānādi. (形) 水を飲むこと等の。
—vindu. (男) 水滴。
Jalāñjali. (男) 水の一掬。〔jala+añjali〕。
Jalārtham. (副) 水を求めて; 水の爲に。
〔jala+artham〕。
Jalāçaya. (男) 水床; 湖沼。〔jala+āçaya〕。
Jaleni-prabha. (男) 網明如來。〔jalini-
prabhaの誤なるべし〕。
√jalp. (動. 1. 爲他. jalpati, jalpita). 低語
す; つぶやく; 喃喃として語る。
√jāgri. (動. 2. 爲他. jāgarti; jāgarisyati).
目覺む。〔催〕jāgarayati 目覺ましむ。
Jāta. (形) 生れたる。〔√jan+ta〕。
Jāti. (女) 生れ; 素性; 種族。〔√jan+ti〕。
—mātra. (中) 素性ばかり。—eṇa 素
性ばかりにては。
—viçuddha. (形) 素性淨き。
Jānu. (中) 膝。
—calana. (中) 膝にて動くこと。
—calana-yogya. (形) 膝頭にて這ふ
こと出来る。
—pracalana. (中) 膝にて動くこと。
—pracalana-para. (形) 膝にて動く
ことに餘念なき。
Jāne. (動) 余は知る。〔√jñā. の現實法
現在第一人称. 爲己〕。
Jāyā. (女) 婦。
Jāla. (中) 網。
Jālini. (女) 網を張れる窓; 網状の簾を具
する窓。
—prabha. (男) 網光如來。
Jālma. (男) 惡漢。
Jāhnavi. (女) jahnu の女; 恒河。〔始め

恒河の天上より降るや、地上を流れ, jah-
nu王の設けし祭壇を浸す, 王怒りて盡く
恒河の水を飲む, 群神恒河の流れざるを
憂ひ. jahnu 王に説きて恒河を出さしめ,
約するに恒河を以て 王の女となさむこ
とを以てす. 王意 即ち解け, 耳より 恒河
を出せり. 事載せて Rāmāyaṇa の第一卷
に詳なり. 恒河を以て, jahnu 王の女と
せるは. 即ち此の傳説に基く).
—phena. (男) 恒河の泡。
—phena-lekhā. (女) 恒河の泡の條紋。
√Ji. (動. 1. 爲他. 爲己. jayati, —te; jigāya,
jigye; ajāsit, ajeṣṭa; jeṣyati, —te; jita, je-
tum). 勝つ; 征服す; 降服す。
Jigisā. (女) 征服せばやと思ふ心。〔√jiの
希求相+ā〕。
Jighrat. (形. —nt). 嘆きつゝ。〔√ghrā の
現在分詞〕。
Jijñāsā. (女) 知らむと欲する心; 穿鑿; 好
奇心。
Jitvā. (連) 征服して; 勝ちて。
Jihvā. (女) 舌。
—mūliya. (形) 舌根より出づる; —
〔男〕 舌根音。
—lāulya. (中) 食慾。
Jihvāgra. (中) 舌端; 〔jihvā+agra〕。
Jihvendriya. (中) 舌根; 舌力。〔jihvā+
indriya〕。
Jirṇa. (形) 老ひたる; 老衰せる; 蕩盡せ
られたる; 消滅せる。〔√jri+na〕。
—dhana. (形) 財産を蕩盡せる。—〔男〕
商主の名。
√jiv. (動. 1. 爲他. 爲己. jivati, —te; jijī-
va; jijīve; ajivīt; jiviṣyati, —te; jivita;
jivitum; jivitvā). 生活す; 生存す。〔催〕。

jivāpayati, —te.
Jīva. (男) 生命。〔√jiv+a〕。
—dāyaka. (男) 生命を與ふるもの。
Jīvat. (形. —nt). 生存する。
Jīvana. (中) 生活すること; 生存するこ
と; 活計。〔√jiv+ana〕。
—hetu. (男) 生存の源因; 生活の資料;
食物。
Jīvan-eva. 生きながら。〔jivat+eva〕。
Jīvāpāya. (男) 生命を失ふこと。〔jiva+
apāya〕。
Jīvāpita. (形) 蘇生せしめられたる。〔√
jiv の催+ita〕。
Jīvita. (中) 生命。
Jīvitāçā. (女) 生命の望。〔jivita+āçā〕。
√jri. (動. 1. 4. 9. 爲他. 10. 爲他. 爲己. jarati,
jiryati, jriṇāti, jārayati, —te, jayāra; ajārit;
jirṇa). 老衰す; 凋落す; 蕩盡す; 消
耗す。
Jetarya. (形) 征服せらるべき。
Jetum. (不定) 征服すべき。
Jeya. (形) 勝たるべき; 征服せらるべき
〔√ji+ya〕。
Jñā. (形) 知る; 解する。〔√jñā〕。
√jñā. (動. 9. 爲他. 爲己. jānāti, jānīte;
jajñāu, jājñe; ajñāsīt, ajñāsta; jāñsyati—te,
jñāta; jñātum; jñātvā). 知る; 解す; 悟る。
〔催〕. jāñpayati. 知らしむ。
Jñāta. (形) 知られたる。
Jñātavya. (形) 知らるべき。
Jñāti. (男) 眷族; 親族。〔√jan+ti〕。
Jñāna. (中) 智; 靈智; 宇宙の本體を認
識する智識〔vidyā 學識に對す〕。〔√
jñā+na〕。
Jñānendriya. (中) 知根; 感官。〔jñāna+
indriya〕。

Jyestha. (形). 年齒最も長ぜる.
 -tama. (形). 同上.
Jyotis. (中). 光; 光芒; 星.
√jval. (動). 1. 爲他. 爲己. jvalati, -te; jajvā-
 la; ajvālit; jvaliṣyat; jvalita). 燃ゆ; 焔

を上げ.
Jvalita. (形). 燃ゆ上られる; 焔を出だ
 せる.
Jvalitāgni. (男). 炎々たる火. (jvalita +
 agni).



ṭ, t, ṭ, th, ḍ, d, ḍ, dh, ṇ, n.

ṭa-varga. (男). ṭa 等の音; ṭ, th, ḍ, dh, n
 を總稱せる名稱.
ṭiṭibhi. (女). 呼潮鳥.
√ḍhāuk. (動). 1. 爲己. ḍhāukate; ḍuḍhāu-
 ke; ḍhāukita). 近づく. (催). ḍhāukayati
 近づかず; 齎らず; 獻ず.
ṇic. 催起相の語基構成音.
ṇij-anta. (形). i を語尾とする. (ṇic +
 anta).
 -dhātu. (男). 催起相動詞; (催起相動
 詞の構成は. 歐洲學者の言ふ所に據

れば, 語根に aya を附加するにあり
 と云へど, 印度の語典家は, 語根に
 a を添加し, これに i を附して, 第
 一種動詞のごとく變化せしむるを常
 とす, 例せば √jan + a + i = jane と
 しこれを bhū のごとき動詞と同一
 に變化せしめ, jane + a + ti = janayati
 とするのごとし, 故に, 催起相動詞を
 ṇij + anta + dhātu (i に終る動詞) と
 こそ云へるなれ.



ṇ, T.

√ta. (代). 指示代名詞 tat の語根にして,
 tat は. 即ち此の語根に. 中性單數の主業
 兩格の語尾 t 又は d を附加せるに外な
 らず. ta + t (d) は是れなり. 此の ta なる語
 根より作れる副詞形容詞を擧ぐれば, ta-
 tra, ta-tas; ta-thā, ta-dā, tā-driç, tā-driça
 等なり.
Tac-chāyā. (女). その蔭. (tat + chāyā).
Taj-jala-pātra. (中). その飲器. (tat + ja-

la +).
Taj-jivana. (中). かれの食. (tat + jivana).
√taḍ. (動). 10. 爲他. taḍayati; taḍayām
 āsa; tāḍita). 打つ.
Tat = tad.
Ta-tas. (副). それより.
 yat(d)...tatas...の故に...その故に; yadi
 ...tatas...のときは...そのときは. tataḥ
 prabhṛiti それより以來; tataḥ paçcāt.

それよりのち.
Tat-koṭara-sthita. (形). かの樹の朽洞に
 居たる.
Tat-kṣaṇāt. (副). かの刹那より, その瞬
 間より.
Tattva. (中). 眞義; 眞相; 眞性. (tat + tva).
 -jña. (形). 眞義を解する.
Tat-para. (形). 一心にそれを思へる. それ
 のみに心を專にせる.
Tat-pāṇi-patita. (形). かれの手より落ち
 たる.
Tat-pāreva. (男. 中) かれの脇.
Tat-purataḥ. (副). かれの目前にて.
Tat-puruṣa. (男). かれの臣; 依主複合詞
 の一例にして同時に其の名稱を代表せる
 なり.
Ta-tra. (副). そこに. tatra + eva = tatrāiva
 其の同じ處に; yatra...tatra...する處には
 ...そこには; tatra buddha-kṣetre. かの佛
 國に於ては.
Tatra-stha. (形). そこに居る. (tatra +
 √sthā).
Tatrāiva = tatra + eva.
Tat-sakāça. (男). それの目前; かれの
 近傍.
Tat-saṁnidhāna. (中). かれの近傍; か
 れの目前.
Tat-sāṁpā. (中). 同上.
Ta-thā. (副). かくのごとく; かくして; か
 かる方法にて; かくるさませる; 同様なる.
 yathā...tathā...のごとく...そのごとく;
 yathā yathā...tathā tathā...すれば...する
 程; ca...tathā...と...而して; tathāpi そ
 れにも拘はらず tathā + eva = tathāiva 同
 様に.

Tathāpi = tathā + api.
Tathā-rūpa. (形). かくのごとく.
Tathā-vidha. (形). かくの種類; かく
 るさませる.
Tathāiva = tathā + eva.
Tad. (代). それ; かれ; その; かの. (副).
 それ故に; その時は; そこには.
 ced...tad...ならば; ...その時は; yad...tad
 ...の故に; ...その故に. yatra...tad 凡そ
 ...する處には; ...そこには; ...する時は; ...
 その時は. yadi...tad. 若し...すれば...そ
 の時は; ...tad yathā = tad yathā anuçriyate.
 それほ下に述ぶるがごとし.
 -aṅga. (中). かれの身體.
 -anantaram. (副). それより問もな
 く; かつて.
 -antika. (中). かれの面前; かれの
 近傍.
 -abhimukham. (副). かれの方にむ
 きて.
 -artham. (副). かれの爲に.
Ta-dā. (副). その時に; 然るときに. yadā
 ...tadā...の時は, その時に.
Tad-ājñā. (女). かれの命令.
Tad-āhāra. (男). かれ等を食すること.
 -lubdha. (形). かれ等を食ひ貪り
 たる.
Tad-upadeça. (男). かれの教訓; かれの
 論議.
Tad-griha. (中). かれの家.
Tad-dvāra. (中). その門戸.
Tad-dhita. (形). tad のごとき名詞代名詞
 の語根語基に附加せられたる. (tad
 + hita)
 -pratyaya. (男). 名詞代名詞の語基

語根に附加せらるゝ語基構成音。

- Tad-bhaya. (中). かれ等を恐るゝこと。
- Tad-bhasman. (中). かの女の灰。
- Tad-yathā. tad を見よ。
- Tad-vat. (副). かれのごとく。
- Tad-vaçaḥ-prāṭita. (形). かれの言を信じたる。
- Tad-vriḡṡa-vāsin. (形). かの樹に住する。
- √tan. (動. 8. 爲他. 爲己. tanoti, tanute; tatāna, tene; atānit; tansyati). 長くす; 展ばす; 擴ぐ; 擴がる. (希. tanu-mai; 拉. tenere; 獨. dehn-en).
- Tanu. (形). 細長き; 薄き; (希. tany; 拉. tenu-is; 英. thin; 獨. duenn).
- Tanu. (女). 身體. -trāṇa. (中). 身體を覆ふもの; 鎧.
- Tantra. (中). 線; 經卷. (√tan + tra).
- Tandrā. (女). 疲勞.
- Tan-madhya. (中). その中. (tad + madhya).
- Tan-mukha. (中). かれの顔; かれの口. (tad + mukha).
- √tap. (動. 1. 爲他. 爲己. tapati, -te; tatāpa, tepe; atāpsit; tapsyati; tapta; taptum; taptvā). 熱す; 燃ゆ; 燒く; 苦むる.
- Tapah-prabhāva. (男). 苦行の力.
- Tapas. (中). 熱; 火; 苦行. (√tap + as).
- Tapasvin. (形). 苦行する. —(男). 苦行者.
- √tam. (動. 4. 爲他. tāmyati; tānta). 窒息す; 疲憊す; 憂慮す; 困苦す.
- Tamas. (中). 闇黒. (√tam + as).
- Tamāla. (男). 樹の名にして、其の皮は紺青色なり.
- Taru. (男). 樹. -koṭara. (男). 樹の朽洞.

- tala. (男. 中). 樹下.
- Tarhi. (副). その時; 今現に. yadi...tarhi...せば...その時は.
- Tala. (男. 中). 表面.
- Ta-varga. (男). ta 等の種類の音.
- Taskara. (男). 盜賊.
- Tasmātparam. (副). その後.
- Tādita. (形). 打たれたる; 打擲せられたる; (√tad + i + ta).
- Tāta. (男). 親しきもの.
- Tādriç. (形). かゝるさませる; かくのごとき. (√ta + √driç).
- Tādriça. (形). かくのごとき; かゝるさませる.
- Tāmbūla. (中). 檳榔; 檳榔の葉又は莖を貝殻より採りたる石灰に和して將むは、印度又は南洋一帶の風習にして、賓客を歡待する際此を出だす、古代印度にては、約束の成立を表示せむ爲め檳榔を出だせり.
- Tāmbūlādhikāra. (男). 檳榔を盛れる箱を司る官.
- Tāra. (形). 聲高き.
- Tāram. (副). 聲高く.
- Tāraka. (男. 中). 星.
- Tārakā. (女). 同上.
- Tāra-svara. (形). 聲高く.
- Tāla. (男). 多羅樹. -paṅkti. (女). 多羅の行樹.
- Tālavya. (形). tālu 上顎の、上顎より生ずる. —(男). 顎音; i, i c, ch, j, jh, ñ, y の諸音. (tālu + ya).
- Tālu. (男). 上顎.
- Tāvat. (形-nt). 斯く多く; かく久しく. —(副). その間は; 暫且; まあ (俗語の); ともあれ先づ. (ta + vat).

- grihāṇa tāvad bālakam. ともあれ先づ此の童をつれ往くべし. (√ta + vat). yāvad (t)...tāvat....する間は、その間は;...するに従ふて、それだけ.
- Tigma. (形). 烈しき; 鋭利なる; (√tij + ma).
- Tiñ-anta. (形). ti の語尾を有する; ti 等に終る. —(男). 動詞; 底彥多聲. -pada. (中). 動詞.
- √tij. (動. 10. 爲他. 爲己. tejayati, -te; tejayām āsa, cakre; tejita). 研ぐ; 鋭利にす; 熾烈ならしむ.
- Tithi. (男. 女). 日. (陰曆の).
- Tiraka. Tiras. (副). 斜に; 横さまに; かたへに. (√tri + as). -kāra. (男). 罵ること; 疎外すること. (tiras + √kri + a).
- Tiras-kri. (動. 8. 爲他. 爲己). かたへになす; 疎外す; 擯斥す; 罵る.
- Tiras-kṛita. (形). 罵られたる; 疎外せられたる.
- Tiryag-yoni. (女). 傍生; 畜生. (tiryac + yoni). -gati. (女). 傍生惡趣.
- Tiryac. (形-añc). 斜なる; 横さまなる; かたへなる; 歪める; 水平なる. (√tri + ac); Tila. (男). 芝麻; 芝麻の實.
- Tira. (中). 岸; 津. (√tri + a).
- Tirtha. (中). 津; 水に入る磴道; 浴地. (√tri + tha). -çilā. (女). 浴池の磴道. -çilā-nihita. (形). 浴池の磴道の石上に置かれたる.

- Tivra. (形). 鋭利なる; するどき; はげしき. -tama. (形). 最もはげしき. -danta. (男). 鋭利なる齒. -viṡa-daçana. (中). 劇毒を帯びたる齒.
- Tu. (接). されど; 他方にては. na...tu. されど...は然らず; tu...tu. 一方に於ては...他方に於ては; kim tu 然れど. それにも拘はらず.
- √tud. (動. 6. 爲他. 爲己. tudati, -te; tutoda, tutude; totsyati, -te; tunna). 打つ. (拉. tundere).
- Tudat. (形-nt). 打擲する. (√tud + at).
- √tur. (動. 6. 爲他. 爲己). 馳す; 疾走す.
- Tura. (形). 快速なる. (√tur + a).
- Turam. (副). 疾く. -gama. (形). 疾走する; —(男). 馬.
- Turuṡka. (男). 突厥の人. -deçiya. (形). 突厥の國の.
- √tul. (動. 10. 爲他. 爲己. tolayati; tulayati, -te; tolayām āsa; tolayisyati; tolita). 衡る; 秤量す.
- Tulā. (女). 秤; 衡器. (√tul + ā). -çiṇu-pradāna. (中). 秤と童兒とを交換すること.
- Tulya. (形). 等しき; 同じき; 比等すべき.
- √tuṡ. (動. 4. 爲他. 爲己. tuṡyati, -te; tutoṡa; tuṡa; toṡtum). 悦ぶ; 喜悅す. (催). toṡayati. 悦ばす.
- Tuṡṡa. (形). 悦豫せる.
- Tuṡṡim. (副). 默然として.
- Tūrya. (男. 中). 樂器.
- Trīṇa. (中). 草; 藁.
- Trītiya. (數). 第三の.

Triṣ. (女) 渴。
 Triṣā. (女) 渴。
 Triṣākula. (形) 渴に苦める。〔triṣā + āku-
 la〕。
 Triṣākrānta. (形) 渴にせめられたる。
 〔triṣā + ākrānta〕。
 Triṣāṛta. (形) 渴に苦められたる。〔triṣā
 + āṛta〕。
 Triṣṇā. (女) 食；渴。
 √tri. (動) 1. 爲他 爲己 tarati, -te; tatāra;
 atarī; tariṣyati, -te; tirtvā; tīrṇa. 渡る；
 逃る；免る。〔催〕. tārayati, -te, 濟す；
 救ふ。
 Tejas. (中) 威力；威神；光明。〔√tij + as〕。
 Tena. (代) tad の男, 中, 單數具格一〔副〕。
 その故に。
 yatas...tena...する故に...その故に。
 yat...tena...の故に...その故に。
 yena...tena...なるを以て, その故に, ...
 する人によりて。
 Tāila. (中) 芝麻油；菜種油。
 Tyakta. (形) 捨てられたる。〔√tyaj + ta〕。
 √tyaj. (動) 1. 爲他 爲己 tyajati, -te; tat-
 yāja, tatyaje; atyākṣit; tyakṣyati, -te;
 tyakta; tyaktum; tyaktvā. 捨つ；委棄す。
 〔催〕. tyājayati。
 Tyāga. (男) 捨つること；委棄すること。
 Tyājya. (形) 委棄せらるべき；捨てらる
 べき。
 Trayo-daça. (數) 第十三。
 Trayo-daçan (數) 十三。
 √tras. (動) 1. 4. 爲他 trasati, trasyati;

tatrāsa; atrāsīt; trasiṣyati; trasta. 驚怖
 す；恐怖す。
 Trasta. (形) 驚怖せる。
 √trā. (動) 2. 爲他 爲己 trāti, -te; tatre;
 atrāsta; trāsyate; trāta; trātum. 救護
 す；護る；守護す。〔√trāi を見よ〕。
 Trāṇa. (中) 護ること；救ふこと；護身
 の具；鏡。〔√trāi + na〕。
 Trātum. (不定) 救護すべく。
 Trāyasva. (動) √trāi の命令法, 第二人
 稱, 單數, 爲己。〔√trāi + a + sva〕。
 Trāsa. (男) 恐怖。〔√tras + a〕。
 -hetu. (男) 恐怖の源因。
 Tri. (數) 三。
 Trimcat. (數) 三十。
 -tama. (數) 第三十。
 Tri-rātram. (副) 三夜の間。
 Tri-loki. (女) 三世。
 Triṣ-kṛitvas. (副) 三度。
 Tris. (副) 三度。〔希 tris; 拉 ter〕。
 √trāi. (動) 1. 爲己 trāyate; tatre; atrāsta;
 trātum; trāta. 護る；救ふ。〔受動〕。
 trāsyate。
 Trāilokya. (中) 三界。〔tri + loka + ya〕。
 Tryadhvan. (男) 三世；三界。〔tri + adh-
 van〕。
 Tvac. (女) 皮膚。
 Tvat=tvad.
 -putra. (男) 汝の男子。
 Tvadiya. (形) 汝の。
 Tvarā. (女) 急ぐこと。

Da. (形) 複合詞の末尾に来るとき, 「興ふ
 る」の義あり。〔√dā〕。
 √dañç. (動) 1. 爲他 daçati; dadañça,
 daçisyati; daṣṭa; daṣṭva. 咬む。〔√daç
 に同じ〕。
 Dañṣtra. (中) 牙。〔√dañç + tra〕。
 Dakṣiṇa. (形) 南方の；右の；巧なる。
 〔印度人は東方に面して禮拜するが故に。
 其の右は 常に南を指す；回教徒の印度
 にあるものは, mecca に面して禮拜する
 が故に, 其の右は常に北をなれり〕。
 Dakṣiṇā-patha. (男) 南路；南方の邦土；
 今の deccan は, 其の訛略なり。
 Dagdha. (形) 焼かれたる；賤しむべき。
 〔√dah + ta〕。
 Dagdhodara. (中) 賤むべき(口)腹。〔dag-
 dha + udara〕。
 Dagdhvā. (連) 焼きて。〔√dah + tvā〕。
 Daṇḍa. (男) 杖；棍；王者の標章となる
 べき杖；爵。
 Datta. (形) 興へられたる。〔√dā + ta〕。
 Dadhi. (中) 酪。
 -karṇa. (男) 酪耳；猫の名。
 -karṇa-vat. (副) dadhi-karṇa のご
 とし。
 -bhāṇḍa. (中) 酪を盛れる器。
 Dadhyāu. (動) 思惟せり。〔√dhyāu〕。
 Danta. (男) 齒牙。
 -viṇā. (女) 齒をがちがち云はす
 こと。-vādayan. 齒をがちがち云は
 せつ。
 Dantya. (形) 齒より出づる；齒より生
 ずる。-(男) 齒音；
 √dabh = √dambh.

√dam. (動) 4. 爲他 dāmyati; dānta. 馴
 らす；調御す；馴る。〔拉 domare; 英
 tame〕。
 Dam. (中) 家。〔拉 domus〕。〔一説には婦
 jāyā なりせり。果して然らば英語の
 dam, 希臘語の damar と同じきなり〕。
 Dāmpati. (男) 家主。〔dam を婦とせば
 婦と夫との義となるべし〕。
 Dāmpati. (男) 雙。夫婦。
 √dambh. (動) 1. 爲他 dabhati; dadābha,
 dadambha; adabhat; dabdha; dabdhum).
 害す；計りて害す；欺く。
 Dāmbha. (男) 詐欺。〔√dambh + a〕。
 √day. (動) 1. 爲己 dayate; dayām āsa,
 dayita. 憐む。
 Dayā. (女) 慈悲。
 Dayālu. (形) 慈悲深き。
 Dayāvat. (形) 慈悲ある。
 Dayā-hīna. (形) 無慈悲の。
 Dayita. (形) 親める。
 Dāndra. (形) 貧しき。
 Dardana. (中) 夢。
 Darpa. (男) 驕慢；慢心。〔1. √drip + a〕。
 Darpaṇa. (男) 鏡。〔2. √drip + ana〕。
 Darpādhmāta. (形) 慢心の爲に打嬭ふ
 られたる。〔darpa + ādhmāta〕。
 Darçaka. (形) 示す。〔√driç の催 + a +
 ka〕。
 Darçana. (中) 見ること；見ゆること；
 哲學；見地。
 Darçaniya. (形) 見らるべき；見るに堪
 へたる；美麗なる。
 Darçayitvā. (連) 示して。〔√driç の催
 + i + tvā〕。

Daviṣṭha. (形) 最も遠き。 (dū (ra) + iṣṭha)。
Daviyas. (形-āns). 一層遠き。 (dū (ra) + iyas)。
Daça(n). (數) 十。
Daçana. (中) 咬むこと; 齒。
Daçama. (數) 第十の。
Daça-ratha. (男) 十車王; 羅摩王の父。
Daça-çata. (數) 千の。
 -kara. (男) 千條の光。
 -kara-dhārin. (形) 千條の光を具する。
Daçā. (女) 人生の時期。
Daṣṭa. (形) 咬まれたる。 (√damç + ta)。
√dah. (動. 1. 爲他. 爲己. dahati, -te; da-dāha, dehe; adhākṣit; dhakṣyati; dag-dha; dagdhum. dagdhvā). 焼く。
√dā. (動. 3. 爲他. 爲己. dadāti, -te; dadāu, dade; adāt; adīta; dāsyati, -te; datta; dātum, dattvā). 與ふ; 授く; 給す; 施す。 (能). dāpayati, -te, 與へしむ。
Dātavya. (形) 與へらるべき. dātavyamiti 與へらるべきものなりと云ひて; 與へざるべからずとて。
Dātri. (形) 施與者。 (√dā + tri)。
Dāna. (中) 布施; 施與。
 -dharma. (男) 施與の法; 施與の道。
Dānta. (形) 馴れたる; 馴らされたる。 (√dam + ta)。
Dāyaka. (男) 與ふるもの。
Dāra. (男) 婦。 (常に複數のみに用ゐらる)。
Dāraka. (男) 童兒; 小兒。
Dāridrya. (中) 貧困。 (daridra + ya)。
Dārūṇa. (形) 恐るべき; おそろしき。

Dāsa. (男) 奴隸; 僕隸。
Dig-ambara. (形) 方位のみを衣せせる; 空衣の; 裸體の。 (diç + ambara)。
Dig-ghastin. (男) 方象; 世界の八方に立ちて、これを守る巨象; 城龍。 (diç + hastin)。
Dig-bhāga. (男) 方位; 方向。
Dina. (中) 日。
Dināntaram. (副) 翌日。
√div. (動. 4. 爲他. divyati; dideva; adevit; devisyati; dyūta; devitum). 博戯す。
Div. (男) 空; 天空; 晝時; 日。 (希. zeus, dieus; 拉. jovis, diovis)。
Divā. (形) 天にある。 (div + a)。
Divasa. (男) 晝時. divasasya. (副) 晝時の。
Divā. (副) 晝時に。
Divārṣa. (形) 尊き; 神仙の。 (diva + ārṣa)。
Divā-vihāra. (男) 晝時の經行。
Divya. (形) 神々しき; 尊き。
√diç. (動. 6. 爲他. 爲己. diçati, -te; dideça; adikṣat; adīṣṭa; dekṣyati; diṣṭa; deṣṭum). 指示す; 顯示す。 (能). deçayati, -te. (希. deiknymi, 拉. dicere)。
Diç. (女) 方向; 方位; 方處。
Dināra. (男) 金錢; 金貨。 (希. 拉. denarius)。
√dip. (動. 4. 爲己. dipyate; didipe; dip-ta). 燃ゆ; 輝く。 (能). dipayati, -te. 燃やす; 焼く; 照らす。
Dīpa. (男) 燈火; 炬火。 (√dip + a)。
Dīpamkara. (男) 燃燈如來。
Dīpa-nirvāṇa-gandha. (男) 燈火の燃ゆる香。
Dīrgha. (形) 長さ; 久しき; 遠き。

-karṇa. (形) 長耳を有する。 — (男) 猫の名。
Dīrgham. (副) 長く; 遠く。
Dīrgha-rava. (形) 長く咆哮する; 長鳴する。 — (男) 野狐の名。
Dīrgha-svara. (男) 長母音。 (ā, i, ū, rī 等なり)。
Duḥkha. (中) 苦; 苦痛; 惡運。 (dus + kha)。
 -kara. (形) 苦痛を與ふる。
 -praçamana. (形) 苦痛をやむる; 苦を鎮むる。
Duḥ-spriçya. (形) 觸れ難き。
Duḥ-spriṣṭa. (形) 惡しく接觸せる; 聲音機關の接觸不十分なる; — (男) 閉音。
Dugdha. (形) 搾られたる。 — (中) 乳。 (√duh + ta)。
Dugha. (男) 乳を搾るもの。 (√duh + a)。
Dumūdubhi. (男. 女) 大鼓。
 -svara-nirghoṣa. (男) 鼓音如來。
Dur-atikrama. (形) 超越し難き; 違背し難き; 打ち勝ち難き。
Dur-ācāra. (形) 操行惡き。
Dur-ātman. (形) 惡心の; — (男) 惡漢; 惡人。
Dur-gata. (形) たちゆき難き; 貧困なる。
Dur-grāhya. (形) 捕捉し難き。
Dur-jana. (男) 惡人。
Dur-dānta. (形) 馴致し難き; — (男) 獅子の名。
Dur-dharṣa. (形) 犯し難き; 狎近し難き; 威嚴ある。
Dur-nivāra. (形) 抑止し難き。 抑制し難き。
Dur-bala. (形) 弱き; 力なき。

Dur-buddhi. (形) 愚なる。
Dur-bhikṣa. (中) 飢饉。
Dur-labha. (形) 得難き。
Dur-vipāka. (中) 惡しく熟せること; 惡報。
√dus. (動. 4. 爲他. duṣyati; duṣṭa). 漬ぶ; 罪を犯す; 過失をなす。
Duṣkara. (形) 行ひ難き。 — (中) 難行。 (dus + kara)。
Duṣkṛita. (形) 惡しくなせること; — (中) 罪業。 (dus + kṛita)。
Duṣkha = duḥkha.
Duṣṭa. (形) 汗漬せられたる; 惡しき; 不徳なる; 不貞なる (女なごの); 奸惡なる。
 -baka. (男) 惡鷲。
Duṣ-pradhārṣa. (男) 難沮如來。
Dus. (接頭) 惡き; 難き; 不完全なる。 (35)。
√duh. (動. 2. 爲他. 爲己. dogdhi; dugdhe; dudoha, duduhe; adbukṣat, adbukṣata; dhokṣyate; dugdha; dogdhum; dugdhvā). 搾る。
Duhitṛi. (女) 乳搾る女; 女子。 (√duh + i + tri). (希. thygater; 英. daugh-ter; 獨. tochter)。
Dūta. (男) 使者。
Dūra. (形) 遠き; 遙遠なる。
 -Tara. (形) 一層遠き。
 -deça. (男) 遠方; 遠邦。
Dūram. (副) 遠く。
Dūri-kṛita. (形) 遠ざけられたる; 擯斥せられたる。
√dul. (動. 10. 爲他. 爲己. dolayati, -te; dolita). 動揺す; 左右に振動す。
√dri. (動. 6. 爲己. driyate; adṛita; dṛita)。

尊敬す；禮拜す。〔通例 ā の接頭辭と共に來る。ā-dri を見よ〕。

Driḡha.〔形〕。堅固なる；堅韌なる。〔√driḡ+ta〕。

1. √driḡ. 〔動。4. 爲他。driḡyati; adriḡat; driḡta〕。矜る；慢ぶる；驕る。

2. √driḡ. 〔動。10. 爲他。爲己。1. 爲他。dar-payati,-te, darpati〕。輝く；照らす。

√driḡ. 〔動。1. 爲他。paḡyati; dadarḡa; adarḡat; adrākḡit; drakḡyati; draḡtum; driḡta; driḡtvā〕。見る；觀ず。

Driḡta.〔形〕。見られたる。

-vyatikara. 〔形〕。からき目を見たる；災厄に遭遇せる。

Driḡtavā.〔連〕。見て。

√dri. 〔動。4. 9. 爲他。driyati, driḡati; dirḡa〕。開く；破裂す。

Deya.〔形〕。與へらるべき。〔dā+ya〕。

Deva.〔男〕。天神；主；神祇；王；夫。

Deva-tva.〔中〕。神祇の位。

-datta. 〔形〕。神より授かりたる。〔男〕。提婆；人名。

-putra. 〔男〕。天子。

-carman. 〔男〕。婆羅門の名。

Devī.〔女〕。女神；主婦；后妃。

-kotta. 〔男〕。女神の都城；都城の名。

Deḡa.〔男〕。方處；國土；土地；場所。〔√diḡ+a〕。

Deḡāntara.〔中〕。異邦。

-gamana. 〔中〕。異邦に赴くこと。

Deḡita.〔形〕。指示せしめられたる。〔√diḡの催+i+ta〕。

Deḡiya.〔形〕。邦國の；土地の；地方の。〔deḡa+iya〕。

Deha.〔男〕。肉體。

Dehi.〔動〕。汝は與ふべし。

Dehit.〔形〕。肉體ある；生ける。

√dāi. 〔動。1. 爲他。dāyati; dāna〕。清淨になす；研磨す。〔ava の接頭辭と共に來れば、白くすさなる〕。

Dāiva.〔中〕。宿命；天命；運命。〔deva〕。

-durvipāka. 〔男〕。宿命の悪く熟せること；宿命の惡報。

-vaḡa. 〔男〕。宿命の力。

Dolā.〔女〕。揺々として動くもの；惑ふこと。〔√dul+a〕。

Dolāyate.〔動〕。dolā の擬名詞相。

Dolāyamāna.〔形〕。揺々として定まらぬ。

-manas. 〔形〕。心揺々として惑へる。

Doḡa.〔男〕。過失；薄暮。〔√duḡ+a〕。

Dāurjanya.〔中〕。人柄の悪しきこと；悪き性質。〔dur+jana+ya〕。

√dyut. 〔動。1. 爲己。dyotate; didyute; adyutat; dyotisḡyati; dyutita; dyotita〕。輝く；光を放つ。

Dyuti.〔女〕。光輝。〔√dyut+i〕。dyutin dhatte 光輝を帶ぶ。

Dravya.〔中〕。物；財物；財貨。

-kḡaya. 〔男〕。財物の消盡せること。

Draḡavya.〔形〕。見らるべき。〔√driḡ+tavya〕。

Drākḡā.〔女〕。蒲桃；葡萄。

Drumā.〔男〕。樹。

Drumāyate.〔動〕。樹を乗取る；樹となる。〔druma の擬名詞相〕。

Dvandva.〔中〕。對々；兩々；相違の複合。〔dvam+dvam〕。

Dvaya.〔中〕。一對；一雙。

Dvādaḡa.〔數〕。第十二。

Dvādaḡan.〔數〕。十二。

Dvādaḡa-varḡa.〔中〕。十二年。

-paryantam. 〔副〕。十二年を一期として；十二年を限りとして。

Dvār.〔女〕。戸；門。

Dvāra.〔中〕。戸。〔希。thyra; 拉。foris; 獨。thür. 英。door〕。

-pālakatva. 〔中〕。守門の職。

Dvi.〔數〕。二。§ 132.

Dvigu.〔形〕。二牛にて購ひたる；二牛を有する。〔男〕。帶數の複合の一例；帶數の複合詞。

Dvi-ja.〔男〕。婆羅門；婆羅門，刹帝利。

毘舍の三族中の人。〔dvi+√jan〕。

Dviiya.〔形〕。第二の。

Dvidhā.〔副〕。二様に；二分して。

Dvi-rātram.〔副〕。二夜の間。

Dvi-vacana.〔中〕。變數；二言聲。

√dviḡ. 〔動。2. 爲他。爲己。dveḡti, dveḡte didveḡa; adviḡsat, adviḡsata; dviḡta; dveḡtum〕。惡む；怨む。

Dvipa.〔男〕。洲；島。

Dvipi-carman.〔中〕。虎皮；豹皮。

Dvipin.〔男〕。豹；虎。

५. Dh.

Dhana.〔中〕。財貨；財物。

Dhana-vat.〔形〕。財貨ある；財物ある；富める。

Dhana-sampatti.〔女〕。財貨の増加すること；貨殖。

Dhanārihin.〔形〕。財貨を求むる。〔dhana+arhin〕。

Dhanin.〔形〕。財物ある；富める。

Dhanu.〔男〕。弓。dhanus に同じ。

Dhanuḡ-kāḡḡa.〔中〕。弓箭；弓矢。〔dhanus+kāḡḡa〕。

Dhanus.〔中〕。弓。

Dhanya.〔形〕。富める；幸福ある。〔dhana+ya〕。

-tama. 〔形〕。最も富める。

-lara. 〔形〕。一層富める。

Dhanvin.〔形〕。弓を持する；〔男〕。弓さるもの。〔dhanu+in〕。

Dhara.〔形〕。持する；執る。〔√dhrī+a〕

Dharanī.〔女〕。大地。

Dharma.〔男〕。法；道；總；權利；義務；萬象；萬有。

-jñāna. 〔中〕。道を知ること；道の智識。

-dhara. 〔男〕。法持如來。

-dhvaja. 〔男〕。法幢如來。

-panyāya. 〔男〕。法門。

-manaskāra. 〔男〕。法を念ふこと。

-ḡabda. 〔男〕。法の聲。

-ḡāstra. 〔中〕。法典。

-sthala. 〔中〕。法の地；都城の名。

Dharmādhikārin.〔男〕。法を司るもの；司直の官。

Dharmānuṣṁṛiti. (女). 法を念する心.
Dharmāraṇya. (中). 林の名; 達磨林.
√dhā. (動. 3. 爲他. 爲己. dadhāti, dhatte; dadhān, dadhe; adhāt, adhīta; dhāsyati, -te; hita; dhātum; dhītvā). 置く; 與ふ; 帶ぶ; 得; 作る; なす. (希. titheti; 拉. cre-d-ere; 英. do; 獨. thun). (催). dhāpayati, -te.
Dhātu. (男). 動詞の語根; 界 (世界などの); 性質 (十八界などの); 元素 (五大などの).
Dhātṛi. (男). 造物主.
Dhānya. (中). 穀物; 米; 皮殻をこり去らざる穀物. (çasya は. 穀物の未だ蒴取られずして, 野に生ぜるものを云ひ; dhānya は已に蒴取られたるも; 未だ其の殻を脱せざるを云ふ. çasyaṁ kṣetragataṁ proktam; sa-tuṣam dhānyam uc-yate).
Dhārmika. (形). 具法の; 有道の; 道を行ふ. (dharma + ika).
√dhāv. (動. 爲他. dhāvati; adhāvīt; dhāvīṣyati; dhāvīta; dhāvītvā). 走る; 馳す.
Dhāvīta. (形). 走れる.
√dhī. (動). √dhyā を見よ.
Dhī. (女). 智慧.
Dhīmat. (形). (-mant). 智慧ある; 賢なる.
Dhīra. (形). 剛勇なる.
Dhīvara. (形). 利巧なる; 熟練なる. (男). 漁夫.
Dhīvarālāpa. (男). 漁夫の談話.
Dhur. (女). 輓; 重荷; 負擔.
Dhura. = dhur.
√dhū. (動. 5. 爲他. 爲己. dhūnoti, dhūnute; dudhāva, dudhuve; adhūṣte; dhaviṣyati; dhūta; dhūtvā). 拂ふ; 吹く; 搖落す; 煽揚す.

Dhūma. (男). 烟. (√dhū + ma). (拉. fu-mu-s).
Dhūr. (女). dhur の單數主格.
Dhūrjaṭi. (男). 濕婆神; 編髮の狀; 恰も牛の輓に似たるもの.
Dhūrta. (男). 詐欺者. (中). 三人の詐欺者. -traya.
Dhūsara. (男). 灰白色の; 塵埃の色せる.
1. √dhṛi. (動. 6. 爲己. dhṛiyate; dhṛita). 存在す; 住む; 習ふ; 住持す.
2. √dhṛi. (動. 1. 爲他. dharati; 10. 爲他. 爲己. dhārayati, -te; dhṛita). 持す; 支持す; 執る; 纏ふ (衣服などを); 債を負ふ. (此のときは. 必ず. 10. 爲他. 爲己なり).
Dhṛita-vān. かれは持す.
Dhṛiti. (女). 堅持; 堅忍; 剛毅. (√dhṛi + ti).
Dhṛitvā. (連). せりて; 持して.
Dhenu. (女). 牝牛.
Dheya. (形). 置かるべき. (√dhā + ya).
√dhmā. (動. 1. 爲他. dhamati; dadhmān; a-dhmāsīt; dhamīṣyati; dhmāta). 吹く; 煽ふる. (ā-dhmāta を見よ).
Dhyāna. (中). 禪定. (√dhyāi + na). -sthita. (形). 禪定に住せる.
√dhyāi. (動. 1. 爲他. dhyāyati; dadhyāu; adhyāsīt; dhyāta; dhyātvā). 沈思す; 禪定に入る.
Dhriyate. (動). 1. √dhṛi を見よ.
Dhruva. (形). 必然の; 確固たる.
Dhruvam. (副). 必ず; 確に.
√dhvaṁs. (動. 1. 爲己. dhvaṁsate; dhva-sta). 滅ぶ; 死す; 凋衰す.
Dhvaṁsa. (男). 撥滅. (√dhvaṁs + a). -kārin. (形). 滅ぼす; 撥滅せしむる.
Dhvaja. (男). 幢.

√na. (代). 第一人稱代名詞複數の語根. (希. no. 拉. nos).
Na. (副). あらず; ...せず. na katham api. 如何にするも...せず; 決して...せず. na kadā cana. 如何なるときも...せず; 決して...せず.
Nakula. (男). 大黃泉. (中). 黃泉の穴. -vivara.
Nakṣatra. (中). 星宿. (男). 宿王如來. -rāja.
Nakha. (男. 中). 爪.
Nakhin. (形). 爪ある. (nakha + in).
Nagara. (中). 都城; 城市. (男). 都人士. -jana. (中). 都の中央; 城中.
Nagari. (女). 都城; 城市.
Nagaropānta. (男). 都はづれ; 郊外; 都城の近郊.
Nagna. (形). 裸褻の. (√naj + na). (獨. nakt; 英. naked).
√naj. (動. 1. 爲己. najate; nagna). 羞恥を含む; 恥づ.
√nad. (動. 1. 爲他. nadati; nanāda; nadita). 鳴く; 吼ゆ; 叫ぶ.
Nada. (男). 吼ゆること; 鳴くこと; 河川.
Nadi. (女). 河川; 江河. (女). 川の岩穴; 河中の巖窟. -gūhā.
-taṭa. (男. 中). 河岸の傾斜せる所; 河岸.
-tira. (中). 河邊; 河岸.
√Nand. (動. 1. 爲他. 爲己. nandati, -te; nananda; nandiṣyati, nandita). 歡喜す.
Nanda. (男). 歡喜; 難陀. (√nand + a).

Nandana. (形). 觀喜せしむる; 樂ましむる. (男). 喜ばすもの; 兒孫. (中). 歡喜園 (帝釋の遊苑); 歡喜.
Nabhas. (中). 碧落; 碧空; 雲霧; (希. nephos; 拉. neb-ula, nubes).
√nam. (動. 1. 爲他. 爲己. namati, -te; nanāma, neme; anamsīt; namīṣyati; nata; namtum, namitum; natvā). 風む; 禮拜す; 歸命す; 稽首す.
Namas. (不變化詞). 歸命; 南無 (namo); 曇謨 (namaḥ), (常に爲格を伴ふ). (√nam + as). (男). 歸命すること; 稽首すること; 禮拜すること. (ramas + √kṛi + a).
Namas-kṛi. (動. 8. 爲他. 爲己). 歸命す; 禮拜す. (常に業格又は爲格を伴ふ).
Nayana. (中). 伴ひ行くこと; 連れ行くこと; 持ち行くこと; 目. (√ni + ana).
Nayuta. (中). 那由多. (koṭi 以上の大數は, 佛教に於ては, 其の意義一定せず, 故に. nayuta の價值を定めむこと難きも, 今最も正確なりと信ずる算法に據れば. koti, koti = 10,000,000. = 一千万. 100 × koti = ayuta = 1,000,000,000 = 十億. 100 × ayuta = niyuta = 100,000,000,000 千億. niyuta × niyuta = niyuta² = nayuta = 10,000,000,000,000,000,000. 即ち 1 の後に二十二の 0 を附せるものなり).
Nara. (男). 人; 男子; 丈夫. (nṛi + a).
Naraka. (男. 中). 奈落; 捺落迦; 地獄.

Nara-pati. (男) 人主; 人君; 君王; 王者.

Nala. (男) ナラ王; 王は niṣadhā の王にして其の妃を damayanti と云ふ. vidarbhā の王の女なり. nala 妃の故を以て, kali 神の憎む所となり, これが爲に魅せられ, 王弟 punya-gloka と博し; 暗するに國土を以てせしが, 輸して國土王位を失ひ, 妃と共に國を出で, 間關流離, 備さに辛苦を嘗め; 終に妃を林に捨て、逃る; 妃即ち vidarbhā に歸り, nala 獨り諸國を遊歴し, 後服を變じて ayodhyā の王 Ritu-parṇa に仕へ, これが馭となり. vidarbhā に赴き, 再び妃と會することを得たり. 妃の父王, 又 nala の爲に大に兵を發して niṣadhā に至らしめ, nala をして再び王位に登らしむ. 事載せて mahābhārata の詩中, nalopākhyānam に詳なり.

Nalopākhyāna. (中) nala 王の挿話. (nala + upākhyāna).

Nava. (形) 新き. (希. neos. 拉. novus).

Navati. (數. 女) 九十.

Nava-daça. (數) 第十九.

Nava-daçan. (數) 十九.

Navan. (數) 九.

Navama. (數. -i) 第九.

√naç. (動. 4. 爲他. naçyati; nanāça, neçus; anaçat; namkçyati, naçta; naçtum; naçtvā). 滅ぶ; 消ゆ; 死す.

√nah. (動. 4. 爲他. nahyati; naddha). 結ぶ; 連ぬ; 束ぬ.

Nāga. (形) 蛇の; 龍の; 象の. —(男) 龍; 蛇; 龍象, 英俊. (複合詞の末尾に来れるとき); 壁上の木釘.

-danta. (男) 象牙; 壁に挿入せる木釘にして物をかくる装置をなせるもの.

Nāti-dūra. (形) あまり程遠からぬ. (na + atidūra).

Nātha. (男) 保護者; 主; 夫; 怙恃.

Nādhita. (形) 書を誦せざる; 吠陀を誦せざる. (na + adhita).

Nānā. (不變化詞) 各々; 異種類; 個々; 種々.

Nānārtha. (形) 種々の意義又は目的を有する; 個々別々の意義目的を有する.

Nārārthā. (女) 個々別々の意義を有する状態.

Nāpitṛi. (男) 理髮師.

Nāma. (副) -1. 名づくる. -2. 實に; 恐らくは; 思ふに. apināma 又實に; 思ふに; 推定するに.

Nāma. (名) nāman を見よ.

Nāma-dhātu. (中) 擬名詞相; 名詞より轉化し來れる動詞の相.

Nāman. (中) 名. (拉. nomen; 英. name; 獨. nāmen).

Nāma-rūpa. (中) 名色.

Nāyaka. (男) つれ行くもの; 導くもの; 引卒するもの; 戯曲中の主人公. (√ni + aka).

Nāyikā. (女) 戯曲中の主人公たるべき女性.

Nārī. (女) 婦人; 婦女. (nara + ī).

Nāvya. (形) 船の. (nāu + ya).

Nāça. (男) 滅亡; 死亡. (√naç + a). nāçaṁ gacchati 滅亡に歸す; 死す.

Nāsā. (女) 鼻.

Nāsikā. (女) 鼻; 鼻音.

Nāsti. (不變化詞) それはなし. (na + as + ti).

Nāsti-tva. (中) 無の状態.

Ni. (接頭) 下に; 中に; 近く.

Niḥ-çeça. (形) 餘蘊なき; 殘る隈なき; 全部の; 都ての.

√niḥ-çvas. (動. 2. 爲他) 歎息す; 長大息す.

Niḥ-çvāsya. (連) 長大息して.

Niḥ-sārīta. (形) 出で行かせられたる; 逐はれたる.

√niḥ-sri. (動. 1. 爲他) 出で行く.

Niḥ-sṛitya. (連) 出で行きて.

Niḥ-sneha. (形) 情なき; 愛なき.

Nikaṭa. (中) 近傍.

√ni-kṣip. (動. 6. 爲他) 卸す; 投下す; 盛る (器物などに); 供托す; 委託す.

Ni-kṣipyā. (連) 卸して.

Ni-kṣipa. (男) 供托すること; 典賣すること; 質物とすること. (ni + √kṣip + a).

-tulā. (女) 典物とせる秤.

-bhūta. (中) 典物となりしもの; 供托物.

Nija. (形) 生來の; 天賦の; 自己の.

-pāreça. (男. 中) 自己の脇; 自己の傍.

-bhavana. (中) 自己の家.

-mārga. (男) 自己の來りし途.

-raṅga. (男) 自己本來の色.

Nitya. (形) 常の; 恒久の; 不變の; 絶ゆる.

-pravādīto. (形) 絶えず奏樂せる; 絶えず打鳴らされたる.

-srāyin. (形) 常に身を澡へる; 絶えず澡浴する.

Nityodyukta. (男) 常精進如來.

Ni-darçana. (中) 開示すること; 説明すること; 見ゆること; 外觀; 形影. (ni + √dr̥ç + ana).

Ni-deça. (男) 命令. (ni + √diç + a).

Ni-drā. (女) 熟眠; 睡眠.

-bhaṅga. (男) 熟眠を破ぶること; 目を覺ますこと.

-bhaṅga-kopa. (男) 熟眠を破ぶりしを怒ること.

-sukhin. (形) 熟眠の樂を有する; 安げく熟眠する.

Nidhana. (男. 中) 滅亡; 死亡. nidhan-yāti. 滅亡に歸す; 死す.

√ni-dhā. (動. 3. 爲他. 爲己) 下に置く; 卸す; 蓄積す.

Nidhāna. (中) 蓄積すること; 蓄積の場所; 蓄積せるもの; 財貨. (ni + √dhā + na).

Ni-dhaya. (連) 卸して; 蓄積して.

Nidhi. (男) 財貨. (ni + √dhā).

-prāpti. (女) 財貨を得ること.

Nidhy-arthin. (形) 財貨を求むる.

√nind. (動. 1. 爲他. nindati; nininda; anindit; nindita). 非難す; 輕毀す; 叱責す.

√ni-pat. (動. 1. 爲他) 落つ; 倒る; 陥る (或る状態に). (備) nipāyati, -tc. 倒す; 殺す.

Nipatita. (形) 落ちたる; 倒れたる; 落下せる; 陥りたる.

Nipāta. (男) 落下すること; 陥落すること; 不變化詞の總稱 (§ 22 参照).

Nipātita. (形) 倒されたる; 殺されたる.

Nibhrita. (形) 下に置かれたる; 藏められたる; 隠匿せられたる; 秘密にせられたる; 掩蔽せられたる.
 Nibhritam. (副) 密に; 竊に.
 Nimagna. (形) 中に投ぜる; 沈溺せる; 陥れる (湖沼等に); 浴せる.
 √ni-majj. (動. 6. 爲他) 洗む; 溺る; 陥る; 浴す.
 Ni-majjana. (中) 浴すること.
 -sthāna. (中) 浴場.
 Nimajjanābhāva. (男) 水に浴することのなきこと.
 Ni-mantraṇa. (中) 招請. [ni + √mantr + ana].
 Nimitta. (中) 目的; 理由; 動機; 源因; 兆相. kasmāt (n) + nimittāt. 如何なる故に.
 Nimitte. (關)....の故に; ...の爲に.
 Ni-yata. (形) 定まれる; 一定せる; 規則正しき; 必然の.
 -patana. (中) 規則正しく落ちること; 絶えず落下すること.
 √ni-yam. (動. 1. 爲他) 制す; 抑制す; 治む; 定む.
 √ni-yuj. (動. 7. 爲己) 付す (馬などに馬具を); 職務を人に負はす; 任命す; 命ず; 委任す. [催] niyojayati, -te. 委任す; 托す; 任命す.
 Niyoga. (男) 命令; 訓令; 職務. [ni + √yuj + a].
 Niyojya. (連) 任命して; 委任して; 命じて. [√ni-yuj の催 + ya]. kṣīraṁ nayanāya putraṁ niyogya. 生乳を持ち行かむことを男子に命じて.
 Nir = nis.

Nir-aparādha. (形) 咎なき; 過失なき.
 Nir-apekṣa. (形) 期待せざる; 求むる所なき. [nis + apekṣā].
 Nir-arthaka. (形) 益なき.
 Nir-asta. (形) 投げすてられたる; 除かれたる; 存在せざる.
 √nir-ikṣ. (動. 1. 爲己) 諦視す; 熟視す.
 Nir-ikṣya. (連) 諦視して; 熟視して.
 Nir-ukta. (形) 發言せられたる; 言ひ出されたる.
 Nir-upadrava. (形) 危険なき; 安寧なる.
 Nir-rūp. (動. 10. 爲他. 爲己) 認む; 窺ふ; 認定す; 決定す.
 Nir-rūpita. (形) 認められたる; 決定せられたる.
 Nir-rūpya. (連) 窺ふて; 見定めて.
 Nir-rodha. (男) 滅亡; 滅. [ni + √rudh + a].
 Nir-gata. (形) 出で行ける.
 √nir-gam. (動. 1. 爲他) 出で行く.
 Nir-gama. (男) 出で行くこと.
 Nir-guna. (形) 能なき; 徳なき.
 Nir-grihin. (形) 家なき.
 Nir-jana. (形) 無人の.
 √nir-ñi. (動. 1. 爲他) 携へて出づ; つれて出づ; 決定す; 認定す.
 Nir-nita. (形) 決定せられたる.
 Nir-daya. (形) 慈悲なき; 無情なる; 不仁なる. [nis + dayā].
 Nir-dayam. (副) 無慈悲に; 容赦なく.
 √nir-dic. (動. 6. 爲他) 説示す; 指示す.
 Nirdiṣṭa. (形) 指示せられたる; 説示せられたる.
 Nir-bala. (形) 力なき; 弱き.

Nir-buddhi. (形) 智慧なき; 愚なる.
 Nir-bhara. (形) 甚しき; 烈しき; 過度の; 深き.
 Nir-bharam. (副) 甚しく; 深く. nir-bharaṁ prasupta (形) 深く眠れる.
 Nir-bhāsa. (男) 光明.
 Nir-mala. (形) 無垢の; 清淨の.
 √nir-mā. (動. 2. 爲他. 3. 爲己) 作る; 化成す.
 Nir-māya. (連) 作りて; 化成して.
 Nir-mita. (形) 作られたる; 化成せられたる.
 Nir-vañca. (形) 家族なき; 孤獨の.
 √nir-vā. (動. 2. 爲他) 吹く; 吹き消ゆ (火などの); 消滅す. [催] nir-vāpaya-ti, -te. 消す.
 Nir-vāra. (形) 吹き消れたる; 消滅せる. —(中) 寂滅; 涅槃.
 Nir-vāpayiṣyati. われは吹き消れしめむ. われは吹き消さむ. [√nir-vā の催. 第一未來, 第三人稱, 單數, 爲他].
 Nir-viṣeṣa. (形) 無差別の; 異なる所なき.
 Nir-viṣeṣam. (副) わかちなく; 差別なく.
 √nir-vri. (動. 5. 爲他. 爲己) 樂む; 喜ぶ; 満足す.
 Nir-vṛita. (形) 樂める; 悦喜せる; 満足せる.
 Nir-veṣṭana. (中) =nir-veṣṭana の俗語の形.
 Nir-veṣṭana. (中) 包を解くこと; 啓示すること.
 Ni-vāraṇa. (中) 妨止; 遮障. [ni + √vri の催 + ana].

Ni-vārita. (形) 遮障せられたる.
 √ni-vid. (動. 10. 爲他. nivedayati.) 知らしむ; 告ぐ; 献ず (物な). rāja-kule nivedayati われは法廷に訴ふ.
 √ni-viç. (動. 6. 爲己) 坐す.
 √ni-vṛi. (動. 5. 9. 爲他. 爲己) 包む; 掩蔽す; 圍む. [催] nivārayati, -te. 拒ぐ; 遮障す; 妨止す.
 √ni-vṛit. (動. 1. 爲己) 還る; 止まる; やむ.
 Ni-vṛitta. やめたる; 思ひ止まりたる. [ni + √vṛit + ta].
 Ni-vedayitum. (不定) 知らすべく; 告げむ爲め.
 Ni-vedya. (連) 告げて; 知らせて.
 Ni-veçita. (形) 坐せしめられたる; 置かれたる. [ni-√viç の催 + i + ta].
 Niç. (女) 夜.
 Niçitha. (男) 深更; 中夜; 夜.
 Niç-caya. (男) 決心; 決定. [nis + √ci + a].
 Niçcayena. (副) 必定; 必ず.
 Niç-car. (動. 1. 爲他) 出で行く. [催] niçcārayati, -te. 出で行かす; 出だす.
 Niç-cala. (形) 動かざる.
 √niç-ci. (動. 5. 爲他. 爲己) 決定す; 決心す.
 Niç-cita. (形) 決定せられたる.
 Niç-citam. (副) 必定; 必ず.
 Niç-citya. (連) 決定して.
 Ni-ṣad. (動. 1. 爲他) 坐す.
 Ni-ṣaṇṇa. (形) 坐せる.
 √ni-sidh. (動. 1. 爲他) 禁止す; 拒ぐ; 否定す.
 Ni-ṣiddha. (形) 禁止せられたる.
 √niç-kram. (動. 1. 爲他. 爲己) 出づ; 出て来る.

Niṣ-krānta. (形). 出で来れる.
 Ni-ṣṭha. (形). ...に於て存在する;
 ...に安住する; 究竟する. (ni+
 √sthā).
 Ni-ṣṭhā. (女). 位置; 状態; 安住; 究竟.
 Niṣ-pad. (動. 4. 爲己). 出づ; 生る; 作
 らる; (催). niṣpādayati,-te. 出でしむ;
 生れしむ; 生む; 作る. (eṣa śimho niṣpā-
 dyate. 茲に獅子は作らるべし; 茲に獅
 子は生れむ).
 Niṣ-pādita. (形). 作られたる; 生まれし
 められたる. (niṣ+√pad の催+i+ta).
 Niṣ-pādyate. (動). 作られむ; 作らる;
 生ぜらる. (niṣ+√pad の催; 受動詞現
 在, 第三人稱, 單數).
 Niṣ-phala. (形). 效驗なき; 效果なき.
 Niṣ. (接頭). なき; 外に.
 Ni-han. (動. 2. 爲他). 殺す.
 Ni-hita. (形). 置かれたる.
 √nī. (動. 1. 爲他. 爲己. nayati,-te; nināya,
 nīnye; anāṣit; aneṣṭa, neṣyati,-te; nīta;
 netum; nitvā). 携へ行く; 連れ行く; 伴
 ひ行く; 引卒す; 卒ゆ; 送る. (時など
 を). (催). nāyayati,-te. (受). niyate.
 kālam nayati. 時を送る.
 Nica. (形). 賤しき; 下等なる. —(男). 下
 賤の人. (√nyac+a).
 -karman. (形). 賤業の; 賤しき行な
 ます.
 -ga. (男. 中). 下賤の人の身に存する;
 低きに就く(河などの).
 Niḍa. (男. 中). 巢. (拉. nidus. 英. nest.
 獨. nest).
 Nīta. (形). つれ行かれたる; 携へ行
 かれたる.

Niti. (女). 行爲の法; 禮; 世に處し政を
 なす法.
 -vidyā. (女). 處世の法の學識.
 -āstra. (中). 處世の法の書.
 -āstrābhijña. (形). 處世の法の書を
 解する.
 Nītvā. (不定). つれ往きて; もち行きて.
 Niyamāna. (形). つれ行かるゝ; もち行
 かるゝ.
 Nīra. (中). 水.
 Niruj. (形). 病なき. (nis+ruj).
 Niroga. (形). 病なき; 健全なる. (nis+
 roga).
 Nīla. (形). 青き; 紺青の. —(中). 藍.
 -kaluṣa. (形). 青く濁れる.
 -kaluṣāmbu. (中). 青くして濁れる水.
 -nidreana. (形). 青影の.
 -nirbhāsa. (形). 青光の.
 -varṇa. (形). 青色の.
 -sainnidhāna. (中). 藍を貯ふるこゝ;
 藍を混合せしむるこゝ.
 -sainnidhāna-bhāṇḍa. (中). 藍を貯
 へたる甕.
 Nīlī. (女). 藍.
 -bhāṇḍa. (中). 藍甕.
 -bhāṇḍa-svāmin. (男). 藍甕の主.
 -rasa. (中). 藍の搾り汁.
 -varṇa. (男). 藍色.
 Nivāra. (男). 野生の米. —(單). 野生の
 苗; —(複). 米粒.
 -kara. (男). 穀粒.
 Nūnam. (副). 必定; 實に.
 Nṛi. (男). 人.
 Nṛi-pa. (男). 人を護るもの; 國王; 王者.
 -kara. (男). 國王の手.

Nṛi-pati. (男). 人主; 國王; 王者.
 Nṛipa-tva. (中). 王者の位; 王位.
 Nṛiṣamsa. (形). 殘忍なる; 兇惡なる.
 Netum. (不定). つれ行くべく; 伴ひゆく
 べく. (√nī+tum).
 Netra. (中). 目. (√nī+tra).
 Nema. (形). 半ばの.
 -sprīṣṭa. (形). 半ば接觸せる. —(男).

聲音機關の中ば接觸するより發生す
 る聲音. (§ 8).

Nāiva. (副). 決して...せず. (na+eva).
 Nāu. (女). 船. (希. nays. 拉. nav-is).
 Nyac. (形-nyañc, nic). 下向する; 下の;
 下にある; 下賤の. (ni+añc 又は ac).
 (§ 129).



Ṭ. P.

1. √pa. (形). 飲む. (複合詞の末尾に附加せ
 らる. madya-pa 酒のみ; pāda-pa 足に
 てのむもの, 樹のごとし). (1.√pā).
 2. √pa. (形). 護る; 牧する. (複合詞の末
 尾に附加せらる. nṛi-pa 人を守る; gopa
 牛を牧する等のごとし). (2.√pā).
 Paktvā. (連). 煮て. (√pac+tvā).
 Pakṣa. (男). 翼; 側; 半月分. (kriṣṇa-pa-
 kṣa 等を見よ).
 Pakṣi-dāmpatī. (男. 雙). 鳥の雌雄.
 Pakṣin. (形). 翼ある. —(男). 翼あるも
 の. 鳥; 鷲. (pakṣa+in).
 Pakṣi-cāvaka. (男). 鳥の雛.
 Pakṣi-saṅgha. (男). 鳥の集團.
 Pakṣyati. (動). かれは煮む. (√pac+sya
 +ti).
 Pañka. (男. 中). 泥池; 淤泥; 沼地.
 Pañke-ruh. (中). 泥池に生ずるもの; 蓮.
 Pañkti. (女). 列次; 行列(五の). pañ-
 ca+ti).
 -krama. (男). 列次に隨ふこゝ; 列

次の順序.

√pac. (動. 1. 爲他. 爲己. pacati,-te; pa-
 pāca, pece; apākṣit; apakta; pakṣyati,
 -te; paktum; pakrvā). 煮る; 熟す.
 Pañca. (數). 五.
 -tantra. (中). 五卷の書; 書名; 此の
 書は. 通篇五節より成り. Hitopadeṣa
 と同じく, 譬諭を設けて, 訓戒を垂
 れたる書なり.
 Pañca-tva. (中). 五とされる状態; 五大
 に歸せる状態; 死. pañca-tvañ gata. 五
 大に歸せり; 死せり.
 Pañca-daṣa. (數). 第十五; 十五.
 Pañcan. (數). 五.
 Pañcama. (數). 第五. (女-i).
 Pañca-rātram. (副). 五夜の間.
 Pañcā-ṣat. (數. 女). 五十.
 √paṭ. (動. 1. 爲他. paṭati). 行く; 動く.
 (催). pāṭayati,-te. 裂く; 割る; 抜く; 引
 きぬく.
 Paṭa. (男). 布; 衣.

Paṭu. (形) 鋭利なる; 伶俐なる; 鍛達せる。
√paṭh. (動) 1. 爲他. paṭhati; papāṭha; paṭhita; paṭhitvā. 誦ず。〔催〕. pāṭhayati, -te. (受動) paṭhyate.
Paṭhyamāna. (形) 誦ぜる。
Paṇḍita. (形) 博識の; 博學の。—(男) 學者; 賢者。
 -mānin. (形) 學者なりと思へる; 學者を以て自任する。
 -sabhā. (女) 學者の會合。
√pat. (動) 1. 爲他. 爲己. patati, -te; papāta; apaptat; paṭisyati; patita; patitum; patitvā. 飛ぶ; 落下す; 倒る。〔催〕. pātayati, -te. 落す; 倒す。
Patat. (形-nt) 落下する; 飛翔する。〔√pat の現在分詞 爲他〕。
Patatas. √pat の現在分詞爲他の男. 中の單數. 屬. 從。
Patana. (中) 落下すること。〔√pat + ana〕。
Pati. (男) 主; 夫。
Patita. (形) 落下せる; 倒れたる。
Patitvā. (連) 落下して; 倒れて。
Patni. (女) 婦; 妻; 妾。〔pati + ni〕。
Pattra. (中) 樹葉。〔√pat + tra〕。
 -puṭa. (中) 樹葉にて作れる容器; 葉にて作れる飲器。
√path. (動) 1. 爲他. pathati. 往く; 動く。
Path. = panthan. の弱語基。
Patha. = path. の複合詞の末尾に来る形。
Pathi. = panthan. の中語基。
Pathika. (男) 旅客; 行旅の人。
Pathi-stha. (形) 途上に居る; 途上に佇立する。

Pathya. (形) 可なる; 宜しき; 適當なる。
√pad. (動) 4. 爲己. padyate; papāda, pede; apatta; patsyati, -te; panna; pat-tum). 歩む; 行く。〔催〕. pādayati, -te。
Pada. (中) 足. 歩; ṣloka の四分の一; 居處; 地位。〔√pad + a〕. (希. pedon; 拉. pe (d) + s; 英. foot; 獨. fuiss).
 -stha. (形) 在位の; 地位ある。
 —(男) 在位の人。
Padma. (男. 中) 紅蓮。
 -garbha. (形) 紅蓮多き。—(男) 池名。
 -rāga. (形) 紅蓮の色せる。—(男) 紅玉。
Panthan. (男) 途; 道路。〔強語基. panthān. 中語基. pathi. 弱語基. path. 單數主格. panthās; 複合詞の末尾にては patha, dakṣiṇā-patha のごとし〕. (希. patos; 拉. pon(t)s; 英. path; 獨. pfad).
Payas. (中) 乳。
Payo-mukha. (形) 口に乳ある。
Para. (形) 遠き; 越へたる; 勝れたる; 至高の; 最高の; 外の; 自餘の; 敵の。〔希. pera 越へて; 拉. peren-die 明後日, über-morgen; 英. far〕。
 -jana. (男) 他人。
 -dāra. (男) 他人の婦。
 -dravya. (中) 他人の財。
 -pakṣa. (形) 敵の側の; 敵に黨する。
Param. (副) 後に. tataḥ param それよりのちに; ataḥ param. これよりのちに. paramitu されど。
Parama. (形) 至高の; 最高の。〔para + ma〕。
 -duṣkara. (形) 最も行ひ難き。
 -mārga. (男) 他の途。

Paramārtha. (男) 眞義; 眞相; 眞諦。〔parama + artha〕。
Paraṣu. (男) 鉞; 斧。
Para-sukha. (中) 他人の幸福。
Paras-para. (形) 相互の。
Paras-param. (副) 相互に。
Parasmāi. (形) 〔para の男. 單數. 爲格〕 他の爲の。
 -pada. (中) 他の爲の語; 爲他語尾を附加すべき動詞。
Parā. (接頭) 去る; 戻る; 逆に; そむける; 外にす。〔希. para〕。
Parān-mukha. (形) 面をそむけたる; 背をむけたる。〔parāc + mukha = parāk + mukha = parān-mukha〕。
Parāc. (形) 他の方の; わきの。〔parā + añc 又は ac〕. (§ 129).
Parābhava. (男) 敗滅; 侮辱; 輕蔑。
√parāvṛit. (動) 1. 爲己. 戻る; 歸り来る。
Parāvṛitya. (連) もごりて; 歸りて。
Pari. (接頭) 徧く; めぐりて; 太だ。
Pari-kirtana. (中) 稱讚; 賞讃。〔pari + √kṛit + ana〕。
√pari-kṛit. (動) 10. 爲他. 爲己. parikṛityati, -te). 稱讚す; 賞讃す。
√pari-ksip. (動) 6. 爲他. 周匝す; 圍繞す。
Pari-grīhita. (形) 攝受せられたる; 擁護せられたる。〔pari + √grah + i + ta〕。
√pari-grah. (動) 9. 爲他. 爲己. 攝受す。
Pari-graha. (男) 攝受。
 1. √pari-ci. (動) 5. 爲他. 爲己. 積む; 蓄ふ。
 2. √pari-ci. (動) 3. 爲他. 考究す; 發見す。
√pari-c-chad. (動) 10. 爲他. 爲己. 包む; 覆蓋す。

Paricchanna. (形) 包まれたる; 掩はれたる。〔√pari + c-chad + na〕。
Parijana. (男) 扈從; 從者。
√pari-jñā. (動) 9. 爲他. 爲己. 知る; 察知す; 確知す。
Pari-jñāya. (連) 察知して; 確知して。
Pari-nāma. (男) 成熟; 結果; 結末。
 -darṣin. (形) 結果を豫知する; 用心深き。
Pariṇāha. (男) 周圍。〔pari + √nah + a〕。
√pari-tuṣ. (動) 4. 爲他. 悦ぶ; 悦喜す。〔催〕. paritoṣayati, -te。
Pari-toṣya. (連) 悦ばせて; 悦喜せしめて。
√pari-tyaj. (動) 1. 爲他. 捨つ。
Parityāga. (男) 捨つること。〔pari + √tyaj + a〕。
Parityājya. (連) 捨て、。
√pari-dhā. (動) 3. 爲他. 纏ふ。〔衣服などを〕。
√pari-dhāv. (動) 1. 爲他. 榮過す; 趕ふ。〔催〕. pari-dhāvayati, -te。
√pari-pālay. (動) 1. 爲他. 爲己. 護る; 養育す。
Pari-pūrita. (形) 満たされたる。〔pari + √pri の催 + i + ta〕。
Pari-pūrṇa. (形) 満てる。
Pari-bhajya. (連) 摧碎して。
√pari-bhañj. (動) 7. 爲他. 摧破す。
√pari-bhū. (動) 1. 爲他. 敗る; 征服す; 侮辱す。
Pari-bhūta. (形) 輕侮せられたる。
√pari-rakṣ. (動) 1. 爲他. 護る。
Pari-rakṣitum. (不定) 護るべく。
Pari-varta. (男) 卷(書物の); 轉回。〔pari + √vrit + a〕。

Parivartana. (中). 變換. (pari + √vṛit + ana).
 Pari-vāra. (男). 扈從; 眷屬. (pari + √vṛi + a).
 √pari-vṛi. (動. 5. 爲他. 爲己. parivṛinoti; parivṛiṇute). 圍繞す.
 √pari-vṛit. (動. 1. 爲己. parivartate). 轉廻す; 變換す.
 Parivṛita. (形). 圍繞せられたる.
 √pari-vraj. (動. 1. 爲他). 出家となりて遍歴す; 出家す.
 Pari-vrājaka. (男). 行脚の出家; 出家.
 Pari-grānta. (形). 困憊せる; 勤苦せる. (pari + √cram + ta).
 Pari-śad. (女). 集會. (pari + √śad).
 √parikṣ. (動. 1. 爲己. parikṣate). 吟味す; 考試す; 觀察す; 審査す.
 Parikṣaṇīya. (形). 審に吟味せらるべき; 仔細に觀察せらるべき.
 Parokṣa. (形). 目に視ねざる. (para + akṣa).
 Parokṣam. (副). 目に視ねざる所にては.
 Parokṣārtha. (男). 目に視ねざるもの.
 Paropakārin. (形). 他人を利益する; 他人に恩を施す. (para + upakāra + in).
 Parkatī. (女). 樹の名.
 Paryanta. (男). 限界.
 Paryāna. (中). 馬具; 鞍.
 Paryālocana. (中). 熟慮すること; 評議すること. (pari + ā + √loc + ana).
 Parvata. (男). 山.
 -kandara. (中). 山の巖窟.
 √palāy. (動. 1. 爲己. palāyate; palāyāni cakre; apalāyīṣṭa; palāyīṣyati, -te; palāyita; parāyitum). 逃る; 走る; 難を避く.
 Palāyana. (中). 逃るゝこと; 難を避く

ること. (√palāy + ana).
 -kriyā. (女). 逃るゝこと.
 Pālāyamāna. (形). 逃走する.
 Palāyita. (形). 逃れたる.
 Palāyitum. (不定). 逃るべく.
 Palāṣa. (男). 樹葉; 樹の名.
 -bhājana. (中). 葉にて作れる飲器.
 Pa-varga. (男). pa 等の音; p, ph, b, bh, m 等の諸音.
 Pavana. (男). 風. (√pū + ana).
 -vega. (形). 風のごとき勢ある; 風のごとき疾き.
 Pavitra. (形). 淨潔なる. (√pū + i + tra).
 √pac. (動. 4. 爲他. 爲己. paçyati, -te; pa-spaçe; spaṣṭa). 觀る; 觀察す. (√spaç に同じ). [此の動詞は. √driç の現在語基に用ひらる. √driç を見よ].
 Paçu. (男). 家畜; 獸畜. (拉. pecu-s; 英. fee; 獨. vieh).
 Paçu-mat. (形). 家畜を有する.
 Paçca. (形). 後方の; 西方の.
 Paçcāt. (副). 後より; 後に.
 -tāpa. (男). 後悔; 後より悔恨すること.
 Paçcima. (形). 最後の; 西方の. (paçca + ima).
 Paçyat. (形-nt). 見る; 觀察する.
 1. √pā. (動. 1. 爲他. 爲己. pibati, -te; papāu; pape; apāt; pāsyati; pīta; pātum). 飲む. (受動). piyate. (拉. bi-bo 余は飲む).
 2. √pā. (動. 2. 爲他. pāti; papāu; apāsīt; pāsyati; pāta; pātum). 護る; 牧す. (家畜等を). (拉. pa-sc-o).
 Pācaka. (男). 煮る人; 厨夫. (√pac + aka).

Pāṭali. (女). 花の名; 波吒釐樹の花.
 -putra. (中). 華氏城; 波吒釐子城; 希臘人の所謂 palibothra.
 Pāṭava. (中). 銳利なること; 鍊達. (pa-tu + a).
 Pāṇi. (男). 手.
 Pāṇini. (男). 婆膩尼仙人; 有名なる語典家にして, 梵語が今日見らるゝごとき形體を具するに至りしには, 一に此の學者の力による, 其の年代は判然定むることを得ずと雖も, 通例紀元前四世紀頃なるべしと云へり.
 Pāṇḍava. (男). pāṇḍu 王の子; yudhi-ṣṭhira 等五人の兄弟を云ふ.
 Pāṇḍu. (形). 青白色の; 白色の. -(男). 月種の王にして象王都に都せり, yudhi-ṣṭhira 等の父にして, mahābhārata の詩篇を作れりと稱せらるゝ廣博仙人 vyāsa の子なり. 王の母を ambalikā と云ふ, vyāsa 仙人と會せしとき, 驚怖色を失ふ, 忽ち娘めるあり王を生む, 王の生るゝや, 全身爲に青白なりき, 因りて名づけて, pāṇḍu と云へり, 支那にては, 般紐王と云へるものは是れなり.
 -nandana. (男). pāṇḍu 王の子.
 Pāṇḍura. (形). 青白き; 白色を帯びたる; (pāṇḍu + ra).
 Pāṇḍuratā. (女). 青白色の状態; 白色の状態.
 Pā'ā. (男). 倒るゝこと. (√pat + a).
 Pā'aka. (形). 墮落せしむる. (pātayati naram). -(中). 罪業. (√pat の催 + aka).
 Pātayitvā. (連). 墮落せしめて; 落して; 倒して.
 Pātita. (形). 墮落せしめられたる; 落さ

れたる; 倒されたる. (√pat の催 + i + ta).
 Pātra. (中). 飲器; 容器; 盆; 鉢; 供養を受くべき人. (1. √pā + tra).
 Pāda. (男). 足; 四足獸の足; 物の四分一; 詩の四分一 (詩頌もし三十二綴音より成るものならば, 其の四分一即ち八綴音は pāda. なり).
 Pādapa. (形). 足にて飲む. -(男). 樹木. (pāda + 1. √pā).
 Pāda-prahāra. (男). 足にて蹴ること.
 Pādāhati. (女). 足にて蹂躪すること. (pāda + āhati).
 Pādodaka. (中). 足を洗ふ爲めの水.
 Pāniya. (形). 飲まるべき. -(中). 水.
 Pāniyārtham. (副). 水の爲めに; 水を求めて. (pāniya + artham).
 Pāntha. (男). 途行く人; 行旅の人. (path).
 Pāpa. (中). 罪; 罪業; 惡業; 罪惡.
 -karman. (形). 罪業ある; 惡をなす.
 -rahita. (形). 罪業を遠離せる; 罪惡なき.
 Pāpiyas. (形-yānis). 一層惡き. -(男). 波旬 (句). (pāpa + iyas).
 Pāra. (男. 中). 彼岸. (para).
 -gata. (形). 彼岸に往ける; 業を卒へたる.
 Pāram-i-tā. (女). 彼岸に到達せる状態; 波羅蜜多.
 Pāra-saṅgata. (形). 彼岸に到達せる.
 Pārthiva. (形). 土地の; 土地に住する; 土地を領する. -(男). 王者. (pṛithivī).
 Pārçva. (男. 中). 脇; 傍.
 -gata. (形). 脇にある; 傍にある.
 Pāla. (男). 守護者. (2. √pā + la).

Pālakā. (男). 守るもの; 守護者.
Pālaka-tva. (中). 守護職.
√pālay. (動. 1. 爲他). 守る; 守護す. (2. √pā+la).
Pāli. (女). 南方佛教の經典に用ひたる語.
Pāṣa. (男). 繩索; 罌; 係蹄.
Pika. (男). 郭公.
Piṇḍa. (男). 搏飯; 團飯.
Piṇḍa-da. (男). 搏飯を與ふるもの.
Pitri. (男). 父. (2. √pā+tri). (希. pater; 拉. pater; 英. father; 獨. vater).
Pitriṅya. (男). 父方の叔父. (拉. patru us).
Pitri-sama. (形). 父に等き.
Pipāsā. (女). 飲まばやと思ふ心; 渴. (1. √pāの希求相 pi+pā+s+ā).
Pipāsākulita. (形). 渴に逼まりたる.
Pippala. (男). 畢波羅樹.
Piṣācaka. (男). 吸血鬼.
√pi. = √pyāi.
√pid. (動. 10. 爲他. 爲己. piḍayati,-te; piḍita). 惱ます; 害す.
Piḍā. (女). 痛苦. (√pid+ā).
Piḍita. (形). 苦められたる; 惱まされたる. (√pid+i+ta).
Piḍyamana. (形). 苦めらるゝ.
Pīta. (形). 飲まれたる. (1. √pā+ta).
Pīta. (形). 黄色の. (男). 黄色.
 -nidarçana. (形). 黄影ある.
 -nirbhāsa. (形). 黄光ある.
 -varṇa. (形). 黄色の.
Piyate. (動). それに飲まる. (√pā).
Pīvara. (形). 肥満せる. (√pyāi 又は √pi+vara). (希. piaro-s=pi(v)aro-s).
Puṁl-līṅga. (中). 男性. (puṁs+liṅga).
Puṁs. (男). 丈夫. (單. 主. puṁān).

Pucchaka. (中). 尾. (puccha+ka).
Pucchakāvalambana. (中). 尾につりさがること. (pucchaka+avalambana).
Puṭa. (男. 中). 樹葉にて作れる容器; 葉を疊みて作れる飲器; 蓋. (邦語の「ふた」は此の梵語より來れるにあらざるか).
Puṇya. (形). 清淨なる; 尊き; よき. (中). 功德; 善.
Puṇyātman. (形). 心善なる.
Putra. (男). 男子.
Putrī. (女). 女子.
Punar. (副). また; さらに; ものごとく; ふたたび. punar aparam また. punar api またも.
 -āgatya. (連). 歸り來りて.
 -āgamana. (中). 歸り來ること.
 -janman. (中). 再生.
 -vac. (動). 答ふ; 答へて云ふ.
Puṁān. 丈夫は. puṁsの單. 主.
Pur. (女). 都城.
Pura. (中). 都城.
Puraḥ-sara. (形). 前に行く. (男). 前に行く人; 前驅者. (複合詞の終に來るときは)...を前驅として; ...と共に; ...に従ふて.
Puratas. (副). ...の前に; ...の面前に於て.
Puras. (不變). ...先ち; ...の前に.
 -kārya. (形). 前にせらるべき; 供養せらるべき; 任命せらるべき.
Purastāt. (副). ...の前に.
Purā. (副). 昔時; 往時.
Purābhimukha. (形). 都城に面せる; 都城に向へる. (pura+abhimukha).

Purābhimukham. (副). 都城に面して; 都城に向ひて.
Puruṣa. (男). 丈夫; 人; 臣; 士; 僕.
 -kāra. (男). 人爲; 人力.
 -sīmha. (男). 人中の獅子; 俊傑.
Puruṣākṛiti. (形). 人の形せる. (puruṣa+ākṛiti).
Purodyāna. (中). 都城の遊園. (pura+udyāna).
Puro-bhaktena. (副). 朝食の前に. (puras+bhakta).
Pulakita. (形). 喜極はまりて毛髪豎立せる.
√puṣ. (動. 4. 爲他. 爲己. puṣyati,-te; puṣa; apuṣat; pokṣyati; puṣta). 生茂す; 開敷す; 養ふ.
Puṣkara. (中). 青蓮; 希沙迦羅書; 佛迦羅書.
Puṣkarīṇī. (女). 蓮池.
Puṣta. (形). 肥満せる. (√puṣ+ta).
Puṣtāṅga. (形). 身體肥満せる. (puṣta+aṅga).
√puṣp. (動. 4. 爲他. puṣpyati; puṣpa; puṣpita). 開敷す.
Puṣpa. (中). 花. (√puṣp+a).
 -varṣa. (中). 花を降らすこと; 花雨.
 -vriṣṭi. (女). 同上.
Puṣpita. (形). 開敷せる.
Pustaka. (中). 書.
Pūga. (男). 檳榔樹; (中). 檳榔子.
√pūj. (動. 10. 爲他. 爲己. pūjayati,-te; pūjayāncakāra,-cakre; apūjayat; pūjyitum pūjita). 供養す; 禮拜す; 敬す.
Pūjaniya. (形). 供養せらるべき.
Pūjā. (女). 供養; 禮拜.

Pūjita. (形). 供養せられたる.
Pūjya. (形). 供養せらるべき.
Pūrayitvā. (連). 満たせて; 盛りて; にくらせて. (√priの催+aya+itvā).
Pūrṇa. (形). 満てる. (√pri+na).
Pūrva. (形). 前の; 昔の; 東の; 以前の. (uttaraの反對なり).
 -krita. (形). 昔時なせる.
Pūrva-tana. (形). 昔時の.
Pūrva-deça. (男). 東方の邦.
Pūrva-puruṣa. (男). 先人; 祖先.
Pūrva-saṁskāra. (男). 前になせし約束.
Prithak. (副). 別々に; 一々に; (形). 異なる; 他の. (業. 從. 具の格を伴ふ).
Prithivī. (女). 國土.
 -pāla. (男). 國土を守る人; 王者.
Prīṣta. (形). 問はれたる. (√prach+ta).
Prīṣṭha. (中). 背.
 -deça. (男). 背後の場所.
 -māmsa. (中). 背肉.
√pri. (動. 3. 9. 爲他. piparti; priṇāti; papāra; apārit; pariṣyati; pariṣyati; paritum; pūrṇa). 満たす. (受動). pūryate; (催). pūrayati,-te.
Peya. (形). 飲まるべき. (√pā+ya).
Poṣaka. (男). 養育者. (√puṣ+aka).
Pāitrya. (形). 父祖の; 祖先の. (pitri+ya).
Pyāi. (動. 1. 爲己. pyāyate; pīna). 生茂す; 増長す; 肥ゆ. (√piを見よ).
Pra. (接頭). 1. (動詞に附加せらるゝとき). 前に; 進む; 去る. 2. (形容詞に附加せらるゝとき). 太だ; 大に. (希. pro; 拉. pro; 英. fore; 獨. vor).
Prakarṣa. (男). 優ること; 顯達; 拔群;

[vor-ziehen, vor-zug 等の獨逸語に似たり]. (pra + √kṛiṣ + a).
 √pra-kāṣ. (動. 1. 爲己). 輝く; 見ゆ; 現はる. (pra + √kāṣ).
 Prakāṣa. (形). 明白なる; 輝ける; 明瞭なる; 公然の.
 Prakāṣam. (副). 明白に; 他にきこゆるほごに; 高聲にて.
 Prakṛiti. (女). 自然; 根本; 性質; 本性; 自性; 一般の語根. (pra + √kṛi + ti).
 Prakṛityā. (副). 本來; 素より.
 √pra-kṛiṣ. (動. 1. 爲他). 牽く; 率ふ. (軍兵を); 拖く. (弓なごを).
 Prakopa. (男). 暴怒; 激怒. (pra + √kup + a).
 Pra-kṣip. (動. 6. 爲他). 前に投ず; 前に置く; 呈す; 獻ず.
 Prakṣipta. (形). 前に投ぜられたる; 呈せられたる.
 √pra-cāl. (動. 1. 爲他). 前往す; すゝむ. (pra + √cāl).
 Pracalana. (中). 前往すること. (pra + √cāl + ana).
 Pracalita. (形). 前進せる.
 √pracch = √pracch.
 √pracchad. (動. 10. 爲他. 爲己). 包む; 掩ふ. (pra + √chad).
 Pracchādyā. (連). 包みて; 掩ふて.
 √pracch. = √pracch. (動. 6. 爲他. pricchati; papraccha; aprākṣit; prakṣyati; priṣṭa; praṣṭum; priṣṭvā). 問ふ. (人の業格又は物の業格を伴ふ). brāhmāṇaṁ kuṣalam pricchati かれは. 婆羅門に平安を問ふ. [拉. prec-es; 獨. frag-en].
 √pra-jan. (動. 4. 爲己). 生る; 發生す.

Prajā. (女). 子孫; 苗裔; 百姓; 庶民; (pra + √jan).
 Prajñā. (女). 般若; 智慧.
 -pāramitā. (女). 般若波羅蜜多; 智慧の彼岸に到達せる状態; 智慧. 究竟の状態.
 √pra-ṇam. (動. 1. 爲他). 身を前に屈す; 稽首す; 厚く禮をなす (人の業格又は爲格を伴ふ). brāhmāṇaṁ praṇamati, brāhmaṇāya praṇamati かれは婆羅門に禮をなす; sāṅgāṁ praṇamati かれは八體を地に投じて禮をなす. (pra + √nam).
 Praṇamya. (連). 厚く禮をなして.
 Praṇāma. (男). 禮をなすこと.
 Praṇidhā. (動. 3. 爲他. 爲己). 前に置く; 或る事に心を寄す. 切望す; 祈る; 誓願す. (pra + ni + √dhā).
 Praṇidhāna. (中). 誓願; 發願; 祈願. (pra + ni + √dhā + na).
 Praṇidhi. (男). 同上.
 Prati. (接頭). —1. (動詞に附加せらるゝとき)...の方に; ...に向ひて; ...戻りて; かへりて; —2. (動詞より轉化せざる名詞に附加せらるゝとき)...に匹敵する; ...に相當する; ...に對する; —3. (隣近の複合詞の前節に来るとき). 毎; 各. [希. proti, pros; 拉. por].
 Prati-kṣaṇam. (副). 毎瞬間; 刹那毎に; 絶えず; (prati + kṣaṇa).
 √prati-gam. (動. 1. 爲他)...の方にゆく; 迎ふ; 戻り來る.
 Prati-graha. (男). 受くること; 贈與; 賜物. (prati + √grah + a).
 Prati-jñā. (女). 誓約 (prati + √jñā).
 √prati-jñā. (動. 9. 爲己). 誓約す.

Prati-jñāta. (形). 誓約せられたる.
 Prati-dīnam. (副). 毎日. (prati + dina).
 Prati-diṣam. (副). 孰れの方處にても; 各方向に於て. (prati + diṣ).
 Prati-deṣam. (副). 各處に於て; 孰れの處にても. (prati + deṣa).
 Prati-ni-vṛit. (動. 1. 爲己). ...より歸る. (從格を伴ふ).
 Prati-patti. (女). 近くこと; 到達すること; 得ること; 顯達. (prati + √pad + ti).
 √prati-pad. (動. 4. 爲己). 近づく; 到達す; 得; 會得す.
 Prati-bimba. (中). 映像; 影像.
 √prati-brū. (動. 2. 爲他. 爲己). 答ふ.
 Pratimā. (女). 肖似; 影像; 匹敵. [英. counter-feit に似たり]. (prati + √mā).
 √prati-vac. (動. 2. 爲他). 答ふ.
 √prati-vas. (動. 1. 爲他). 住む.
 √prati-ṣṭhā. (動. 1. 爲他). 安住す; 住居す; 居を定む. (prati + √sthā).
 Prati-ṣṭhāna. (中). 安住すること; 都城の名. (南方印度の都府).
 Prati-ṣṭhita. (形). 安住せる.
 √prati. (動. 2. 爲他). 歸る; 近づく; 越く; 信す; 信賴す. (prati + √i).
 Pratikara. (男). 對治; 療治. (prati + √kṛi + a).
 √pratiks. (動. 1. 爲己). 待つ; 期待す. (prati + √iks).
 Pratīta. (形). 信賴せる. (prati + √i + ta).
 Pratiyatha. (動). 汝等須らく信賴すべし. (prati + √i). 此の語は, ṣrad-dadhādhvam 及び ākaṅkṣayatha と同じく, 梵語にもあらず又パーリー語にもあらず, 恰も二者を折衷したるがごとき構造にして,

一種破格の構造と云ふべし, tha の語尾よりすれば, 現實法の現在, 第二人称複数なるも, 語基の pratiya は, 其の構造, 梵語よりも, パーリー語又は其の他の prākṛita 語に近し, 且つ, 現在法の現在を以て, 命令法に充用する用例は, 梵語には鮮く, パーリー語等に多しとす.
 Praty-akṣa. (形). 面前の; 眼前の; 目のあたりなる. (prati + akṣa).
 Pratyakṣam. (副). 面前にて; 見ゆる所にて; 分明に.
 Pratyac. (形). pratyāc 強. pratyac 中, pratic 弱. 背後の; 首を回せる; 西方の. (印度にては, 東方に向ひて禮をなす, 故に東方を正面とす).
 Pratyaya. (男). 信賴; 縁; 語基構成音; 語縁; 字縁; (§ 21). (prati + √i + a).
 Pratyaham. (副). 毎日. (prati + aham).
 Pratyākhyāna. (中). 拒否すること. (prati + ā + √khyā + na).
 Pratyāsanna. (形). 近接せる. (prati + ā + √sad + na).
 -rajaka-griha. (中). 最寄の染絲者の家.
 Pratyutpanna. (形). 生ぜる; 發生せる; 神速なる; 敏捷なる. (prati + ud + √pad + na).
 -mati. (形). 智の敏捷なる; 機智ある. —(男). 魚の名.
 Pratyupta. (形). 鑿められたる. (prati + √vap + ta).
 Pratyeka. (形). 各自の; 一個づゝの. (prati + eka).
 Pratyekam. (副). 各自; 一つづゝ.
 Prathama. (形). 最も前なる; 最初の.

元始の。〔*pra+tama*〕。〔希. *protos*; 拉. *primus*; 獨. *für-st*; 英. *first*〕。
 -*darçana*. 〔中〕. 始て見ること。
 -*darçana-dina*. 〔中〕. 初對面の日。
 -*puruṣa*. 〔男〕. 第三人稱。〔梵語にては、動詞の變化を擧ぐる際、第三人稱を第一に掲ぐるが故なり〕。
Pradatta. 〔形〕. 與へられたる; 授けられたる。〔*pra+√dā+ta*〕。
 √*pra-dā*. 〔動. 3. 爲他. 爲己〕. 與ふ; 授く。
Pradāna. 〔中〕. 授與すること。
Pradīpa. 〔男〕. 燈火。〔*pra+√dip+a*〕。
Pradeça. 〔男〕. 場處。
Pradoṣa. 〔男〕. 薄暮; 黄昏。
 -*kāla*. 〔男〕. 黄昏の時。
 √*pra-pad*. 〔動. 4. 爲己〕. 入る; 進む; 近く; 到る; 或る状態に陥る。〔*cintāṃ prapad*〕. 憂慮に陥る。
Prapanna. 〔形〕. 陥れる。
Prapūrya. 〔連〕. 満して; ふくらせて。〔*pra+√pūri* の催+*ya*〕。
 √*pra-pri*. 〔動. 9. 爲他〕. 満たす; ふくらす。
Prabandha. 〔男〕. 連續。〔*pra+√bandh+a*〕。
Pra-buddha. 〔形〕. 覺めたる; 目を覺ましたる。〔*pra+√budh+ta*〕。
 √*pra-budh*. 〔動. 4. 爲己. 1. 爲他〕. 目をさます; さむ。〔催〕. *prabodhayati*. 目をさます; 開示す; 教ふ; 戒む。
Prabodha. 〔男〕. 目を覺ますこと; 覺醒せしむること; 迷を解くこと; 慰藉すること。〔*pra+√budh* の催+*a*〕。
Prabhava. 〔男〕. 根源; 根本; 發生。〔*pra+√bhū+a*〕。

Prabhava. 〔形〕. ...より生ぜる。
Prabhā. 〔女〕. 光明。〔*pra+√bhā*〕。
 -*kara*. 〔男〕. 太陽; 光作如來。一〔形〕. 光を作る; 光を手させる。
Prabhāta. 〔中〕. 拂曉; 曙。
Prabhāva. 〔男〕. 威力; 威光; 神通力。〔*pra+√bhū+a*〕。
Prabhu. 〔男〕. 君主; 主; 帝王; 王者。〔*pra+√bhū*〕。
Prabhu-tva. 〔中〕. 君位; 王權。〔*pra+√bhū+tvā*〕。
 √*prabhū*. 〔動. 1. 爲他〕. 一1. 生る; 發生す; 一2. 主宰す; 一3. 優る。
Prabhūta. 〔形〕. 許多の; 多くの。
Pra-bhṛiti. 〔女〕. 源始。一〔形〕. ...を始めてしたる。〔*Indra-prabhṛitayas*〕. 帝釋を始めてしたる。〔*pra+√bhṛi+ti*〕。
Prabhṛiti. 〔關〕. ...より始めて; ...より以來。〔常に從格を伴ふ〕. *tataḥ prabhṛiti*. それより以來。〔*pra+√bhṛi+ti*〕。
Pra-māṇa. 〔中〕. 量; 尺度; 容積; 誤の正否を決する標準; 證據; 引用して證據とするに足る人。〔*pra+√mā+na*〕. 〔疑名〕. *pramāṇayati* 仰て證據とす。〔*vyākaraṇe Pāṇinir eva pramāṇam*〕. 語典の事に於ては、婆膩尼仙人こそ證據たれ; 語典上の問題は、一に婆膩尼仙の言によりて決すべきものなり、〔*bhavantāḥ pramāṇam*〕. 御身は、(御身等は) 證據なり; 御身の言に従はむ。
Pramāṇa. 〔形〕. ...ほどの; ...の大きさの。
Pramāṇābhāva. 〔男〕. 證據として事の是非を決するに足るべき標準なきこと。
Pramukha. 〔形〕. ...を首させる; ...を始めさせる。

Pramudita. 〔形〕. 痛く喜べる。〔*pra+√mud+i+ta*〕。
Prayatna. 〔男〕. 努力; 辛苦; 聲音機關の活動。〔*pra+√yat+na*〕。
Prayatnāt. 〔副〕. 勞苦して; 努力して; 苦辛して。
 √*pra-yuj*. 〔動. 7. 爲己〕. 使用す; 任命す; 命す。
Prayuta. 〔中〕. 百萬。
Prayojana. 〔中〕. 使用; 必要; 要用; 目的。〔*pra+√yuj+ana*〕. *yadi te prayojanaṃ dārakena*. 御身には、もし子の必要あらば、
 -*vaçāt*. 〔副〕. 要用の爲めに。
 √*pra-vac*. 〔動. 2. 爲他〕. 語る。〔*pra+√vac*〕。
Pra-vāda. 〔男〕. 世評; 噂。〔*pra+√vad+a*〕。
Pravāsa. 〔男〕. 旅の空; 羈旅。〔*pra+√vas+a*〕。
Pra-vivāda. 〔男〕. 烈しく爭論すること。〔*pra+vi+√vad+a*〕。
 √*pra-viç*. 〔動. 6. 爲他〕. 入る; 進入す。〔*pra+√viç*〕。
Praviçya. 〔連〕. 入りて。
Pra-viṣṭa. 〔形〕. 入れる。〔*pra+√viç+ta*〕。
Praviṣa. 〔形〕. 巧妙なる; 熟達せる。
Pra-viṣa-tā. 〔女〕. 巧妙; 熟達。
 √*pra-vṛit*. 〔動. 1. 爲己〕. 轉行す(車などの); 進行す; 着手す; 力を效す; 邁往す。
Pravṛitta. 〔形〕. 前往せる。
Pravṛitti. 〔女〕. 邁往; 着手; 努力; 俗事に力を效す。〔*ni-vṛitti* に對す〕. 〔*pra+√vṛit+ti*〕。
 √*pra-vṛiṣ*. 〔動. 1. 爲他〕. 烈しく降雨す。〔*pra+√vṛiṣ*〕。

Pra-veçya. 〔連〕. 入れて; 入らしめて。〔*pra+√viç* の催+*ya*〕。
 √*pra-vyāhri*. 〔動. 1. 爲他〕. 呼ぶ; 鳴く; 長鳴す。〔*pra+vi+ā+√hri*〕。
 √*pra-çams*. 〔動. 1. 爲他〕. 稱揚す。
Pra-çamana. 〔形〕. やむる; 止息せしむる。〔*pra+√çam+ana*〕。
Pra-çasya. 〔形〕. 稱揚せらるべき; 勝れる; よき。〔§ 165〕. 〔*pra+√çams+ya*〕。
Praçasya-tama. 〔形〕. 最もよき。
Pra-saṅga. 〔男〕. 執着; 愛着; 會合; 機會; 出來事。〔*pra+√saṅj+a*〕。
 √*pra-sad*. 〔動. 1. 爲他〕. 悦豫す; 心を和げらる; 清く澄む。〔*pra+√sad*〕。
Pra-sanna. 〔形〕. 悦豫せる; 清澄せる(水などの)。〔*pra+√sad+na*〕。
Pra-sava. 〔男〕. 産むこと; 生ずること。〔*pra+√su+a*〕。
Prasava-tas. 〔副〕. 産むことより。
Pra-sāda. 〔男〕. 清澄; 悦豫せしむること; 恩寵; 惠。〔*pra+√sad* の催+*a*〕。
Pra-sādyā. 〔連〕. 悦ばせて。〔*pra+√sad* の催+*ya*〕。
Pra-sārīta. 〔形〕. 前進せしめられたる; 伸ばされたる; 長くなされたる; 曝露せられたる。〔*pra+√sri* の催+*i+ta*〕。
Pra-sārya. 〔連〕. 伸ばして。〔*pra+√sri* の催+*ya*〕。
Pra-siddhi. 〔女〕. 成就; 顯榮。〔*pra+√sidh+ti*〕。
 √*pra-sidh*. 〔動. 4. 爲他〕. 成就す; 世に知らる。〔*pra+√sidh*〕。
Pra-supta. 〔形〕. 深く眠れる。〔*pra+√svap+ta*〕。
 √*pra-sri*. 〔動. 1. 爲他〕. 前進す; 長くな

る; 伸ぶ; 行渡る. [催]. prasārayati 長くす; 伸ばす.
Pra-stāva. [男]. 始むること; 發端; 緒言; 序詞. [pra+√stu+a].
 -krameṇa. [副]. 序詞の次第に従ふて; 序詞として.
 √pra-stu. [動. 2. 爲他. 爲己]. 稱揚す; 咏嘆す; 始む; 語る.
Pra-stuta. [形]. 稱揚せられたる; 始めたる.
 -yajña. [形]. 祭祀の始まれる. —[男]. 娑羅門の名.
 √pra-sthā. [動. 1. 爲己]. 出發す; 發足す; 進行す. [催]. pra-sthāpayati.
Pra-sthāpita. [形]. 出發せしめられたる; 送られたる; 派遣せられたる. [pra+√sthāの催+i+ta].
Pra-sthāpya. [連]. 派遣して.
Pra-hartavya. [形]. 打たるべき; 搏撃せらるべき; 害せらるべき; [pra+√hri+tavya].
 √pra-hā. [動. 3. 爲他]. 棄つ; 委棄す. [pra+√hā].
Pra-hāra. [男]. 搏撃. [pra+√hri+a].
Pra-hri. [動. 1. 爲他]. 打つ; 害す; 搏撃す.
Pra-hriṣ. [動. 4. 爲他]. 痛く喜ぶ; 歡喜す; 喜極はまりて身毛整立す.
Prahriṣṭa. [形]. 喜極はまれる. -citta. [形]. 心歡喜せる.
Prāk. [副]. 昔時; 以前に. [prāc].
Prākṛita. [形]. 自然より出でたる; 未だ人爲の彫琢を加へざる; 粗野なる; 凡俗の. [prakṛita].
Prākṛita. [中]. 俗語. [saṃskṛita]に對し.

Pāli, māgadhi 等の俗語を包括する總稱なり].
Prāc. [形. prāc, prāc 中. 弱]. 前方の; 東方の. (§ 129). (印度にては. 東に面して禮をなす. 故に東方を前方とし. 後方を西とす. 其の左右は即ち北と南となる. paścima に西方と後方との二義あり. dakṣiṇā に右と南; uttara に左と北との二義あるは. —に此の理による). [pra+√āc].
Prājña. [形]. 賢なる. —[男]. 賢者. [prajña].
Prāñjali. [形]. 合掌禮拜する. [pra+añjali].
Prāṇa. [男]. いき, 氣息; 生命す; 生氣. [pra+√an+a].
Prāṇin. [形]. 生命ある; 生ける. —[男]. 生物. [prāṇa+in].
Prātar. [副]. 朝; 翌朝; 翌日. [pra+tar]. [獨. morgen に似たり].
Prātipadika. [中]. 名詞の語基.
Prāṇus. [副]. 分明に; 明白に. —[接頭]. 同前. (kṛi, bhū, as 等の動詞に附加せらる).
 √prāp. [動. 5. 爲他]. 得; 達す; 到達す. [pra+āp].
Prāpta. [形]. 得られたる; 到達せる. -yāuvana. [形]. 妙齡に達せる; 青春の時期に到れる. -nara. [形]. 婚資を得たる.
Prāptavya. [形]. 得らるべき; 到達せらるべき.
Prāpti. [女]. 得; 或る物を得る能力; 或る物を得たる状態.
Prārabdha. [形]. 始められたる. [pra+ā+√rabh+ta].

Prārabh. [動. 1. 爲己]. 始む; 着手す; 企圖す. [pra+ā+√rabh].
Prārth. [動. 10. 爲己]. 乞ふ; 願ふ; 求む; 希求す. [pra+√arth].
Prārthana. [中]. 求むること; 乞ひ求むること.
Prārthita. [形]. 求められたる.
Prāsāda. [男]. 宮殿; 王宮; 樓臺. [pra+ā+√sad+a].
 -prīṣṭha. [男. 中]. 宮殿の頂上にある樓臺.
Priya. [形]. 愛すべき; よき; やさしき. (言語などの). [√pri+a].
Priya-tama. [形]. 最もよき; 最も愛すべき.
Priya-tara. [形]. 一層愛好する.
Priya-vādin. [形]. やさしき言ひぶりする; 巧言の.
 √prī. [動. 9. 爲他. 爲己. prīṇāti prīṇīte; pipṛāya, pipriye; aprīṣīt; prīta; prītva].
 —1. [爲他]. 歡ばす; 悦喜せしむ; 喜ぶ; 愛す. —2. [爲己]. 歡ぶ; 悦喜す; 愛す. —3. [受動]. priyate. [英. frie-nd; 歡ばすもの, 友; 獨. freu-nd].
Priti. [女]. 歡喜; 歡; 好; 親交. [√pri+ti].
 -vacas. [中]. 親き語; 歡語.
 √pre. [動. 2. 爲他]. 前進す; 出で往く; 去る; 死す. [pra+√i].
Preta. [形]. 逝ける; 去れる; 死せる; —[男]. 死者; 亡者; 亡靈; 餓鬼. [pra

+√i+ta].
 -kārya. [中]. 死者を葬る禮; 葬式.
Preyas. [形]. 一層親き; 一層愛好すべき. (priya の比較級). [pra+iyas].
 √prer. [動. 2. 爲他]. 動く; 進み往く. [催]. prerayati; -te. 動かす; 推進す; 激す; 煽動す. [pra+√ir].
Prerita. [形]. 激發せられたる; 煽動せられたる. [pra+√irの催+i+ta].
 √preṣ. [動. 4. 爲他]. 往く; 前進す. [pra+√iṣ]. [催]. preṣayati 往かしむ; 前進せしむ; 送る; 派遣す.
Preṣita. [形]. 派遣せられたる. [pra+√iṣの催+i+ta].
Procus. [動]. かれ等は云へり. [pra+vacの現實法第三過去複數第三人稱]. [pra+ūcus].
 √proñch. [動. 1. 6. 爲他]. 拭ひ去る; 消す. [pra+√uñch].
Proñchitum. [不定]. 拭ひ去るべく; 消すべく.
Plava. [男]. 浮動すること; 洄ぐこと; 飛躍すること. [√plu+a]. [希. ploos; ploion].
 √plu. [動. 1. 爲他. 爲己. plavate; -te; puplāva; pupluve; aploṣṭa; ploṣyati; -te; pluta]. 浮動す; 飛躍す; 洄ぐ; 飛翔す. [希. pleo 余は浮ぶ; 拉. pluere 降雨す; 英. float 浮ぶ].

ㄎ. ph.

∫phal. [動. 1. 爲他. phalati; paphāla; phalita]. 果を結ぶ; 成る.
Phala. [中]. 果實; 果報; 效驗. [√phal+a].
 -madhya-sthita. [形]. 果實の中にある.
Phala-vat. [形]. 效驗ある.
Phala-hasta. [形]. 果實を手にしたる.
Phalā-sakta. [形]. 果實に執着せる.

Phalita. [形]. 成就せる.
 ∫phull. [動. 1. 爲他. phullati; phullita]. 開敷す; 咲く; 開く.
Phulla. [形]. 開敷せる. [√phull+a].
Phullotpala. [形]. 青蓮の開敷せる. —[中]. 池の名. [phulla+utpala].
Phena. [男]. 泡.

Baka.〔男〕. 鷲; 詐欺者 (印度にては. 鷲を以て詐欺者の表章とせり. 本書第八十二課参照すべし).

-**gāvaka.**〔男〕. 鷲の雛鳥.

Baktro-pāli. (bactrian pāli). Bactria 地方に行はれたる字體にして, 其の文字の流布せる領域は. ariana (今の Herat を中心として東は身毒の河に至る地方一帯), 又は bactriana (bokhara), gāndhāra (今の Kāndāhāra) 等の地方にして, 印度の中には, panjab 地方にも行はれし形跡あり. 右より左に書し, 字體至りて不規則にして, 斜歪甚しく, 簡略に過ぐ.

Baddha.〔形〕. 縛せられたる; 繋がれたる. (√badh + ta).

√**badh.**〔動. 9. 爲他. 爲己〕. √bandh に同じ.

√**bandh.**〔動. 9. 爲他. 爲己. badhnāti, badhnīte; babandha, bedhe; bandhiṣyati, bhantsyati; baddha; baddhum; bandhitum; baddhvā〕. 繋ぐ; 拘束す; 縛す. (英. bind, band; 獨. band, bind-en).

Bandhana.〔中〕. 繋ぐこと; 拘束すること; 繩; 桎梏; 牢獄. (√bandh + ana).

Bandhu.〔男〕. 愛情にて心をつなぐもの (bandhnāti manah snehādīnā); 親族; 親朋.
-**hīna.**〔形〕. 親朋に見捨てられたる; 親朋なき.

Bala.〔中〕. 力; 甲兵; 佛典にては. 三十七菩提分法の一にして,

1. çrad-dhā-balam. 信力.
2. vīrya-balam. 精進力.
3. smṛiti-balam. 念力.
4. samādhi-balam. 定力.

5. prajāñā-balam. 慧力.

の細別あり. 疑を, 怠を, 邪念を, 散亂を, 疑をを除く力なり.

Bala-vat.〔形 -nt〕. 力ある; 強き.

Balavat-tama.〔形〕. 最も力ある.

Balavat-tara.〔形〕. 一層力ある.

Balāt.〔副〕. 強くて.

Balin.〔形〕. 力ある; 強き. (bala + in).

Baliṣṭha.〔形〕. 最も力ある; 最も強き. (bala + iṣṭha).

Baliyas.〔形 -yāms〕. 一層力ある. (bala + iyas).

Balonmatta.〔形〕. 力に慢ぜる. (bala + unmatta).

Bāhiṣkārya.〔形〕. 外にせらるべき; 疎外せらるべき; 破門せらるべき. (bahiṣ + kārya).

Bahiṣkṛita.〔形〕. 疎外せられたる.

Bahis.〔副〕. 外に; 外へ.

Bahiya.〔形 -yāms〕. 一層多き; より多き. (bahu + iyas. §121. §164. 2).

Bahu.〔形〕. 多き. (希. bathys).

-**dhanika.**〔形〕. 富人多き.

Bahudhā.〔副〕. 多様に; 數倍に; 種々の方法にて. (bahu + √dhā).

Bahu-putrika.〔形〕. 多く女子ある.

√**bahu-man.**〔動〕. 多しと思ふ; 尊重す. ātmārañ bahumanyate. 己を多しとす; 己を尊重す; 自得す.

Bahu-māna.〔男〕. 尊重. (bahu + √man + a).
-**purahsaram.**〔副〕. 先づ尊重して先づ禮を盡して; 尊重せるのち.

Bahu-mūlya.〔形〕. 價多き.

Bahu-vacana.〔中〕. 複數; 多言聲.

Bahu-vrihi.〔形〕. 多く米を有する. -〔男〕. 有財の複合詞.

Bāṇa.〔男〕. 矢; 箭.

√**bādh.**〔動. 1. 爲己. bādhatē; babādhe; abādhiṣṭa; bādhiṣyate; bādhiṣṭa; badhitum〕. 迫る; 究迫す; 迫害す; 苦める; 惱す; 害す.

Bādha.〔男〕. 迫害; 害. (√bādh + a).

Bāndhava.〔男〕. 親族; 親朋. (bandhu).

Bāla.〔形〕. 幼き; 愚なる; 無智の. -〔男〕. 童兒; 童蒙.

Bālaka.〔男〕. 童子; 男子.

-**samipa.**〔中〕. 童兒の傍.

Bālā.〔女〕. 女兒.

Bālāpatya.〔中〕. 幼稚なる子孫; かよはき雛. (bāla + apatya).

Bālikā.〔女〕. 女兒.

Bālya.〔中〕. 童兒の時代; 幼稚の時代. (yauvana を見よ).

Bāhu.〔男〕. 腕.

Bāhya.〔形〕. 外の; 外部の.

Bidāla.〔男〕. 猫.

Bimba.〔男〕. 映像; 日月の圓影.

Bija.〔中〕. 種子.

Buddha.〔形〕. 目を覺ませる; さめたる; 悟れる. -〔男〕. 佛陀; 覺者. (√budh + ta).

-**kṣetra.**〔中〕. 佛國.

-**kṣetra-guṇa-vyūha.**〔男〕. 佛國の功德の集列; 佛國の功德の莊嚴.

Buddha-tva.〔中〕. 佛の位; 佛果.

Buddha-parigrihita.〔形〕. 諸佛の擁護せる; 諸佛の攝受せる.

Buddha-manasi-kāra.〔男〕. 諸佛を心にすること; 諸佛を念すること.

Buddhānusrīti.〔女〕. 諸佛を憶念すること.

と. (buddha + anusmṛiti).

Buddhi.〔女〕. 慧; 智. (√budh + ti).

-**prabhāva.**〔男〕. 智慧の力.

Buddhi-mat.〔形〕. と慧ある.

Buddhi-rahita.〔形〕. 智慧なき.

Buddhvā.〔連〕. 覺りて; 知りて. (√budh + tvā).

√**budh.**〔動. 1. 爲他. 爲己. 4. 爲己. budhati, -te; budhyate; bubodha, bubudhe; abuddha; bhotsyati, -te; buddha; bodhum; buddhvā〕. 目をさます; 覺む; 悟る; 知る.

Brihaç-chilā.〔女〕. 巨嶽. (bṛihat + çilā).

Bṛihat.〔形 -nt〕. 大なる; 廣大なる.

Bṛihaspati.〔男〕. 祈禱を司る神; 智慧と辨説との神. (此の神は本來. 神人の關係を具體的にせるより設けし神なれば, 人間の意を神明に致すもの即ち祈禱の神にすぎざりしも, 後其の性質一變して, 智慧と辨説との神となれり. Hitopadeça の序詞に出でたるは, 即ち其の神の辨説と智慧とを讃してかく云へるなり. (bṛihas 祈禱 + pati).

Bodhi.〔女〕. 菩提; 覺; 道. (√budh + i).

Bodhi-sattva.〔男〕. 覺有情.

Bodhy-aṅga.〔中〕. 覺支; 菩提分; 七科道品の一種にして, 即ち三十七菩提分法の中にあり. 覺支に七あり.

1. smṛiti-sambodhy-aṅga. 念覺支.
2. dharma-pravicaya-sambodhy-aṅga. 擇(法)覺支.
3. vīrya-sambodhy-aṅga. 精進覺支.
4. prīti-sambodhy-aṅga. 喜覺支.
5. praçrabdhi-sambodhy-aṅga. 輕安覺支.
6. samādhi-sambodhy-aṅga. 定覺支.

7. upekṣa-saṁbodhy-aṅga. 捨覺支.

Baūddha. (形) 佛の—(男) 佛弟子; 佛教徒. (buddha).

Brahma-ghoṣa. (男) 梵音如來. (brahman + ghoṣa).

Brahma-carya. (形) 淨行; 梵志の修する行; 婆羅門の生涯中第一期の生活.

Brahma-cārin. (形) 淨行を修する.—(男) 梵志; 婆羅門四期の生活中第一期にありて、欲を斷ち、吠陀を修習し、一意梵天に關する智識を得るに務むる時代の學生なり.

Brahman. (中) 祈禱; 吠陀; 淨行; 梵天に關する智識—(男) 祈禱者; 婆羅門; 梵天.

Brahma-pura. (中) 都城の名.

Brahmāraṇya. (中) 林の名 (brahma + araṇyā).

Brāhmaṇa. (男) 婆羅門. (brahman + a).

Brāhmaṇī. (女) 婆羅門の婦.

Brāhmaṇya. (形) 婆羅門の.

Brāhmī. (女) 梵天の妃; 辨才天; 言說辭令の神; 梵字; 梵經書. (brahman + ī).

√brū. (動. 2. 爲他. 爲己. bravīti, brūte) 此の動詞は現在語基以外の語基を有せず故に現實法の現在第一過去、命令法、可能法の現在を除けば、其の他に於て使用せらるゝことなし. 語る; 云ふ; 告ぐ. (人の業格又は爲格を伴ひ、物の業格を伴ふ).



भ. bh.

Bha. (男) 名詞變化に於ける弱語基の名稱
√Bhakṣ. (動. 1. 10. 爲他. 爲己. bhakṣati; bhakṣate; bhakṣayati, -te; bhakṣita; bhakṣitum). 食す; 喰ふ; 咬む.

Bhakṣa. (形) 食する.—(男) 食する人. (√bhakṣ + a). (希. phag-os).

Bhakṣaṇa. (中) 食すること. (√bhakṣ + ana).

Bhakṣaṇīya. (形) 食せらるべき. (√bhakṣ + aṇīya).

Bhakṣayitum. (不定) 食すべく.

Bhakṣayitvā. (連) 食して.

Bhakṣita. (形) 食せられたる. (√bhakṣ + ita).

Bhakṣitavya. (形) 食せらるべき (√bhakṣ + itavya).

Bhakṣyamāṇa. (形) 食せらるゝ.

Bhaga. (男) 部分; 天賦; 福德; 運命; 幸福; 威力; 榮光; 熾盛; (√bhaj + a).

Bhagavat. (形) 福德ある; 榮光ある; 幸福ある; 尊き. (bhaga + vat). (此の語は、神仙又は尊貴の人に對して用ふる敬語にして、佛教にては佛を呼ぶに用ふ、所謂薄伽梵是れなり. 佛地論等にては此の語に六種の意義ありとせり. 六義とは 自在、熾盛、端嚴、名稱、吉祥、貴尊を云ふ. 佛教以外の文學にも、此の語に六義ありと云へり. 即ち āṅgavārya 自在, dharmā 正義,

vairagya 離慾, cī 吉祥, yaças 名稱, mokṣa 解脱 是れなり. 二者を比較するに、略ぼ相同じきを覺ゆ.

Bhagna. (形) 摧破せられたる、打割られたる. (√bhañj + na).

Bhagnāca. (形) 望を失へる; 希望を空しくせる. (bhagna + ācā).

Bhaṅga. (男) 摧破; 破壊; 崩壞. (√bhañj + a).

-bhaya. (中) 破壊を恐るゝこと.

√bhaj. (動. 1. 爲他. 爲己. bhajati, -te; babhāja; bheje; abhākṣit; abhakta; bhajīsyati, -te; bhakta; bhaktum; bhaktvā). 分割す; 分與す; 賦與す; 分配を受く; 苦樂を享受す; 擇ぶ; 歸す; 敬す; 親む.

√bhañj. (動. 7. 爲他. bhanakti; babhañja; abhāñkṣit; bhañkṣyati; bhagna; bhañktvā). 摧破す; 打割る; 崩壞す; 破壊す.

Bhaṭṭāraka. (男) 神の名; 神仙等に對し用ふる尊稱. (bhartri の俗語たる bhaṭṭāra + ka).

-vāra. (男) 日曜日.

√bhaṇ. (動. 1. 爲他. bhaṇati; bhaṇita). 語る; 云ふ; 述ぶ.

Bhaṇita. (形) 語られたる; 云はれたる.

Bhadra. (形) 幸ある; 吉祥ある; 有徳の; すぐれたる; 樂き.—(中) 幸福; 吉祥. (√bhand + ra). bhadraṁ te 御身には吉祥あれ.

√bhand. (動. 1. 爲己. bhandate). 吉事を告ぐ; 喜ぶ; 吉なる; すぐれたる.

Bhaya. (中) 恐怖; 危險; 禍害 (常に從格を伴ふ). (√bhī + a).

-vyākulita. (形) 恐怖の爲に心亂れたる; 恐怖の爲に狼狽せる.

Bhara. (形) 負へる.—(男) 負擔; 負荷; 重荷. (√bhṛi + a).

Bharata. (男) 十車王の子にして、Rāma の異母弟なり. Rāmāyaṇa を見よ.

-varṣa. (男) プハラタ王の國土; 印度の國.

Bharadvāja. (男) 頗羅墮縛闍.

Bhartri. (男) 負ふもの; 扶持するもの; 養ふもの; 主; 夫. (√bhṛi + tri).

Bhava. (形) 生るゝ; 發生する (複合詞の後節に来るとき). —(男) 生; 存在. (√bhū + a).

Bhavat. (形-nt). ある; 存在する.—(代) 御身; いまし.

Bhavatu. (動. √bhū の命令法. 爲他. 第三人稱. 單數). それをしてあらしめよ; さもあらばあれ; よし.

Bhavat-putra. (男) 御身の子.

Bhavat-sakāca. (男) 御身の目前; 御身の傍.

Bhavad-āhārārtham. (副) 御身の食物の爲に. (bhavad + āhāra + artham).

Bhavana. (中) 住居; 家屋.

Bhavaṇīya. (形) 發生せらるべき; 生るべき; 存在せらるべき.

Bhavitavya. (形) 同上.

Bhavitavya-tā. (女) 存在せらるべき状態; 發生すべき所以.

Bhaviṣyat. (形) 存在すべき; 發生すべき; 未來の.—(中) 未來の事; 未然の事.

Bhaviṣyad-arthe. (副) 未然の事の爲に.

Bhavya. (形) 存在せらるべき; 生るべき; 未來の; 未然の; ふさはしき; 格好の; よき; 美なる; 幸ある.—(中) 未來; 結果; 幸福. (√bhū + ya).

Bhasman. (中). 灰; 灰燼.

Bhasmī-kṛita. (形). 灰燼させられたる.

√bhā. (動. 2. 爲他. bhāti; babhāu; bhāsyati; bhāta). 耀く; 光を放つ; 現る.

Bhāga. (男). 配分; 福分; 運命; (√bhaj + a).

Bhāgī-rathī. (女). 恒河; bhāgī-ratha の女. 恒河素と天上を流れて, 地上を流れず. bhāgī-ratha 王 苦行の功を積み. 漸く恒河の水を天上より地上に將來せり. 故に. 恒河を稱して bhāgī-ratha の女と云へるなり. yad bhāgī-rathena sā (gāṅgā) (ā) nīlā, tena bhāgī-rathī smṛitā 王は Rāma 王の遠祖にして, 日種の王なり. 王の曾祖を Sagara と云ふ. 六萬人の子あり. Sagara 王かつて. 事を以て Kapila 仙人を凌辱す. 仙人怒りて. 王の子を焚殺す. 死灰地下に堆積して. 其の靈天に上るを得ず. bhāgī-ratha 王これを憐み. 祖先の爲に. 自から苦行の功を積み. 恒河の水を天上より將來して. 地上を流れしめ. 更らに. 地下に導きて. 祖先の死灰を潤ほし. 其の水の功德によりて. 一切の業障を清め. 死者の靈をして. 天上に到るを得せしめたりと云ふ. 事備に Rāmāyaṇa の詩中. Bala-kāṇḍa に詳なり.

Bhāgya. (中). 分配せられたる物; 福分; 好運. (√bhaj + ya).

Bhāgyena. (副). 幸にも; 好運にも.

√bhāj. (動. 10. 爲他. 爲己). 分配す. (√bhaj の催).

Bhājana. (中). 容器; 器皿; 杯. (√bhaj + ana).

Bhāṇḍa. (中). 容器; 陶器; 瓶; 甕; 家具; 器具.

-purna. (形). 陶器にて満てる.

-bhaṅga. (男). 陶器を破碎すること.

-madhya. (中). 甕中.

Bhāṇḍāgāra. (男. 中). 器具を蔵せる倉庫; 寶庫; 寶藏. (bhāṇḍa + āgāra).

Bhāṇḍāgārika. (男). 守蔵の吏.

Bhānu. (男). 耀くもの; 照臨するもの; 太陽. (√bhā + nu).

Bhārata. (男). bhārata の苗裔.

Bhārati. (女). 言説の神; 辨才天; sarasvati.

Bhārya. (形). 扶養せらるべき. (√bhṛi + ya).

Bhāryā. (女). 扶養せらるべき女; 婦; 妻.

Bhāva. (男). 發生すること; 存在すること; 状態; 性質; 感情.

-vācya. (男). 状態を示す動詞の調; 主辭不定の受動調. (215).

Bhāvin. (形). 存在する; 存在すべき; ...となるべき; 發生すべき; 未來の. (√bhū + in).

Bhāvya. (形). 存在せらるべき; 發生せらるべき; 生るべき.

√bhāṣ. (動. 1. 爲己. bhāṣate; babhāṣe; abhāṣiṣṭa; bhāṣita; bhāṣitum). 語る; 云ふ.

Bhāṣita. (形). 語られたる. (中). 言語.

√bhās. (動. 1. 爲己. bhāṣate; babhāṣe; bhāṣita) 耀く; 照らす.

Bhās-kara. (男). 光をなすもの; 光の手を有するもの; 太陽.

√bhikṣ. (動. 1. 爲己. bhikṣate; bibhikṣe; bhikṣiṣye; bhikṣitum). 乞ふ; 食を乞ふ.

(√bhaj の希求相にして, 即ち「配分を得ばやと思ふ」の義より轉訛して, かく「食を乞ふ」の義となれり).

Bhikṣā. (女). 食を乞ふこと; 乞ひ得たる食.

Bhikṣārjita. (形). 食を乞ふて得たる. (bhikṣā + arjita).

Bhikṣu. (男). 乞士; 比丘; 薩婆.

Bhikṣuka. (男). 乞食するもの.

Bhikṣukāgamana. (中). 乞食の來ること. (bhikṣuka + āgamana).

Bhikṣu-saṅgha. (男). 比丘の衆.

√bhid. (動. 7. 爲他. 爲己. bhinatti, bhintte; bibheda; bibhīde; abhet; bhetsyati, -te; bhinna; bhettum; bhittvā). 摧破す; 分割す; 破壊す. (拉. findo. 余は繼目より割る).

Bhinna. (形). 摧破せられたる; 破壊せられたる. (√bhid + na).

√bhi. (動. 3. 爲他. bibheti; bibhāya; abhāṣit; bhesyati; bhīta; bhētum). 恐怖す. (常に從格を伴ふ). mā bhāṣis. 恐なせそ. (此の語は, 現實法第三過去單數第二人称の a-bhāṣis より來れるも, mā の語來れるを以て, 過去符の a をとり去りて. bhāṣis とせるのみ).

Bhīma. (形). 恐るべき; 恐ろしき. (√bhi + ma).

Bhīmāṭavi. (女). 恐るべき林.

Bhīṣ. (動. 10. 爲他. 爲己. bhīṣayati, bhīṣaye). 恐怖せしむ. (√bhi の催起相にして, 本來 bhīṣā のごとき名詞より來れるものならむ).

Bhīṣana. (形). 人をして恐怖せしむる; 恐を懐かしむる. (√bhiṣ + ana).

Bhīṣā. (女). 恐怖せしむること.

Bhukta. (形). 食せられたる. (1. √bhuj + ta).

Bhuktorvarita. (形). 食ひ餘ませる. (bhukta + urvarita).

1. √bhuj. (動. 7. 爲他. 爲己. bhunakti, bhunkte; bubhoja, bubhujе; abhujat; bhokṣyati, -te; bhukta; bhoktum). 食す; 享く (苦樂などを).

2. √bhuj. (動. 6. 爲他. bhujati; bubhoja; bhugna). 屈曲せしむ.

Bhuj. (形). 享くる; 食する. (通例複合詞の後節に來る).

Bhujam. (副). 屈曲して; 屈折して.

-gama. (形). 屈折して行く; (男). 蛇.

√bhū. (動. 1. 爲他. 爲己. bhavati, -te; babhūva, babhūve; abhūt; bhūgāt; bhaviṣyati, -te; bhūta; bhāvitum; bhūtvā).

あり; ...となる; 存在す; 發生す. (希. pho; 拉. fui; 英. be). (催). bhāvayati, -te.

Bhū. (女). 大地.

Bhūta. (形). ...となれる; 發生したる; 存在せる; 過去の. (中). 生物; 動物; 幽鬼; 惡鬼.

Bhū-tala. (中). 地上.

Bhū-pati. (男). 國守; 君王.

Bhū-pāla. (男). 國守; 君王.

Bhūmi. (女). 大地; 土地.

Bhūyas. (形-yāms). 一層多き; 増加する; 一層大なる. (bahu の比較級).

Bhūyīṣṭha. (形). 最も多き; 最も大なる. (bahu の最上級).

√bhūṣ. (動. 1. 爲他. 10. 爲他. 爲己. bhūṣati; bhūṣayati, -te; bhūṣita). 粧飾す; 莊嚴す; 嚴飾す.

Bhūṣita. (形). 嚴飾せられたる. (√bhūṣ + i + ta).

√bhrī. (動. 1. 3. 爲他. 爲己. bharati,-te; bibharti, bibharte; babhāra; abhārṣit; bhariṣyati; bhṛita; bhartum). 扶持す; 支持す; 負ふ; 荷ふ; 搬ぶ; 養ふ; 着る. (衣服などを).
 Bhṛita. (形). 扶持せられたる; 養はれたる.
 Bhṛitaka. (男). 奴僕; 臣僕.
 Bhṛitya. (形). 扶持せらるべき; 支持せらるべき.
 Bhetavya. (形). 恐怖せらるべき.
 Bhāirava. (形). 恐るべき. —(男). 獵夫の名.
 Bhāṣis. (動). √bhi.
 Bhojana. (中). 食ふこと; 食物. (1. √bhuj + ana).
 Bhos. (間投). ばい; ばい君よ. (§ 293).

(bhavat の單數呼格は bhavas にして, bhavas の略體は, bhos なり).
 √bhrañc. (動. 1. 爲己. 4. 爲他. bhrañcate; bhrañcyati, abhrañcat; bhrañṣta). 墮つ; 墜落す; 離る.
 √bhram. (動. 1. 4. 爲他. 爲己. bhramati,-te; bhramyati, bhrāmyati,-te; babhrāma; bhramiṣyati; bhrāntvā; bhrāmitum; bhrantum). 彷徨す; 遊行す; さまよふ; 思ひ惑ふ; 狼狽す.
 Bhraṣṭa. (形). 墮ちたる; 離れたる (√bhrañc + ta).
 Bhrāṭri. (男). 兄弟; (希. phrator; 拉. frater; 獨. bruder; 英. brother).
 Bhrāntvā. (連). さまよひて.
 Bhrāmyat. (形-nt). さまよひながら; さまよひつゝ.

म. M.

√ma. (代). 第一人称. 單數の語根にして, mad 等は, 此の語根より出でたるなり.
 Maṣṣikā. (女). 蠅蚊; 蜜蜂.
 Magadha. (男). 摩羯陀國; 摩羯陀國人.
 -deṣa. (男). 摩羯陀國.
 √majj. (動. 1. 爲他. 爲己. majjati,-te; mamajja; amajjit; māñk-yati,-te; majjiṣyati; magna). 沈む; 陥る; 身を投ず. (拉. mergo).
 Mañju. (形). 愛樂すべき; 美なる; 妙なる.
 -dhvaṅa. (男). 妙童如來.

-gri. (男). 文殊菩薩; 妙吉祥菩薩.
 Mañi. (男). 珠玉; 珠璣; 摩尼.
 -ratna-pratyupta. (形). 珠玉を鑲めたる.
 Mañḍapa. (男. 中). 小舎.
 Mañḍala. (中). 圓板; 圓形; 圈; 壇; 祭壇.
 Mat. (代). 第一人數單數の語基.
 Mati. (女). 慧; 智慧; 意見. (√man + ti). (希. metis; 拉. mens, ment-is).
 -prakarṣa. (男). 智慧すぐれたる業.
 Mat-pitri. (男). 余の父.

Matvā. (連). 思惟して. (√man + tvā).
 Mat-samīpa. (中). 余の傍.
 Matsya. (男). 魚.
 -kañkāla. (男. 中). 魚の骸骨.
 -traya. (中). 魚三疋.
 Mad = mat.
 √mad. (動. 1. 4. 爲他. madati, mādyati; mamāda; amādīt; madita; matta; maditum). 酔ふ; 狂す; 狂喜す; 歡喜す.
 Madiya. (形). 余の. (mat + iya).
 Madya. (中). 酒. (√mad + ya).
 Madya-pa. (男). 酒を飲むもの; 酔狂者. (madya + √pā).
 Mad-vacas. (中). 余の言.
 Mad-vidha. (形). 余風情の; 余のごとき輩の. (mat + vidhā).
 Madhu. (中). 蜜; 蜜漿; 人の名. (希. methy, meli; 拉. mel; 獨. meth; 英. mead).
 -lih. (男). 蜜を嘔むるもの; 蜜蜂. (madhu + √lih).
 Madhura. (形). 蜜のごとき; 甘き; 微妙なる. (madhu + ra).
 -vacana. (中). 甘言; 巧言; 柔軟の聲.
 Madhya. (中). 中間; 中. (希. mesos; 拉. medius; 英. middle; 獨. mitte).
 -cārin. (形). 中間をゆく.
 Madhyama. (形). 中ほどの; 中等の. (madhya + √mā).
 -puruṣa. (男). 第二人称. (其の位置. 第一人称と第三人称との中間に介すればなり).
 Madhyāhna. (男). 日中. (madhya + ahan).
 √man. (動. 4. 爲己. manyate; mene; amanista; manisyati, -te; mata; mantum;

matvā). 思惟す.
 希求相. mimānisate かれは思惟せばやと思ふ.
 Manas. (中). 意; 心. (√man + as). (希. menos; 拉. mens).
 Manasi-kāra. (男). 念すること.
 √manasi-kri. (動. 8. 爲他. 爲己. manasi-karoti. -kurute). 心になす; 想像す; 心に念す.
 Manasi-ja. (男). 心に於て生ずるもの; 戀.
 Manasvin. (形). 賢なる; 思慮ある; 注意深き. (√man + as + vin).
 Manusya. (男). 人間. (獨. mensch).
 Māno-jña. (形). 意に適す; 愛樂すべき. (manas + √jñā).
 Mano-ratha. (男). 願; 希望; (manas + ratha 心の喜).
 Mantavya. (形). 思惟せらるべき. (√man + tavya).
 √mantr. (動. 10. 爲己. mantrayate; mantrita). 誦思す; 考慮す; 咒文を誦す; 咒法を修す; 審議す.
 Mantra. (男). 眞言; 密咒; 咒法; 咒文. (vidyā 明咒に對す); 計策; 密議. (√mantr + a).
 -vādin. (形). 咒法を修する; 咒文を誦する.
 -sādhana. (中). 咒法を修すること; 咒法にて調伏すること.
 Mantrita. (形). 審議せられたる; 密議せられたる; 策を授けられたる. (√mantr + i + ta).
 Mantrin. (男). 咒法を修する人; 建策する人; 計策を授くる人; 大臣.

Mantri-vacana. (中). 咒法を修ずるもの言.
Manda. (形). 遅々たる; 徐々たる; 魯鈍なる; 低き; 微少なる; 乏き; 薄福の.
 -gati. (形). 行歩遅々たる.
 -bhāgya. (形). 薄福の.
Mandam. (副). 遅々として; 徐々として.
Mandara. (男). 山の名.
Mandādhara. (形). 敬意乏き; 意に介せざる; 等閑に附する. (manda + ādhara).
Mandāra. (男). 曼陀羅樹; 珊瑚樹 (此の樹は所謂天樹五種の一にして. 其の花は. 即ち曼陀羅華なり).
Mandāra. (中). 曼陀羅花. 適意花; 天妙華; 雑色花.
Mandārava. (中). 同上.
Mandāra-vatī. (女). 曼陀羅華のごとき女; 女の名.
Man-māmsa. (中). 余の肉.
Manyamāna. (形). 思惟する. (√man + ya + māna).
Mayūra. (男). 孔雀.
Marakata. (中). 綠玉.
Marāṇa. (中). 死すること, 死. (√mṛi + ana).
Maranātmaka. (形). 致死の; 致命の. (marāṇa + ātmaka).
Marici. (女). 陽燄.
 -mālā. (女). 陽燄の華鬘.
 -mālin. (形). 陽燄の華鬘を具する.
Maru. (男). 不毛の地; 生物の發育せざる土地 (mriyante 'smin bhūtāniti maruh); 水なき土地 (nirjala-deṣā); 旱地 (√mṛi + u). (拉. mare; 英. moor).
Marut. (男). 風; 風神.

Maru-sthali. (女). 水なき乾地; 旱地.
Markaṭa. (男). 猿猴.
Martavya. (形). 死せざるべからざる. martavyamiti 余は死せざるべからずとて; (√mṛi + tavya).
Marma-jña. (形). 身體中の急所を知れる; 急所を知れる; 秘密を知れる; 事實の真相を知れる; (marman + √jña).
Marman. (中). 急所; 致命の部分; 秘密; 事實の真相. (√mṛi + man).
Mala. (男. 中). 垢; 汚染. - (形). 汚れたる.
Maçaka. (男). 蚊.
Mahat. (形). 大なる; 勝れる; 長大なる; 衆多の; 強大なる; 重き; 貴き. (此の語は. 依主の複合詞の前節及び其の他の場合にも mahat の形を存すれど. 持業. 有財の複合詞の前節に来るときは. 變じて mahā となる).
Mahā. = mahat.
 -kapphina. (男). 大却資那.
 -kātyāyana. (男). 大迦旃延; kati の苗裔. (mahā + kati + ayana).
 -kāçyapa. (男). 大迦葉.
 -kula. (中). 高貴の門地.
 -kula-sambhūta. (形). 高貴の門地に生れたる.
 -kāuṣṭhila. (男). 大俱絺羅.
Mahātman. (形). 大なる心を具する; 大徳の; 宏量の. (mahā + ātman).
Mahā-dhana. (形). 財多き; 富める.
Mahāparādha. (男). 大なる罪過; 大過失. (mahā + aparādha).
Mahā-puruṣa. (男). 大丈夫; 佛.
Mahā-prabha. (男). 大明如來.

Mahā-prāna. (形). 多く氣息を有する; - (男). 含氣音. (gh, kh, jh, ch 等の音なり).
Mahā-bhārata. (中). 月種王族の王 bharata の苗裔 kaurava, paṇḍava 兩族の戦闘を歌ひし詩篇; 大マハラタ族の詩史.
 (Bharata 王の子を Hastin と云ふ. 古の所謂象王都 Hastinā-pura は Hastin 王の薙めし都なり. Hastin の子を Kuru と云ふ. Kuru 王の子孫相踵で象王都に君臨し. 傳へて Dhṛita-rāṣṭra, Pāṇḍu の兄弟に及べり. Dhṛita-rāṣṭra に男子百人あり. 長を Duryodhana と云ふ. 勇力あり. 人能く當るなし. Pāṇḍu 癩を患ひて子なし. 其の二妃諸神と通じて五子を生む. Pāṇḍu 養ふて己の子となす. 其の長を Yudhiṣṭhira と云ひ勇にして義あり. Kunti 妃の Yama 天と通じて生む所. 次を Bhīmasena と云ひ. 第三を Arjuna と云ふ. 又 Kunti の風神 vāyu 帝釋天 indra と通じて生む所なり. 他の二子を nakula 及び saha-deva と呼び madri 妃の aṣvini に通じて生む所なり. 此等五子を惣稱して pāṇḍava と云ふ. Pāṇḍu 王の子なるを以てなり. Duryodhana 等百人の兄弟を kaurava と云ふ. 蓋し其の遠祖 Kuru の名をとりてかく云へるなり.
 Mahā-bhārata の詩篇は. 此等從兄弟の間に起りし王位争奪の事歴を述べしものにして. 通篇十八節より成り. Rāmāyaṇa と共に. 印度の二大叙事詩と稱せらる.
Mahā-meru. (男). 大須彌如來; 大妙高山如來.
Mahā-māudgalyāna. (男). 大目捷連.
Mahā-yāna. (中). 大乘; 勝れる乗物.

-sūtra. (中). 大乘經.
Mahā-ratna-ketu. (男). 大寶幢如來.
Mahāroi-skandha. (男). 大炎肩如來.
Mahā-vikrama. (形). 大威力ある; 大勇力ある. - (男). 獅子の名.
Mahā-vidyā. (女). 大明咒.
Mahā-vira. (男). 大雄; 大丈夫; 韋紐神; 佛; 都城の名.
Mahā-çrāvaka. (男). 大聲聞.
Mahā-sattva. (形). 大勢力ある; 偉大の性質ある. - (男). 摩訶薩; 大士.
Mahā-siddhi. (女). 大通力; 大神通力.
Mahiṣa. (男). 水牛. - (形). 力大なる; 偉なる.
Mahiṣā. (女). 力大なる女; 后妃; 國王の大夫人; 水牛の牝.
Mahiṣṭha. (形). 最大なる; 最も偉なる. (√mah (-at) + iṣṭha).
Mahī. (女). 大地.
 -pati. (男). 國君; 君王.
Mahiya. (形-yānis). 一層大なる. (√mah (-at) + iyas).
Mahopakārin. (形). 大に利益を施す. - (男). 大恩人. (mahā + upakāra + in).
Mā. (不變). 勿れ; 努々...なわれ; (此の語の用法に三種あり. 1. 命令法と共に來る. 2. 可能法の現在と共に來る. 3. 現實法の第三過去より a の過去符を除きたるものと共に來る. mā(a)bhāsis. 努々恐れなせそ).
 √mā. (動. 2. 爲他. 3. 爲己. māti, mimitē, mīyate; mamāu, meme; amāsta; mita; mātum; mitvā). 計量す; 計度す; 製作す.
Māmsa. (中). 肉.

-ruci. (形) 肉を嗜める。
Mānsādi. (男) 肉等. (mānsa + ādi).
Mānsārthin. (形) 肉を求むる。
Mānsāhāra. (男) 肉食。
 -dāna. (中) 肉食を給すること。
Māgadhi. (女) 摩羯陀語。
Māgha. (男) 摩羯の月. (一月より二月に互る)。
 -māsa. (男) 同上。
Mātri. (女) 母. (√mā + tri). (希. meter; 拉. mater; 獨. mutter; 英. mother). (此の語の字義は. √mā + tri なること明白なるも、一家の爲に食を計量して給與するより、かく云へるものなるか、はた、兒孫を生むより、單に製作者なる義より、かく呼びしものなるか判定せず)。
Mātri-vat. (副) 母のごとく。
Mātra. (中) 計量; 計量の器; 分量; 容積; 尺度. (一) (形) ...程の; ...ばかりの. (複合詞の後節に来るとき). (√mā + tra). (希. metron; 拉. ma-teries).
Mātrā. (女) 同上。
Mādhava. (形) madhu の. (男) madhu の苗裔; 婆羅門の名。
Māna. (男. 中) 尊敬; 禮拜; 供養; 僞慢. (√man + a).
Mānayat. (形) 尊重する. (māna の擬名詞相現在分詞)。
Mānasa. (形) 心の; 意の. (中) 心。
Mānuṣa. (男) 人. (獨. mensch).
Māndāra. (形) 曼陀羅樹の. (mandāra iva に同じ)。
 -puspa. (中) 曼陀羅華。
Mārakata. (形) 綠玉の. (女) mārakati.
Māra. (男) 死せしむるもの; 殺すもの;

兇惡のもの。
Mārātmaka. (形) 害心ある; 凶惡なる. (māra + ātmaka).
Mārga. (男) 道。
Mārgācṛita. (形) 途を往ける. (mārga + ācṛita).
Mārja. (形) 研ぐ; 拭ふ. (√mṛj + a).
Mārjāra. (男) 猫; 山猫. (mārja + ra).
Mālava. (男) 國の名。
Mālā. (女) 華鬘。
Mālin. (形) 華鬘を選へる。
Māsa. (男) 月。
 -catuṣṭaya. (中) 四ヶ月。
Mita. (形) 計量せられたる; 限量ある。
Mitra. (中) 友. (一) (男) 神の名; 太陽. -bhāva. (男) 友たる状態。
 -lābha. (男) 友を得ること。
 -ṣarman. (男) 婆羅門の名. (ṣarman を見よ)。
Mithas. (不變) 相互に; 共に。
Mithya. (形) 虚偽の。
Mithyatva. (中) 虚偽の状態; 虚偽の性質. (mithyātva を云ふを可さす)。
Mithyā. (副) 虚偽の方法にて; 偽りて。
 -vādin. (形) 虚言する。
Mithyopacāra. (男) 虚偽の親切; 偽りの扶助。
√mil. (動. 6. 爲他. 爲己. melati, melate; mimela; miliṣyati; milita; militvā). 會す; 集る; 群る. (拉. mille, milia 千; milit-es 兵衆; 英. mile 千歩)。
Militvā. (連) 集りて。
Mina. (男) 魚。
Mukta. (形) 解かれたる; 免れたる; 離れたる. (√muc + ta).

Mukti. (女) 解脱. (√muc + ti).
Mukha. (中) 口; 面; 門。
 -vyādāra. (中) 口を開くこと; 欠伸すること。
√muc. (動. 6. 爲他. 爲己. muṣcati, -te; mumoca, mumuce; amucat; mokṣyati, -te; mukta; moktum). 解く; 免る; 免るす; 救ふ; 離る; 離す; 放つ; 抛ぐ. (鎗など). (催). mocayati, -te. 免れしむ; 放す。
√mud. (動. 1. 爲己. modate; mumude; modiṣyate; mudita). 喜ぶ。
Mudgala. (男) 古仙人の名; 古聖賢の名 (māudgalyāna を見よ)。
Muni. (男) 聖者; 隱者; 口を閉じて寂黙の戒を守る人. (māuna を見よ)。
Mumūrṣu. (形) 死せむとする. (√mṛi の希求相)。
Muṣka. (男) 鼠。
 -dvaya. (中) 二個の鼠丸。
Musāra-galva. (男) 珊瑚. (漢譯には種々の音譯あり. 摩娑羅伽娑; 牟娑羅羯娑; 牟娑羅揭娑; 目娑邏伽羅娑等是れなり. 義譯も區々にして、車渠; 紫色寶; 紺色寶等あり)。
√muh. (動. 4. 爲他. 爲己. muhyati, -te; mumoha, mumuhe; amuhat; mohiṣyati; mugdha; mūḍha). 失神す; 知覺を失す; 昏絶す; 惘然自失す; 痴愚となる。
Muhus. (副) 忽然; 倏忽の間; 再び。
Muhur-muhur. (副) 再三; 時々。
Muhūrta. (男. 中) 轉瞬の間; 須臾; 短時間。
Mūḍha. (形) 知覺を失へる; 愚昧なる; 痴愚なる。

Mūtra. (中) 小便; 尿。
Mūrka. (男) 愚人。
Mūrka-tva. (中) 愚昧。
Mūrdhan. (男) 前額; 頭; 頂端。
Mūrdhanya. (形) 頂端にある; 頂端より生ずる. (一) (男) 舌頭音; 舌の頂端と上顎の前方との間に生ずる音; 舌音 t, th, d, dh, n, ṅ, ṣ の音)。
Mūla. (中) 根本。
Mūliya. (形) 根本の; 根本より生ずる。
Mūlya. (中) 代價。
Mūṣika. (男) 鼠。
 -nirviṣeṣa. (形) 鼠と差別なき。
 -cāvaka. (男) 鼠子。
√mṛi. (動. 6. 爲己. mriyate; mamāra; amṛita; mriṣyati; mṛita; martum; mṛitvā). 死す. (拉. mor-i, mors; 英. murder; 獨. mord). (催). mārāyati, -te. 死せしむ; 殺す。
Mṛiga. (男) 獸; 鹿。
Mṛigayā. (女) 狩獵。
√mṛij. (動. 2. 爲他. 10. 爲他. 爲己. mārṣti; mārjayati, -te; mamārja, mārjayān cakāra, cakre; amārjit; amārṣit; amamārjat; amamārjata; mārṣyati, -te; mārjayiṣyati, -te; marjitum, mārṣtum; mārjayitum; mṛiṣṭa, mārjita). 研ぐ; 拭ふ。
Mṛita. (形) 死せる. (一) (男) 死人. (√mṛi + ta).
Mṛitaka. (中) 死屍; 屍骸。
Mṛita-bhartṛi. (男) 死せる夫。
Mṛita-bhartrika. (形) 夫死せる. (一) (女) 寡婦。
Mṛita-vat. (副) 死せるごとく。
Mṛita-vatsa. (男) 死せる愛兒; 死せる續

Mrita-vadhū. (女) 死せる婦。
Mrita-vadhūka. (形) 婦死せる。—(男) 鰥夫。
Mrita-samjīva. (形) 起死回生の。
Mṛityu. (男) 死。
√mṛiç. (動) 6. 爲他。爲己。mṛiçati, -te; mamarça, mamriçe; amṛiçat; mṛiṣṭa; marṣṭum). 觸る; 握る; 研ぐ。研究す; 思考す; 熟慮す。
Megha. (男) 雲。
Meru. (男) 山の名; 須彌山; 彌樓山; 妙高山。(sumeru に同じ)。
-dhvaja. (男) 須彌相如來; 妙高山幢如來。
-pradīpa. (男) 須彌燈如來。
-prabhāsa. (男) 須彌光如來; 妙高山光如來。
Melaka. (男) 集會。(√mil + aka).
Māitri. (女) 友誼; 友情。慈悲。
Māitreya. (男) mitra の苗裔; 慈氏の子。
Mokṣa. (男) 解脱。(√muc + sa).
Mocayitvā. (連) 解きて; 免れしめて; 脱せしめて。(√muc の儘 + i + tvā).
Mocita. (形) 放されたる; 解かれたる。
Moha. (男) 愚; 痴愚。(√muh + a).

Māudgalyāyana. (男) mudgala 姓の人。(mudgala + āyana).
Māuna. (中) 寂黙。
Māuriya. (形) 孔雀王朝の。—(男) chandra-gupta の胤めし王朝の王。(此の語の根源に關しては、議論區々にして定説なし、支那にては、これを孔雀王朝と譯せるより見れば、mayūra 孔雀なる語より來れるものとなせるなり、是れ一理ある見解なり、蓋し mayūra の語が一旦俗語となりしを、更らによせて梵語とせば、māuriya のごとき構造となるを得べければなり、例へば、pāli 語にては、孔雀は moro (a) にして、劇曲に用ふる俗語にては、moro 又は mauro なれば (vararuci の prākṛita-prakāṣa. I. 8.). 孔雀王朝と云はむとする時は、此等俗語を直ちに梵語の語法により改めて、māuriya 又は māuriya とするがごとし、巴利語にては、moriya と云ふを得べし。
-alphabet. māuriya 王朝の用ひし文字。(阿育王が māuriya 王朝の王なるが故にかく云へるなり)。
Māurya. (男) māuriya に同じ。
Māulya. (中) 代價。—dā. 代價を償ふ。

Ṛ. Y.

√ya. (代) yat の語根 (ya の yat に於けるは、ta の tat に於けるがごとし。本來の意義よりすれば、yat の語基と云ふも可なり。yas, yam, yena, yasmāi 等は畢竟 ya の語基に s, m, ena, smāi 等を附加せるにすぎず)。
Yakṣa. (男) 夜叉; 藥叉; 閼叉。(鹿沙門

天又は kuvera の從僕にして、其の命を受け、財寶を守る鬼なり)。
Yakṣevara. (男) 夜叉の王。(kuvera を云ふにありて、此の神は北方を主宰し、kāilasa の山頂に宮殿を築き、富の神たり)。(yakṣa + icvara).
Yañ-anta. (形) ya の語基構成音に終る。

-dhātu. (男) ya の語基構成音に終る動詞相; 動詞の重複相。
√yaj. (動) 1. 爲他。爲己。yajati, -te; iyāja; ije; ayākṣit; ayaṣṭa; yakṣyati, -te; iṣṭa; yaṣṭum; iṣtvā). 祭る; 供養す (物の具格と人の業格とを伴ふ。ghṛitena devam-yajati. かれは酥を以て神を祀る)。
Yajamāna. (男) 祭主; 祭祀の施主。—(形) 祭る。
Yajur-veda. (男) 夜珠韋陀。
Yajus. (中) 祭祀; 供養; 供養祭祀の事を載せたる韋陀。
Yajña. (男) 供養; 祭祀。(√yaj + na).
-cehāga. (男) 祭祀に用ふる山羊。yajña + chāga).
Yat. (代) yad に同じ。
√yat. (動) 1. 爲他。爲己。yatati -te; yete; ayatiṣṭa; yatiṣyati, -te; yatita; yatta; yatitum). 努む; 努力す。
Ya-tas. (副) 接。...より; ...の故に。yatas...tena. ...の故に... その故に。yatas...tat. 同上。yatas...atas. 同上。
Yatna. (男) 努力; 注意; 恪勤。yatne kṛite 努力したるのち。dhanārjane yatnam kṛi 財を得るに力を効す。(√yat + na).
Yatnāt. (副) 努力して; 骨折りて。
Ya-tra. (副) 接。...する所には; ...する場合には; ...する時には。yatra yatra 如何なる場合にも。
Ya-thā. (接) 副) 1. ...の如く; 2. ...する爲に、...する様に。(此の場合には現實法の現在、未來又は可能法の現在を伴ふ)。
3. ...すること。(此の場合には、知る、語

る等の義ある動詞の後に來る)。
1. yathā vṛikṣas tathā phalam. 樹のごとく。果又然り。
2. yathā svāmī jāgarīṣyati tathā mayā kartavyam. 主人の目を覺ます様(爲に)余はなすべし。
yathā yathā..tathā tathā.. すればするに隨ふて; その様に。evam-yathā するごとく。そのごとく。
Yathā-kartavya. (形) なさるべきがごとく; 然るべき様に; よしなに。
Yathā-kāmam. (副) 己の求むるごとく; 己の欲するごとく; 徐々に。
Yathābhīmata. (形) 己の好む如く。(yathā + abhīmata).
-deça. (男) 己の好む地方。
Yathābhīṣṭa. (形) 己の希ふごとき; 己の望むごとき。(yathā + abhīṣṭa).
-diç. (女) 己の好む方向。
Yathā-vogyam. (副) 宜きに從ふて; 便宜に從ふて。
Yathārtha. (形) 眞義のごとき; 眞實の。—(中) 眞實。(yathā + artha).
Yathā-vidhi. (副) 式のごとき; 法のごとき。
Yathā-çakti. (副) 力に應じて; 力を盡して; 力に任せて; 爲し得るだけ。
Yatheçham. (副) 己の欲するごとく; yathā-kāmam に同じ。(yathā + icchā).
Yathocitam. (副) 宜きに從ふて; 然るべきやう。(yathā + ucita).
Yad. 1. (關) 代) ...する; ...なる; ...ある。yad...tad. 凡そ...は... そのものは。
2. (接) ...する故に; ...する時は; すること; するほど。

yad...tad. ...すれば; ...その時は; ...の故に ...その故に.
 yad...tasmāt. ...する故に; ...その故に.
 yad...tatas. ...するときは; ...それより.
 yad yad...tat tat. 何物にても...すれば; ...そのものは.
 etādriṣa...yad. ...するほど; ...しかく.
Ya-dā.〔接〕...する時は.〔√ya+dā〕.
 yadā...tadā. ...するときは; ...そのときは.
 yadā...tatas. ...するときは. ...それより.
 yadā...atha. ...するときは. ...それより.
 yadā yadā...tadā tadā. 何時にても...すれば; ...そのとき毎に.
Ya-di.〔接〕. 倘し...せば; 倘し...あらば.
 yadi...tadā. 倘し...せば, そのときは.
 yadi...tad. 倘し...せば, そのときは.
 yadi...tarhi. 同上.
Yad-bhaviṣya.〔男〕. 魚の名. (yad bhaviṣyati tad bhaviṣyati 凡そ生ぜむとするものは. 生ずべし; 凡そ來らむとするものは必ず來るゝの義なり).
√yam.〔動. 1. 爲他. yacchati; yayāma; ayāmsit; yaṁsyati; yata; yaṁtum; yamitvā〕. 制抑す.
Yama.〔男〕. 琰魔天.
 -loka. 〔男〕. 冥界; 琰魔界.
Yavana.〔男〕. 希臘人; 大秦の人. (此の語の意義に關しては. 多少論争あるを免れざるも 其の希臘人を指せるものたるや疑なし. 阿育王の碑文の中にも Iona の語あり. Iona の梵語は即ち yavana なり. 何故に希臘人を Iona と呼びしかば. 不明なるも Ionia の希臘植民地が. 古代に於て最も有名なりしより其の名をとりしものならむ).

Yaçah-prābhasa.〔男〕. 名聞光如來.
Yaças.〔中〕. 名聞; 名譽; 聞譽.
√yā.〔動. 2. 爲他. yāti; yayāu; ayāsit; yāsyati; yāta; yātum〕. 往く; 到る.〔催〕. yāpayati, -te. 往かしむ; 遣す; 送る; 日を送る (kālam); 生存す. devatvāṁ yāti. 神祇の位に到る. pātratāṁ yāti. 供養を受くる位に至る.
√yāc.〔動. 1. 爲他. 爲己. yācati, -te; yayāce; ayācīṣṭa; yācīṣyate; yācita; yācīṣitum; yācitvā〕. 乞ふ (物の業格と人の從格又は業格を伴ふ).
Yācitvā.〔連〕. 乞ふて.
Yātrā.〔女〕. 進行; 行列; 祭禮の行列; 行賽.〔√yā+tra〕.
 -prasaṅga. 〔男〕. 祭禮に赴くこと; 祭禮の行列に加はること; 行賽に赴くこと.
 -prasaṅgena. 〔副〕. 行賽の爲に; 祭禮の爲に.
Yā-driç.〔形〕. ...のやうなる; ...のごとき. (ya+√driç). yādriç...tādriç. ...のごとき; しかく.
Yāna.〔中〕. 往くこと; 行列; のりもの.
Yāpayati.〔動. √yāを見よ〕. 往かしむ; つかはす; 送る; 日を送る; 生存す. kālam (divasāu) yāpayati 時(日)を送る; 生存す.
Yāvaj-jīvam.〔副〕. 一生涯. (yāvat+jīva).
Yāvat. 1. 〔形〕. ...するだけ. 2. 〔副. 接〕. ...する間は; ...するだけ; ...するや否や. yāvat...tāvat. 3. 〔關〕. ...に及ぶまで; 乃至; ...の限り. (常に業格を伴ふ). yāvat+jīvam. 一生涯のごとし.
Yukta.〔形〕. 結合せられたる; 賦與せられたる; 相應せる; ふさはしき; 可なる; 適

する.〔√yuj+ta〕.〔希. zeyktos; 拉. jux(ks)ta, justus; 英. just〕.
√yuj.〔動. 7. 爲他. 爲己. yunakti; yuikte; yuyoga; yuyuje; ayukta; yoksyati, -te; yoktum; yuktvā〕. 軛を付す (牛などに); 鞍をねく (馬などに); 牛馬を繋ぐ (車などに); 置く; 定む; 人を官職に任ず; 準備す.〔受. 動〕. yujyate. 準備せらる; 適合す; 相應す.〔催〕. yojayati, -te. 装置す; 準備す.〔希. zeygnomai; 拉. jungo; 英. yoke; 獨. jochen〕.
Yuddha.〔形〕. 戦へる. —〔中〕. 戦闘.〔√yudh+ta〕.
√yudh.〔動. 4. 爲己. yudhyate; yuyudhe; yotsyate; yuddha; yoddhum〕. 戦ふ.
Yudh.〔女〕. 戦闘.
Yudhi-ṣhira.〔形〕. 戦闘に於て強き; 陣に臨みて勇なる. —〔男〕. 踰地師絺羅. (mahābharata を見よ).
Yuvan.〔形〕. 〔強. yuvān, 中. yuvan, 弱. yūn〕. 少壯の. (拉. juven-is).
Yuṣmat.〔代〕. 汝等.
Yūtha.〔男. 中〕. 群; 畜群.
 -pati. 〔男〕. 畜群の主.
Yena.〔接〕. ...する故に, ...する爲に. yena...tena. ...の故に, その故に.
Yoga.〔男〕. 連合すること; 接合; 適合;

相應; 關係; 影響; 都合 (複合詞の末尾に來るとき). vidhi-yogāt. 運命の關係よりして; 運命の然らしむる所; 哲學宗教の一派の名; 瑜珈哲學 (默思靜觀により. 又種々の苦行により最高の實在と合體するを目的とする哲學にして. 其の本來の目的よりすれば. 極端なる神祇主義の哲學にして. 此の目的を達する爲に. 種々の觀行を説くものたり).
Yogin.〔形〕. 瑜珈の行をなす. —〔男〕. 瑜珈の行者; 妖術者.
Yogya.〔形〕. 相應する; 適合する; 宜き; 可なる.〔√yuj+ya〕.
Yojana.〔中〕. 由旬 (4 俱盧舎に當る. 故に英里八九哩なり).
Yojanārdha.〔男. 中〕. 半由旬; 半踰繕那. (yojana+ardha).
Yojita.〔形〕. 装置せられたる; 準備せられたる. √yuj の催 +i+ta).
Yotsyati.〔動. √yudh を見よ〕. かれ戦はむとす.
Yoddhri.〔男〕. 戰士.〔√yudh+tri〕
Yāuvana.〔中〕. 青年の時代; 少壯. (yuvan+a). (此の語は bālya と同じからず bālya は. 未だ幼稚なる時代にして年齢未だ十四五歳に達せざるを云ひ. yāuvana は其の後の時代を云ふ).
 -daçā. 〔女〕. 青年時代.



Rakta. (形). 染まれる; 赤き. (√raj + ta).

Rakta. (中). 血.

-vilipta. (形). 血に塗れたる.

√raks. (動. 1. 爲他. 爲己. rakṣati, -te; rarakṣa; rakṣita; rakṣitum). 守る; 捍護す; 拒ぐ. (常に從格を伴ふ).

Rakṣaka. (男). 守兵; 番人. (√raks + aka).

Rakṣaṇa. (中). 守護. (√raks + ana).

Rakṣaṇopāya. (男). 守護の方便. (rakṣaṇa + upāya).

Rakṣas. (中). 羅刹. (kuvera の從屬にして、常に塚間に出没し、晝隠れて夜往き、生肉を割きて啖む、善く形を變じて聖者の淨行を妨害す、所謂陰鬼の一種なり).

Rakṣā. (女). 守護.

Rakṣārtham. (副). 守護の爲に.

Rakṣita. (形). 守られたる.

Raṅga. (男). 色. (√raj 又は rañj + a).

√raj. (動. 1. 4. 爲他. 爲己. rajati, -te; rajyati, -te; rarañja, rarañje; rakta). 染まる; 赤くなる; 愛着す; 執着す; 戀慕す.

Rajaka. (男). 染絲者; 浣衣者. (古代印度にては、染絲者は浣衣の業を兼ねたり). (√raj + aka).

Rajani. (女). 夜.

Rajju. (女). 網; 紐.

√rañj. (動. 1. 4. 爲他. 爲己). √raj に同じ.

Raṇa. (中). 戦闘; 戰陣.

Raṇḍā. (女). 寶春の婦女; 淫婦. (婦女を罵るときに用ふる語).

Ratna. (中). 寶; 珠玉; 珠璣.

-kusuma-sampuspita-gātra. (男).

雜色寶華嚴身如來.

-vrikṣa. (男). 寶樹.

-samūha. (男). 珠玉の堆積.

Ratnotpala-cri. (男). 寶華總如來.

Ratha. (男). 車; 軍車.

√rabh. (動. 1. 爲己. rabhate; rebhe; rabdha; rabdhum). 始む; 着手す; 捉ふ; 企圖す. (催). rambhayati, -te; (希. ripsate. 拉. labor).

√ram. (動. 1. 爲他. 爲己. ramati, -te; rāma, reme; aramsit, aramsta; ramṣyate; rata; ramtum; ramtvā). 樂む; 親む; 愛樂す; 止息す. (催). ramayati, -te. 樂ます.

Ramaniya. (形). 愛樂せらるべき.

√rambh. (動. 1. 爲己). √rabh に同じ.

Rava. (男). 叫喚. (√ru + a).

Ravi. (男). 太陽.

√ras. (動. 10. 爲他. 爲己. rasayati, -te; rasita). 味ふ.

Rasa. (男). 汁液; 津液; 味.

Rasana. (中). 味; 味ふこと. (√ras + ana).

Rasanā. (女). 味ふもの; 舌.

Rākṣasa. (形). 羅刹の; (男). 羅刹; 惡鬼.

Rāga. (男). 色; 愛着; 淫欲; 音色 (樂器などの); 慾望. (√raj + a).

√rāj. (動. 1. 爲他. 爲己. rājati, -te; rāja, reje; rājita). 光を放つ; 彰はる; 統治す; 王者とする. (拉. rego).

Rāj. (男). 王者.

Rāja-kula. (中). 王族; 王家; 王宮; 法廷. (rājan + kula).

Rāja-grīha. (中). 王舍城; 都城の名.

Rājan. (男). 統治者; 王; 國王; 國君. (√rāj + an). (拉. reg-s).

Rāja-putra. (男). 王子; 刹帝利種の人. (現時印度語に rajput の語あり. 是れ rāja-putra の訛略のみ).

Rāja-putri. (女). 王女; 國王の女.

Rāja-puruṣa. (男). 王臣; 王の吏; 官吏.

Rāja-pratigraha. (男). 國王の賜與.

Rāja-sāinya. (中). 王の甲兵.

Rājya. (中). 王位; 國土; 領土. (√raj + ya).

-kriyā. (女). 政務; 國務.

-lobha. (男). 王位を得むとする慾望.

Rātra. (中). 夜.

Rātri. (女). 同上.

√rādh. (動. 5. 爲他. 4. 爲他. rādhnōti; rādhyati; rārādha; arātsit; rātsyati; rāddha; rāddhvā). 榮ふ; 樂む; 歡ぶ. (催). rādhyati, -te. 歡ばす; 樂ます.

Rāma. (男). 藍摩; 羅摩; 王の名. (王は難勝城 ayodhya の王十車王 daça-ratha の長子にして、其の先は、遠く日種の王 Rāghu に出づ、Rāma を稱して時ありて Rāghava と云ふは、即ち其の遠祖の名をされるなり、父王十車王には、三夫人及び數百の妾媵あり、皆子なし、王これを憂ひて、天に祈る、韋紐天これを見て、雲に駕して天上より降り、手に金盞の甘露味を盛れるを捧げ、王の三夫人を呼びて、これを飲ましむ、甘露味は、韋紐天の精なり、第一夫人 kāncalyā 妃受けて先づ飲み、其の半を盡す、娘めるあり、Rāma 王を生む、第二夫人 kākēyī 妃次に又飲み、殘餘の半を盡す、第三夫人 sumitrā 妃又受けて、遂に飲み畢る、皆娘めるあり、第二夫人は、bharata を生み、第三夫人は、lakṣmaṇa を çatru-ghna を生む、兄

弟四人皆相轉睦す、Rāma は韋紐の精を受くること最も多く、仁慈にして衆を愛し、寛宏善く人を容る、百姓皆悅服す、長じて mithilā の王 Janaka の女 Sitā を納れて妃となす、父王十車王最も Rāma を愛し、立て、太子となさむとす、王の第二夫人 kākēyī これを妬み己の所出 bhārata を以て、Rāma に代へむこと請ふ、王聽かず、固く請ふ王己むことを得ずして、これを許す、即ち Rāma を逐ふて國外に出だし、十四年を経るにあらざれば、歸ることを得ざらしむ、Rāma 命を受けて、宮に入り、父王及び三夫人に拜辭し、妃 sitā と共に都を出で citra-kūṭa の山に入る、百姓これを聽きて皆啼泣す、大臣百揆又 Rāma の跡を逐ふて都を出づるものあり、lakṣmaṇa 素と Rāma と相善し、Rāma と共に都を出づ、父王十車王悲痛に堪へず、病を獲て崩す、國人 bhārata を推して王たらしむ、bharata 肯せず、百官を卒ひて citra-kūṭa の山に到り、Rāma に逢ふて、都に歸らむことを勸む、Rāma 父の命を重しとして聽かず、bharata 已むを得ず、其の履を乞ふて歸り、これを玉座の上に安置して、朝夕拜事すること、なほ Rāma に事ふるがごとし、Rāma bhārata の歸るを見て、即ち citra-kūṭa の山を出で、南のかた Daṇḍaka の林に入る、sitā 及び lakṣmaṇa 又これに従ふ、獅子嶋の王 Rāvaṇa は羅刹の王なり、梵天の寵を恃むて、群神を凌辱す、群神其の不遜に苦み、梵天に訴ふ、梵天韋紐天をして、下界に降り、Rāvaṇa 王を降伏せしむ、Rāma は即ち viṣṇu の化身なり、これよりさき Rāvaṇa 王 sitā の姿色あるをき、又事

を以て Rāma に嘲む所あり、一日 Rāma 等の出で、狩するを伺ひ、羅刹に命じて sitā を奪はしめ、伴ふて、獅子嶋に歸りこれを無憂樹の園に幽す、Rāma 家に歸り、sitā の奪はれしを知り、四方に檄して兵を募る、南方の諸侯皆來り會す、猿王 Hanuman 又其の中にあり、Rāma の爲に、獅子嶋の敵情を探り、群猿と共に橋を海上に架し、Rāma の兵をして、獅子嶋に至らしむることを得たり、Rāma 兵を卒ひて Rāvaṇa の都城に迫る、羅刹の軍又善く拒ぐ、鏖戦數十日、兩軍交綏す、後 Rāvaṇa 自から出で、戦ひ、Rāma の爲に殺さる、Rāma 城中に入り、諸軍を犒ひ、sitā 妃を得て歸り、Rāvaṇa の弟 vibhiṣaṇa を封じて獅子嶋の王となし、王者の禮を以て Rāvaṇa を葬る、bharata Rāma の歸るを聞き、兵を發して來り迎へ、相携へて難勝城に歸り、立て、王となす、Rāma 王の事跡を歌ひしものを Rāmāyaṇa とす、mahābhārata と相對して、印度二大叙事詩たり、後代の詩人、又多く此の事跡を歌ひ、佛教の經典中にも竄入せり、即ち南方佛教の經典にては、dasa-ratha jāta (十車王本生談) となりて存在し、支那の三藏中には雜寶藏經の中に、十善王傳となりて存在せり、其の他、釋迦の傳記を頌ざる經典中往々、Rāmāyaṇa 又はこれより出でたる後代の詩歌の語句を襲用せることあり、馬鳴菩薩の作れりと稱する佛所行讚のごときは即ち其の一にして、吾人の見る所を以てすれば、佛所行讚の詩人は、Raghu-vaṃṣa の詩人、kālidāsa に負ふ所ありしもの、ごとし。

Rāva. (男) 叫喚; 啼哭; 咆哮. (√ru + a).
Rāvaṇa. (男) 羅婆那; 羅刹王. (Rāma を見よ). (√ru + ana 吼嗟子).
Rāṣṭra. (中) 祖國; 國家. (√rāj + tra).
Rāsabha. (男) 驢.
Rāhu. (男) 羅睺; 覆障(日月); 暗障. (劫初、群神海を探りて、甘露味を得たり、相集りてこれを飲み、不死の壽を得たり、羅睺なる阿修羅あり、これを知り、形を變じて群神の中に伍し、又甘露味を飲まむとて、これを口に、將さに嚙下せむとするとき、日月の二神、其の阿修羅なるを知り、韋紐天に告ぐ、韋紐天、劍を抜きて羅睺を斬り、身首所を異にす、然れども、己に甘露味を口にせるを以て、首のみは生きて不死の壽を得たり、大に日月兩神恨み、時を定めてこれを呑む、日月の飽するは、一にこれに依ると云へり).
Rāhula. (男) 羅睺羅; 佛の一子.
Ripu. (男) 敵; 仇.
√ru. (動) 2. 爲他、爲己. rūti; raviti; rurāva; arāvīt; ruta; rotum). 叫ぶ; 吼ゆ.
√ruc. (動) 1. 爲他、爲己. rocāti, -te; ruoca; ruce; arucat; rocīsyati, -te; rucita). 輝く; 恰ばす.
Ruci. (女) 喜ぶこと; 愛樂すること.
Ruj. (女) 疾病.
Ruta. (中) 叫喚; 鳥語.
√rud. (動) 2. 爲他. roditi; ruroda; rudita; roditum). 啼哭す; 慟哭す; 叫ぶ.
Rudra. (形) 叫喚する; 恐るべき; 暴惡なる. —(男) 火; 風神. (√rud + ra).
Rudhira. (形) 赤き. —(中) 血.

√ruh. (動) 1. 爲他、爲己. rohati, -te; ruoha; ruhi; aruhat; arukṣat; rokṣyati, -te; rūdha; roḍhum; rūdhvā). 上る; 生長す; 榮ふ.
√rūp. (動) 10. 爲他、爲己. rūpayati, -te. rūpita). 形づくる; 演ず(戯場にて); 諦視す; 熟慮す.
Rūpa. (中) 色; 姿色; 容姿. (此の語は目に映ずる一切の性質を示す、故に色彩、形状等を合はせ示す). rūpena. 姿色を以てすれば; 姿色の點に於ては.
Rūpaka. (中) 銀錢.

Rūpa-yāuvana-vat. (形) 姿色あり且つ妙齡の.
Rūpādhyā. (形) 姿色あり且つ富める. (rūpa + ādhyā).
Re. (問) あい.
Revata. (男) 離婆多; 佛弟子の一人.
Rai. (男) 財物. (拉. re-s).
Roga. (男) 疾病. (√ruj + a).
Roṣa. (男) 嗔怒; 怒.
Roḍitum. (不定) √rud の不定體.
Raudra. (男) 極熱; 暑熱.



ろ. L.

La-kāra. (男) 囉字. 囉聲; 動詞の時法. (動詞の時法は ! 又は 1 等にて示すか故なり).
√lakṣ. (動) 10. 爲他、爲己. lakṣayati, -te). 諦視す; 表示す; 認む.
Lakṣa. (中) 十萬; 洛叉; 億. (風俗通十萬曰億). (√lakṣ + a).
Lakṣaṇa. (中) 特徴; 形相. (√lakṣ + ana).
Lakṣa-saṃkhyā. (形) 十萬を以て計る.
Lakṣmaṇa. (形) 瑞相ある. —(男) 羅摩王の弟; 羅漫 (Rāma を見よ). (lakṣman + a).
Lakṣman. (中) 祥瑞; 兆相.
Lakṣmī. (女) 祥瑞; 幸福; 瑞相. (幸福と美の女神にして、韋紐天の妃なり).
Lakṣya. (形) 認めらるべき.
Lagna. (形) 瑞相ある.

-velā. (女) 嘉辰; 好機.
Lagūda. (男) 杖; 棒.
-prahāra. (男) 杖にて打つこと.
-hasta. (形) 杖を手にせる.
Laghiman. (男) 輕さ; 輕き状態; 八神通の一にして、身を輕くし空中に騰ることを得る力.
Laghiṣṭha. (形) 最も輕き.
Laghiyas. (形) 一層輕き.
Laghu. (形) 輕き.
-cetas. (形) 輕慮の; 淺慮の.
Lañ. (不變) 現實法の第一過去.
Lankā. (女) 楞伽嶋; 獅子島.
Lajj. (動) 6. 爲己. lajjate; lalajje; lajjita; lajj tum). 恥づ.
Lajjamāna. (形) 恥づる.
Lajjā. (女) 羞恥. (√lajj + ā).
La. (不變) 現實法の現在.

Lap. (動. 1. 爲他. lapati; lalāpa; lapiṣ-yati; lapita; lapta; laptum). 語る; 喧嘩す; 悲泣す.

Labdha. (形). 得られたる. (√labh + ta).

Labdhvā. (連). 得て. (√labh + tvā).

√labh. (動. 1. 爲己. labhate; lebhe; alabdha; lapsyate; labdha; labdhvā). 得; 捉ふ.

√lamb. (動. 1. 爲己. lambate; lalambe; lambiṣyati; lambita; lambitum). かゝる; 垂る; 附着す.

Lambamāna. (形). 懸垂する; 垂下する.

Lalāṭa. (中). 額; 前額. lalāṭe likhitam. 額上に記せられたるもの; 運命. (印度にては. 人の運命は. 其の額に記せりと信ずるを以てかく云へるなり).

Lalita. (形). あどげなき; 可憐の; 楽しき; 美麗なる.

-vistara. (男). 楽しき物語; 神通遊戯經; 普曜經; 方廣大莊嚴經.

√las. (動. 2. 爲他. lasati; lalāsa; lasita). 活氣あり; 耀く; 戯る; 踊る.

Lābha. (男). 得ること. (√labh + a).

√likh. (動. 6. 爲己. likhati; lilekha; alekhīt; likhiṣyati; likhita; likhitvā). 掻く; 書く; 記す.

Likhita. (形). 記せられたる.

Līnga. (中). 語典上の性.

Liṭ. (不變). 現實法の第三過去.

√lip. (動. 6. 爲他. 爲己. limpati, -te; lilepa; alipat; alipta; lipta; liptum). 塗る; 汚す.

Lipi. (女). 書; 書寫すること; 字體. (√lip + i).

-phalaka. (中). 書板; 字を記する板.

-cālā. (女). 字を習ふ室房; 字を教ふ

る校舍; 學堂.

Lipta. (形). 塗られたる.

√lih. (動. 2. 爲他. 爲己. ledhi, liḍhe; lileha, lilihe; alikṣat, -ta; aliḍhā; lekṣyati, -te; ledhum; liḍha). 躑む; 舐る. (希. leicho; 拉. lingo; 獨. leck-en; 英. lick).

Līlā. (女). 見戯; 見戯のごとく容易なること. (希. lilaioimai). lilyāiva. 見戯によりてのごとく容易にこそ.

Luṅ. (不變). 現實法の第三過去.

Luṭ. (不變). 現實法の第二未來.

√luṭh. (動. 6. 爲他. luṭhati; luloṭha; luṭhita). 伏しまるふ.

√lup. (動. 6. 爲他. 爲己. lumpati, -te; lulopa; lupata; loptum; lupatvā). 破壊す; 殘害す; 毀傷す; めすむ.

Lubdha. (形). 食られたる; 切望せられたる.

√lubh. (動. 4. 爲他. lubhyati; lulobha; lulubhe; lubdha; lobdhum). 貪る; 切望す. (拉. lubet, libet; 獨. lieb-en; 英. love).

√lul. (動. 1. 爲他. lolati; lulita). 動揺す.

√lū. (動. 9. 爲他. 爲己. lūnāti; lūnīte; lūna). 切る; 宰割す; 裁断す; 破壊す.

Lūna. (形). 裁断せられたる; 宰割せられたる. (√lū + na).

Lekha. (男). 書; 書簡; 條紋; 紋理. (√likh + a).

-pattra. (中). 書簡; 書狀.

Lepa. (男). 塗ること; 塗る爲の材料; 漆喰. (√lip + a).

√lok. (動. 1. 爲己. lokate; luloke; lokitum). 見る; 觀察す. (英. look). (催). lokayati, -te.

Loka. (男). 目に入るもの; 視界; 世間; 世人; 百姓; 人々. (√lok + a).

-dhātu. (男). 世界.

-pravāda. (男). 世評.

√loc. (動. 1. 爲己. locate). 見る. (此の動詞は ā の接頭辭と共に來るを常とす).

Locana. (中). 見ること; 見るもの; 目. (√loc + ana).

Loṭ. (不變). 命令法の現在.

Loptum. (不定). 害すべく.

Lobha. (男). 貪慾. (√lubh + a).

-viraha. (形). 貪慾を遠離せる; 無慾の.

Lobhākriṣṭa. (形). 貪慾にひかされたる.

Loman. (中). 身元. (頭髮に對す).

Lola. (形). 動揺する; 不定なる; 心の動

揺する; 熱望する; 貪慾なる. (√lul + a).

Loṣṭa. (男. 中). 土塊; 瓦; 磚.

Loṣṭa-vat. (副). 土塊のごとく.

Loha. (形). 赤き; 銅色の. —(男). 赤金; 銅; 鐵; 一般の金屬.

-maya. (形). 鐵にて作れる; 銅にて作れる.

-sahasra. (中). 千鈞の鐵.

Lohita. (形). 赤き.

-nidarṣana. (形). 赤影の.

-nirbhāsa. (形). 赤光の.

-mukta. 赤色の眞珠. (muktā と記するを可とす).

-varṇa. (形). 赤色の.

Lāulya. (中). 貪慾. (lola + ya).



व. V.

Vaiṇṇa. (男). 竹; 竹杖; 管; 幹; 種族; 家門.

Vakkula. (男). 薄拘羅; 佛弟子の名.

Vaktavya. (形). 語らるべき. (√vac + tavya).

Vakṛi. (男). 說者. (√vac + ṛi).

√vac. (動. 2. 爲他. 時ありて爲己. vakti; uvāca, ūce; avocat; vaksyati, -te; ukta; vaktum; uktvā). 語る; 云ふ.

Vacana. (中). 語ること; 言語; 語典上の數. (√vac + ana).

Vakaniya. (形). 語らるべき; 云はるべき; 非難せらるべき. (√vac + aniya).

Vacas. (中). 語; 命令. (√vac + as). vacaḥ kri 命に従ふ.

Vajra. (形). 金剛の. —(男). 帝釋の手にする雷霆の兵器; 杵; 金剛石.

-lepa. (男). 漆喰の一種にして粘着力の極はめて大なるもの.

√vañc. (動. 1. 爲他. vañcati; vañcita). さまよふ. (催). vañcayati, -te. さまよはず; 惑はす; 欺く.

Vañcaka. (男). 詐欺者. (√vañc の催 + aka).

Vañcayitvā. (連). 欺きて.

Vaṭa. (男). 印度の無花果樹.

-pādapa. 〔男〕. 無花果の樹
Vadavā. 〔女〕. 牝馬.
 -parsava-tas. 〔副〕. 牝馬が子を産む
 ことよりして.
Vaṇik-putra. 〔男〕. 商主の子.
Vaṇij. 〔男〕. 商主.
Vatsa. 〔男〕. 年若きもの; 懐; 子; 愛子.
√vad. 〔動. 1. 爲他. 爲己. vadati, -te; uvā-
 da, ūde; avādīt; avadiṣṭa; vadiṣyati, -te;
 udita; vaditum; uditvā). 語る; 云ふ.
 〔能〕. vādayati 語らしむ; 鳴らす (樂器
 等を); 吹奏す.
Vadat. 〔形〕. 語る. 〔√vad+at〕.
Vadana. 〔中〕. 口; 顔. 〔√vad+ana〕.
√vadh. 〔動. 1. 爲他. vadhati; avadhīt,
 avadhīṣṭa; vadhiṣyati, -te). 打つ; 害す;
 殺す. (此の動詞は、動詞としては、現實
 法の第三過去、可能法の第三過去に於て
 のみ用ひらる、其の他の場合には √han
 を以て代ふ).
Vadha. 〔男〕. 殺すもの; 害するもの.
Vadhū. 〔女〕. 婦; 妻.
Vadhya. 〔形〕. 殺さるべき; 害せらるべき.
Vadhyatām. 〔動〕. かれは殺さるべし.
 〔√vadh の受動調命令法第三人稱單數〕.
Vana. 〔中〕. 林.
 -gamana. 〔中〕. 林中に越くこと.
 -jāta. 〔形〕. 林中に生ぜる.
 -devatā. 〔女〕. 林中の神.
 -vāsa. 〔男〕. 林中に住すること.
 -vāsin. 〔形〕. 林中に住する.
Vanāntara. 〔中〕. 林中; 他の林. 〔vana +
 antara〕.
Vanoddeça. 〔男〕. 林中の一部; 林の一隅.
 〔vana + ud + deça〕.

Vanāikadeça. 〔男〕. 林の一角. 〔vana +
 eka + deça〕.
√vap. 〔動. 1. 爲他. 爲己. vapati, -te; uvā-
 pa, ūpe; avāpsīt; vapsyati; upta; uptvā).
 蒔く; 播種す.
Vayas. 〔中〕. 年齢.
Vara. 〔形〕. 好求する; よき; いみじき.
 〔√vri+a〕. varam ...na (ca, tu, punar).
 § 167.
Vara. 〔男〕. 好求; 選擇; 希望; 賜與; 婿
 (婦女の好求); 求婚者.
 -yogya. 〔形〕. 婿を定むるに相應なる;
 嫁娶に適せる.
Variṣṭha. 〔形〕. 最も勝れたる. 〔vara +
 iṣṭha〕.
Variyas. 〔形〕. 一層勝れる. 〔vara + iyas〕.
Varga. 〔男〕. 群類; 品類; 種類; 書中の
 章節. 〔√vri+a〕.
Varṇa. 〔男〕. 色.
 -mātra. 〔中〕. 色ばかり. 色のみ.
Vartaka. 〔男〕. 轡.
Vartana. 〔中〕. 生存すること; 生存の資
 料; 食物. 〔√vrit+ana〕.
Vartanābhāva. 〔男〕. 食物なきこと.
 〔vartana + abhāva〕.
Vartamāna. 〔形〕. 存在する; 居る.
 〔√vrit + a + māna〕.
Vartitavya. 〔形〕. 居らるべき. 〔√vrit +
 i + tavya〕.
Vartman. 〔中〕. 車轡; 通路. 〔√vrit + man〕.
Vartmanā. 〔副〕. 路によりて.
Varman. 〔中〕. 身をつへむもの; 鎧.
Varṣa. 〔男. 中〕. 雨; 雨期; 年; 國土.
 (bharata-varṣa と云ふときの). 〔√vriṣ
 + a〕.

Varṣaṇa. 〔中〕. 降雨; 雨ふらすこと; 雨.
 〔√vriṣ + ana〕.
Varṣā. 〔女〕. 雨; 降雨の時期.
Varṣāpagama. 〔男〕. 雨期のすぎ去れ
 ること.
Varṣā-sambhava. 〔形〕. 雨より生る.
Valmika. 〔男〕. 蟻埜; 蟻丘.
Valmikāntika. 〔中〕. 蟻丘の傍. 〔valmika
 + antika〕.
Valmikopari. 〔副〕. 蟻丘の上に. 〔valmika
 + upari〕.
Vallabha. 〔男〕. 愛子.
Vaca. 〔形〕. 権力の下にある. 〔男〕. 権
 力; 威力.
Vacāt. 〔副〕. ...の力に上りて; ...の爲に;
 ...の目的にて. 〔vaca〕.
Vaci-kṛita. 〔形〕. 権力の下に置かれた
 る; 征服せられたる; 蠱惑せられたる.
√1. vas. 〔動. 2. 爲己. vaste; vavase;
 avasiṣṭa; vatsyati; vasita; vasitum). 着
 る; 纏ふ, 佩ぶ.
√2. vas. 〔動. 1. 爲他. vasati; uvāsa;
 avātsīt; vatsyati; uṣita; vastum; uṣitvā).
 住む; 居る.
√3. vas. 〔動. √uṣ に同じ〕.
Vasati. 〔女〕. 住處. 〔√2. vas + a + ti〕.
Vasana. 〔中〕. 衣服. 〔√1. vas + ana〕.
Vasanta. 〔男〕. 春. 〔√3. vas + anta 陽光
 あるもの〕.
Vasudhā. 〔女〕. 土地; 大地; 世界.
Vastra. 〔中〕. 衣服. 〔√vas + tra〕.
√vah. 〔動. 1. 爲他. 爲己. vahati, -te;
 uvāha, ūhe; avākṣīt; vakṣyati, -te; ūdha;
 vodhum; ūdhvā). 荷ふ; 搬ぶ; 流る (水
 の). 〔受動〕. uhyate. 〔能〕. vāhayati; -te.

Vā. 〔接〕. 若しくば; 又は; 然らざれば.
 vā...vā...か. 然らざれば. alha...vā は.
 寧ろ.
√vā. 〔動. 2. 爲他. vāti; vavāu; avāsīt.
 vāsyati; vāta; vāna; vātum). 吹く. (風
 などの). 〔能〕. vāpayati.
Vākya. 〔中〕. 語; 言語.
Vāg-doṣa. 〔男〕. 言葉の過失. 〔vāc + doṣa〕.
Vāc. 〔女〕. 言語; 聲. 〔√vac〕.
Vācaka. 〔男〕. 説者; 語るもの.
Vācya. 〔形〕. 語らるべき; 云はるべき;
 非難せらるべき. 〔中〕. 動詞の調(能動
 受動など云ふときの).
Vāṇa. 〔男〕. 矢.
Vāta. 〔男〕. 風.
Vāterita. 〔形〕. 風に動かされたる; 風に
 煽ふられたる. 〔vāta + irita〕.
Vādin. 〔形〕. 説く. 〔√vad + in〕.
Vānara. 〔男〕. 猿猴.
 -priya. 〔男〕. 樹の名.
 -mūrka. 〔男〕. 猿猴の愚物; 愚なる猿
 -yūtha. 〔男. 中〕. 猿猴の群.
Vāyasa. 〔男〕. 烏; 寒鴉.
Vāyasi. 〔女〕. 牝鳥.
Vāyu. 〔男〕. 風; 風神.
Vār. 〔中〕. 水.
Vāra. 〔男〕. 時; 日.
Vāranasī. 〔女〕. 婆刺那斯城; 今の
 Benares.
Vāram Vāram. 〔副〕. 時々; 屢々.
Vāri. 〔中〕. 水.
Vāri-tas. 〔副〕. 水より.
Vāri-paripūrṇa. 〔形〕. 水に満てる; 水を
 満たせる.
Vālukā. 〔女〕. 砂.

Vāsa. (男). 住處; 住家. (√2. vas + a).
 -bhūmi. (女). 住居の地.
 Vāsara. (男. 中). 日.
 Vāsīn. (形). 住する. (√2. vas + in).
 Vāstu. (男. 中). 住處. (√2. vas + tu).
 Vāhana. (中). 運搬すること. (√vah + ana).
 Vāhita. (形). 運搬せしめられたる. (√vah の催 + i + ta).
 Vi. (接頭). 分離; 消滅.
 Viṃca. (數). 第二十.
 Viṃcati. (女). 二十. (拉. vi -ginti).
 -tama. (數). 第二十.
 Vikāṭa. (形). 異常の; 異形の; 恐るべき. —(男). 雁の名.
 √vi-krī. (動. 6. 爲他). 蒔く; 撒布す.
 Vikrama. (男). 超歩; 勇進; 勇力; 威力; 獅子の名; 國王の名.
 -sena. (形). 勇武の甲兵を具する. —(男). 勇武王. (+senā).
 Vikraya. (男). 賣ること.
 √vi-krī. (動. 9. 爲己). 賣る. (vi + √krī).
 Vi-kṛita. (形). 賣られたる.
 Vi-khyā. (動. 2. 爲他). 善く知らる; 喧傳す; ...と稱す.
 Vi-khyāta. (形). 著名なる; 喧稱せられたる.
 √vi-gam. (動. 1. 爲他). 去る; 逝く; 死す.
 √vighra. (動. 9. 爲他). 捉ふ; 闘ふ.
 Vi-graha. (男). 闘争. (vi + √grah + a).
 Vighrahitum. (不定). 闘ふべく.
 √vi-car. (動. 1. 爲他). 涉獵す; 遊行す; 行ふ. (催). Vicārayati, -te. 考察す; 熟慮す.

Vi-cārya. (連). 熟慮して. (vi + √car の催 + ya).
 Vi-citra. (形). 雑色の; 文彩ある; 華麗の; 奇異なる.
 √vi-cint. (動. 10. 爲他. 爲己). 思惟す. (vi + √cint).
 Vi-cintya. (連). 思惟して.
 √vij. (動. 6. 爲己. 7. 爲他. vijate, vinakti; vigna). 憂慮す; 戦慄す.
 Vi-jñapta. (形). 奏聞せられたる; 告知せられたる; 知らされたる. (vi + √jñā の催 + ta).
 √vi-jñā. (動. 9. 爲他. 爲己). 知る; 通曉す. (催). vijñāpayati, -te. 知らしむ; 告ぐ; 奏上す; 恭しく告ぐ. 此の語は. ajñāpayati, -te. に對す. 本來の意義より云へば, ajñāpayati と vijñāpayati と共に. 「知らしむ」又は「告知す」の義なるも. 前者は. 上より下に對して告知するを云ひ. 後者は下より上に告知するを云ふものなれば. 前者は. 命令の義を有し. 後者は. 明鑑を垂れむことを祈る義を有す.
 Vijñāpita. (形). vijñāpta に同じ.
 Vijñāya. (連). 知りて.
 Vijñeya. (形). 知らるべき.
 Viṭapa. (男). 樹梢; 樹枝. —mūla. (中). 枝梢の本.
 Viḍāla. (男). 猫.
 Vitta. (中). 財物.
 √1. vid. (動. 2. 爲他. vetti; veda; viveda; vedān cakre; avedit; vedisyati, -te; vidita; veditum; vettum; viditvā). 知る; 識別す. (催). vedayati, -te 知らしむ. 報知す. (拉. vid-es).
 √2. vid. (動. 6. 爲他. 爲己. vindati, -te;

3'9436

viveda, vivide; avidat; avidata; vetsyati, -te; vitta; vettum; vittvā). 見出す; 發見す. (獨. find-en; 英. find).
 √3. vid. (動. 4. 爲己. vidyate; vitta). 存在す; あり. (上記三種の動詞は. 思ふに. 同一動詞の變體に過ぎざるべし. 「知る」と云ふも「見出す」と云ふも. はた「存在す」と云ふも. 皆相關連せる意義なればなり. 特に. 第三の √vid に至りしは. 茲に別種の動詞として掲げたるも. 素より. 第二の √vid の受動調たるにすぎず).
 Vidadhāna. (形). 行ふ; 實行する. (vi + √dhā の現在分詞).
 Vidārya. (連). 引き裂きて; 打ち割りて. (vi + √dri + ya).
 Vidāryamāna. (形). 引き裂かれたる; 打ち割られたる. (vi + √dri + ya + māna).
 √vi-dri. (動. 9. 爲他; 10. 爲他. 爲己). 裂く; 割る.
 Viddha. (形). 穿たれたる; 貫かれたる. (√vyadh + ta).
 Vidya. (女). 智識; 學識; 明 (五明など云ふべきの). 學術; 明咒. (此の語は. 「學識」と云へる義に於ては. buddhi 「智慧」に對し. 又 jñāna 「靈智」と對す. 又「明咒」と云へる點に於ては. mantra 密咒に對す.
 -pratyaya. (男). 學術の試験.
 -prabhāva. (男). 學術の力; 學問の效能.
 -sama. (形). 學術に均しき.
 -hina. (形). 學識なき.
 Vidvat. = vidvas の中性單數の主格.
 Vidvat-tva. (中). 學者の位. 智者たるの位.
 Vidvas. (形). (-vāns 強; -vas 中; -us

弱). 學識ある; 智ある; 賢なる. —(男). 智者; 學者; 賢者.
 Vidhā. (女). 種類. (vi + √dhā).
 √vi-dhā. (動. 3. 爲他. 爲己). なす; 行ふ; 作る; 整ふ; 定む; 備ふ; 命ず; 置く.
 Vi-dhi. (男). ねきて; さだめ; 法則; 命令; 皇天の命令; 運命. (Vi + √dhā). (獨 ge-setz).
 -yoga. (男). 運命の力; 運命の影響.
 -yogāt. (副). 運命の然らしむる所.
 -liñ. (不變). 様式又は法則を示す可. 能法; 可能法の現在.
 Vidhu. (男). 月.
 Vidhura. (形). 哀しき; 苦しき. —(中). 災厄; 辛き目.
 -darçana. (中). 辛き目を見ること.
 √vi-dhri. (動. 10. 爲他. 爲己). 執ふ; 支持す. cañcāvā vidhṛityā. 嚙にて執へて.
 Vi-dheya. (形). なさるべき; 實行せらるべき. (vi + √dhā + ya).
 Vinaya. (男). 訓練; 調伏; 調御; 馴らすこと (獸畜などを); 恭謙; 謙讓. (vi + √ni + a).
 √vi-naç. (動. 4. 爲他). 消滅す; 滅亡す.
 Vinā. (關). なくしては; なければ (業格又は具格を伴ふ).
 Vināçā. (男). 死亡; 滅亡.
 Vi-nir-mukta. (形). 離れたる免れたる; (vi + nis + √muc + ta).
 √vi-ni-vṛit. (動. 1. 爲己). 退轉す; 回る.
 Vinitī. (女). 恭謙; 柔善; 和順. (vi + √ni + ti).
 Vinoda. (男). 娛樂.
 Vindu. (男). 滴. (bindu に同じ).

Vipatti. (女). 不幸; 滅亡. (vi+√pad+ti).
 √vi-pad. (動). 4. 爲己. 失敗す; 不幸に陥る; 死す.
Vipad. (女). =vipatti.
 √vi-pary-as. (動). 4. 爲他. 顛倒す.
Vi-paryas'a. (形). 顛倒せる.
Viparyāsa. (男). 顛倒. (vi+pari+2.√as+a)
Vipula. (形). 廣大なる; 宏敞なる.
Vipra. (男). 婆羅門.
Vipratyayāniya. (形). 難信の; 信ぜられざるべき. (vi+prati+√i+aniya).
Vipralabdha. (形). 欺かれたる. (vi+pra+√labh+ta).
 √vi-pra-labh. (動). 1. 爲己. 欺く.
Viphala. (形). 効果なき.
Viphala-tā. (女). 効果なき状態.
 √viphali-bhū. (動). 1. 爲他. 爲己. 効果なくなる; 徒事なる.
Vibhakti. (女). 分別相; 格の語尾; 語尾. (vi+√bhaj+ti).
Vi-bhūti. (女). 権力; 権勢; 通力 (八種あり; 瑜珈派哲學の語).
Vi-manas. (形). 失神せる.
Vi-mala. (形). 無垢の; 清浄なる.
 √vi-muc. (動). 6. 爲他. 解く; 捨つ; 分離す; prañair vimucyate. 生命より離る; 死す.
 √vi-mriç. (動). 6. 爲他. 諳思す; 熟慮す.
Vi-mriçya. (連). 熟慮して.
Vi-raha. (男). 分離. (vi+√rah+a).
Vi-rāma. (男). 止息; 父字より母音の, aを除く記號. (vi+√ram+a).

√vi-ru. (動). 2. 爲他. 呼ぶ; 鳴く; 啼泣す.
Vi-ruddha. (形). 妨げられたる; 禁ぜられたる; 不吉なる. (vi+√vudh+ta).
 √vi-rudh. (動). 7. 爲他. 爲己. 妨止す; 禁止す.
Vi-rotum. (不定). 呼ぶべく. (vi+√ru+tum).
Vi-lakṣa. (形). 當惑せる; 驚愕せる; 恥ぢたる.
 √vi-lap. (動). 1. 爲他. 喧騒す; 悲泣す; 號叫す.
Vi-lamba. (男). 垂下; 懸垂; 緩慢; 遲疑.
Vi-lambāt. (副). ゆるゆると.
Vi-lāpa. (男). 號叫; 喧騒. (vi+√lap+a).
 √vi-lip. (動). 6. 爲他. 塗る. (vi+√lip).
Vi-lipta. (形). 塗られたる; まみれたる.
 √vi-lok. (動). 10. 爲他. 爲己. 見る; 諒視す.
Vi-lokya. (連). 諒視して.
Vi-vatsa. (形). 犢を失へる; 子なき.
 √vi-vad. (動). 1. 爲己. 争ふ; 論争す; 喧騒する.
Vi-vadamāna. (形). 争ふ; 論争する. (vi+√vad+a+māna).
Vi-vara. (男. 中). 穴; 裂隙. (vi+√vri+a).
Vi-varāntar-gata. (形). 穴中にある.
Vi-vāha. (男). 婦を娶ふこと; 嫁娶; 婚姻. (vi+√vah+a).
 -catuṣṭaya. (中). 四度の婚姻.
Vi-vidha. (形). 種々の. (vi+vi+√dhā).
 -prabodha-vākya. (中). さまざまに慰藉する語.
 √vi-vri. (動). 5. 爲他. 爲己. 覆障を撤す; 開く; 顯はす.

Vi-vrita. (形). 開かれたる — (男). 開音.
Vi-veka. (男). 分別すること; 識別. (vi+√vic+a).
Vi-vekita. (形). 識別せられたる; 分別せられたる. (vi+√vic+i+ta).
 √viç. (動). 6. 爲他. viçati; viveça; avikṣat; vekṣyati; veṣtum; viṣta. 入る; 陥る; 住處を定す; 定住す; (拉. vic-us; vic-(u)-la=villa).
Viç. (女). 村落; 庶民; 毘舍族.
 √vi-çis. (動). 7. 爲他. 殘す; せりわくる; 特異にす; 勝る; 特徴を示す.
Vi-çiṣṭa. (形). せりわけられたる; 勝る; 殊勝なる; いみじき.
Vi-çiṣṭa-tā. (女). 殊勝なる状態.
Vi-çuṣka. (形). 乾枯せる; 水氣なき.
Vi-çeṣana. (中). せりわけること; 特徴を表示すること; (名詞の) 性質を示すもの; 形容詞. (vi+√çis+ana).
Vi-çeṣya. (形). せりわけらるべき; 特質の表示せらるべき; — (男). 性質の表示せらるべき語 (形容詞によりて); 名詞.
Vi-çrabdha. (形). 親信せられたる; 隔意なき; 打ちさげたる; 安心せる. (vi+√çrambh+ta).
 √vi-çram. (動). 4. 爲他. 止息す; 息ふ.
 √vi-çrambh. (動). 1. 爲己. 親信す.
Vi-çrambha. (男). 親信すること; 打解くこと. (vi+√çrambh+a).
Viçrambhālāpa. (男). 親しげなる談話; 隔意なく打解けたる談話. (viçrambha+ālāpa).
Viçravas. (男). Pulastya の子にして, Rāvaṇa 王及び Kuvera の父なり. Kuvera を Vaiçravaṇa (毘舍門天) と稱するは. 即

ち Viçravas の子なるに依る, 故に Rāvaṇa 王をも Vaiçravaṇa と云ふことあり.
Vi-çrāma. (男). 休息; 止息. (vi+√çram+a).
Vi-çrāmārtham. (副). 休息せむ爲め.
Viçva. (形). 種々の; 都ての.
 √vi-çvas. (動). 2. 爲他. 親信す; 信任す; 信頼す; 安心す. (於格を伴ふ).
Viçvā-mitra. (男). 毘舍密多; 選友; 吠陀の詩人の名; Rāma 王及び佛幼時の時の師. (此の仙人は. 素戔利帝利族の出. 曲女城 kanyā-kubja に王たり. 嘗て. 事を以て梵仙 Vaṣiṣṭha と争ひ. 敗る. 大に恥ぢて自ら苦行を修じ. 婆羅門仙たらむことを期し. 漸くにして. 王仙 rājārṣi となる. これを仙人の第一位とす. 更らに勤行身を苦め. 仙人 riṣi, 大仙 maharṣi の二位を経て. 遂に梵仙 brahmarṣi となるを得たり. 羅摩王の幼時. 此の仙人に師事して. 兵法呪法遁甲等の道を學べり. 佛も又幼時これにつきて. 書法を學ぶ. Rāma 王の師と. 佛の師とは. 同名異人なるやも知れずと雖も. 吾人は深く. 其の暗合の偶然にあらざるを信ず. Rāma も利帝利族の出なり. 佛も利帝利族の出なり. 而して利帝利族の出たる毘舍密多仙これが師となること云ふは. 其の事實の眞否は暫ら措きて問はざるも. 適ま以て. 普曜經の詩人が如何に佛の傳記を莊嚴するに苦心せしかを見るに足るなり. 吾人茲に多く説かず讀者須らく Rāmāyaṇa と普曜經とを比較して. 此等肖似の點に留意すべし).
Viçvāsa. (男). 親信; 安心. (vi+√çvas+a).

-kāraṇa. (中) 親信の念を起さしむべき理由; 安心の念を起さしむべき理由.
 -bhūmi. (女) 信任するに足るもの.
 Viçvāsya. (連) 親信させて; 安心させて. (vi+√çvas の催+ya).
 √viç. (動. 3. 爲他. 爲己. viveṣti. te). 遍入す; 遍満す.
 Viṣa. (中) 毒.
 -kumbha. (男) 毒を盛れる瓶.
 -jala. (中) 毒水.
 Vi-śaṇṇa. (形) 退縮せる; 失心せる; 意氣銷沈せる; 哀痛せる (vi+√sad+na=viṣad+na=viṣaṇ+na=viṣaṇṇa).
 √vi-ṣad. (動. 1. 爲他) 退縮す; 意氣沮喪す; 哀痛す.
 Viṣaya. (男) 國土.
 Viṣa-samsarga. (男) 毒を交ふること; 毒と接觸すること.
 Viṣāda. (男) 退縮; 意氣の銷沈; 哀痛. (vi+√sad+a). viṣādam gaocati かれは哀痛す.
 Viṣṇu. (男) 韋紐神; 毘紐天. (viṣ+nu). (漢譯にては、これを翻じて遍入とせり. 印度に古代より此の義存在せり. uṇādisūtra. 3. 39. に viṣṇu の字義を説きて. viṣ-vyāpane nuk. とあり. 即ち √viṣ (遍満)+nu と云ふの義なり).
 -çarman. (男) 韋紐の瑞兆; 韋紐の歡び; 婆羅門の名. (çarman を見よ).
 Vi-sarga. (男) 放つこと; 送遣すること; 涅槃點. (vi+√sṛj+a).
 √vi-sṛj. (動. 6. 爲他) 放つ; 送る; 解く.
 Vistirṇa. (形) 廣がれる; 宏敞なる; 大なる.

√vi-ṣṛi. (動. 5. 爲他. 爲己) 播布す; 擴大にす.
 Vi-smaya. (男) 奇異の念; 驚異の心. (vi+√smi+a). vismayam āpannaḥ 奇異の念をなせり.
 √vi-smi. (動. 1. 爲己) 驚く; 怪む.
 √vi-smṛi. (動. 1. 爲他) 忘る; 忘失す.
 Vi-smṛita. (形) 忘れられたる.
 -pūrva-samskāra. (形) 以前の約束を忘れたる.
 √vi-has. (動. 1. 爲他) 微笑す; 嗤笑す.
 Vi-hasya. (連) 微笑して; 嗤笑して.
 Vihāra. (男. vi+√hṛi+a). 休息, 遊行, 行樂, 娛樂.
 Vi-hārin. (形) 遊行する. (vi+√hṛi+in).
 √vi-hṛi. (動. 1. 爲他) 遊行す.
 √vi. (動. 2. 爲他) 去る; 變ず. 消滅す; 亡ぶ. (vi+√i).
 √vikṣ. (動. 1. 爲己) 諦視す; 觀察す. (vi+√ikṣ).
 Vikṣya. (連) 諦視して; 觀察して.
 Vīta. (形) なき; 除きたる. (vi+√i+ta).
 -rāga. (形) 慾塵なき.
 Vīpsā. (女) 再三くりかへすこと; 反覆繼續すること (vi+√āpの催+sā). (vyāp を見よ).
 Vira. (形) 勇猛なる; 英雄の. (男) 勇者; 英雄.
 -prasava. (形) 勇者を生む.
 Vīrya. (中) 勇猛心; 勇猛精進力. (vira+ya).
 √1. vṛi. (動. 5. 爲他. 爲己. vṛiṇoti; vṛiṇute; vavāra; vavre; avārit; vṛita varitum; vartum; vṛitvā). 包む; 拒ぐ; 遮障す; (拉. vereor; 獨. wehr-en).

√2. vṛi. (動. 9. 爲他. 爲己. vṛiṇāti, vṛiṇite). 願ふ; 希求す; 選ぶ.
 Vṛika. (男) 狼.
 Vṛikṣa. (男) 樹.
 -cchāyā. (女) 樹蔭; 樹影; (vṛikṣa+chāyā).
 -tala. (男. 中) 樹下.
 -traya. (中) 三樹.
 -mūla. (中) 樹根; 樹下.
 -çākhā. (女) 樹枝.
 √vṛij. (動. 10. 爲他. 爲己. varjayati,-te). 除く. 捨つ.
 √vṛit. (動. 1. 爲己. vartate; vavarta; vavṛite; avṛitat; vartisyati,-te; vartsyati,-te; vṛitta; vartitum). 動く; 轉進す (車などの); 進行す; 發生す; 存在す; 或る状態又は位置に居る. (拉. verito; 獨. werd-en). (催). vartayati,-te 轉進せしむ.
 Vṛita. (形) 選ばれたる. (√vṛi+ta).
 Vṛitta. (形) 發生せる; 生ぜる.
 Vṛittānta. (男) 事件; 出來事.
 Vṛiddha. (形) 増大せる; 老ひたる; 勝れる. (男) 長老; 賢者. (√vṛidh+ta).
 Vṛiddha-tva. (中) 老年の狀態; 老年.
 Vṛiddha-vyāghra. (男) 老虎.
 Vṛiddha-çacaka. (男) 老兒.
 Vṛiddhā. (女) 老婦.
 Vṛiddhi. (女) 増加; 生長; 繁榮; 覆重音 (語典). (√vṛidh+ti).
 √vṛidh. (動. 1. 爲他. 爲己. vardhati,-te; vavardha, vavṛidhe, avṛidhat, avardhiṣṭa, vartsyati-te, vṛiddha; vardhitum) 増加す; 生長す; 繁榮す; 老ふ. (催). vardhayati,-te. 生長せしむ; 飼養す; 養育す.
 √vṛiṣ. (動. 1. 爲他. 爲己. varṣati,-te;

vavarṣa, vavṛiṣe; avarṣit; varṣiṣyati,-te; vṛiṣṭa; varṣitum; vṛiṣṭvā). 降雨す; 雨ふらす.
 Vṛiṣṭi. (女) 降雨. (√vṛiṣ+ti).
 Vetāla. (男) 屍鬼. (死屍に宿る鬼にして. 夜間家中に跳梁す).
 -pañca-vimçatikā. (女) 屍鬼二十五物語.
 Veda. (男) 韋陀; 吠陀. (√vid+a). (印度アーリヤ民族の有する最古の文學にして. 最も神聖なるものと信ぜらる. 往古は. ṛic, yajus, sāman の三韋陀のみを韋陀と稱せしも, 後代に至りて. atharvan を加へ. 四吠陀 (catur-vedam) と云ふに至れり. 各韋陀は二種の内容より成りて. 其の製作の時代にも新古あり. 二種の内容とは. 即ち mantra 又は samhita 及び brāhmaṇa にして. mantra は. 主として. 呪文, 讚誦, 祈誓の詩歌を輯め. brāhmaṇa は. mantra を製作するに至りしに縁起來歴. 及びこれが適用の場合, 其の語句の解釋等の外. 主として祭祀の典禮を定めたるものにして. 専ら散文より成る. 韋陀の印度アーリヤの間に尊崇せらるゝの甚しき. これを作りし人々を drāṣṭārah, draṣṭri (觀ずる人) と稱し. 又は ṛiṣi (仙人) と稱す. 梵天の啓示を受けて. 韋陀を觀ぜしものとなし. 決して作りしものとせず. 故に韋陀の一名を çruti (啓示録) と云ひ. apāuruṣeya (人間の作れるものにあらず) と稱せり. çruti は. 即ち smṛiti, (傳説録) に對する名稱にして. smṛiti の製作者は. kartārah, kartṛi, 又は ṣraṣṭri (sraj 作る, 出す) と稱せらる).
 Vedanā. (女) 受; 直覺. (√vid+ana).

Vedikā. (女) 欄楯.
 Veṅyā. (女) 娼婦.
 Veṣa. (中) 衣服.
 -parivartana. (中) 衣服を變ずること.
 Vai. (副) 實に.
 Vāicitrya. (中) 文彩. (vicitra + ya).
 Vāidūrya. (中) vāidūrya に同じ.
 Vāidūrya. (形) vidūra 地方に産する.
 —(中) 吠瑠璃; 瑠璃石. (vidūra 地方より産する寶石なればなり. 音譯の吠瑠璃は. pāli 語の veluriya に近し. 梵語の d は. pāli 語の l に通ず).
 Vāidya. (形) 吠陀經の; 學術上の; 醫術の—(男) 學者; 醫師. (英語の doctor の意義を比較すべし).
 Vāiṅya. (男) 吠舍族の人.
 Vāiṅvānara. (形) 諸人の; 都ての人の; 人類の—(男) 最高の實在; 梵音. (viṅvā + nara).
 -nirghoṣa. (男) 最勝音如來.
 √vyañj. (動. 7. 爲他) 示す; 開示す; 識別す; 塗る; 飾る. (vi + √añj).
 Vyañjana. (中) 開示すること; 識別すること; 特徴; 父音. (語典). (vi + añj + ana).
 -varṇa. (男) 父音の文字.
 Vyatikara. (男) 出來ごと; 事件; 災禍; 不幸. (vi + ati + √kṛi + a).
 √vyath. (動. 1. 爲己) vyathate, vyathita). 憂慮す; 哀痛す; 恐怖す; 戰慄す.
 √vyadh. (動. 4. 爲他) vyadhyati; vivyādha; vetsyati; viddha; viddhvā; veddhum). 穿つ; 貫く.
 Vyapadeṣa. (男) 呼稱すること; 詐稱すること; 他の名字を詐はり用ふること. (vi

+ apa + √diṣ + a). mahātām vyapadeṣaḥ. 大なるもの、命なりを詐稱すること.
 Vy-artha. (形) 益なき; 效驗なき.
 Vy-artha-tā. (女) 無益の状態. vyarthatām niyate. 無益の状態にもちゆかるべし; 徒事に歸すべし.
 √vy-ava-lok. (動. 10. 爲他. 爲己) 見る; 照見す; 觀察す.
 √vyava-sthā. (動. 1. 爲他. 爲己) 安住す; 定住す; 留る. (vi + ava + √sthā). (催) vyava-sthāpayati, -te 留まらしむ; 留む.
 Vyava-sthāpya. (連) 留まらしめて; 留めて.
 Vyavasthita. (形) 安住せる.
 Vyavahāra. (男) 行爲; 事務; 職業; 商業; 取引; 裁判; 政務. (vi + ava + √hṛi + a).
 Vyavahṛi. (動. 1. 爲他. 爲己) 行ふ; 營む; 業務を營む.
 √vyas. (動. 4. 爲他) 投す; 散す; なげちらす; 驅逐す. (vi + √2. as).
 Vyasana. (中) なげちらすこと; 驅除すること; 失敗; 不幸; 傾覆; 遊蕩; 惡習. (vi + √2. as + ana).
 Vyāghra. (男) 虎.
 -carman. (中) 虎皮.
 Vyāghra-tā. (女) 虎の状態; 虎の位.
 Vyāghra-buddhyā. (副) 虎なりを心得て. 虎の心持にて.
 Vyāghrādi. (男) 虎等. (vyāghra + ādi).
 Vyādha. (男) 獵夫; 捕鳥者. (√vyadh + a).
 -pāṣa. (男) 獵夫の民.
 Vyādhitā. (形) 病める (身體の). (vi + ā + √dhā + ta). (此の語は. 心の病 (ādhi

に對する vyādhi より來れるなり).
 √vyāp. (動. 5. 爲他) 瀰漫す; 充滿す; 遍滿す. (vi + √āp).
 √vyā-pad. (動. 4. 爲己) 死す. (催) vyāpādayati, -te. 死せしむ; 殺す.
 Vyāpana. (中) 遍滿.
 Vyāpanna. (形) 死せる; 滅びたる.
 Vyāpāda. (男) 殺すこと. (vi + ā + √pad の催 + a).
 Vyāpādayitavya. (形) 殺さるべき.
 Vyāpādita. (形) 殺されたる.
 Vyāpādya. (連) 殺して.
 Vyāpāra. (男) 職務; 力を效すこと; 關涉すること. (vi + ā + √pri + a).

-ṣata. (中) 百度力を效すこと.
 Vyā-pri. (動. 6. 爲己) 従事す; 職に任せらる.
 Vyāpti. (女) 遍滿. (vi + √āp + ti).
 Vyutthā. (動. 1. 爲他. 爲己) 起き上る. (vi + ut + √sthā).
 Vyutthāya. (連) 起き上がりて.
 Vyūha. (男) 戰陣; 集合; 布置; 莊嚴.
 √vraj. (動. 1. 爲他) vrajati; vavraja; avrājit; vrajiṣyati, vrajita; vrajitum; vrajitvā). 往く; 進む.
 Vraṇa. (男. 中) 潰瘍; 創傷. (拉. vulnus; 英. vulnerable).
 Vrata. (男. 中) 誓願.



श. ञ

√ṣams. (動. 1. 爲他. 爲己) ṣamsati, -te; ṣaṁsa; ṣaṁse; ṣaṁsit; ṣaṁsiṣyati; ṣasta). 稱嘆す; 稱揚す.
 √ṣak. (動. 5. 爲他) ṣaknoti; ṣaṣaka; ṣekus; aṣakat; ṣakṣyati; ṣakta. 能ふ; 能くす; ... するを得. (希) ṣikṣate. 能くせばやと思ふ; 能くせむと勉む; 學ぶ; (希の催) ṣikṣayati, -te. 學ばしむ; 教ふ.
 ṣakaṣa. (男. 中) 車.
 -cakra. (中) 車輪.
 ṣakti. (女) 能力. (√ṣak + ti).
 ṣakya. (形) 能くする.
 ṣakra. (形) 力ある; 權力ある; 強き. (√ṣak + ya) —(男) 釋羅; 帝釋天. (√ṣak + ra). ṣakro devānām indraḥ 諸天

の主たる釋羅; 釋提桓因.
 ṣaṅkā. (女) 疑懼. alaṁ ṣaṅkāyā. 疑懼することゝを轍めよ.
 ṣaṭha. (形) 偽の.
 ṣata. (中) 百.
 ṣatin. (形) 百を有する.
 ṣatra. (男) 怨敵; 仇敵.
 -ghna. (形) 仇を殺す. —(男) 羅摩王の幼弟. (Rāma を見よ).
 -nandana. (形) 敵を喜ばす.
 ṣanāis. (副) 徐々こ.
 √ṣap. (動. 1. 爲他. 爲己) ṣapati, -te; ṣacāpa; ṣepe; ṣapiṣyati; ṣapta; ṣapitum; ṣapitvā). 咀ふ; 祈誓す.
 ṣapātha. (男) 咒咀. (√ṣap + a + tha).

çabda. (男) 音聲。
 -vidyā. (女) 聲明; 語典學。
 √çabdāy. (動) 爲己。I. çabdāyate. 音聲を發す。(çabda の擬名詞相)。
 çabdāyamāna. (形) 叫ぶ; 呼ぶ。
 √çam. (動) 4. 爲他。çamyati; çaçāma; açamat; açīçamat; açamīt; çamiṣyati; çānta; çāntvā. 止息す; 靜まる。(催) çamayati, -te.
 çaya. (形) 臥する; 眠る。(√çī+a)
 çayana. (中) 臥すること; 眠ること。(√çī+ana).
 çayyā. (女) 臥床。
 -pālaka-tva (中) 臥床を護る職。
 çara. (男) 箭; 矢。
 çarana. (中) 救護すること; -(中) 歸依; 歸依所; 避難の所; 適歸する所。çaranam gam. 適歸す; 歸依す。(√çī+ana).
 çarad. (女) 秋。
 -vāta. (男) 秋風。
 çarāva. (男) 中) 皿。
 çarīra. (中) 肉體; 身體; 舍利。
 çarman. (中) 歡喜; 祥瑞; 保護。(此の語は deva と同じく; 婆羅門種の名として。屢々用ひらる。Viṣṇu-çarman 等のごとし。是れ猶ほ varman が刹帝利族の名に於けるがごとく。datta, gupta, bhūti が毘舍族の名に。dāsa が首陀族の名に於けるがごとし)。
 çava. (男) 中) 死屍。
 -samsthita. (形) 死屍の中に存在する。
 çāça. (男) 兔。
 çāçānka. (形) 兔のしるしある。(男) 月。
 çāçin. (形) 兔を有する。(男) 月; 玉兔。

√ças. (動) 1. 爲他。çasati. çaçāsa; çasiṣyati; çasta. 宰割す。切る; 斷つ。
 çastra. (中) 宰割の具; 小刀; 劍; 兵刃。
 -pāni. (形) 兵刃を手にする。(本書 209 には castra-pānīnam. となしたれど。詩形上より 云へば。çastra-pānīnam とすべきがごとし)。
 çāka. (中) 蔬菜。
 çākya. (男) 釋迦種族。
 -muni. (男) 釋迦種族の聖者; 釋迦牟尼; 佛。
 çākyādhirāja. (男) 釋迦種族の君主。(çākya + adhirāja).
 çākhā. (女) 樹枝; 支派; 分派。
 -prahāra. (男) 樹枝にて打つこと。
 -randhra. (中) 樹枝の朽洞。
 çānti. (女) 寂靜。(√çam+ti).
 çāri-putra. (男) 舍利子。
 çārīra. (形) 肉體の。(çarira).
 çālā. (女) 室; 房; 堂; 家。
 çāvaka. (男) 羅。
 çāvakāsthi. (中) 羅の骨。(çāvaka + asthi)
 çāçvata. (形) 常住の; 恒久の。
 çāçvata-tva. (中) 常住の性質; 恒久の性質。
 √çās. (動) 2. 爲他。çāsti; çaçāsa; açīçat; çāṣīṣyati; -te; çāsita, çāsta; çāṣitum, çāstum; çāsivā. 命ず; 教ふ; 懲治す。
 çāstra. (中) 經書; 法典; 典籍。
 -parān-mukha. (形) 典籍には顔を背向くる。
 çāstrānanusthāna. (形) 書の教に従はざる。(çāstra + an + anusthāna).
 √çikṣ. (動) 1. 爲他。çikṣate; çikṣita)
 √çak. を見よ。

çikṣita. (形) 教へられたる。
 çikṣitavya. (形) 教へらるべき。
 çikhara. (男) 中) 峰。
 çiras. (中) 頭。
 çilā. (女) 石。
 çilī-mukha. (男) 矢; 兎の名。(矢の如く疾走するより此の名を附したるものならむ)。
 çiva. (形) 柔善なる。(男) 濕婆の神。
 çīçira. (形) 冷き。
 -kara. (形) 冷光ある。
 çīçu. (男) 嬰孩。
 √1. çīṣ. (動) 7. 爲他。çinaṣti; çīçīṣe; açīçat; çekṣyati, -te; çīṣta; çīṣtvā 取り残す。
 √2. çīṣ. (動) √çās に同じ。
 çīṣya. (男) 弟子; 從弟。(形) 教へらるべき。(√çīṣ+ya)
 √çī. (動) 2. 爲己。çete; çīçye; açayīṣta; çayīṣyate; çesyate; çesyati; çayita; çayitum; çayitvā. 臥す; 眠る。
 çighra. (形) 急なる; 速なる。
 çighram. (副) 迅速に。
 çīta. (形) 冷き;
 çīla. (中) 性質; 操行。
 çuka. (男) 鸚鵡。
 çuka-vat. (副) 鸚鵡のごとく。
 çukla. (形) 白き。
 -pakṣa. (男) 自分; 上半月分; 新月より満月に至るまでの日。
 √çuc. (動) 1. 爲他。爲己。çocati, -te; çucoca; açocīt; çociṣyati; çocitum; çocitvā. 悲痛す; 愁傷す; 燃ゆ。
 çuddha. (形) 清淨なる。(√çudh+ta).
 -mati. (男) 心清淨なる。

-raçmi-prabha. (男) 清淨光明如來。
 çuddhi. (女) 清淨。(√çudh+ti).
 -panthaka. (男) 淨路邊生; 周利槃陀迦。
 √çudh. (動) 4. 爲他。çudhyati; çuçodha; açudhat; çotsyati; çuddha. 清淨になる; 清淨にす。
 √çubh. (動) 1. 爲己。çobhate; çuçubhe; çobhiṣyati. 飾る; 風采揚る; 容姿俊暉に見ゆ。
 çubha. (形) 美なる; 好き; 吉なる。
 -datta. (男) 人名。(çarman を見よ)。
 çubhāçubha. (中) 吉と不吉と; 好きと好からざると。
 √çuṣ. (動) 4. 爲他。çuṣyati; çuçoṣa; açuṣat; çokṣyati. 乾く; 乾燥す。
 çuṣka. (形) 乾ける; 枯燥せる。
 çūkara. (男) 猪; 野猪。
 çūdra. (男) 首陀族の人。
 çūdra-tva. (中) 首陀の状態; 首陀の境遇。çūdra-tvaṁ gam. 首陀の状態に陥る。
 çūnya. (形) 空き。
 çūnya-tā. (女) 空なる状態; 空。
 -lakṣaṇa. (形) 空の相ある。
 çūra. (形) 勇健なる。(男) 勇者。
 çūra-vat. (副) 勇者のごとく; 勇ましく。
 √çri=√çri.
 çriḡāla. (男) 野狐; 野干。(sriḡāla に同じ)。
 -vartmanā. (副) 野狐の往ける途によりて。
 çriṅga. (男) 中) 角。
 çriṅgin. (形) 角ある。
 çāila. (形) 岩石多き。(男) 山岳; 岩。
 -cikhara. (男) 中) 山嶽。

çoka. (男). 哀痛; 憂慮. (√çuc+a).
 -sāgara. (男). 憂慮の海.
 çokātura. (形). 憂慮に苦める. (çoka + ātura).
 çmaçāna. (中). 塚間の地; 墓地.
 çyena. (男). 鷹.
 çrad. (不變). 信用; 信頼.
 çrad-dadhādhvam. (動). 汝等須らく信を措くべし. [此の語は. çrad-dhā の命令法, 複數, 第二人称, 爲己の語なるも. 梵語の普通の構造とは異なり. 梵文に不完全の所あるがごとし].
 √çrad-dhā. (動 3. 爲他. 爲己). 信を措く; 信憑す. (拉. cre(d)-do. 余は信を措く).
 çrad-dhā. (女). 信心; 信頼.
 -pūrita. (形). 信心にて満ちたる.
 √çram. (動 4. 爲他. çrāmyati; çaçrāma; açramat; çrānta). 勤苦す; 勞苦す; 身を苦しむ; 苦行を修す; 疲勞す.
 çrama. (男). 勤苦; 勞苦.
 çramaṇa. (男). 舍羅摩拏; 沙門; 桑門.
 - (形). 勤苦する. (√çram+ana).
 √çrambh. (動 1. 爲己. çrambhate; çrabdha). 親信す; 安心す (此の語は獨立して用ひらるゝことなし. 常に vi の接頭辭と共に來る. √viçrambh を見よ).
 çravaṇa. (中). 聞くこと; 聽官; 耳. (√çru+ana).
 çrānta. (形). 勤苦せる; 疲勞せる.
 çrāvaka. (男). 聽聞する人; 聲聞. (√çru+aka).
 -saingha. (男). 聲聞の衆.
 çrāvastī. (女). 室羅筏悉底; 舍衛國; 舍衛國の都城. (pāli sāvatthī).
 √çri. (動 1. 爲他. 爲己. çrayati,-te;

çiraya, çirīye; açiriyat,-ta, çrayiṣyati, -te; çrita). 依る; 歸依す; 適歸す.
 çri. (女). 吉祥; 端嚴; 瑞祥; 富貴の女神; Lakṣmi の異名; 辨説の女神; 辨才天の異名.
 -devī. (女). 吉祥天; Lakṣmi の異名.
 -parvata. (男). 吉祥山; 山の名.
 √çru. (動 5. 爲他. 爲己. çriṇoti; çriṇute; çuçrāva, çuçruve, açrāuṣāt; çroṣyati,-te; çruta; çrotum; çrutvā). 聽く; 聽聞す.
 çruta. (形). 聽かれたる.
 çruti. (女). 聽くこと; 吠陀. (√çru+ti).
 çruti-mat. (形.-mant). 吠陀に通曉する; 博學の.
 çreyas. (形.-yānis). 一層美なる; 一層よき.
 çreṣṭha. (形). 最も美なる; 最もよき.
 çreṣṭhin. (男). 商主.
 çrotṛi. (男). 聽聞者. (√çru+trī).
 √çlāgh. (動 1. 爲己. çlāghate; çaclāghe çlāghita). 自から誇る; 稱讃す.
 çlāghya. (形). 稱讃せらるべき; 尊敬せらるべき.
 -pada. (中). 同上の位置.
 çloka. (男). 首盧迦; 頌詩; 偈頌.
 -dvaya. (中). 二首の詩.
 çvan. (男). 狗. (主. çvā çvānāu, çvānas). (希. kynos; 拉. canis).
 çvas. (副). 明日.
 √çvas. (動 2. 爲他. çvasiti, çvasti; çaçvāsa; çvasiṣyati; çvasita; çvasta; çvasitum). 吹く; 息を吹く; 嘆息す.
 çvāpada. (男). 野獸; 猛獸.

ष. S.

ṣaṭ-samāsa. (男). 六種の聚合; 六合; 六種の複合詞.
 ṣaḍ-rātram. (副). 六夜の間.
 ṣaṭ-māsika. (形). 六ヶ月の.
 ṣaṇḍha. (男). 閻寺の人; 割勢の人; 黄門.

ṣaṣ. (數). 六.
 ṣaṣṭi. (數. 女). 六十.
 ṣaṣṭha. (數). 第六.
 ṣoḍaça. (數). 第十六.
 ṣoḍaçaṇ. (數). 十六.

श. S.

1. Sa. tat の男. 單. 主. の sas ㄐ. 父音を以て始むる語の前に來る形なり.
 2. Sa. (接頭). 所有. 共通等の義を有する接頭辭なり. sa-bharya 有婦の夫. sa-patni. 他と同一の夫を有する婦.
 3 Sa. 一度. (拉). sim-plen; 希 he-katon.
 Saṁyukta. (形). 接合せられたる; 混同せられたる; 混雜せる. (sam+√yuj+ta).
 -svāra. (男). 複合せる母音; 複母音.
 √saṁ-yuj. (動 7. 爲他. 爲己). 接合す; 合一す; 混同す; 結合す. (催). saṁyojayati. -te. 裝置す.
 Saṁyojita. (形). 裝置せられたる.
 √saṁ-lap. (動 1. 爲他). 對談す. (催). saṁlāpayati; -te 對談せしむ; 話しかくる.
 Saṁlāpita. (形). 對談せしめられたる; 話しかけられたる. (sam+√lap の催+i+ta).
 √ Saṁ-varḍhita. (形). 養育せられたる; 飼養せられたる. (sam+√vṛidh の催+i+ta).

√saṁ-vi-bhaj. (動 1. 爲他. 爲己). 分割す.
 Saṁ-vi-bhāgin. (形). 分割する.
 √saṁ-vṛidh. (動 1. 爲己). 生長す; 發育す. (催). saṁvardhayati,-te. 生長せしむ; 飼養す; 養育す.
 Saṁçaya. (男). 疑惑. atra na saṁçayaḥ 此の點に於ては疑惑なし. (sam+√çī+a).
 √saṁ-çī. (動 2. 爲己). 疑ふ; 心搖動す. (sam+√çī).
 Saṁ-sarga. (男). 接觸; 混合. (sam+√srij+a).
 Saṁsāra. (男). 展轉すること; 流轉すること; 輪廻; 流轉の世界. (sam+√sri+a).
 √saṁ-sri. (動 1. 爲他). 流轉す; 遷移す; 展轉す.
 √saṁ-srij. (動 6. 爲他) 混合す; 接觸せしむ; 接合す.
 Saṁskāra. (男). 完全にすること; 莊嚴すること; 清淨にすること; 儀禮; 式典; 裝飾; 模倣; 畫圖; 文彩. (sam+√kri+a).

√saṁskṛi. (動. 8. 爲他. 爲己). 莊嚴す; 完全にす; 清淨にす; 製作す; (sam + (s) + √kṛi).
 Saṁskṛita. (形). 莊嚴せられたる; 完全にせられたる; 清淨にせられたる; 製作せられたる; 文彩たる; 典雅なる.—(中). 梵語.
 Saṁskṛitokti. (女). 典雅なる語; 梵語. (saṁskṛita + ukṛti).
 √saṁstri. (動. 5. 9. 爲他. 爲己). 撒布す. (sam + √stri).
 Saṁstrita. (形). 撒布せられたる.
 √saṁstri. = sam-stri.
 √saṁsthā. (動. 1. 爲己). 安住す; 存在す; 留まる.
 Saṁsthāpya. (連). 留めて; 置きて.
 Saṁsthita. (形). 存在する.
 Saṁhati. (女). 結合; 一致; 堆積. sam + √han + ti).
 √saṁhan. (動. 2. 爲他). 結合す; 堆積す; 打つ; 殺す.
 Saṁhāra. (男). 収集すること; 抑止すること. (sam + √hri + a).
 Sa-karmaka. (形). 動作の對象を有する; 動作の目的を有する.
 -kriyā. (女). 對象となるべきものを有する動作; 他動詞.
 Sakala. (形). 一切の; 全般の.
 -loka-pūjya. (形). 一切の人々によりて尊敬せらるべき.
 -niti-cāstra. (中). 一切の處世の法を述べたる書.
 Sakāṣa. (男). 面前; 目前. (2. sa + kāṣa).
 Sa-kṛit. (副). 一度. (3. sa + kṛit).
 Sa-kṛid-duḥkha-kara. (形). 一度のみ苦

痛を作す.
 Sa-kopam. (副). 怒を帯びて. (2. sa + kopa).
 Sakta. (形). 執着せる. (sañj + ta).
 Saktu. (男). 麥の煎粉.
 -pūrṇa. (形). 麥粉にて満てる.
 -carāva. (男. 中). 麥粉の皿.
 Sakhi. (男). 友; 伴侶; 親朋.
 Sa-khadga. (形). 劍を佩きたる.
 Sakhya. (中). 友誼. (sakhi + ya).
 Saṁkaṣa. (男). 雁の名.—(形). 狹隘なる; 隘集せる.
 √saṁkuc. (動. 1. 6. 爲他). 收縮す; 萎縮す.
 Saṁkucita. (形). 收縮せる; 萎縮せる.
 -kara-carana. (形). 手足打すくみたる.
 Saṁkhyā. (女). 數.
 -vācaka. (男). 數詞.
 √saṁgam. (動. 1. 爲他. 爲己). 會合す; 合ふ. (sam + √gam).
 Saṁgīta. (形). 和鳴せる; (sam + √gāi + ta).
 √saṁgāi. (動. 1. 爲他). 和鳴す.
 √saṁgrah. (動. 9. 爲他. 爲己). 収集す; 輯略す.
 Saṁgraha. (男). 輯略.
 Saṁgha. (男). 僧伽; 僧衆. (sam + √han).
 -manasi-kāra. (男). 僧を念ふ心.
 Saṁghānusmṛiti. (女). 僧を憶念すること.
 Saciva. (男). 大臣.
 √sajji-kṛi. (動. 8. 爲他. 爲己). 準備す; 整備す; 飾る.

Sajji-kṛitya. (連). 準備して.
 Saṁcaya. (男). 蓄積.
 √saṁ-car. (動. 1. 爲他. 爲己). 動く; 往く; 行ふ; 修す. (催). saṁcārayati, te. 往かしむ; 送る.
 √saṁ-ci. (動. 5. 爲他. 爲己). 集む; 貯蓄す; 堆積す.
 Saṁ-cita. (形). 集められたる; 貯蓄せられたる; 堆積せられたる.
 √saṁ-cint. (動. 10. 爲他. 爲己). 思惟す.
 Saṁ-cintya. (連). 思惟して.
 √saṁ-cchad. (動. 10. 爲他. 爲己). 隱蔽す; 徧覆す. (sam + √chad).
 Saṁ-ccchādayitvā. (連). 徧覆して. (此の語は. sam + √chad の連續體なれば. 語典上. tvā を用ふることを得ず. ya を附加して. saṁccchādaya とすべきものなれども. かゝる例は. 典雅なる梵語に於てすら闕々見る現象なれば. 俗語より上せて梵語とせるがごとき佛敎經典に於ては. 深く咎むるを要せざるべし.)
 √sañj. (動. 1. 爲他. sajati; asaṁja; a-sāñkṣit; sakta; saktum). 執着す; 附着す; 親和す.
 √saṁ-jan. (動. 4. 爲己). 生る; 發生す; ...となる.
 Saṁ-jāta. (形). ...となれる. sa-vismayaḥ saṁjātaḥ 怪訝の念を帯ぶるものとなれり; 警異せり.
 √saṁ-jiv. (動. 1. 爲他). 共同して生活す; 同棲す; 活計を立つ; 蘇生す. (催). saṁjivayati-te. 蘇生せしむ.
 Saṁ-jīva. (男). 活計.
 √saṁ-jñā. (動. 9. 爲己). 知覺す; 認識す; 意識す.

Saṁ-jñā. (女). 意識; 想.
 Sat. (形-nt). ある; 存在する; 眞の; 善き; 妙好の.—(男). 善人. (1. √as + at).
 Satatam. (副). 恒に.
 Sat-kāra. (男). 供養; 款待. (sat + √kṛi + a).
 √sat-kṛi. (動. 8. 爲他. 爲己). 供養す; 款待す.
 Sat-kṛitya. (連). 供養して, 款待して.
 Sat-tva. (中). 生物; 有情; 衆生; 生命; 精力; 勇力.
 -kaṣāya. (男. 中). 衆生濁.
 Sat-puruṣa. (男). 善人.
 Satya. (中). 眞實. (sat + ya).
 -vādin. (形). 眞實を語る.
 Sa-tvaram. (副). 急に; 疾く. (2. sa-tvarā).
 Sat-saṁnidhāna. (中). 善人と接すること.
 √sad. (動. 1. 6. 爲他. sīdati; sasāda; asadat; satsyati; satta; sanna; sattum). 座す.
 Sadana. (中). 座席; 家; 宮室. (√sad + ana).
 Sadas. (中). 集會. (√sad + as).
 Sad-asad. (形). 有なると無なると (sat + asat).
 Sadā. (副). 常に.
 Sa-dṛiṣa. (形). 同一の觀ある; 似たる; 均しき; (常に屬格又は具格と共に來る § 275 參照).
 Sa-dyas. (副). 同日に; 即日; 直に; 忽然.
 Saṁ-anta. (形). sa に終る.
 -dhātu. (男). 希求相動詞の語根.
 Saṁtati. (女). 子孫.

√sam-tap. (動. 1. 爲他). 熱す; 乾す; 苦む; 惱ます.
 Sam-tapta. (形). 苦められたる; 惱まされたる.
 √sam-tuṣ. (動. 4. 爲他). 喜ぶ; 満足す; 悦豫す; (催). samtoṣayati, -te 喜ばす.
 Sam-tuṣṭa. (形). 喜びたる.
 Sam-toṣa. (男). 喜悅; 悦豫; 満足.
 Sam-toṣita. (形). 悦ばせられたる; 満足せしめられたる.
 Samtoṣya. (連). 喜ばせて; 悦豫せしめて.
 √sam-tras. (動. 1. 4. 爲他). 恐怖す. (sam + √tras).
 Sam-darçana. (中). 觀察; 諦視; 會見; 示すこと; 示現. (sam + √driç + ana).
 Sam-darçya. (連). 示して; 觀せて. (sam + √driç の催 + ya.) ātmānaṁ saṁdarçya. 自己を示して; 伴はり裝ふて.
 √sam-dih. (動. 2. 爲他. 爲己). 疑ふ; 感ふ.
 Sam-dihāna. (形). 疑惑する. (sam + √dih の現在分詞).
 Sam-driç. (動. 6. 爲他). 見る; 觀察す; 會見す. (催). sam-darçayati, -te. 見さしむ; 示す; 現はす.
 Sam-deha. (男). 疑惑; 危険. (sam + √dih + a).
 √sam-dhā. (動. 3. 爲他. 爲己). 連合す; 一所に置く; 混淆す.
 Sam-dhā. (女). 約束.
 Sam-dhi. (男). 一處に置くこと; 連合; 聲音の連合; 連聲 (a+i=e となるがごとし); 約束; 複合.
 Saṁdhy-akṣara. (中). 相連合せる聲音; 複母音. § 20.

Saṁdhyā. (女). 晝と夜と相接合するとき; 黄昏; 拂曉; 薄暮; 早曉.
 -samaya. (男). 黄昏の時.
 √sam-ni-dhā. (動. 3. 爲他. 爲己). 一處に置く; 近傍に置く.
 Sam-ni-dhāna. (中). 接近すること; 傍近.
 √sam-ni-pat. (動. 1. 爲他. 爲己). 翔集ぶ; 飛び下る.
 Sam-ni-patya. (連). 翔つどひて.
 Sam-ni-hita. (形). 一處に置かれたる; 接近せる.
 Sa-patnī. (女). 他と同一の夫を有する婦.
 Saptati. (女). 七十.
 Sapta-daça. (數). 第十七.
 Sapta-daçan. (數). 十七.
 Saptama. (數). 第七.
 Sapta-ratna-may(y)a. (形). 七寶より成れる.
 Sapta-rātram. (副). 七夜の間.
 Sa-phala. (形). 效驗ある; 効果ある.
 Sa-bandhu. (形). 親朋ある; 同一の家族に屬する.
 Sa-bhaya. (形). 恐を抱ける.
 Sabhā. (女). 集會.
 Sa-bhārya. (形). 有婦の.
 Sam. (接頭). -1. (動詞に附加せらるゝとき). (a). 共に; 同じく. (sam-gam 等のごとし). (b). 語根の意義を明確にす. (sam-tus 等のごとし). (c). 圓滿, 具足, 成就等の義を有す. (samiskṛi 等のごとし). -2. (名詞に附加せらるゝとき). 同一, 接近等の義あり. (sam-artha 同義の, sam-akṣa 目前の等のごとし). (希, syn; 拉. cum).
 Sama. (形). 均しき; 等しき; 平等の;

比等すべき. (sam + √mā 同量の). (§ 275 参照).
 Sam-akṣa. (形). 目前の; 面前の.
 Sam-agra. (形). 一切の; 全體の; 都ての.
 Sama-citta. (形). 平氣の; 心を亂ださざる.
 Sama-tā. (女). 平等の状態.
 Sama-tirthaka. (形). 水の満ちて岸に及べる.
 Sam-anta. (男). 周邊. - (形). 遍き; 普遍の.
 Sam-anta-tas. (副). 遍く.
 Samanta-mulha-parivartta. (男). 普門品.
 Samane. (關). 共に. (具格を伴ふ).
 Samaya. (男). 時; 時節; 約束.
 Samayocita. (形). 時に適したる; 時機の場合に應じたる.
 Sam-artha. (形). 意義を同じくする; 効力を同じくする; ...を能くする; ...の能力ある.
 Sam-arpaya. (動). 引渡す; (sam + √ri の催起相. 命令法. 爲他. 單. 第二人稱).
 Samarpita. (形). 引渡されたる; 交付せられたる; 送られたる. (sam + √ri の催 + i + ta).
 Sam-alam-kṛita. (形). 嚴飾せられたる; 莊嚴せられたる.
 Sam-avadhāna. (中). 一處に住すること.
 √sam-as. (動. 4. 爲他). 一處に置く; 連合せしむ; 複合せしむ. (sam + 2. √as).
 √sam-a-gam. (動. 1. 爲他. 爲己). 會合す; 來り會す.
 Samāgama. (男). 一處に來り會する.
 Samāgamana. (中). 來り會すること.

√sam-ācar. (動. 1. 爲他). 行ふ; 修す; 營む.
 Samājagmus. (動). sam + ā + √gam の第二過去. 爲他. 複數. 第三人稱.
 √samā-jña. (動. 9. 爲他. 爲己). 知る; 知悉す; 洞觀す.
 Sam-ā-jñāta. (形). 知悉せられたる.
 √sam-ā-dā. (動. 3. 爲他. 爲己). ざる; 奪ふ; 携ふ.
 Sam-ā-dāya. (連). せりて; 携へて.
 √sam-ā-diç. (動. 6. 爲他). 指示す; 告知す; 命令す.
 √sam-ā-dhā. (動. 3. 爲他. 爲己). 一處に置く; 集む; 心を集中す.
 Sam-ā-dhi. (男). 心を集中すること; 三昧; 禪定.
 Samāna. (形). 均しき; 同一の; 共同の. (sam + māna).
 -guṇa. (形). 同一材能ある.
 Samānākṣara. (中). 一樣なる母聲音; 單母音.
 √sam-ā-nī. (動. 1. 爲他). 伴ひ來る; 携へ來る; もたらす.
 Samānīta. (形). もたらされたる; 伴ひ來れる.
 √sam-āp. (動. 5. 爲他). 得; 成就す; 完成す; 結了す; 終結す.
 Sam-āpad. (動. 4. 爲己). 得; 到る; 或る境遇に陥る; 發生す.
 Samāpanna. (形). 得たる; 到れる; 陥れる.
 Samāpta. (形). 完成せられたる. 終結せられたる.
 √sam-ā-yā. (動. 2. 爲他). 歸る; 來る.
 Samāyāta. (形). 歸れる; 來れる.

Samāyukta. (形) 具備せる; 準備せられたる; 賦與せられたる. (sam + ā + √yuj + ta).

√samāyuj. (動. 7. 爲他. 爲己) 接合す; 具備す; 賦與す; 給與す.

Samārabdha. (形) 着手せられたる; 始められたる; 企圖せられたる.

√sam-ā-rabh. (動. 1. 爲己) 始む; 着手す; 企圖す.

√sam-ā-loc. (動. 1. 爲己. 10. 爲他. 爲己) 諦視す; 熟慮す; 審慮す.

Samālocya. (連) 熟慮して.

Samāsa. (男) 一處に集むること; 複合せしむること; 複合詞. (sam + 2√as + a).

√sam-ā-sad. (動. 10. 爲他. 爲己) 得; 逢ふ; 到達す. (sam + ā + √sad の催).

Samāsādyā. (連) 到達して.

Samāhata. (形) 烈しく打たれたる. (sam + ā + √han + ta).

√sam-ā-han. (動. 2. 爲他) 烈しく打つ.

Samāhāra. (男) 集合; 接續; 接續詞.

√samāhri. (動. 1. 爲他) 集む; 収集す.

Samidh. (女) 薪材.

Samīpa. (中) 近傍; 傍近. (sam + √āp + a).

-stha. (形) 近傍にある.

√sam-ucchid. (動. 7. 爲他) 切斷す; 摧破す; 芟除す. (sam + ut + √chid).

Samuccheda. (男) 切斷. (sam + ut + √chid + a).

Samut-thā. (動. 1. 爲他. 爲己) 起き上る. (sam + ut + √sthā).

Samutthāya. (連) 起きあがりて.

√samut-pad. (動. 4. 爲己) 發生す; 生る; 起つ. (催) samutpādayati, -te. 發生

せしむ; 生ず; 起たしむ; 起す.

Samutpāda. (男) 起すこと; 生むこと. (sam + ut + √pad の催 + a).

Samudaya. (男) 昇ること (旭日などの); 生起; 聚合; 集. (sam + ud + √i + a).

√sam-udi. (動. 2. 爲他) 昇る; 集む.

Samudra. (男) 海. (sam + uda 水 + ra).

-tīra. (中) 海岸.

√sam-ūh. (動. 1. 爲他. 爲己) 集む. 積む.

Samūha. (男) 集合; 聚團; 群衆. (sam + √ūh + a).

Sam-ṛi. (動. 1. 爲他) 會合す; 遇ふ. (催) samarpayati, -te. 引渡す; 供托す 與ふ.

Sam-patti. (女) 幸福; 繁榮. (sam + √pad + ti).

√sam-pad. (動. 4. 爲己) 成る; 生る; 榮る; 具足す; 發生す. (催) sam-pādayati, -te 成す; 生ず; 發生せしむ.

Sam-pad. (女) 幸福; 繁榮.

Sam-paṣyamāna. (形) 觀察する.

Sam-pādyā. (連) 完成して; 成就せしめて. (sam + √pad の催 + ya).

Sam-pūspita. (形) 開敷せる.

Saṁ-prati. (副) 今; 現時.

√sam-pra-dā. (動. 3. 爲他. 爲己) 與ふ; 授與す.

Sampradāna. (中) 授與; 贈與.

Sampradhārya. (連) 決定して; 思考して; 思ひ定めて. (sam + pra + √dhri + ya).

Sam-pra-dhri. (動. 10. 爲他. 爲己) 知る; 決定す; 思考す; 思ひ定む.

Sampraṇa. (中) 質疑. (sam + √prach + na).

√sam-budh. (動. 1. 爲他. 爲己) 知る; 覺る; 覺む.

Saṁ-bodhi. (男) 正覺.

Saṁ-bodhya. (連) 了解せしめて; 論して. (sam + √budh の催 + ya).

Sam-bhū. (動. 1. 爲己) 發生す; 生る; 存在す; ... となる. (催) 生れしむ; 生ず; 存在せしむ; 作る; 想像す; 忖度す; 思ふ.

Saṁ-mukha. (形) 面する; 對する.

Saṁ-mukham. (副) 相面して; 相對して. -bhū. 相對す.

Saṁyak. (副) = samyac saṁbuddha. (男) 全然悟れるもの; 正等覺者.

-saṁbodhi. (男) 正等覺.

Samyac. (形 -aṁc, ac, ic) 遍く; 全く; 正等なる; 正しく; 等しく. (sam + (i) + ac).

Sa-yatna. (形) 努むる; 決心する. tat tubhyaṁ dātum sa-yatno 'ham. 余はこれを汝に與へむと努むるものなり.

Saras. (中) 池. (√sri + as).

Sarasi-ja. (形) 池中に生ずる. - (中) 蓮.

Saras-tīra. (中) 池邊.

Sarit. (女) 河. (√sri + it).

Sarpa. (男) 蛇. (√srip + a).

-prāna. (男) 蛇の生命.

Sarpis. (中) 新酥油.

Sarva. (形) 一切の; 惣ての; 諸の; あらゆる.

-jña. (形) 一切を知る. - (男) 一切智; 佛.

Sarva-tas. (副) 一切より; 到る處.

Sarva-tra. (副) 都ての處.

Sarva-thā. (副) あらゆる方法にて; 如何にしても.

Sarva-dā. (副) 常に.

Sarva-deva-maya. (形) 一切の神の化成せる.

Sarva-nāmaṅ. (中) 代名詞.

Sarva-loka. (男) 一切の世間の人々.

Sarva-vat. (形. -nt) 一切の.

Sarva-saha. (形) 一切の事を忍ぶ; 一切の事に耐ゆる; 最も忍耐強き.

Sarvārtha. (男) 一切義.

-darṣa. (男) 一切義見如來.

Sarvāuśadhi-rasa. (中) 一切の榮草の汁.

Salila. (中) 水.

Savitṛi. (男) 催進者; 發育者; 太陽. (此の語の意義に關し. 二種の説明あり. 一は. 此の語を以て 1. √sū 發生せしむ + i + tri とせるものにて. 即ち發育せしむるものと云ふにあり. 他は. 2. √sū 催進す + i + tri にして. 活動を催起するものと云ふにあり).

Sa-vinaya. (形) 恭しき.

Sa-vinayam. (副) 恭しく.

Sa-viṣeṣa. (形) 差別ある.

Sa-viṣeṣam. (副) とりわけ; 殊に; 特別に.

Sa-vismaya. (形) 奇異の念を抱ける; 怪める; 驚異の心ある.

Sa-vismayam. (副) 怪みて.

Sa-vyatha. (形) 憂慮する.

Sa-sarpa. (形) 蛇ある.

Sasya. (中) 穀物; 野にありて未だ刈りこられざる穀物 (kṣetra-gatam sasyam). sasyam carati. われは穀物を食ふ (dhānya 及び taṇḍula を見よ).

-kṣetra. (中). 穀物の田.
 -pūrṇa. (形). 穀物にて充てる.
 -rakṣaka. (男). 穀物の番人.
 √sah. (動. 1. 爲己. saḥate; sasabe; asahiṣṭa; sahiṣyate; soḍha; sahitum). 堪忍す; 忍ぶ; 許容す.
 Saha. (關). 共に. (具格を伴ふ).
 Sahā. (形). 堪忍する. (√sah + a).
 -ja. (形). (己と)共に生じたる; 天賦の; 本来の. (saha + √jan).
 -ja-capalatā. (女). 本来浮躁なる性質.
 -ja-dāridrya. (中). 本来貧乏なる状態.
 -ja-priya-tva. (中). 本来好む性質.
 Sahaniya. (形). 堪忍せらるべき.
 Saha-bhojana. (中). 食を共にすること.
 Sahas. (中). 力; 精力; 猛烈; (√sah + as).
 Sahasā. (副). 猛烈に; 急に; 突然; 直に.
 Sahasra. (數. 中). 千. (3. sa + hasra. 一千). (希. chilo, cheilo = cheslo).
 Sahasrākṣa. (形). 千眼ある. -(男). 帝釋天. (sahasra + akṣi).
 Sahasrin. (形). 千を有する.
 Sahā. (女). 堪忍界; 娑婆.
 Sahām-pati. (男). 堪忍界主.
 Sahāya. (男). 友; 伴侶; 共に行くもの. (saha + √i + a).
 Sahita. (形). 伴へる; 具せる; (saha + i + ta).
 Sāttivika. (形). 眞の; 眞に存在する.
 Sādara. (形). 敬意ある. (sa + ādara).
 Sādaram. (副). 恭しく.
 √sādh. (動. 1. 爲他. 爲己; 4. 5. 爲他. sādhati, -te; sādhyati; sādhnōti; sasādha;

sādhitum). 成る; 目的を成就す. (催). 成す; 遂ぐ; 克つ (敵に); 平ぐ (怨敵などを).
 Sādhaka. (男). 完成する人; 成就せしむる人. (√sādh + aka).
 Sādhayitavya. (形). 打ち克たるべき. 成さるべき.
 Sādhitā. (形). なされたる.
 Sādhu. (形). よき; 妙好の. -(男). 善人. (√sādh + u).
 Sādhu. (間投). 善哉.
 Sādhu-kāra. (男). 稱賛すること.
 Sādhyā. (形). 成さるべき. -(中). 完成せらるべきこと.
 Sānvaya. (形). 子孫を伴へる (sa + anvaya).
 Sāman. (中). 僕馬吠陀.
 Sāmarthya. (中). 能力; 力. (sam-arth + ya).
 -hīna. (形). 力なき; 衰弱せる.
 Sāma-veda. (男). 僕馬吠陀.
 Sāmīpya. (中). 隣近. (samīpa).
 Sāmpratam. (副). 今; 現今. (sam + prati).
 Sārameya. (男). saramā の子; 狗; 犬. (saramā 諸神の使役する牝狗なり).
 Sārdham. (關). 共に (具格を伴ふ).
 Sāla. (男). 娑羅樹.
 Sāendra-rāja. (男). 娑羅王樹王如來.
 Sāccarya. (形). 怪める. 驚異する. (sa + āccarya).
 Sāccaryam. (副). 怪みて.
 Sāstānga-pātam. (副). 身體の八支を地に投じて; 地上に平伏して. (sa + aṣṭa + āṅga + pata).

Siṃha. (男). 獅子.
 Siṃhānūnaya. (男). 獅子に服従すること.
 Siṃhāntara. (男). 他の獅子.
 Siktā. (連). 灌ぎて.
 √sic. (動. 6. 爲他. 爲己. siṅcati, -te; siṅce, siṅce; asicat, asicata; sekṣyati, -te; sikta; sektum). 灌ぐ.
 Siddha. (形). 成就せる; 神通を得たる. (1. √sidh + ta).
 Siddhi. (女). 成就; 神通力. (1. √sidh + ti).
 1. √sidh. (動. 4. 爲他. 爲己. sidhyati, -te, siṅedha; setsyati, -te; siddha). 成る; 成就す; (催). sādhyati, -te 成す.
 2. √sidh. (動. 1. 爲他. sedhati; siṅedha; setsyati; siddha; seddhum). 遂ふ; 攘斥す; 拒ぐ; 禁止す.
 Sītā. (女). 羅摩王の妃.
 1. √su. (動. 5. 爲他. 爲己. surōti; sunūte; susāva; saviṣyati; soṣyati suta). 搾り出す; 搾る.
 2. √su. = 1. √sū.
 3. √su. = 2. √sū.
 Su. (接頭). よき; 妙; 善; 易き; いと.
 Sukha. (中). 幸福; 樂. (su + kha).
 -kāra. (中). 樂因.
 Sukham. (副). 安けく; 安然に.
 Sukhāvati. (女). 極樂淨土; 安養國.
 -vyūha. (男). 極樂淨土の莊嚴.
 Sukhin. (形). 幸福なる.
 Sukhopaviṣṭa. (形). 安けく坐せる. (sukha + upaviṣṭa).
 Su-gandha. (形). 妙香ある.
 Su-grihin. (形). よき住居を有する.
 Su-cira. (形). いと久しき.

Su-darṣana. (男). 妙見王.
 Su-dīrgha-śākha. (形). いとながき枝ある.
 Su-duṣkara. (形). いと行ひ難き.
 Su-dhī. (形). よき智慧ある; 賢なる. -(男). 賢者.
 Sundara. (形). 美貌ある; 好き.
 Sup. (不變). 於格の語尾; 名詞代名詞變化全體の語尾.
 Supta. (形). 眠れる.
 Su-prati-ṣṭhita. (形). よく安置せられたる; よく尊崇せられたる.
 Sub-anta. (形). sup 即ち su のごとき語尾を有する.
 -pada. (中). 名詞, 代名詞, 形容詞, 數詞等都て. su のごとき語尾に終る語を云ふ; 蘇漫多聲 (底彦多聲即ち動詞に對して用ふる語なり).
 Su-buddhi. (形). 妙慧ある. -(男). 娑羅門の名.
 Su-manas. (形). 心意を悦ばず; 適意の; -(中). 花.
 -saṅga. (男). 花と交はること; 花と接すること.
 Su-mern. (男). 須彌樓山; 妙高山; 須彌山.
 -kalpa. (形). 須彌山のごとき. -(男). 如須彌山如來.
 Surā. (女). 酒.
 Su-labha. (形). 得易き.
 Su-lalita. (形). いとうるはしき; いと甘美なる.
 Su-varṇa. (形). 妙色ある. (中). 黄金.
 -kaṅkaṇa. (中). 黄金の腕輪.
 -pūrṇa. (形). 黄金を盛れる.

-varṇa. (形). 黄金色の.
 -vālukā. (女). 金沙.
 Su-ṣṭhu. (副). 仔細に
 Su-stha. (形). 安穩なる; 健康なる. (su + √sthā).
 Su-hṛid. (男). 親友.
 -bheda. (男). 友と絶つこと; 交々絶つ
 の器 (Hitopadeṣa 中の).
 1. √sū. (動. 2. 4. 爲己. sūte; sūyate; suṣāva;
 susuve; asoṣṭa; soṣyati,-te; saviṣyati,-te;
 sūta, suta; sutvā) 生む; 發育せしむ.
 2. √sū. (動. 6. 爲他. sūvati; 同上). 催進
 す; 刺戟す.
 Sūkara. (男). 野猪.
 Sūkṣma. (形). 微細なる.
 Sūkṣmam. (副). 仔細に.
 √sūc. (動. 10. 爲他. 爲己. sūcayati,-te;
 sūcīta). 刺す; 指示す; 示す.
 Sūci. (女). 針.
 -mukhin. (形). 針のごとき顔ある; 尖
 嘴を具する.
 Sūta. (男). 子.
 -nirviṣeṣa. (形). 子とわがちなき; 吾
 が子に同じき.
 Sūtra. (中). 紐; 線; 鎖; 條; 經.
 -dhāra. (男). 木匠; 工匠.
 Sūda. (男). 厨夫; 庖人.
 Sūnṛita. (形). 誠實にして且つ意に適す
 る; 親切なる; 懇懇なる.
 Sūrya. (男). 太陽.
 -tejas. (中). 太陽の光.
 √sri. (動. 1.3. 爲他 sarati; sasarti sasāra;
 asārṣit, asarat; sariṣyati; sartum; sṛita).
 往く.
 √srij. (動. 6. 爲他. 爲己. srijati,-te;

sasarja, sasrije; asrākṣit; srakṣyati,-te;
 sṛiṣṭa; sraṣṭum; sṛiṣṭvā). 解く; 放つ; 捨
 つ; 出す; 作る.
 √srip. (動. 1. 爲他. 爲己. sarpati,-te;
 sasarpa, asripat; sarpīṣyati; srapsyati;
 sṛipta; sarpitum). 匍匐す; 緩歩す.
 Sṛiṣṭa. (形). 作られたる. √srij + ta).
 Sṛiṣṭvā. (連). 作りて.
 Senā. (女). 軍兵; 甲兵.
 Senā-nī. (男). 將軍.
 √sev. (動. 1. 爲己. sevate; siṣeva, siṣeve
 seviṣyati; sevita; sevitum). 奉侍す; 事ぶ;
 供養す; 勤む; 従事す; 求む.
 Sāinika. (男). 甲兵; 兵士.
 Soḍha. (形). 堪忍せられたる. (√sah + ta).
 Sopāna. (中). 階道.
 Soma. (男). 蘇摩; 神の飲料; 甘露味
 (√su + man).
 -garman. (男). 婆羅門の名.
 Sāuvarṇa. (形). 黄金の.
 Skandha. (男). 肩; 蘊. skandhe kṛtvā 肩
 にして.
 Skandhādhirūḍha. (形). 肩に上ぼせる.
 (skandha + adhirūḍha).
 Stana. (男). 婦人の胸; 贅肉; 疣贅;
 Stabdha. (形). 動かざる; 挺直の.
 (√stambh + ta).
 Stabdhi-kṛitya. (連). 挺直になして.
 √stabh. = √stambh.
 √stambh. (動. 1. 爲己. 5. 9. 爲他.
 stambhate, stambhnoti, stambhāti; tas-
 tambha, tastambhe; astambhit; stabdha,
 stabdhum; stabdhvā). 挺直になす; 不動
 になす; 知覺を失す; 鞏固になす; 支持す.
 Stambha. (男). 柱. (√stambh + a).

√stu. (動. 2. 爲他. 爲己. stāuti, staviti,
 stute, stuvite; tuṣṭāva, tuṣṭuve; astāvīt,
 astoṣṭa; stoṣyati,-te; stotum; stuta). 稱
 揚す; 咏歎す.
 √stri. (動. 5. 爲他. 爲己. striṇoti, striṇute;
 tastāra, tastāre; astarīt; stariṣyati; sṛita;
 stīrṇa; sṛitvā). 撒く; 播きちらす.
 Stoka. (形). 些少; 少許の.
 Strī. (女). 婦人; 女. (1√sū + trī?).
 -līnga. (中). 女性 (語典上の).
 Stha. (形). (複合詞の末尾に來りて) 居
 る; 居住する; 存在する. (√sthā).
 Sthala. (中). 乾地; 陸地. (√sthā + la?)
 (獨 Fest-land; 拉. terra firma 参照).
 Sthavira. (男). 長老.
 √sthā. (動. 1. 爲他. 爲己. tiṣṭhati,-te;
 tasthāu, tasthe; asthāt, asthita; sthāsyati,-
 te; sthita; sthātum; sthitvā). 佇立す;
 留る; 住す. (催). sthāpayati,-te, かれは.
 居らしむ. かれは留む. かれは置く.
 (受). sthīyate.
 Sthātavya. (形). 居らるべき; 留まる
 べき.
 sthātum. (不定). 居るべく.
 Sthāna. (中). 居處; 住處; 位置.
 Sthāpita. (形). 置かれたる; 留められた
 る. (√sthā の催 + i + ta).
 Sthita. (形). 佇立せる; 留まれる.
 Sthiti. (女). 常例; 慣例; ならはせ.
 √snā. (動. 2. 爲他. 4. 爲己. snāti, snāyate
 sasnāu, snāsyati,-te; snāta; snātum;
 snātvā). 浴す; 澡浴す.
 Snātaka. (男). 洗浴者.
 Snātum. (不定). 浴する爲に.
 Snāna. (中). 浴すること.

Snānārtham. (副). 浴するため. (snāna-
 + artham).
 Snānopakaraṇa. (中). 洗浴の器具.
 -hasta. (形). 洗浴の器具を手にする.
 Snāna-cīla. (形). 洗浴の行を勤むる; 常
 に洗浴身を清むる.
 Snāna-samaya. (男). 洗浴の時.
 Snāyu. (女. 中). 筋.
 -nirmita. (形). 筋にて作られたる.
 Snigdha. (形). 濕潤せる; 粘着せる; 情
 ある; 親める. (√snih + ta).
 √snih. (動. 4. 爲他. snihyati; aiṣṇeḥa;
 asnihat; snehiṣyati; snehitvā; snihitvā;
 snigdha) 濕潤す; 粘着す; 親む.
 Sneha. (男). 濕潤; 親善; 愛情. (√snih-
 + a).
 Snehānuvṛitti. (女). 親善の連続.
 Sparṣa. (男). 接觸すること; 聲音機關の
 接觸より生ずる音; 閉音. (√sprīḥ + a).
 √spaḥ. = √paḥ. (動. 4. 爲他; 爲他.
 paḥyati,-te; paspaḥe, aspaṣṭa; spaṣṭa).
 見る. (拉. specio; 英. speculation).
 √sprīḥ. (動. 6. 爲他. sprīḥati; pasparṣa;
 asprikṣat, aspārḥṣit; sprakṣyati, sparkṣ-
 yati; spraṣṭum; sparṣṭum; sprīṣṭa). 觸る;
 接觸す.
 Sprīḥya. (形). 觸れらるべき.
 Sprīṣṭa. (形). 觸れられたる; -(男) 聲音
 機關の相互に接觸するより生ずる音;
 閉音.
 Spraṣṭavya. (形). 觸れらるべき. -(中).
 觸官の對象; 觸れらるべきもの. 觸.
 Sphatika. (男). 塞頗脂迦; 玻璃.
 √smi. (動. 1. 爲己. smayate; siṣmiye;
 asmayiṣṭa; smita; smitvā). 微笑す.

Smita. (形). 微笑せる.
 √smṛi. (動. 1. 爲他. smarati; sasmāra; smarisyati; smṛita; smartum; smṛitvā) 憶念す; 記憶す.
 Smṛiti. (女). 憶念; 傳説録. (veda を見よ). (√smṛi+ti).
 Sva. (形). 自己の. 單. 業. svayam). (希. hou; 拉. sui).
 Svaka. (形). 自己の.
 -svaka. (形). 各自の.
 Sva-cchanda. (男). 自己の慾望; 自己の意思. (形). 自己の思ふまゝなる; 羈束せられざる. (sva+chanda).
 Sva-cchandam. (副). 自己の思ふまゝに.
 Sva-jana. (男). 自己に屬する人; 親族; 自黨の人.
 Sva-jñāti. (女). 自己の親族.
 Sva-deça. (男). 自國.
 √svap. (動. 2. 爲他. svapiti; suṣvāpa; asvāpsit; svapsyati; supta; svaptum; suptvā). 眠る. (催). svāpayati,-te. 眠らす.
 Svapna. (男). 睡眠; 夢. (希. hypnos; 拉. somnus).
 Sva-bhāva. (男). 本來.
 -kṛipāṇa. (形). 本來鄙吝なる. (男). 人名.
 -dveṣa. (男). 本來仇視すること.
 -cūnya. (形). 本來空なる.
 Svayam. (副). 自から. (sva の單. 業).

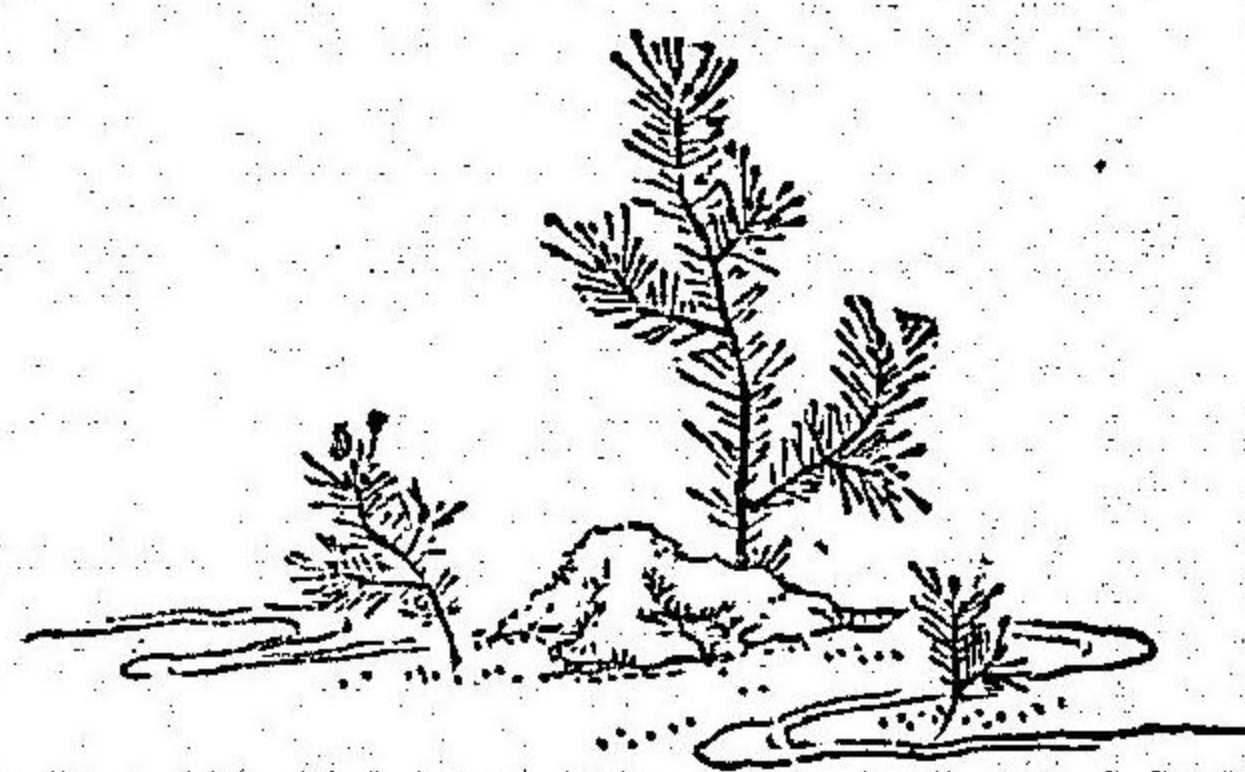
-bhū. (形). 自から存在する. (男). 大自在天.
 Svāra. (男). 音聲; 音響; 母音.
 -varṇa. (男). 母音の文字.
 Sva-rūpa. (中). 自己の形; 本來の形.
 Sva-rūpākyaṇa. (中). 己の本來の形を評説すること.
 Svarga. (男). 天; 天上; 天上の快樂. (svar+ga).
 -gāmin. (形). 天上に往く.
 -patita. (形). 天上より墜ちたる.
 Svarṇa. (中). 黄金. (su+varṇa).
 -maya. (形). 黄金より作れる.
 Sva-vivara. (男. 中). 自己の穴.
 Sva-sadana. (中). 己の家; 己の宮室.
 Sva-sṛi. (女). 姉妹. (sva+sṛi.=sva+stri). (獨. swe-ster; 英. si-ster; 拉. sor-or).
 Sva-stha. (形). 平日の状態に居る; 健全なる; 無病なる.
 Sva-sthi-bhūya. (連). 快復して; 無病となりて; 健全になりて.
 Sva-hasta-gata. (形). 自己の手中に存在する.
 Svāmi-kārya. (中). 主人の用務.
 Svāmi-guṇa. (男). 君主の徳.
 Svāmin. (男). 主人; 主君; 王; 所有者; 夫. (sva+min).
 Svecchayā. (副). 自己の希望にまかせて; 己の思ふまゝに. (sva+icchā の單. 具).
 Svecchā. (女). 自己の希望. (sva+icchā).

Hamsa. (男). 雁.
 Hata. (形). 打たれたる; 殺されたる.
 Hatvā. (連). 打ちて; 殺して; 害して.
 √han. (動. 2. 爲他. hanti; jaghāna; haniṣyati; hata; hantum; hatvā). 打つ; 殺す; 害す.
 Hantavya. (形). 打たるべき; 殺さるべき; 害せらるべき.
 Haya. (男). 馬.
 √har. (動. 4. 爲他. 爲己. haryati,-te). 悦ぶ; 樂む; (√hri を見よ).
 1. Hara. (形). さる; 奪ふ. (男). 濕婆の神 (√hri+a).
 2. Hara. (形). 樂ます; 樂しき. (√har+a).
 Hari. (男). 韋紐の神.
 Hartum. (不定). さるべく. (√hri+tum).
 Harṣa. (男). 歡喜. (√hriṣ+a).
 Harṣotphulla-locāna. (男). 歡喜の爲め目を開ける.
 Havis. (中). 燒供. (火に投じて神に捧ぐる供物にして. 通例穀物; 乳酪; 酥油なりとす) (√hu+is).
 √has. (動. 1. 爲他. 爲己. hasati,-te; jahāsa, jahase; hasisyati; hasita; hasitum; hasitvā). 笑ふ; 嗤笑す.
 Hasta. (男). 手; 象鼻. (形). (複合詞の末節に来るとき) 手にする.
 Hastin. (形). 手ある; 象鼻ある. (男). 象; 象王 (kāurava と pāṇḍava の遠祖).
 Hastinā-pura. (中). 象王都. (hastin 王の建てし都なればなり).
 Hasti-snāna. (中). 象の洗浴; 無益の業.
 √hā. (動. 3. 爲他. jahāti; jahāu; ahāsīt;

hāsyati; hīna; hātum; hitvā). 捨つ.
 Hārya. (形). 奪はるべき.
 Hāsyā. (形). 笑はるべき; (中). 嗤笑.
 -kārya. (中). 嗤笑せらるべきこと.
 Hi. (副). 實に; 何となれば.
 √hims. (動. 1. 7. 爲他. 10. 爲他. 爲己. himsati, hinasti, himsayati-te; jihimsa; ahimsit; himsisyati; himsitum; himsita). 害す.
 Himsā. (女). 殺生.
 -nivritta. (形). 殺生を思ひ止まりたる; 殺生をやめたる.
 Himsra. (形). 害心ある; 兇惡なる; 殘酷なる. (√hims+ra).
 Hita. (形). 置かれたる; 適せる; 利ある. (中). 利益; 裨益.
 Hita-kāma. (形). 利益を希ふ; 利益あれと望む.
 Hitopadeça. (男). 裨益ある訓誨. (hita+upadeça).
 Hima. (男). 雪; 冬. (拉. hiems).
 Himālaya. (男). 雪藏; 雪山.
 Hina. (形). 捨てられたる; 遠離せられたる; 劣れる; なき. (關). なき; なくしては; なげれば. (常に具格を伴ふ) (√hā+na).
 √hu. (動. 3. 爲他. 爲己. juhōti; juhute; juhāva, juhve; ahāṣīt; hoṣyati; huta; hotum; hutvā). 火に燒きて供養す; 祭る; 神に供す.
 Huta. (形). 神に供せられたる. (中). 供物.
 √hri. (動. 1. 爲他. 爲己. harati,-te;

jahāra, jahre; ahāṣīt; ahṛiṣṭa; haṛiṣyati,
 -te; hṛita; hartum). さる; 奪ふ; 偷む.
Hṛita. (形). さられたる; 奪はれたる; 偷
 まれたる.
Hṛitvā. (連). さりて; 奪ひて.
Hrid. (中). 心臓 (拉. cor(d) 英 cord(ial);
 獨 herz; 英. heart).
Hridaya. (中). 心臓; 心; 要部; 提要.
 (希. kardia).
 √hṛiṣ. (動. 1. 4. 爲他. haṛṣati; hṛiṣyati;
 jaharaṣ, jahriṣe; hṛiṣita, hṛiṣṭa). 歡喜す;
 歡喜の爲身毛豎立す.
Hṛiṣṭa. (形). 歡喜せる.
 -manas. (中). 心歡喜せる.
 -roman. (形). 歡喜して身毛豎立せる.
He. (問). あい.
Hetu. (男). 因; 源因. kasya heteh 何の
 故に.
 -vidyā. (女). 因明學.
Hema. (中). 黄金.
Hotri. (男). 祭司. (√hu + tri).
Hotra. (中).
Hotrin.
Hrada. (男). 池.
Hradāntara. (中). 他の池.
Hrasva. (形). 短き; 短少なる; 低き.
Hrasvam. (副). 短く; 低く.
Hrasva-svara. (男). 短母音.

解 說 梵 語 學 附 卷 終



頁數	行 數	左 右	誤 脱	補 遺 訂 正
3	上より十九行	右	噉る	噉ふ
5	上より六行	左	搏飯	搏飯
5	上より十二行	左	止息せる; 停止せ る. (ā	止息せざる; 停止 せざる. (an + ā
5	上より三行	右	a-ni-rodh	a-ni-rodha
5	下より三行	右	an-utparna	an-ut-panna
7	下より十二行	左	anyenyuh	anyedyuh
13	上より十四行	右	aṣṭa-ṅga	aṣṭāṅga
17	下より十行	左	-pūrṇa-nayana	-pūrṇa-nayana
24	上より十二行	右	√upa-jau	√upa-jau
29	上より三行	左	kasmāi	kasmāi
30	上より七行	左	kapru-di-giri	kapur-di-giri
30	上より九行	左	違	蓮
31	上より十二行	左	却波, 劫.	劫波, 劫.
31	上より廿二行	左	袈裟	(袈裟 kāsāya と混 す可らず) を脱す
31	下より一行	右	-kleca	-kleṣa
32	下より四行	左	を破壊するもの	を破壊するもの
33	下より一行	左	娼婦; 賣女	娼婦賣女の媒介を なす女
38	上より十四行	右	孕める	孕める
40	上より三行	左	仙人	仙人の名
41	下より五行	右	caramāna	caramāna
45	上より二十行	右	jetarya	jetavya

49	上より十四行	左	tiraka	「=tilaka〔形〕班點ある」を脱す
49	下より四行	左	浴地	浴池
51	下より八行	左	[√dhyāu]	[√dhyāi]
51	上より廿一行	右	dandra	daridra
52	上より十九行	右	晝時の經行	晝時の經行又は休息
54	上より十五行	左	driṣṭavā	driṣṭvā
54	下より七行	右	樹を乗取る	樹を氣取る
55	下より七行	右	-panyāya	-paryāya
56	上より廿五行	左	√dhyā	√dhyāi
57	上より一行	右	觀喜せしむる	歡喜せしむる
57	上より十三行	右	[ramas+	[namas+
59	上より十九行	左	ni-ksipa	Ni-kṣepa
61	下より六行	左	nir-vetana	nir-veṭhana
63	下より十八行	右	pakrvā	paktvā
64	上より六行	左	誦せる	誦せらるゝ
68	上より一行	左	pālakā	pālaka
68	上より二十行	左	√pid	√pid
69	上より十四行	左	puṣuyati	puṣyati
69	上より廿七行	左	-vriṣṭi	-vriṣṭi
69	上より三行	右	;にくらせて	;ふくらせて
69	上より十四行	右	pranāma	pranāma
77	上より廿二行	左	Bidāla	Bidāla

78	上より二行	左	Bauddha	Bāuddha
80	上より七行	左	chagi-ratha	Bhagi-ratha
80	下より十九行	左	憐み	憐み
83	上より十九行	左	蜜を嘔むるもの	蜜を舐むるもの
83	下より一行	左	amanista; manisyati	amanista; manisyati
85	下より二行	左	mahā-māudgal-yāna	mahā-māudgalyā-yana
86	上より四行	左	māmsāhāra	māmsāhāra
86	上より十六行	左	判定せず	判明せず
87	上より十四行	左	māudgalyāna	māudgalyāyana
89	上より十四行	左	-cehāga	-cehāga
89	上より二十行	右	yathā-vogyam	yathā-yogyam
91	上より二十行	左	(mahābharata	(mahābhārata
92	上より八行	右	拉. labor	[粒. labor]
94	上より六行	左	諸侯	諸侯
97	上より十二行	左	食慾	食慾
97	下より二行	左	vakaniya	vacaniya
98	上より三行	左	-parsava-tas	-prasava-tas
99	上より二行	右	atha……vā は	atha……vā若しくば
104	上より廿一行	左	gaochati	gacchati
105	下より十一行	右	drāṣṭārah	drastārah
105	下より二行	右	(sraj. 作る. 出す)	(srij. 作る. 出す)
106	上より十九行	左	梵音	梵天

明治四十一年九月一日印刷
 明治四十五年一月三十一日發行

定價壹圓也



和歌山縣那賀郡小倉村大字三毛百十五番地
 京都上京區河原町荒神口上ノ東櫻町三十三寄留
 著作者兼 發行者 榊 亮三郎

神戸市兵庫湊町二丁目二十六番地
 印刷者 金子久太郎

神戸市兵庫湊町二丁目二十六番地
 印刷所 金子印刷所

京都下京區九條東寺町四十一

發兌元 古義真言宗聯合大學

106	上より二十行	左	戰慄す	戰慄す
106	上より一行	右	mahātam	mahatām
107	下より九行	右	çatra	çatru
113	下より七行	左	驚異せり	驚異せり
114	上より二十行	左	感ふ	惑ふ
114	上より六行	右	sain-ni-dhāna(中) 接近すること	sain-ni-dhāna(中) 集め置くこと。接 近すること
114	上より十七行	右	sapta-ratna-may(y)a	sapta-ratna-maya(-yi)
115	上より十五行	左	samane	samam
118	上より八行	左	sahā	saha
119	上より十六行	左	遂ふ	逐ふ
119	上より廿五行	右	su-mern	su-meru
121	下より三行	左	「snātaka(男)洗 浴者」の後に	「業を卒へたるも の」の語を加ふ
121	下より三行	右	sphatika	sphatika
122	上より七行	右	sva-rūpākyaṇa	sva-rūpākhyāna
124	上より八行	右	Hotra(中)の語の 後に	「焼きて供する供 物;供物;祭祀」の 語を加ふ
124	上より九行	右	Hotrin(男)	祭司

總發行

古義真言宗聯合大學

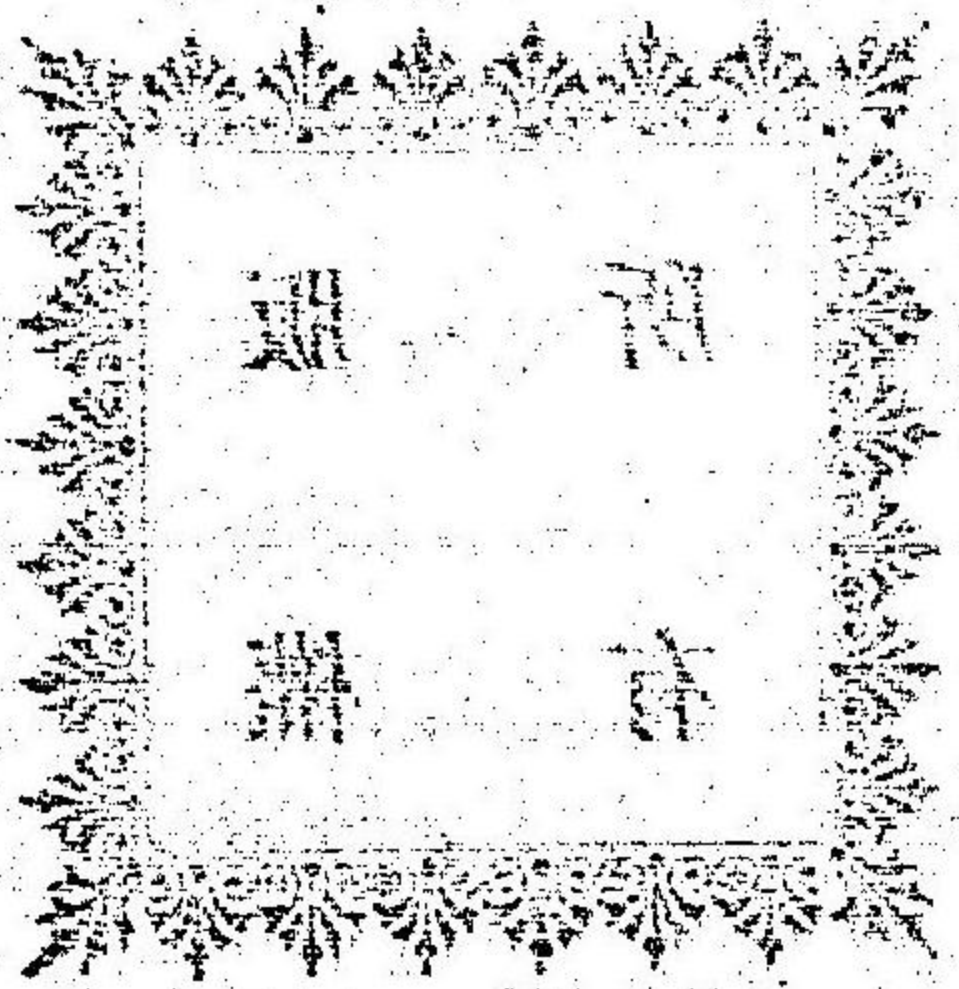
京滯下京區大森東寺町四十一

明陽院 金千 明陽院
轉印市法華總經二丁目二十六番號

明陽院 金千 八 大瀨
轉印市法華總經二丁目二十六番號

發行所 東京
發行所 東京

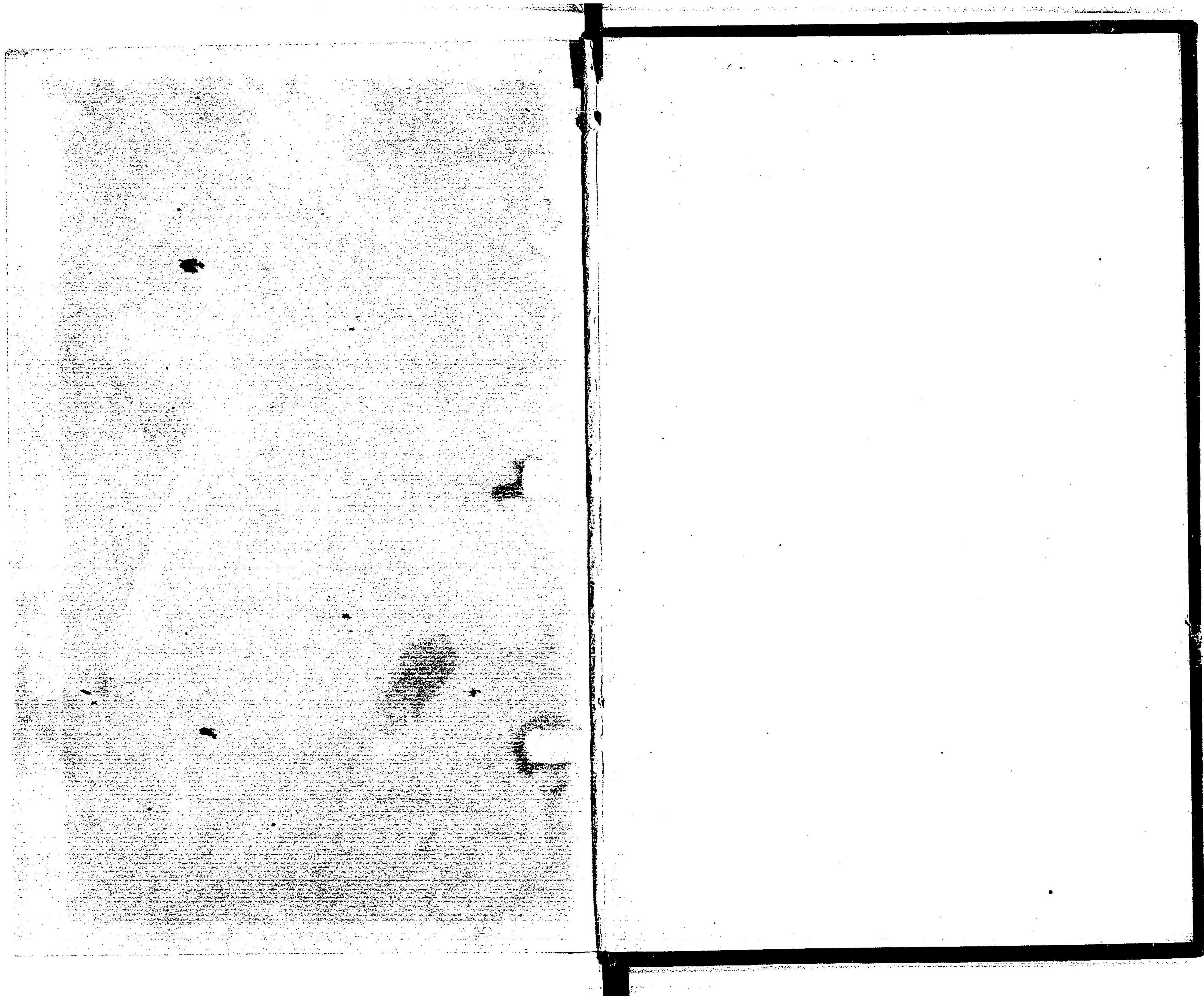
東京上京區西區西區東轉印市大森東寺町三十三番號
時州山縣根寶町小倉野大寺三丁目十五番號



昭和四十五年一月二十一日發行

昭和四十一年九月一日印刷

安齋堂印刷



829.89

Sa 4/9 &

